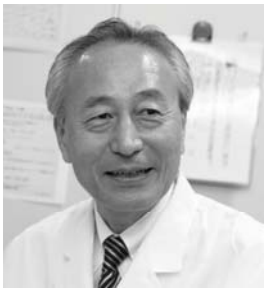
平成27年度

アニュアルレポート 年報

独立行政法人 国立病院機構

京都医療センター





序　文

京都医療センターのアニュアルレポート平成27年度版をお届けいたします。中村孝志院長が、平成23年4月～28年3月の5年間にわたり、京都医療センターの充実と発展に全情熱を注がれてきましたが、このレポートはその集大成といえるものです。

この5年間を振り返りますと、中村孝志院長の主導により、手術支援ロボット（ダヴィンチ）が導入され、さらにPET/CT検査が可能な新外来棟が竣工いたしました。また最新アンギオ装置が入りハート治療センターも立ち上がりました。また、最新リニアック装置導入を含む新規放射線治療棟が計画され、28年度中の建設開始が決定されています。このように、本院は時代のニーズに基づいて新規事業を開始し、また、すべての診療科・部、臨床研究センター、そして附属看護助産学校が全力をあげて、診療・教育・研究に取り組んできたことにより、地域中核病院としての役割を果たしてまいりました。本院の発展に大きく貢献されました中村孝志院長に対して、深甚なる謝意を捧げたいと存じます。

さて、医療をめぐる国内外の状況はきわめて厳しいものがあり、病院の経営はその規模の大小にかかわらず、非常に困難なものとなっています。政府は医療費を抑制するために「地域包括ケア」を促進し、患者を、病院から地域、地域から家庭へ移すという基本方針を固め、急性期医療を行う病院の重症度や看護定数の規準をますます厳しいものに設定してきています。診療報酬改定も毎年のように更新されます。このような中で、京都医療センターは地域のみなさまからの信頼と期待にしっかりと応えるために、さらに精進しなければなりません。それには、この地域の医療状況と地域のみなさまのニーズをしっかりと把握しながら、「真の総合病院」としての役割を明確に打ち出すことが肝要です。

京都医療センターは、明治41年の設立以来、京都南部における最も重要な基幹病院として発展してまいりました。わが国の少子高齢化問題とも関連して、国民のヘルスケアは、がん、脳血管障害、メタボリックシンドローム、女性、こどもを対象として、これらに対する救急医療、高度先進医療、ゲノム個別化、QOL向上、発症予防が求められています。当院は、臨床研究センターによる地域の大規模コホート研究の成果を生かし、この地域の医療ニーズを明確にし、単に高度急性期のみに傾くのではなく、柔軟で多様かつ高度の、一人ひとりに親切で細やかな医療を提供する、世界で有数の「真の総合病院」を目指します。

今後も、みなさまのご支援とご鞭撻をよろしくお願いいたします。

院長　小西　郁生

京都医療センター診療年報　目次

序文 …… 1
京都医療センターの理念 …… 4
概要 …… 5
組織図 …… 14
幹部職員 …… 15
職員の状況 …… 16
診療実績 …… 18
総合内科 …… 21
血液内科 …… 23
内分泌・代謝内科 …… 24
糖尿病センター …… 35
腎臓内科 …… 44
腫瘍内科 …… 48
精神科 …… 51
神経内科 …… 53
呼吸器センター …… 56
消化器内科 …… 59
循環器内科 …… 63
小児科 …… 71
外科 …… 74
整形外科 …… 80
形成外科 …… 84
脳神経外科 …… 86
血管外科 …… 89
心臓外科 …… 91
皮膚科 …… 93
泌尿器科 …… 95
産科婦人科 …… 100
緩和ケア科 …… 104
眼科 …… 107
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 …… 110
麻酔科 …… 113
放射線科 …… 115
リハビリテーション科 …… 118

歯科口腔外科 …… 120
救命救急センター …… 123
健診センター …… 128
臨床研究センター …… 133
医療安全管理部 …… 139
医療情報部 …… 143
感染制御部 …… 148
教育研修部 …… 152
地域医療部 …… 153
薬剤部 …… 158
臨床検査科 …… 161
病理診断科 …… 164
臨床栄養科 …… 166
医療技術部　臨床工学科 …… 168
看護部 …… 170
京都看護助産学校 …… 184
編集後記 …… 202

京都医療センターの理念

私たちは患者さんとともに病気に立ち向かい、
患者さんが安心できる医療を提供します。

□ 基本方針

一、常に高度で先進的な医療を導入し、地域の医療機関との連携を図り、急性期医療を中心とした質の高い医療を提供することで患者さんに信頼される病院となることを目指します。
一、十分な説明のうえで患者さんの同意を得た医療を提供します。
一、臨床医学の発展を常に念頭におき、臨床研究を積極的に推進し、新しい医療技術の研究開発に努めます。
一、教育研修病院として医師、看護師等、医療に従事する人材の育成に努めます。
一、職員の働きやすい職場環境であることが、安全で高度かつ効率的な医療提供に不可欠であると考え、職員の福利厚生の向上に努めます。

□ 患者さんの権利の尊重に関して

京都医療センターでは、患者さんと医療従事者との信頼関係のもとで患者さんとともに歩む病院をめざしています。ここに患者さんの権利に関する事項と守っていただく事項について記します。

【患者さんの権利に関する事項】

1. 尊厳ある人間として医療を受ける権利を大切にします。
2. 良質で適切な医療を平等に提供します。
3. 検査や治療について充分に理解していただけるように説明します。
4. 検査や治療について自ら選択する権利を尊重します。
5. 医療のどの段階においても他の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利を尊重します。
6. 自分に関する医療情報の開示を求める権利を尊重します。
7. プライバシーを守ります。

【守っていただく事項】

1. 健康状態及び診療に必要な情報の提供をお願いします。
2. 医療内容について理解していただけない場合にはお知らせください。
3. 病院のルールを守り他の人に迷惑をかけないようにお願いします。

概要

（平成２８年４月１日現在）

１．施設の概要

（１）環　　境

京都市の南にある市内最大の人口を擁する伏見区のおおむね中央に位置し、伏見稲荷大社で有名な稲荷山の南麓に広がる深草地区に立地している。深草地区は「うづらの里」と呼ばれるように、かつては多くの鶉（うづら）が生息したことで知られる。南へ下がると伏見の酒造りの町があり、白壁の酒蔵が立ち並び独特の風情がある。東南部には桃山城の城下町桃山地区がある。桃山時代に伏見城の城下町として始まり、また江戸時代には淀川水運の重要な港町・宿場町としても栄えた地域である。

現在は、伏見城の城下町の伝統を受け継ぐ商業拠点である一方、京都市中心部や京都府南部、大阪方面へのベッドタウンとしての性格をもち、診療圏も二次医療圏にとどまらず、京都府南部地域はもとより大阪府北部及び滋賀県南部をはじめ他府県に及んでいる。

（２）沿　　革

明治４１年１１月	京都衛戍（えいじゅ）病院として設立
（１９０８年）	
昭和１２年	京都陸軍病院と名称変更
（１９３７年）	
昭和２０年１２月	国立京都病院として厚生省に移管
（１９４５年）	
昭和５３年　４月	臨床研究部（内分泌代謝疾患）設置
（１９７８年）	
昭和５９年１２月	救命救急センター設置
（１９８４年）	
昭和６３年１１月	ＷＨＯより糖尿病協力センターに指定
（１９８８年）	
平成　７年　４月	開放型病院に認定
（１９９５年）	
平成　７年　７月	京都府エイズ治療拠点病院に指定
（１９９５年）	
平成１０年　６月	臓器提供施設に指定
（１９９８年）	
平成１１年　３月	国の政策医療「内分泌代謝疾患」の高度専門
（１９９９年）	医療施設として位置付けられる
平成１２年　４月	（財）日本医療機能評価機構
（２０００年）	病院機能評価『一般病院種別・Ｂ』に認定
平成１４年　６月	地域医療連携室の開設
（２００２年）	
平成１５年１０月	臨床研究センター（内分泌代謝疾患）設置
（２００３年）	
平成１６年　４月	独立行政法人へ移行。京都医療センターと改称
（２００４年）	

平成１７年　４月　　（財）日本医療機能評価機構
（２００５年）　　病院機能評価『一般病院（Ver.4.0)』に認定
平成１９年　１月　　地域がん診療連携拠点病院に指定
（２００７年）
平成２０年　８月　　地域医療支援病院に指定
（２００８年）
平成２２年　６月　　（財）日本医療機能評価機構
（２０１０年）　　病院機能評価『一般病院（Ver.6.0)』に認定
平成２３年　１月　　新中央診療棟竣工　緩和ケア病棟開設
（２０１１年）
平成２６年　６月　　第２外来棟竣工
（２０１４年）
平成２７年　４月　　京都府災害拠点病院に指定
（２０１５年）
平成２７年　６月　　（財）日本医療機能評価機構『一般病院２（Ver.1.0)』『救急医療機能（Ver.2.0)』に認定

（３）医療圏・近隣医療機関の状況

●２次医療圏

・京都・乙訓医療圏

（京都市、向日市、長岡京市、大山崎町３市１町）

●２次医療圏内人口

・京都市　　１，４７３千人
・向日市　　５４千人
・長岡京市　　８０千人
・大山崎町　　１５千人　　計１，６２２千人

（４）職　員　数

●１，２８５名　（平成２８年４月１日現在）

・常勤職員　　９９６名（期間職員２名含む）
・非常勤職員　　２８９名

（５）敷地・建物の状況

●所在地　京都府京都市伏見区深草向畑町１－１
●敷地面積　・・・　６６，２６７㎡

●建物面積

区　　分	建築年月	建築構造	建築面積	延床面積
病　　棟	Ｈ01.03	ＲＣ-８Ｆ	2,976㎡	18,748㎡
外来診療棟	Ｓ58.05	ＲＣ-４Ｆ	2,711㎡	10,840㎡
中央診療棟	Ｓ60.07	ＲＣ-５Ｆ	2,405㎡	13,301㎡
第２外来棟	Ｈ26.06	ＲＣ-３Ｆ	421㎡	1,262㎡
新中央診療棟	Ｈ22.12	ＲＣ-６Ｆ	1,952㎡	8,672㎡
臨床研究センター	Ｓ53.02	ＲＣ-４Ｆ	827㎡	3,117㎡
看護学校	Ｈ15.03	ＲＣ-４Ｆ	3,298㎡	6,560㎡
その他（宿舎等）			4,660㎡	10,560㎡
合　　計			19,250㎡	73,026㎡

２. 診療機能の状況

（１）病床数　　医療法病床数(一般病床)　６００床

（２）診療科（３９科）

内科、血液内科、糖尿病内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、腫瘍内科、膠原病・リウマチ内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、アレルギー科、心臓外科、血管外科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、小児外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産科婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、気管食道科、頭頸部外科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、緩和ケア内科、緩和ケア外科、歯科口腔外科、小児歯科、病理診断科、臨床検査科、救急科

（３）医療計画上の当院が担う機能

- 地域がん診療連携拠点病院
- 地域医療支援病院
- 救命救急センター（三次、３０床）
- 地域災害拠点病院
- 二次被ばく医療機関
- 緊急災害医療チーム（ＤＭＡＴ２チーム１０名）
- 周産期医療２次病院（地域周産期母子医療センター）
- 難病医療協力病院
- エイズ拠点病院
- 急性期を担う医療機関（脳卒中、急性心筋梗塞）

（４）その他の主な機能

- 緩和ケア病棟（２０床）
- 外来化学療法センター
- ＥＲ（北米型救急外来）
- ＮＨＯ災害ブロック拠点病院
- 国際医療協力施設
- 臓器提供施設
- ＷＨＯ糖尿病協力センター
- 健診センター
- 人工透析センター
- （財）日本医療機能評価機構　病院機能評価　「一般病院２（Ver.1.0）」「救急医療機能（Ver.2.0）」認定

（５）教育研究機能

- 臨床研究センター
- 臨床研修指定病院（管理型）
- 附属京都看護助産学校（看護師科・助産師科）

（６）各学会認定専門医研修施設及び修練施設

日本内科学会、日本消化器学会、日本循環器学会、日本小児科学会、日本皮膚科学会、日本精神神経学会、日本外科学会、日本消化器外科専門医、日本整形外科学会、日本産婦人科学会、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医研修施設、日本周産期(新生児）専門医、日本眼科学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本泌尿器科学会、日本脳神経外科学会、日本医学放射線学会、日本麻酔科学会、日本集中治療医学会、日本救急医学会、日本形成外科学会、日本手外科学会、日本神経学会、日本呼吸器外科基幹施設、日本消化器内視鏡学会、日本内分泌学会、日本腫瘍学会、日本頭頸部外科学会、日本がん治療認定医機構、日本緩和医療学会、胆管膵外科高度技能専門医、日本外科感染症学会、日本心血管インターベーション治療学会

３．診療機能等の特色

（１）救命救急センター（３０床：ＩＣＵ８床、ＨＣＵ２２床）

昭和５９年１２月に開設された歴史あるセンターであり、京都府内に６つある救命救急センターのひとつである。活動拠点は京都市のみならず、近隣市からの救急隊による収容要請にも応え２４時間３６５日、質の高い救急医療を提供している。

平成２３年１月に新中央診療棟に移転し、３０床全床で生体監視モニター管理が可能となった。また、広範囲熱傷処置対応のための熱傷治療室も設置した。

（２）集中治療室（ＩＣＵ・６床）

平成１５年７月に設置。集中治療室では、全身麻酔下手術等における重篤患者等の術後全身管理や入院中に集学的治療が必要となった患者の全身管理を行っている。救命救急センターの集中治療室と２ヶ所の集中治療室を有している。

（３）新生児集中治療室（ＮＩＣＵ・６床）

平成１２年２月に設置し、平成１２年４月に施設基準を取得。低出生体重児等の新生児の治療管理を集中的に行っている。地域周産期母子医療センターとして京都府南部地域の中核病院としての役割を果たしている。

（４）新生児治療回復室（ＧＣＵ・６床）

平成２３年１２月に設置し、平成２４年１月に施設基準を取得。

ＮＩＣＵでの集中管理が終了した新生児が一定の体重・週数に達し、なおかつ合併症コントロールの目途が立ち退院できるまで管理している。

（５）特別室個室病棟（２８床）

平成２３年１月にオープンした全室個室の病棟。セキュリティーを確保した特別病棟は、病棟専属のコンシェルジュを配置し、クオリティーの高い療養環境と最高のサービスを提供している。新型インフルエンザの発生時等において隔離病棟として使用できるよう陰圧機能を備えた病室を備えている。

（６）緩和ケア病棟（２０床）

平成２３年１月にオープン。京都府で初めて地域がん診療連携拠点病院にできた緩和ケア病棟であり、各診療科と連携を積極的に行って苦痛症状の緩和に努めている。医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、音楽療法士、ボランティアなど多職種でチームを組んで対応している。

（７）開放型病床（２０床）

地域医療機関との連携強化を図るため、伏見医師会との協定により開放型病床を設置し、登録医からの紹介入院患者を共同して診療、指導にあたっている。平成７年４月に開放型病院の承認。平成２０年８月に地域医療支援病院の承認。地域医療の向上を図り、紹介患者に対する医療の提供のみならず、地域の医療関係者の生涯教育の充実等地域医療の確保に努めている。

※登録医数　１７０名（平成２６年４月１日現在）

（８）特殊専門外来

特殊診療として、内視鏡センター、呼吸器センター、心臓センター、糖尿病センター、内分泌・甲状腺・高血圧センター、スポーツ医学センター、めまいセンター、脳・神経センター、産婦人科超音波外来、フットケア外来、セカンドオピニオン外来、腫瘍外来、遺伝子外来、禁煙外来、発達障害外来、外来化学療法センター、メタボリック症候群外来、妊娠糖尿病外来、糖尿病透析予防外来、婦人科骨粗鬆症更年期外来

（９）健診センター（平成１６年６月１日開設）

早期に病気を発見する予防医学の役割が一層重要になっていることから、当院の政策医療である内分泌・代謝疾患の高度専門医療施設の特性を生かし、生活習慣病を主な対象とするとともに、各診療科の専門性を有効に活用した健診とし、専門医との連携による的確な判定を行う。

(10) 研修医・レジデントの教育、研修の充実

教育研修部を設置して「患者を包括的にケアできる」医師の育成を行っている。

□臨床研修指定病院（管理型）

□ＮＨＯ専修医制度

□臨床研修医の平成２８年度定数…１年目　９名、２年目　１０名

□スーパーローテーション方式

□ランチタイムセミナー

□双方向性の評価方式の導入

(11) 臨床研究センター

平成１５年１０月に臨床研究センターが設置され、「糖尿病を中心とした内分泌・代謝性疾患の病態と発症機序の解明および予防・診断・治療法の開発研究」を担っている。国立病院機構の臨床研究体制再構築に伴い、平成２０年度からは「内分泌・代謝性疾患」にとどまらず、がん診療支援を含めた幅広い分野を臨床研究の活動分野とすることになった。

(12) 手術支援ロボット「ダヴィンチ」導入（平成２６年６月２０日）

患者さんの負担が少ない低侵襲の術式として導入された腹腔鏡下手術を支援する、内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入しました。このダヴィンチを用いた手術は通常の腹腔鏡下手術と同様に傷口が小さく低侵襲で術後の痛みも少ないことから回復も早く、早期の退院が可能となります。（保険適用手術は限られています。）

(13) ＰＥＴ／ＣＴ導入（平成２６年６月２３日稼働）

当院は平成１９年１月から地域がん診療拠点病院の認定を受けており、がん治療は当院の柱の一つとなっています。

この度、「がん」の早期発見、早期治療の充実・発展のため京都府南部地域初のＰＥＴ／ＣＴ（ＧＥ社製Discovery710型）を導入しました。

(14) 地域医療連携室

平成１４年６月に地域医療連携室が設置され、地域の診療所や各医療機関及び保健福祉機関との連携を強化し、患者サービスの向上に努めています。前方後方支援業務はもとより、年２回開催の医療連携フォーラムや脳卒中等の市民講座の開催にも力を入れています。

□人員配置

○地域医療部長（医師）　地域医療連携室長（医師）　地域医療連携係長・病床管理師長　医療社会事業専門員３名　看護師２名　係員１名　事務助手５名　　計１４名

(15) がん診療支援

地域がん診療連携拠点病院である当センターでは、キャンサーボードが設置され「がん診療セミナー」等、医師だけでなく、看護師、技師、その他医療職を対象とした、オープンセミナーを開催しています。

また、がん診療相談（地域医療連携室）や患者情報室（１階ホール）、京都では初となるＮＰＯ法人キャンサーリボンズが設置をサポートするリボンズハウス（外来化学療法室）を設置して患者さんの日常生活支援に力を入れ、最先端の総合的ながん治療から患者さんの視点に立って生活を支援することができる施設を目指しています。

□リボンズハウス（平成２３年１０月から運用開始）

○がん患者さんの「治療と生活」をつなぐ具体的な情報とケアを提供する。

○医療者やヘルスケアに携わる多くの専門家の手によるプログラムを通して、患者さんがより自分らしく少しでも快適な生活を送れるようサポートする。

○広く地域に開かれたスペースとして多くの人々が情報を共有し支えあいを実践できる場になることを目的とする。

○主な内容としては、がんに係る相談、がんに係る情報提供、がん患者支援のイベント等の企画運営、インターネット検索コーナー、展示コーナー（ウィッグ、帽子等）アロマテラピー等

(16) 感染制御部

平成９年４月に組織横断的院内感染対策チーム（ＩＣＴ）を設立し平成２２年４月には、院内感染管理と職員の健康管理を通じて、患者さんが安心して診療を受けられる環境を提供するため、ＩＣＴを核とする感染制御部が発足しました。医師、看護師、リンクナース、薬剤師、臨床検査技師、事務等多くの職員がそれぞれ得意とする分野を分担しています。ＩＣＴリーダーを中心に週に１回ＩＣＴミーティングを行い、更に週１回定期的に院内ＩＣＴラウンドを実施し、日々の感染対策に関する相談に関しても随時対応しています。

□人員配置

○感染制御部長（医師）副部長（医師１名）医師１名 専任薬剤師２名　専従認定看護師　専任検査技師　事務２名　計９名

□主な活動例

○インフルエンザ、感染性胃腸炎、結核等の院内感染対策

○手術部位感染、血流感染等のサーベイランス

○抗菌薬適正使用推進業務等

○これらの活動は、病院長直轄の「院内感染対策委員会」(月１回)と「抗菌薬の適正使用に関する小委員会」(月１回)にて報告及び審議決定されるシステムとなっている。また、院内感染対策委員会については、感染対策の必要に応じて臨時開催され迅速な対応を行っている。（２７年１月の開催回数は１１回）

(17) 医療安全管理体制

医療安全体制の確立を図り安全な医療の遂行を徹底するために医療安全管理部が設置されています。各部門にリスクマネージャーを置き、患者や家族に対する対応及び医療安全管理部門や幹部職員への報告・連絡・相談を速やかに行える様にしています。

更に客観的事実の確認や事故原因の追及と再発防止策の検討の為にオカーレンス事例検討会や医療安全管理委員会及び医療事故対策本部会議を開催しています。尚、必要に応じて弁護士や外部評価委員を構成メンバーに加えた拡大医療安全管理委員会も開催しています。また、顧問弁護士を配置し、必要に応じて法的観点からの意見を含め、病院として見解を常に決定するとともに、専任の医療安全管理係長や訴訟専門職を配置してあらゆるケースに対応出来る体制を構築しています。また、クレームや暴言暴力への対策として警察ＯＢを採用して対応しています。

□人員配置

○副院長（医療安全担当）　医療安全管理部長（医師）　医療安全管理副部長（医師）　訴訟専門職
看護師長（医療安全管理専従）　副看護師長（医療安全管理専従）
リスクマネージャー（各部署から１名：５９名）　顧問弁護士　　計６７名

□主な会議

○拡大医療安全管理委員会
○医療安全管理委員会
○医療事故本部対策会議
○オカーレンス事例検討会
○ハイリスク診療検討会議
○リスクマネージャー会議

(18) 医療情報部

平成１５年７月に設置された医療情報部は国立病院としては初めて認可された部門であり、医師と情報システムエンジニアの資格を持つ人材が部長を担当している。ベンダーに依存することなく医療現場のニーズにマッチした情報システムの開発、導入、構築を迅速かつ正確に行っている。平成１１年に導入した病院総合情報システム（電子カルテ）は、平成２８年の稼働を目標として準備中の新システムで第４世代となる。

また、京都府及び京都市が設置した情報基盤協議会である「ＩＴコンソーシアム京都」医療情報化部会と連携し「ポケットカルテ」等の二次医療圏を包括する地域医療連携基盤の企画、設計、開発、構築、運用等も行っている。更に、情報システムや診療記録管理だけではなく、診療諸記録作成の作成等の医師事務作業補助の専門職として「スペシャル医療クラーク」を独自に育成し、各診療科に配置する事で、医師や看護師等の専門職が業務に集中出来る環境を構築すると共に、診療の質の向上に努めている。

□人員配置

○部長（医師・ＳＥ）　副部長（医師）　診療情報管理士５名　スペシャル医療クラーク２７名　医療クラーク５名　情報システム管理室員４名　流動研究員（ＳＥ等）１名　コンシェルジュ５名
計４９名

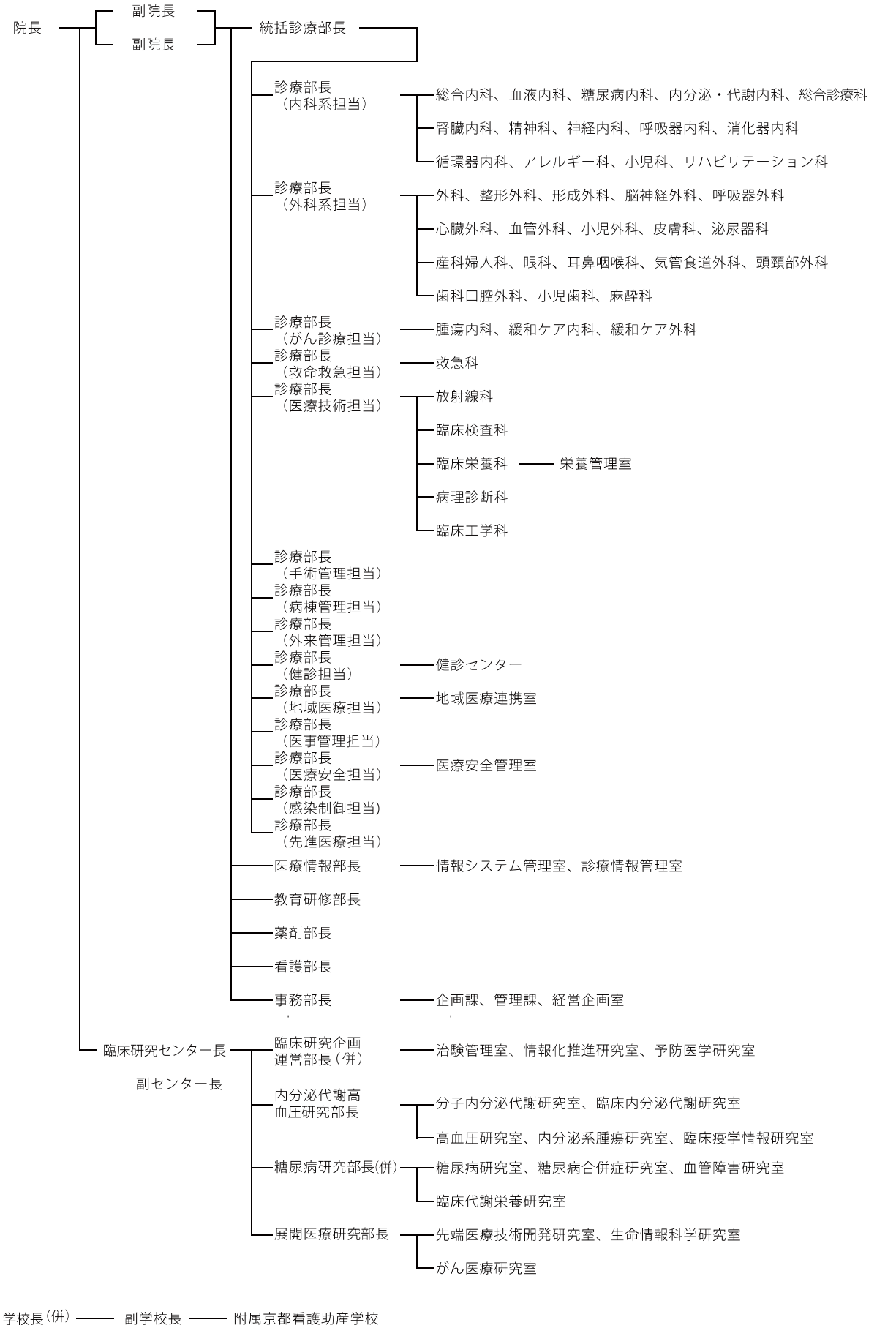
4. 附属京都看護助産学校

（1）沿　　革

昭和２４年（１９４９年）	４月　１日	附属高等看護学院設置
昭和４４年（１９６９年）	４月　１日	附属高等看護助産学院設置
昭和５０年（１９７５年）	４月　２日	国立京都病院附属看護助産学校、 看護婦科および助産婦科に名称が変更される。
平成１４年（２００２年）	４月　１日	看護師科、助産師科に名称が変更される
平成１６年（２００４年）	３月２５日	看護学校大型化整備工事竣工
平成１６年（２００４年）	４月　１日	国立京都病院附属看護助産学校及び国立療養所宇多野病院附属看護学校 並びに国立療養所南京都病院附属看護学校を当院の地で統合し、 附属京都看護助産学校となる。 ※１学年定員　看護師科８０名 助産師科３５名
平成２７年（２０１５年）	４月　１日	附属京都看護助産学校助産師科の定員減 ※１学年定員　助産師科２５名

京都医療センター　組織図

（平成２８年４月１日現在）



京都医療センター　幹部職員


院長　中村　孝志


副院長　塚原　徹也


副院長　髙倉　賢二


臨床研究センター長
島津　章


統括診療部長
猪飼　伊和夫


内科系診療部長
教育研修部長
小山　弘


外科系診療部長
中川　泰彰


がん診療部長
土屋　宣之


病棟管理部長
救命救急部長
赤尾　昌治


医療技術部長
伊藤　剛


手術管理部長
七野　力


外来管理部長
三尾　直士


健診部長
田上　哲也


地域医療部長
秋山　祐一


医事管理部長
勝島　慎二


医療安全部長
白神　幸太郎


感染制御部長
奥野　博


先進医療部長
喜多　美穂里


医療情報部長
北岡　有喜

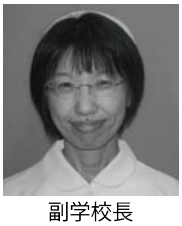

臨床研究センター副センター長
内分泌代謝高血圧研究部長
成瀬　光栄


展開医療研究部長
長谷川　浩二


薬剤部長
北村　良雄


看護部長
三井　佐代子


事務部長
高橋　良和


副学校長
増山　路子

職員の状況

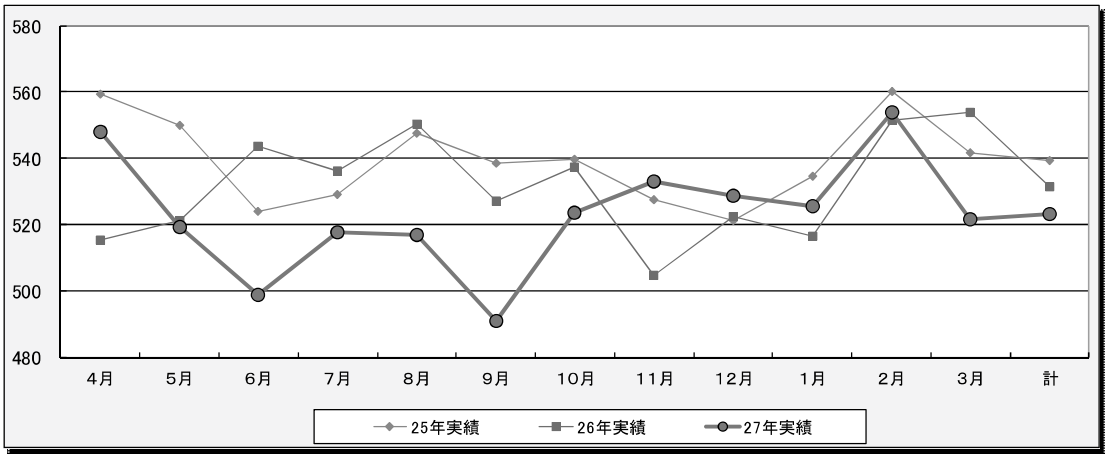
（平成２８年４月１日現在）

	職種・職名		常勤職員		非常勤職員			期間職員			職員合計
			定数	現員	定数	現員	常勤換算	定数	現員	常勤換算	
医師	院長・年俸表一	院長	1	1							1.00
		副院長	3	3							3.00
		部長	18	17							17.00
		医長	42	37							37.00
		歯科医長	1	1							1.00
		小計	65	59							59.00
	一般医師	医師	88	92	52.54	64	49.40	0.90	1	0.90	141.40
	医療職（一）	歯科医師		1		1	0.77				1.77
		小計	88	93	52.54	65	50.17	0.90	1	0.90	143.17
	医師計		153	152	52.54	65	50.17	0.90	1	0.90	202.17
医療職（二）	薬剤師	薬剤部長	1	1							1.00
		副薬剤部長	2	2							2.00
		主任薬剤師	7	7							7.00
		薬剤師	26	26							26.00
		小計	36	36							36.00
	放射線技師	診療放射線技師長	1	1							1.00
		副診療放射線技師長	2	2							2.00
		主任診療放射線技師	6	5							5.00
		診療放射線技師	22	22							22.00
		小計	31	30							30.00
	検査技師	臨床検査技師長	1	1							1.00
		副臨床検査技師長	2	2							2.00
		主任臨床検査技師	8	8							8.00
		臨床検査技師	23	24		2	1.54				25.54
		小計	34	35		2	1.54				36.54
	管理栄養士	栄養管理室長・班長	1	1							1.00
		副臨床検査技師長	1	1							1.00
		主任栄養士	2	1							1.00
		栄養士	3	3	2.31	2	1.66		1	1.00	4.66
		小計	7	6	2.31	2	1.66		1	1.00	7.66
	理学療法士	理学療法士長	1	1							1.00
		副理学療法士長									
		主任理学療法士	1	1							1.00
		理学療法士	14	14							14.00
		小計	16	16							16.00
	作業療法士	作業療法士長									
		副作業療法士長									
		主任作業療法士	1	1							1.00
		作業療法士	4	4							4.00
		小計	5	5							5.00
	医療技術職員	臨床工学技士	11	11							11.00
		視能訓練士	4	4	1.85	2	1.54				5.54
		言語聴覚士	3	4		1	0.31				4.31
		心理療法士			0.92	5	0.81				0.81
		歯科衛生士			1.54	2	1.54				1.54
		歯科技工士			0.77	1	0.77				0.77
		小計	18	19	5.08	11	4.97				23.97
	医療職（二）計		147	147	7.39	15	8.17		1	1.00	155.17

医療職（三）	看護師、助産師	看護部長	1	1							1.00
		副看護部長	3	3							3.00
		看護師長	22	22							22.00
		副看護師長	48	49							49.00
		助産師	527	33		2	1.60				34.60
		看護師		518	33.99	22	15.76				533.76
		准看護師		1							1.00
	医　療　職　（三）　計		601	627	33.99	24	17.36				644.36
事務職・診療情報管理職	事務職員	事務部長	1	1							1.00
		課長・室長	3	3							3.00
		班長	2	2							2.00
		専門職	2	2							2.00
		係長	12	8							8.00
		主任									
		一般職員（事務補助）	4	11	103.69	148	112.03				123.03
		小計	24	27	103.69	148	112.03				139.03
	診療情報管理職	診療情報管理士	8	6		2	1.60				7.60
		小計	8	6		2	1.60				7.60
	事務職・診療情報管理職　計		32	33	103.69	150	113.63				146.63
技能職員		自動車運転手		1							1.00
		調理師		12							12.00
		看護助手				15	12.45				12.45
		その他	13		25.31	3	2.49				2.49
	技　能　職　員　　計		13	13	25.31	18	14.94				27.94
教育職		副学校長・教育主事	4	4							4.00
		教員（教務補助）	15	14							14.00
	教　育　職　　計		19	18							18.00
研究職		センター長・部長									
		室長・主任研究官									
		研究（補助）員			3.49	16	12.44				12.44
	研　究　職　　計				3.49	16	12.44				12.44
福祉職		保育士	1	1		1	0.77				1.77
		医療社会事業専門員	4	3							3.00
	福　祉　職　　計		5	4		1	0.77				4.77
職　員　総　数			970	994	226.41	289	217.48	0.90	2	1.90	1211.48
（男　性）				294		70	49.62		1	0.90	344.52
（女　性）				700		219	167.86		1	1.00	868.86

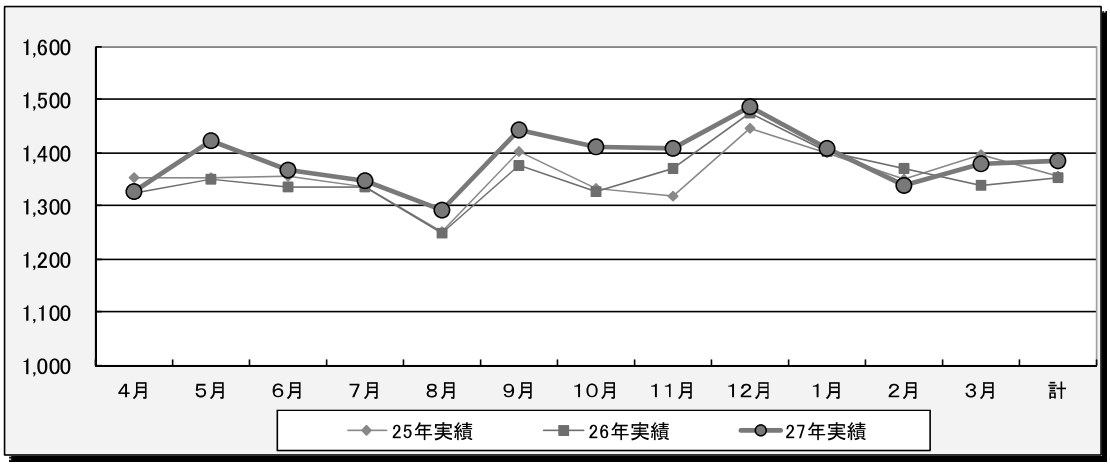
診療実績（年度別統計）

○平均入院患者数（年間目標数＝540人）　　（単位：人/日）



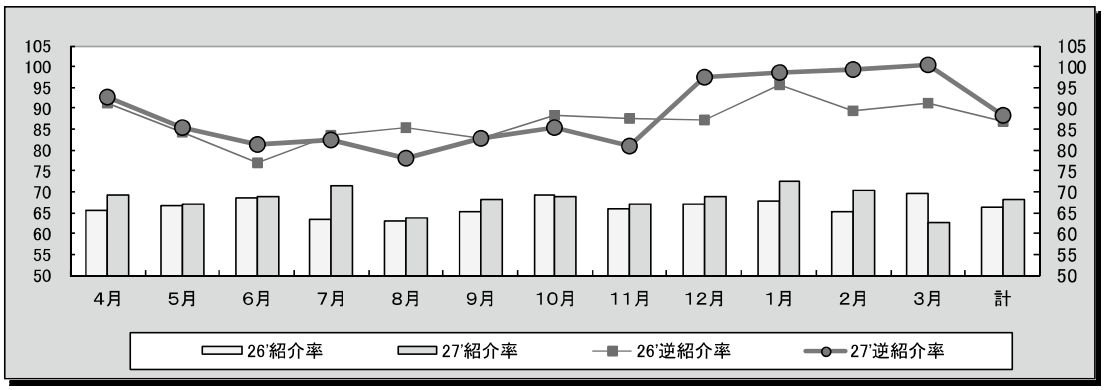
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	利用率
25年実績	559.2	549.9	524.0	529.2	547.5	538.6	539.5	527.3	521.0	534.4	560.2	541.7	539.2	89.9%
26年実績	515.4	521.1	543.4	536.0	550.4	526.9	537.2	504.5	522.3	516.5	551.6	553.7	531.5	88.6%
27年実績	547.7	519.1	498.5	517.5	517.0	490.9	523.5	532.9	528.5	525.3	554.0	521.7	522.9	87.2%

○平均外来患者数（年間目標患者数＝1340人）　　（単位：人/日）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
25年実績	1,351.5	1,351.9	1,354.4	1,334.2	1,252.1	1,402.7	1,331.0	1,318.7	1,443.9	1,398.8	1,348.3	1,396.2	1,355.0
26年実績	1,323.2	1,348.3	1,335.1	1,335.7	1,248.9	1,375.6	1,326.0	1,369.4	1,473.7	1,401.5	1,370.6	1,336.3	1,351.6
27年実績	1,326.8	1,422.3	1,367.1	1,346.7	1,290.6	1,441.5	1,409.9	1,407.5	1,485.5	1,408.1	1,337.9	1,378.8	1,383.0

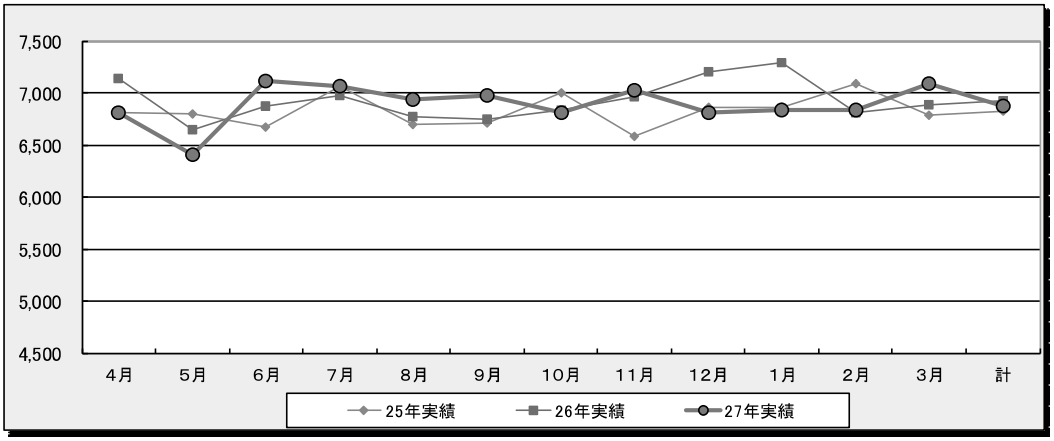
○紹介率、逆紹介率の推移　　（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
26'紹介率	65.6	66.8	68.7	63.3	62.9	65.2	69.3	66.1	66.9	67.7	65.2	69.5	66.5
27'紹介率	69.3	66.9	68.9	71.5	63.7	68.1	68.9	67.0	68.9	72.7	70.4	62.7	68.2
26'逆紹介率	91.3	84.3	76.8	83.6	85.5	83.0	88.3	87.5	87.2	95.8	89.6	91.3	86.8
27'逆紹介率	92.7	85.5	81.5	82.4	78.0	83.0	85.4	80.9	97.4	98.7	99.3	100.4	88.3

○入院平均診療点数

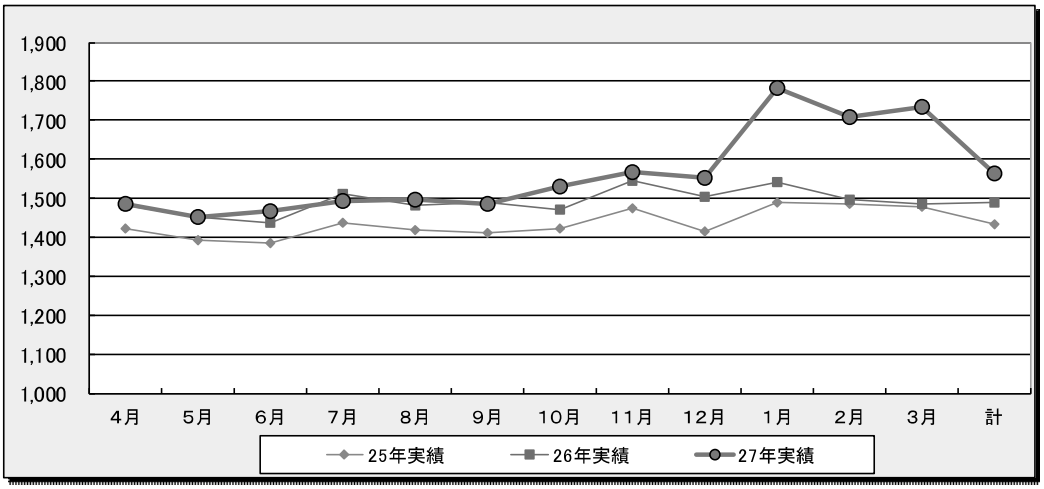
（単位：点/日）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
25年実績	6,812.5	6,791.3	6,667.4	7,057.9	6,696.6	6,706.6	6,997.6	6,578.7	6,854.6	6,860.1	7,091.1	6,783.5	6,825.0
26年実績	7,136.8	6,645.5	6,874.8	6,973.0	6,772.1	6,745.2	6,835.1	6,962.3	7,203.3	7,289.0	6,805.3	6,892.3	6,926.5
27年実績	6,812.6	6,404.0	7,116.8	7,059.6	6,939.6	6,977.5	6,808.8	7,030.9	6,814.9	6,830.9	6,834.0	7,090.7	6,872.6

○外来平均診療点数

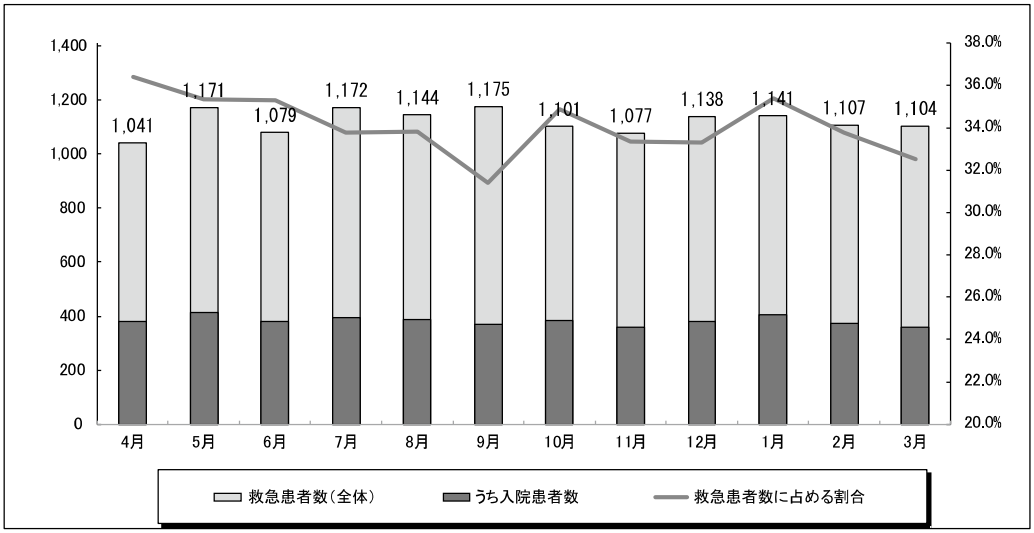
（単位：点/日）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
25年実績	1,421.5	1,391.6	1,386.0	1,436.8	1,420.1	1,411.3	1,421.2	1,474.3	1,414.7	1,487.2	1,486.9	1,476.6	1,435.1
26年実績	1,482.1	1,450.7	1,436.2	1,510.1	1,483.3	1,487.6	1,470.5	1,543.2	1,502.2	1,541.8	1,496.3	1,485.7	1,490.2
27年実績	1,486.9	1,452.6	1,468.1	1,491.1	1,494.7	1,487.1	1,530.3	1,568.1	1,554.0	1,784.4	1,707.9	1,735.5	1,563.3

○救急患者数推移

（単位：人、%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
救急患者数（全体）	1,041	1,171	1,079	1,172	1,144	1,175	1,101	1,077	1,138	1,141	1,107	1,104	1,112.6
うち入院患者数	379	414	381	396	387	369	384	359	379	404	374	359	383
救急患者数に占める割合	36.4%	35.4%	35.3%	33.8%	33.8%	31.4%	34.9%	33.3%	33.3%	35.4%	33.8%	32.5%	34.4%
救急搬送患者数	344	407	369	452	429	374	377	378	379	403	354	362	383.9
新規入院患者数（参考）	1,173	1,085	1,197	1,236	1,162	1,141	1,175	1,161	1,141	1,240	1,188	1,197	1,174.1

経 常 収 支 率

損益計算書

（千円）

区　　分	平成25年度	平成26年度	平成27年度
医業収益	18,076,242	18,235,906	18,353,766
入院診療収益	12,981,180	12,955,293	12,749,117
室料差額収益	436,022	446,335	433,117
外来診療収益	4,570,975	4,740,257	5,086,113
保険予防活動収益	99,535	104,994	110,205
文書料収益	74,372	73,421	78,308
その他医業収益	2,141	2,287	2,139
保険等査定減（△）	▲87,983	▲86,681	▲105,235
診療業務費	17,448,096	18,063,338	18,421,645
給与費	8,303,447	8,587,732	9,049,214
材料費	5,159,362	5,387,213	5,634,162
委託費	738,670	727,064	755,083
設備関係費	2,025,906	2,079,935	2,012,093
研究研修費	4,461	6,850	4,940
経費	1,216,250	1,274,544	966,152
医業収支差	628,146	172,568	▲67,879
医業収支率	103.6%	101.0%	99.6%
人件費率	45.9%	47.1%	49.3%
材料費率	28.5%	29.5%	30.7%
委託費率	4.1%	4.0%	4.1%
経費率	6.7%	7.0%	5.3%
人件費+委託費率	50.0%	51.1%	53.4%
経常収益	18,875,773	19,083,993	19,231,133
経常費用	18,245,753	18,878,406	19,291,068
経常収支差	630,020	205,587	▲59,936
経常収支率	103.5%	101.1%	99.7%

区　　分	平成25年度	平成26年度	平成27年度
教育研修収益	246,332	216,175	212,719
教育研修費用	268,778	265,720	288,874
収支差	▲22,446	▲49,545	▲76,154

区　　分	平成25年度	平成26年度	平成27年度
臨床研究収益	326,213	374,464	411,802
臨床研究費用	381,508	418,752	451,617
収支差	▲55,295	▲44,288	▲39,815

総合内科



部長
小山　弘

専門医資格等　日本内科学会総合内科専門医
専 門 分 野　内科一般
得 意 疾 患　内科一般

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	小田垣孝雄	日本内科学会総合内科専門医 Infection Control Doctor 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 アメリカ心臓協会ACLSコースディレクター BLSインストラクター 日本救急医学会 ICLSコースディレクター 日本医師会認定産業医	内科一般	内科一般、感染制御、救急蘇生法教育
医　　師	桂　　敏明	日本内科学会認定内科医	内科一般	内科一般
医　　師	後藤　　雅史	日本内科学会総合内科専門医 公衆衛生学修士	内科一般	内科一般
専 修 医	孫　　瑜		内科一般	内科一般
専 修 医	張　　福錬		内科一般	内科一般

□ 診療科の特徴

1．器官系を横断的に考えます
2．患者と病院のインターフェースとして、窓口機能を果します
3．専門診療科との連携を重視します
4．医学的なエビデンスに配慮します

□ 主な対象疾患

急性感染症（気道、尿路、皮膚軟部組織、骨、その他）
不明熱、多発関節痛など診断の確定していない症候
免疫膠原病（関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症など。診断後自科で治療または必要に応じ専門診療科に紹介）
＊免疫膠原病については、新たに専門医を迎え、膠原病リウマチ内科として、総合内科と共同し診療しています

□ 診療（業務）内容

外来では重篤でない急性疾患の診断・管理や、不明熱や多発関節痛など診断の確定していない症候の診断・管理と必要に応じての専門診療部門・機関への紹介などを行っております。健診その他での高血圧や脂質異常症などについて相談に受診される方もおられ、生活指導や薬物療法が継続的に必要と考えられた場合、地域の医療機関を紹介していますので、よろしくお願い致します。

入院では、おもに救急外来から緊急入院した内科系非重篤患者のうち、肺炎、腎盂腎炎などの急性感染症、原因不明の発熱（最終的には薬剤熱、血管炎症候群、血液学的腫瘍、自然治癒するウイルス感染症や一過性の肺への吸引など）や意識障害、電解質異常、栄養不良を受け持ち、診断および管理、必要に応じて他科への紹介を行っています。他科入院中の患者の感染症や原因不明の発熱についての共診も主たる活動の一部になっています。

□ 診療実績（平成27年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
16名	309名	19日

外来患者数

1日平均患者数
34名

主な疾患の件数など

感染症	リューマチ性疾患	電解質異常	血液・腫瘍	消化器疾患
196件	32件	13件	12件	12件

□ 地域医療連携・広報活動

伏見医師会理事（小山）

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者	演　題	学会名
国内学会	孫瑜、後藤雅史、桂敏明、小田垣孝雄、小山弘、太田義之	薬剤による宿便性潰瘍により大量血便を繰り返し、内視鏡的止血術と動脈塞栓術を施行した1例	第211回日本内科学会近畿地方会

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者	タイトル	巻・ページ
総合診療	大倉 敬之、小山 弘	子どもは知恵熱, 大人も知恵熱……？	第25巻3号
診断力強化トレーニング2	小山 弘、孫 瑜、高林 健介、中谷 理恵子、大倉 敬之、桂 敏明、小田垣 孝雄	下痢それとも便秘？　他11章	p3-5他

血液内科



医　長
奥野　芳章

専門医資格等　日本内科学会内科専門医
日本血液学会専門医・指導医
京都大学医学博士
専 門 分 野　血液一般

□ 診療科の特徴

1. 当科では貧血から、白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫など血液悪性疾患に至るまでいろいろな血液疾患の診断、治療をおこなっています。血液疾患は自覚症状に乏しく、血液検査をして初めて異常が明らかになることが多いため、まず、お近くのかかりつけの医師に診察して頂いて、血液疾患の疑いがあれば当科にご紹介して頂いています。
2. 血液疾患の治療法の進歩はめざましく、血液幹細胞移植の適応になることもありますが、残念ながら当院では移植治療は行っておりません。そのような治療が必要な場合、移植施設をご紹介いたします。

□ 主な対象疾患

貧血・出血傾向・リンパ腫・白血病・骨髄腫　など

□ 診療（業務）内容

再生不良性貧血に対する免疫抑制療法や血液悪性疾患に対する通常量化学療法、貧血などに対する輸血などの対症療法を行っています。治療法を選択するにあたっては、広く認められている標準療法であること、患者さんが十分ご理解、ご納得頂けることを重視しています。

血液疾患は診断、あるいは治療の選択に困難を伴う場合が多いかと思いますが、患者さんと常にご相談しながらよりよい治療法を探していきます。

・貧血
・出血傾向
・リンパ腫
・白血病
・骨髄腫など

□ 診療実績(平成27年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
8名	193名	16日

外来患者数

1日平均患者数
15名

内分泌・代謝内科



診療部長・診療科長
田上　哲也

専門医資格等　日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医、近畿支部評議員
日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医・指導医・教育責任者、評議員
日本甲状腺学会　専門医、評議員
厚生労働省　臨床研修指導医
京都大学医学部　臨床教授・非常勤講師
京都大学　医学博士

専門分野　内科、内分泌・代謝

得意疾患　内分泌疾患、甲状腺疾患

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　師	立木　美香	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医 日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医・指導医 日本高血圧学会　専門医 東京女子医科大学　医学博士	内科 内分泌・代謝	
医　師	垣田真以子	日本内科学会　認定内科医 日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医 日本抗加齢医学会　専門医 日本医師会　認定産業医	内科 内分泌・代謝	
専修医	小笠原辰樹		内科、内分泌・代謝	
専修医	廣嶋　佳歩		内科、内分泌・代謝	
レジデント	馬越　洋宜	日本内科学会　認定内科医	内科、内分泌・代謝	
臨床研究センター・センター長	島津　章	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医・指導医 日本糖尿病学会　専門医 京都大学医学部　臨床教授・非常勤講師 京都大学　医学博士	内科 内分泌・代謝 臨床検査医学	神経内分泌・下垂体疾患
臨床研究センター・副センター長（内分泌代謝高血圧研究部長）	成瀬　光栄	日本内科学会　認定内科医・指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医・指導医 日本高血圧学会　専門医 日本糖尿病学会　専門医 日本腎臓学会　専門医・指導医 東京医科歯科大学医学部　臨床教授・非常勤講師 東京女子医科大学　医学博士	内科 内分泌・代謝	高血圧・副腎疾患
臨床研究センター・室長（臨床内分泌代謝研究室）	臼井　健	日本内科学会　認定内科医・指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医・指導医 日本人類遺伝学会/日本遺伝カウンセリング学会　臨床遺伝専門医 厚生労働省　臨床研修指導医 京都大学医学部　臨床教授・非常勤講師 京都大学　医学博士	内科 内分泌・代謝 臨床遺伝学	神経内分泌・遺伝性疾患

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本内分泌学会研修施設 日本甲状腺学会認定施設

1. 内分泌代謝疾患に関する、良質で高水準の医療を提供しています。
2. 満足のいく十分な説明を行い、安心できる医療を提供しています。
3. 十分な診療情報提供と逆紹介により、病診連携を促進しています。
4. 地域における内分泌代謝疾患の専門診療を担っており、1999年には内分泌代謝性疾患に関する高度専門医療施設（準ナショナルセンター）として国の指定を受けています。全国の内分泌・代謝疾患の「専門医療施設」と内分泌・代謝疾患ネットワークを構築しています。また、日本内分泌学会認定教育施設および日本甲状腺学会認定専門医施設に認定されています。

□ 主な対象疾患

●下垂体疾患

下垂体インシデンタローマ：脳ドックなど、CTやMRIで偶然見つかった下垂体腫瘍の機能評価をします。

下垂体機能亢進症：先端巨大症（アクロメガリー）、クッシング病（下垂体性クッシング症候群）、プロラクチン産生下垂体腫瘍（プロラクチノーマ）、TSH産生下垂体腫瘍（中枢性甲状腺機能亢進症）などです。糖尿病や肥満、不順月経の原因になります。

下垂体機能低下症：シーハン症候群（出産後下垂体機能低下症）などの汎下垂体機能低下症、ACTH単独欠損症（下垂体性副腎不全）、成長ホルモン分泌不全症、リンパ球性下垂体炎、中枢性尿崩症などがあります。無月経や低身長、低血圧・低血糖、口渇・多飲・多尿などが主徴候となります。小児科からのトランジション（引き継ぎ治療）も大切です。

●甲状腺疾患

甲状腺腫：学校検診や人間ドックなどで指摘された甲状腺腫の評価をします。

甲状腺インシデンタローマ：頸動脈エコーなどで偶然見つかった甲状腺腫瘤の良性・悪性の判定をします。甲状腺機能亢進症：バセドウ病のほか、プランマー病（機能性結節）、妊娠性甲状腺機能亢進症があります。眼球突出や心房細動がきっかけで見つかることもあります。振戦や筋力低下の原因にもなります。コントロール不良のバセドウ病にはアイソトープ治療（^{131}I内用療法）も考えてみてください。

破壊性甲状腺中毒症：発熱・前頸部痛を主訴とする亜急性甲状腺炎や、橋本病をベースとした無痛性甲状腺炎、インターフェロンやアミオダロンなどによる薬剤性甲状腺中毒症があります。

甲状腺機能低下症：原因として橋本病（慢性甲状腺炎）が最も多いですが、先天性甲状腺機能低下症や薬剤性甲状腺機能低下症（向精神薬など）も少なくありません。便秘や体重増加、皮膚の乾燥、顔のむくみ、脱毛などを訴えます。

●副甲状腺疾患

高カルシウム血症：副甲状腺腫による原発性副甲状腺機能亢進症や悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症、ビタミンD中毒があります。尿路結石を繰り返します。

低カルシウム血症：成人では特発性副甲状腺機能低下症があります。小児では、先天性副甲状腺機能低下症や偽性副甲状腺機能低下症があります。

骨粗鬆症：高齢化に伴い、閉経後の原発性骨粗鬆症が増加しています。ステロイドホルモンによる続発性骨粗鬆症にも注意が必要です。

●副腎疾患

副腎インシデンタローマ：CTやMRIで偶然見つかった副腎腫瘍の機能評価をします。

副腎皮質機能亢進症：原発性アルドステロン症（PA）やクッシング症候群などがあります. 多くは副腎腫瘍が原因です。高血圧や糖尿病、メタボリック症候群の原因になります。高血圧の～10%にPAが見つかります。

当院では副腎静脈サンプリングが可能です。

副腎髄質機能亢進症：褐色細胞腫や傍神経節腫が原因です。術後数年後に転移が見つかるケースも少なくありません。発作性の高血圧が特徴です。

副腎皮質機能低下症：アヂソン病や先天性副腎過形成などが原因となります. 急性副腎不全（副腎クリーゼ）を発症することがあります。

●性腺疾患：ターナー症候群、クラインフェルター症候群、多嚢胞性卵巣症候群などです。
●その他の内分泌代謝疾患
生活習慣病：高血圧（高血圧の約15％はホルモンの異常による内分泌性高血圧で、種々のホルモン過剰が原因になります。適確な診断と治療で治癒可能なことが少なくありません）。その他、メタボリック症候群、脂質異常症、高尿酸血症、電解質異常（低カリウム血症、低ナトリウム血症など）なども診療しています。

□ 診療（業務）内容

●内分泌代謝疾患とは「ホルモンの乱れに起因する病気」を総称するもので、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性ホルモンの異常をきたす疾患の他、内分泌疾患を疑う必要のある、高血圧、糖尿病、肥満、高脂血症などの生活習慣病、電解質異常、骨粗鬆症などを対象として、診療にあたっています。
●外来では、血液検査、画像検査（レントゲン、CT、MRI、アイソトープ検査や甲状腺エコー）、甲状腺の細胞診などを行っています。遺伝子診断・遺伝相談、セカンドオピニオン外来を実施しています。
●入院では、上記疾患の診断と治療の他、バセドウ病のアイソトープ治療、甲状腺眼症のステロイドパルス療法、原発性アルドステロン症の副腎静脈サンプリング検査などを実施しています

□ 診療実績(平成27年度)

入院患者数

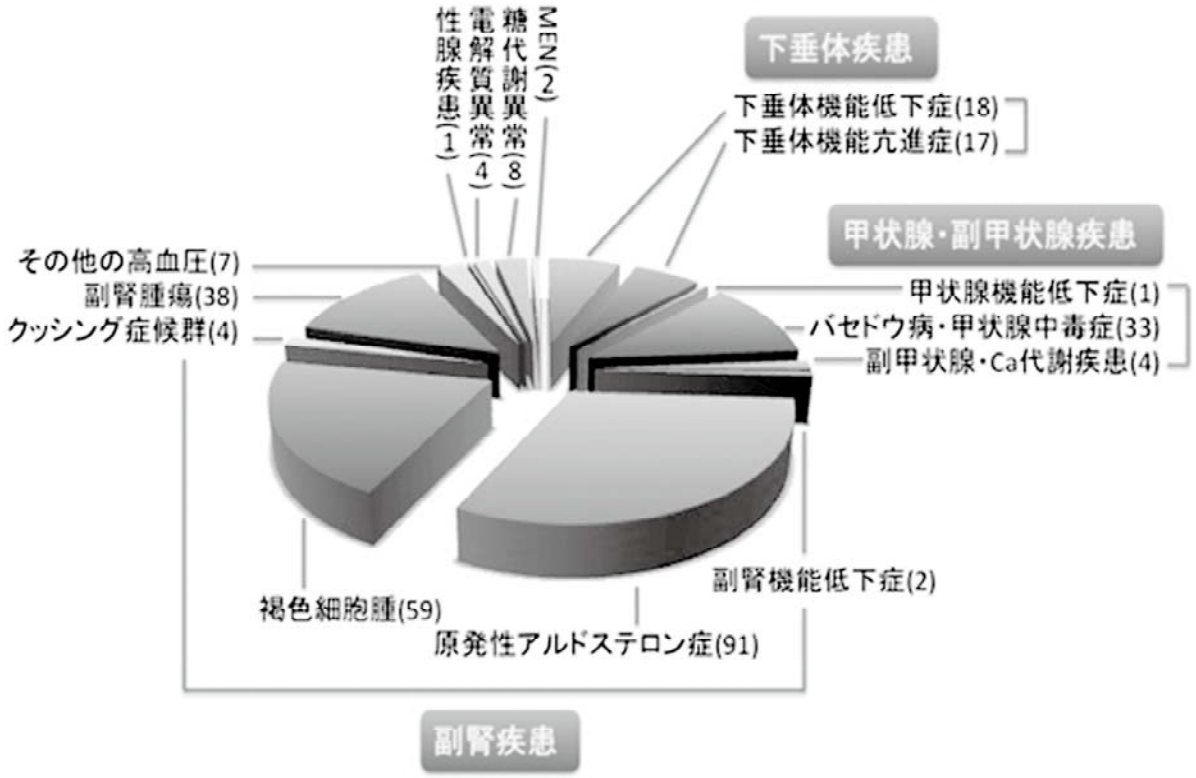
1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
5.2名	289名	6.5日

外来患者数

1日平均総患者数	1日平均初診患者数	1日平均再審患者数
60.0名	4.6名	55.4名

主な検査の件数など

甲状腺エコー	甲状腺細胞診
1,606件	156件



〈福島県県外甲状腺検査〉

平成23年3月11日に発生した東日本大震災によって、東京電力福島第一原子力発電所では、放射性物質の放出を伴う事故(以下、福島第一原発事故という)が発生した。この事故は、国際原子力・放射線事象評価尺度(International Nuclear and Radiological Event Scale: INES)において、1986年4月26日に旧ソビエト連邦(現ウクライナ)で発生したチェルノブイリ原子力発電所事故(以下「チェルノブイリ原発事故」という)と同等の「7」(暫定)とされている。チェルノブイリ原発事故においては、事故直後に食品等の規制がなされなかったことなどに起因し、周辺住民の放射性ヨウ素による内部被ばくが拡大し、小児の甲状腺がんが激増する事態となった。このことから、福島第一原発事故においても小児の甲状腺がん発症への懸念が高まっている。このため、福島県では県民の健康見守り事業である「県民健康管理調査」を実施し、その中で、福島第一原発事故発生時に18歳以下の子どもだった者に対する甲状腺検査を行っている。

「県民健康管理調査」事業は、福島第一原発事故による放射性物質の拡散や避難等を踏まえ、県民の被ばく線量の評価を行うとともに、県民の健康状態を把握し、疾病の予防、早期発見、早期治療につなげることで、将来にわたる県民の健康維持・増進を図ることを目的としている。財源には，国及び福島県からの出資金並びに東京電力株式会社から福島県への賠償金等から構成される「福島県民健康管理基金」が充てられている。検査・診断等は、福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センターが主体となって行っている。県民健康管理調査は、外部被ばく線量の推計を目的とした「基本調査」と、健康状態の把握を目的とした「詳細調査」から構成されている。

甲状腺検査

事故当時18歳以下の子ども(平成4年4月2日以降に生まれた者)を対象とし、以下の2つの検査から構成されている。

● 先行検査 平成23年10月から平成26年3月末までに行われる、1回目の甲状腺検査

● 本格検査 平成26年4月以降、20歳までは2年ごと、それ以降は5年ごとに継続して行われる甲状腺検査

チェルノブイリ原発事故のデータから、小児甲状腺がんが増加するのは事故後4～5年を経過して以降とされている。このことを踏まえつつ、事故直後に開始された先行検査は、福島第一原発事故後3年以内の子どもの甲状腺の状態を把握することで、放射線被ばくによる影響が考えにくい時点での疾患の頻度を記録し、将来の健康管理の土台をつくることを目的としている。一方、事故後3年を経て開始される予定の本格検査は、放射線被ばくの影響についての追跡調査と健康管理を目的としている。平成25年現在行われているのは先行検査である。

先行検査はさらに、対象者全員に対して行われる一次検査と、一次検査で疑わしい所見のあった者に対してのみ行われる、診断確定のための二次検査で構成される。

一次検査は甲状腺エコー検査(超音波検査)である。二次検査は甲状腺エコー検査に加え、採血・尿検査が行われるほか、必要な場合は細胞診(甲状腺の細胞を採取して行う検査)が行われる。

京都医療センター内分泌・代謝内科では、京都府下への避難者（京都府内居住者）を対象に一次検査と二次検査を実施している。

	福島甲状腺エコー
2012年度	9件
2013年度	26件
2014年度	9件
2015年度	21件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者	演 題	学 会 名		
国際学会	Tetsuya Tagami, Mika Tsuiki, Maiko Kakita, Hironobu Umakoshi, Tatsuki Ogasawara, Kaho Hiroshima, Takeshi Usui, Mitsuhide Naruse, Akira Shimatsu	Spesific symptoms of thyroid dysfunction in Japanese: reevaluation of classical symptoms in modern thyroid function tests	15th International thyroid congress	2015.10.19-20	Florida, USA
国際学会	Naruse M	Strategic Multi-Center study of Primary aldosteronism for clinical Evidence	11th Asia pacific congress of hypertension in conjunction with 9th scentific meeting of the indonesian society of hypertension	2015.6.4-7	Bali, Indonesia
国際学会	Umakoshi H, Naruse M, Wada N, Ichijo T, Kamemura K, Matsuda Y, Fujii Y, Kai T, Fukuoka T, Sakamoto R, Ogo A, Suzuki T, Nanba K, Tsuiki M.	Adrenal venous sampling in patients without primary aldosteronims	41st International Aldosterone conference	2016.3.31	Boston, USA
国際学会	Abe T, Naruse M, Young W, Kobashi N, Doi Y, Izawa A, Akama K, Okumura Y, Ikenaga M, Kimura H, Saji H, Mukai K, Matsumoto H	A novel CYP11B2-specific positron emission tomography imaging agent for detection of aldosterone-producing adenomas	ENSAT 14th Scientific Symposium	2015.11.19-20	Munich, Germany
国際学会	Umakoshi H, Naruse M, Wada N, Ichijo T, Kamemura K,Matsuda Y, Fujii Y, Kai T, Fukuoka T, Sakamoto R, Ogo A, Suzuki T, Nakao K, Tsuiki M	Aldosterone concentration of the adrenal vein in patients without primary aldosteronism	ENSAT 14th Scientific Symposium	2015.11.19-20	Munich, Germany
国際学会	Naruse M, Ogawa Y, Yamada M, Inagaki N, Ogawa O, Rakugi H, Shibata H, Yanase T, Katabami T, Takeda Y	Advancing Care of Primary Aldosuteronism in Japan Study (JPAS): A new systematic multicenter Cohort study on the dignosis and treatment	ENSAT 14th Scientific Symposium	2015.11.19-20	Munich, Germany
国内学会	田上 哲也, 森山 賢治, 二若 久美, 臼井 健, 成瀬 光栄, 島津 章	GH/IGF-1系下流の転写因子がエネルギー代謝に関わる遺伝子発現に与える影響について	第88回日本内分泌学会学術総会	2015.4.23-25	東京
国内学会	垣田 真以子, 小笠原 辰樹, 松尾 奈緒美, 臼井 健, 廣田 圭昭, 横田 美紀, 中谷 理恵子, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 山本 鉄郎, 広川 侑奨, 元石 充, 澤井 聡, 中本 裕士, 河本 泉, 島津 章	多発性内分泌腫瘍症(MEN1)型における組織別腫瘍発症機構についての検討	第88回日本内分泌学会学術総会	2015.4.23-25	東京
国内学会	廣田 圭昭, 垣田 真以子, 小笠原 辰樹, 馬越 洋宜, 横田 美紀, 中谷 理恵子, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 青木 友和, 臼井 健, 島津 章	両側難治性中耳炎を契機に診断し得たANCA関連血管炎性肥厚性硬膜炎・下垂体炎の一例	第88回日本内分泌学会学術総会	2015.4.23-25	東京
国内学会	小山 理恵, 二若 久美, 主田 綾佳, 根津 祥子, 福田 佑紀, 笠原 正登, 田上 哲也, 森山 賢治	エネルギー代謝における活性型ビタミンD3の作用機序の検討	第88回日本内分泌学会学術総会	2015.4.23-25	東京
国内学会	小笠原 辰樹, 臼井 健, 廣田 圭昭, 横田 美紀, 中谷 理恵子, 垣田 真以子, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 山本 鉄郎, 島津 章	7年の経過でatypical adenomaからpituitary carcinomaへのtransformを観察し得た難治性Cushing病の1例	第88回日本内分泌学会学術総会	2015.4.23-25	東京
国内学会	福田 佑紀, 二若 久美, 主田 綾佳, 根津 祥子, 小山 理恵, 笠原 正登, 田上 哲也, 森山 賢治	合成活性型ビタミンD3の薬効に関する基礎的検討	第88回日本内分泌学会学術総会	2015.4.23-25	東京
国内学会	垣田 真以子, 小笠原 辰樹, 松尾 奈緒美, 臼井 健, 廣田 圭昭, 横田 美紀, 中谷 理恵子, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 山本 鉄郎, 元石 充, 澤井 聡, 中本 裕士, 島津 章	胸腺病変を伴うMEN1型への治療アプローチ	第88回日本内分泌学会学術総会	2015.4.23-25	東京
国内学会	馬越 洋宜, 中尾 佳奈子, 和田 典男, 一城 貴政, 曽根 正勝, 方波見 卓行, 松田 祐一, 立木 美香, 成瀬 光栄	原発性アルドステロン症の局在診断における副腎静脈サンプリングの判定基準 Contralateral ratio(CR)の診断的意義	第88回日本内分泌学会総会	2015.4.23-25	東京
国内学会	馬越 洋宜, 一城 貴政, 和田 典男, 福岡 富和, 松田 祐一, 藤井 雄一, 立木 美香, 成瀬 光栄	副腎静脈サンプリングにおける左副腎静脈採血部位が原発性アルドステロン症の局在診断に及ぼす影響 WAVES-J研究における解析	第88回日本内分泌学会総会	2015.4.23-25	東京
国内学会	成瀬 光栄, 平田 結喜緒, 宮森 勇, 褐色細胞腫検討委員会	臨床重要課題ガイドライン報告「褐色細胞腫の実態調査と診療指針の作成・改定」	第88回日本内分泌学会	2015.4.23-25	東京
国内学会	成瀬 光栄, 西川 哲男, 柳瀬 敏彦, 柴田 洋孝, ＰＡ検討委員会	臨床重要課題ガイドライン報告「原発性アルドステロン症の診断・治療に関するConsensus Statement」	第88回日本内分泌学会	2015.4.23-25	東京
国内学会	馬越 洋宜, 一城 貴政, 和田 典男, 福岡 富和, 松田 祐一, 藤井 雄一, 立木 美香, 成瀬 光栄	副腎静脈サンプリングにおける左副腎静脈採血部位が原発性アルドステロン症の局在診断に及ぼす影響：WAVES-J 研究における解析	第88回日本内分泌学会	2015.4.23-25	東京
国内学会	馬越 洋宜, 中尾 佳奈子, 和田 典男, 一城 貴政, 曽根 正勝, 方波見 卓行, 松田 祐一, 立木 美香, 成瀬 光栄	原発性アルドステロン症の局在診断における副腎静脈サンプリングの判定基準：Contralateral ratio(CR)の診断的意義	第88回日本内分泌学会	2015.4.23-25	東京
国内学会	臼井 健, 湯野 暁子, 島津 章	偽性副甲状腺機能低下症の分子病態とエピゲノム	第88回日本内分泌学会学術総会	2015.4.23-25	東京
国内学会	天野 綾, 川島 彰透, 山田 倫子, 村部 浩之, 横田 敏彦, 浜松 圭太, 山田 豪, 臼井 健	高齢女性キャリアーを契機に発見された, 先天性腎性尿崩症の一家系	第88回日本内分泌学会学術総会	2015.4.23-25	東京

国内学会	巖西 真規, 小林 純, 鷲山 美樹, 柏木 厚典, 臼井 健	MEN1遺伝子エクソン3にW183X変異を認めた原発性副甲状腺機能亢進症の１例	第88回日本内分泌学会学術総会	2015.4.23-25	東京
国内学会	加藤 友美, 湯野 暁子, 糸島 早織, 吉田 信, 松尾 真一, 伊古田 明美, 臼井 健, 小泉 茂樹	両側副腎褐色細胞腫における術式の検討	第88回日本内分泌学会学術総会	2015.4.23-25	東京
国内学会	馬越 洋宜, 和田 典男, 一城 貴政, 松田 祐一, 藤井 雄一, 福岡 富和, 亀村 幸平, 甲斐 達也, 坂本 竜一, 小河 淳, 鈴木 知子, 立木 美香, 成瀬 光栄	原発性アルドステロン症の病型診断における副腎静脈サンプリングの課題：多施設共同データベースの構築と臨床的意義	第27回日本内分泌外科学会総会	2015.5.28-29	福島
国内学会	成瀬 光栄	褐色細胞腫・パアガングリオーマ	第27回日本内分泌外科学会総会	2015.5.28-29	福島
国内学会	坂口 智一, 米田 高志, 粕谷 真郷, 清水 庸平, 赤星 拓, 堀米 正幸, 阿部 正史, 小野寺 晴子, 吉川 雄一郎, 岡村 ゆか里, 宮崎 康, 成瀬 光栄	地域中核病院における原発性アルドステロン症（PA)に対する包括的治療の報告	第27回日本内分泌外科学会総会	2015.5.28-29	福島
国内学会	臼井 健	天然SERMとしてのイソフラボン腸内細菌代謝産物エクオールの抗動脈硬化作用	第15回日本抗加齢医学会総会	2015.5.29-31	福岡
国内学会	垣田 真以子, 小笠原 辰樹, 臼井 健, 廣嶋 佳歩, 馬越 洋宜, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 山田 正三, 島津 章	MS-MLPA法およびエクソーム解析を用いた多発性内分泌腫瘍症(MEN)1型における下垂体腫瘍の発生機序の解明	第42回日本神経内分泌学会学術集会	2015.9.18	仙台
国内学会	臼井 健, 小笠原 辰樹, 廣嶋 佳歩, 馬越 浩宜, 垣田 真以子, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 青木 友和, 島津 章	異型下垂体腺腫から下垂体癌に移行した1症例	第69回国立病院総合医学会	2015.10.2-3	札幌
国内学会	橋本 貢士, 小鳥 真司, 田上 哲也, 山陰 一, 村中 和哉, 田中 将志, 増田 慎也, 坊内 良太郎, 南 勲, 土屋 恭一郎, 吉本 貴宣, 河野 茂夫, 島津 章, 小川 佳宏, 浅原 哲子	血中遊離サイロキシン値は肥満症減量治療の効果予測マーカーとなりうる	第36回日本肥満学会	2015.10.2	名古屋
国内学会	阿部 清美, 鳴海 覚志, 三井 俊賢, 長崎 啓祐, 中村 明枝, 田島 敏広, 湯野 暁子, 臼井 健, 室谷 浩二, 朝倉 由美, 安達 昌功, 長谷川 奉延	偽性副甲状腺機能低下症の視床下部-下垂体-甲状腺軸の特徴	第49回日本小児内分泌学会学術集会	2015.10.8-10	東京
国内学会	北 誠, 桑田 康弘, 臼井 健, 秋山 祐一, 島津 章	抗けいれん剤投与がきっかけで診断に至ったHDR症候群の１家系	第49回日本小児内分泌学会学術集会	2015.10.8-10	東京
国内学会	馬越 洋宜, 和田 典男, 一城 貴政, 松田祐一, 藤井 雄一, 福岡 富和, 亀村 幸平, 甲斐 達也, 坂本 竜一, 小河 淳, 鈴木 知子, 立木 美香, 成瀬 光栄	原発性アルドステロン症診療の問題点：ガイドラインと実地診療	第38回日本高血圧学会総会	2015.10.10	愛媛
国内学会	馬越 洋宜, 和田 典男, 一城 貴政, 松田 祐一, 亀村 幸平, 福岡 富和, 藤井 雄一, 甲斐 達也, 坂本 竜一, 小河 淳, 鈴木 知子, 小笠原 辰樹, 立木 美香, 成瀬 光栄	原発性アルドステロン症診療における副腎静脈サンプリングの課題：多施設共同データベースの構築（WAVES-J)と臨床的意義	第38回日本高血圧学会総会	2015.10.9-11	松山
国内学会	馬越 洋宜, 和田 典男, 一城 貴政, 松田 祐一, 亀村 幸平, 福岡 富和, 藤井 雄一, 甲斐 達也, 坂本 竜一, 小河 淳, 鈴木 知子, 立木 美香, 成瀬 光栄	副腎静脈サンプリングにおける左副腎静脈採血部位が原発性アルドステロン症の局在診断に及ぼす影響：WAVES-J研究における解析	第38回日本高血圧学会総会	2015.10.9-11	松山
国内学会	小笠原 辰樹, 馬越 洋宜, 一城 貴政, 和田 典男, 亀村 幸平, 坂本 竜一, 小河 淳, 松田 祐一, 藤井 雄一, 甲斐 達也, 福岡 富和, 鈴木 知子, 立木 美香, 成瀬 光栄	若年者原発性アルドステロン症の局在診断におけるCT所見の意義	第38回日本高血圧学会総会	2015.10.9-11	松山
国内学会	亀村 幸平, 成瀬 光栄, 立木 美香, 馬越 洋宜, 松田 祐一, 藤井 雄一, 福岡 富和, 甲斐 達也, 小河 淳, 坂本 竜一, 和田 典男, 一城 貴政, 鈴木 知子	原発性アルドステロン症におけるCT画像による病側診断率および副腎静脈サンプリングの適応に関する検討（WAVES-J研究より）	第38回日本高血圧学会総会	2015.10.9-11	松山
国内学会	甲斐 達也, 中坊 麻利, 成瀬 光栄, 馬越 洋宜, 亀村 幸平, 藤井 雄一, 一城 貴政, 福岡 富和, 松田 祐一, 坂本 竜一, 和田 典男	原発性アルドステロン症の機能確認検査を用いた片側性病変の診断に関する多施設共同研究（WAVE-J)	第38回日本高血圧学会総会	2015.10.9-11	松山
国内学会	廣嶋 佳歩, 垣田 真以子, 臼井 健, 小笠原 辰樹, 馬越 洋宜, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 辻村 隆司, 森吉 弘毅, 島津 章	甲状腺C細胞過形成段階での甲状腺全摘術が行われた無症候性RET遺伝子変異保持者	第16回日本内分泌学会近畿支部学術集会	2015.10.17	奈良
国内学会	廣嶋 佳歩, 垣田 真以子, 臼井 健, 小笠原 辰樹, 馬越 洋宜, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 辻村 隆司, 安里 亮, 森吉 弘毅, 島津 章	無症候性RET遺伝子変異保持者に対する甲状腺C細胞過形成段階での甲状腺全摘術の試み	第19回日本内分泌病理学会総会	2015.10.24	佐賀
国内学会	垣田 真以子, 小笠原 辰樹, 臼井 健, 馬越 宜洋, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 森吉 弘毅, 松本 敬優, 奥野 博, 島津 章	Adrenal lymphangiomaの一例	第19回日本内分泌病理学会学術総会	2015.10.24	佐賀
国内学会	石井 角保, 鬼形 和道, 佐々木 茂和, 佐々木 純, 田上 哲也, 谷山 松雄, 武田 京子, 高松 順太, 中村 浩淑, 西原 永潤, 林 良敬, 菱沼 昭, 深田 修司, 吉村 弘, 村田 善晴, 山田 正信, 甲状腺ホルモン不応症の診断基準ならびに治療指針の作成班	甲状腺ホルモン不応症診断アルゴリズム検証のためのアンケート　TSH産生腫瘍と鑑別が可能か?	第58回日本甲状腺学会学術集会	2015/11/5-11/7	福島
国内学会	田上 哲也, 立木 美香, 垣田 真以子, 馬越 洋宜, 小笠原 辰樹, 廣嶋 佳歩, 臼井 健, 成瀬 光栄, 島津 章	甲状腺機能別初診時自覚症状の頻度と程度	第58回日本甲状腺学会学術集会	2015.11.5-7	福島
国内学会	垣田 真以子, 廣嶋 佳歩, 小笠原 辰樹, 馬越 洋宜, 立木 美香, 臼井 健, 成瀬 光栄, 島津 章, 田上 哲也	Basedow病患者における131I内用療法前のヨウ素制限の意義	第58回日本甲状腺学会学術集会	2015.11.5-7	福島
国内学会	阿部清美, 鳴海覚志, 三井俊賢, 長崎啓祐, 中村明枝, 田島敏広, 湯野暁子, 臼井健, 室谷浩二, 朝倉由美, 安達昌功, 長谷川奉延	偽性副甲状腺機能低下症の視床下部-下垂体-甲状腺軸の特徴	第58回日本甲状腺学会学術集会	2015.11.5	福島

国内学会	垣田 真以子, 小笠原 辰樹, 臼井 健, 廣嶋 佳歩, 馬越 洋宜, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 島津 章	多発性内分泌腫瘍症(MEN)1型関連腫瘍における全エクソーム解析	第25回臨床内分泌代謝Update	2015.11.27-28	東京
国内学会	廣嶋 佳歩, 垣田 真以子, 臼井 健, 小笠原 辰樹, 馬越 洋宜, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 辻村 隆司, 安里 亮, 森吉 弘毅, 島津 章	甲状腺C細胞過形成が病理学的に確認されたPET遺伝子変異保持者	第25回臨床内分泌代謝Update	2015.11.27-28	東京
国内学会	馬越 洋宜, 和田 典男, 一城 貴政, 亀村 幸一, 福岡 富和, 坂本 竜一, 小河 淳, 小笠原 辰樹, 立木 美香, 成瀬 光栄	PA局在診断におけるAVSの左副腎静脈採血部位の意義	第25回臨床内分泌代謝Update	2015.11.27-28	東京
国内学会	小笠原 辰樹, 馬越 洋宜, 和田 典男, 一城 貴政, 亀村 幸平, 松田 祐一, 福岡 富和, 立木 美香, 成瀬 光栄	若年者原発性アルドステロン症の局在診断におけるCT所見の意義	第25回臨床内分泌代謝Update	2015.11.27-28	東京
国内学会	難波 多挙, 馬越 洋宜, 和田 典男, 藤井 雄一, 亀村 幸平, 甲斐 達也, 鈴木 知子, 立木 美香, 成瀬 光栄	原発性アルドステロン症の病型予測スコア:WAVES-J研究による検証	第25回臨床内分泌代謝Update	2015.11.27-28	東京
国内学会	臼井 健, 小笠原 辰樹, 廣嶋 佳歩, 馬越 浩宜, 垣田 真以子, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 青木 友和, 島津 章	テモゾロミドが著効している下垂体癌によるクッシング病の1例	第26回日本間脳下垂体腫瘍学会	2016.2.19	福島
研究会	Naruse M	Clinical practice guideline of primary aldosteronism in Japan	The 8th International Aldosterone Forum in Japan	2015.5.30	東京
研究会	Umakoshi H, Wada N, Ichijo T, Kamemura K, Matsuda Y, Fujii Y, Kai T, Fukuoka T, Sakamoto R, Ogo A, Suzuki T, Tsuiki M, Naruse M	Evidence for clinical questions of adrenal vein sampling in primary aldosteronism: multicenter collaborative study in Japan	The 8th International Aldosterone Forum in Japan	2015.5.30	東京
研究会	小笠原 辰樹, 立木 美香, 廣田 圭紹, 横田 美紀, 中谷 理恵子, 垣田 真以子, 臼井 健, 田上 哲也, 山本 鉄郎, 上戸 賢, 奥村 和弘, 栗田 博仁, 辻井 悟, 藤田 久美, 本庄 原, 島津 章, 成瀬光栄	コルチゾール及びアルドステロン産生を認めた副腎皮質癌の一例	第12回副腎腫瘍研究会	2015.4.24	東京
研究会	成瀬 光栄	原発性アルドステロン症の診療アップデート	The 32nd Live Demonstration in KOKURA	2015.5.17	小倉
研究会	成瀬 光栄, 田辺 晶代, 立木 美香, 馬越 洋宜, 難波 綾, 難波 多挙	実地診療における原発性アルドステロン症の診断	第4回臨床高血圧フォーラム	2015.5.23-24	福岡
研究会	吉田 哲郎, 奥下 由紀子, 白石 明美, 木村 玄次郎, 成瀬 光栄	家族性アルドステロン症と考えられた一卵性双生児の1例	第4回臨床高血圧フォーラム	2015.5.23-24	福岡
研究会	廣嶋 佳歩, 立木 美香, 臼井 健, 小笠原 辰樹, 馬越 洋宜, 垣田 真以子, 笠原 勝宏, 片岡 通子, 安里 亮, 辻 純, 成瀬 光栄, 島津 章, 田上 哲也	チアマゾール投与中に重症肝障害をきたしたBasedow病の1例	第15回京滋臨床甲状腺懇話会	2015.7.4	京都
研究会	田上 哲也	急性期病院における甲状腺研究～こんなことしてます～	第24回静岡甲状腺研究会	2015.7.10	静岡
研究会	小笠原 辰樹, 臼井 健, 廣嶋 佳歩, 馬越 洋宜, 垣田 真以子, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 青木 友和, 島津 章	肝転移を来したACTH産生下垂体癌に対する化学療法の効果	第89回京都内分泌同好会	2015.9.26	京都
研究会	田上 哲也	Basedow病の治療～薬物療法と131I内容療法～	第2回Endocrine Special Seminar	2015.10.2	横浜
研究会	成瀬 光栄	高血圧の診療・研究・倫理:最近の動向	伏見内分泌代謝ネットワーク第24回連携の会	2015.10.29	京都
研究会	田上 哲也	甲状腺疾患の診かた～自覚症状と甲状腺腫から疑え～	伏見内分泌代謝ネットワーク第24回連携の会	2015.10.29	京都
研究会	小笠原 辰樹, 馬越 洋宜, 垣田 真以子, 立木 美香, 田上 哲也, 島津 章, 成瀬 光栄	治療に難渋した悪性褐色細胞腫の3例	第38回近畿「内分泌と高血圧」研究会	2015.11.12	豊中
研究会	廣嶋 佳歩, 垣田 真以子, 小笠原 辰樹, 馬越 洋宜, 立木 美香, 臼井 健, 成瀬 光栄, 島津 章, 秦 さおり, 江川 晴人, 豊田 有子, 河田 興, 田上 哲也	著明な甲状腺腫を呈した新生児Basedow病の一例	第38回京都甲状腺研究会	2016.1.23	京都
研究会	成瀬 光栄	高血圧合併妊娠	第6回京都医療センター医療連携フォーラム	2016.1.30	京都
研究会	田上 哲也	甲状腺疾患合併妊娠	第6回京都医療センター医療連携フォーラム	2016.1.30	京都
研究会	後藤 久典, 西尾 由貴子, 小笠原 辰樹, 垣田 真以子, 臼井 健, 加藤 純子, 廣嶋 佳歩, 馬越 洋宜, 立木 美香, 田上 哲也, 成瀬 光栄, 島津 章	MEN1が疑われ診断に難渋したインスリノーマの1例	第90回京都内分泌同好会	2016.3.19	京都
研究会	田上 哲也	甲状腺疾患と副甲状腺疾患	平成27年度内分泌代謝性疾患研修会	2016.1.28	京都

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者	タイトル	巻・ページ			出版社
Endocr J	Hashimoto K, Tagami T, Yamakage H, Muranaka K, Tanaka M, Odori S, Kono S, Shimatsu A, Ogawa Y, Satoh-Asahara N.	Serum free thyroxine levels is associated with the efficacy of weight reduction therapy in obese female patients.	63	3	221-229	
Endocr J	Ueda Y, Tagami T, Tamanaha T, Kakita M, Tanase-Nakao K, Nanba K, Usui T, Naruse M, Shimatsu A.	A family of RTHβ with p.R316C mutation presenting occasional syndrome of inappropriate secretion of TSH.	62	3	251-260	

Endocr Res	Moriyama K, Yamamoto H, Futawaka K, Atake A, Kasahara M, Tagami T.	Molecular characterization of human thyroid hormone receptor β isoform 4.	41	1	34-42	
Am J Chin Med	Li JE, Futawaka K, Yamamoto H, Kasahara M, Tagami T, Liu TH, Moriyama K.	Cinnamaldehyde Contributes to Insulin Sensitivity by Activating PPAR δ, PPARγ, and RXR.	43	5	879-892	
Endocrine	Nanba K, Tsuiki M, Umakoshi H, Nanba A, Hirokawa Y, Usui T, Tagami T, Shimatsu A, Suzuki T, Tanabe A, Naruse M.	Shortened saline infusion test for subtype prediction in primary aldosteronism.	50	3	802-806	
Hypertension	Umakoshi H, Naruse M, Wada N, Ichijo T, Kamemura K, Matsuda Y, Fujii Y, Kai T, Fukuoka T, Sakamoto R, Ogo A, Suzuki T, Nanba K, Tsuiki M.	Adrenal venous sampling in patients with positive screening but negative confirmatory testing for primary aldosteronism.	67	5	1014-1019	
Clinical Endocrinology	Umakoshi H, Tanase-Nakao K, Wada N, Ichijo T, Sone M, Inagaki N, Katabami T, Kamemura K, Matsuda Y, Fujii Y, Kai T, Fukuoka T, Sakamoto R, Ogo A, Suzuki T, Tsuiki M, Shimatsu A, Naruse M	Importance of contralateral aldosterone suppression during adrenal vein sampling in the subtype evaluation of primary aldosteronism.	83	4	462-467	
Clinical Endocrinology	Umakoshi H, Wada N, Ichijo T, Kamemura K, Matsuda Y, Fujii Y, Kai T, Fukuoka T, Sakamoto R, Ogo A, Suzuki T, Tsuiki M, Naruse M; WAVES-J Study Group.	Optimum position of left adrenal vein sampling for subtype diagnosis in primary aldosteronism.	83	6	768-773	
Intern Med	Yokomoto M, Minamoto M, Utsunomiya D, Umakoshi H, Fukuoka T, Kondo S	Hypercalcemic crisis due to primary hyperparathyroidism occurring concomitantly with Graves' disease.	54	7	813-818	
Intern Med	Takaaki Murakami,Takeshi Usui,Akiko Nakajima,Yuki Mochida,Sumio Saito,Takuo Nambu,Tomoko Kato,Yuki Matsuda,Shin Yonemitsu,Seiji Muro,Shogo Oki	A Novel Missense Mutation of the MEN1 Gene in a Patient with Multiple Endocrine Neoplasia Type 1 with Glucagonoma and Obesity.	54	19	2475-2481	
J Clin Endocrinol Metab	Abe T, Naruse M, Young WF Jr, Kobashi N, Doi Y, Izawa A, Akama K, Okumura Y, Ikenaga M, Kimura H, Saji H, Mukai K, Matsumoto H.	A Novel CYP11B2-Specific Imaging Agent for Detection of Unilateral Subtypes of Primary Aldosteronism.	101	3	1008-1015	
J Clin Res Pediatr Endocrinol	Hakan Döneray,Takeshi Usui,Avni Kaya,Ayşe Sena Dönmez	The First Turkish Case of Hypoparathyroidism,Deafness and Renal Dysplasia(HDR) Syndrome.	7	2	140-143	
J Pediatr Endocrinol Metab	Sumie Yamashita,Astuko Hata,Takeshi Usui,Hirotsugu Oda,Atsushi Hijikata,Tsuyoshi Shirai,Naoto Kaneko,Daisuke Hata	Novel AVPR2 mutation causing partial nephrogenic diabetes insipidus in a Japanese family.	29	5	591-596	
日本甲状腺学会雑誌	垣田 真以子, 中尾 佳奈子, 難波 多挙, 小笠原 辰樹, 廣田 圭昭, 横田 美紀, 中谷 理恵子, 立木 美香, 臼井 健, 成瀬 光栄, 島津 章, 田上 哲也	131I内用療法後に有痛性筋痙攣を繰り返したBasedow病の一例	6	1	57-60	日本甲状腺学会
日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌	馬越 洋宜, 和田 典男, 一城 貴政, 松田 祐一, 藤井 雄一, 福岡 富和, 亀村 幸平, 甲斐 達也, 坂本 竜一, 小河 淳, 鈴木 知子, 小笠原 辰樹, 立木 美香, 成瀬 光栄	原発性アルドステロン症の病型診断における副腎静脈サンプリングの課題　多施設共同データベースの構築と臨床的意義	32	4	220-224	日本内分泌外科学会・甲状腺外科学会
日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌	成瀬 光栄, 立木 美香, 馬越 洋宜, 田辺 晶代	褐色細胞腫・パラガングリオーマの診療ガイドライン	32	4	243-245	日本内分泌外科学会・甲状腺外科学会
ACTH RELATED PEPTIDES	臼井 健、小笠原 辰樹、廣田 圭昭、横田 美紀、中谷 理恵子、垣田 真以子、立木 美香、田上 哲也、成瀬 光栄, 島津 章	ACTH産生下垂体癌	26		60-61	間脳・下垂体・副腎系研究会
第12回副腎腫瘍研究会記録集	小笠原 辰樹、立木 美香、廣田 圭紹、横田 美紀、中谷 理恵子、垣田 真以子、臼井 健、田上 哲也、山本 哲郎、上戸 賢、奥村 和弘、来田 博仁、辻井 悟、藤田 久美、本庄 原、島津 章、成瀬 光栄	コルチゾール及びアルドステロン産生を認めた副腎皮質癌の1例	12		13-16	副腎腫瘍研究会
臨床泌尿器科	成瀬 光栄, 立木 美香, 馬越 洋宜, 田辺 晶代	原発性アルドステロン症	69	増刊号4	212-215	医学書院
臨床泌尿器科	成瀬 光栄, 立木 美香, 馬越 洋宜, 田辺 晶代	クッシング症候群術後の治療について	69	増刊号4	216-219	医学書院
内分泌・糖尿病・代謝内科	成瀬 光栄, 馬越 洋宜,難波 多挙, 立木 美香, 田辺 晶代	内分泌性高血圧を具体的に除外する方法	40	3	199-203	科学評論社
腎臓内科・泌尿器科	成瀬 光栄, 立木 美香, 馬越 洋宜, 難波 綾, 難波 多挙, 田辺 晶代	褐色細胞腫の新しいマネージメント：わが国と米国内分泌学会の診療ガイドライン	2	4	352-357	科学評論社
内分泌・糖尿病・代謝内科	立木 美香、成瀬 光栄、馬越 洋宜、難波 多挙、田辺 晶代	発作性高血圧	40	3	199-203	科学評論社

医学のあゆみ	成瀬 光栄, 立木 美香, 馬越 洋宜	褐色細胞腫・パラガングリオーマの診療ガイドライン：アメリカ内分泌学会の新ガイドライン	255	11	1121-1122	医歯薬出版
ホルモンと臨床	成瀬 光栄, 立木 美香, 馬越 洋宜, 難波 多挙, 難波 綾, 田辺 晶代	褐色細胞腫に合併する高血圧・病態と治療	61	11	869-874	医学の世界社
メディカル・ビューポイント	成瀬 光栄	副腎疾患	37	1	3-4	医事出版社
Angiotensin Research	成瀬 光栄	RAS研究―ラボの最前線―国立病院機構京都医療センター臨床研究センター内分泌代謝高血圧研究部	12	4	61-65	先端医学社
Heart View	成瀬 光栄、馬越 洋宜、難波 多挙、立木 美香、田辺 晶代	内分泌性高血圧を具体的に除外する方法	19	5	14-21	メジカルビュー社
NHKチョイス@病気になったとき　血管若返り教室	成瀬 光栄	下げる!高血圧	19	5	13-32	主婦の友社
ER・ICUでの薬の使い方ー エキスパートの実践と秘訣に学ぶー	成瀬 光栄、立木 美香、田辺 晶代	代謝・内分泌疾患の緊急治療：褐色細胞腫クリーゼ	27	臨時増刊号	e298-e304	総合医学社
ガイドラインから読み解く高血圧診療のClinical Conference17講	成瀬 光栄	原発性アルドステロン症の診断～JSH2014での改訂点～			195-200	医薬ジャーナル
甲状腺疾患のクリニカルクエスチョン―レジデントの疑問に答えます	田上 哲也	甲状腺疾患のクリニカルクエスチョン―レジデントの疑問に答えます			1-180	中外医学社
内分泌・代謝ゴールデンハンドブック	田上 哲也	編集			1-452	南江堂
内分泌・代謝ゴールデンハンドブック	中尾 佳奈子, 島津 章, 田上 哲也, 垣田 真以子, 中谷 理恵子, 立木 美香, 渡邊 知一, 浅原 哲子, 四枚田 耕平, 成瀬 光栄, 馬越 洋宜, 植田 洋平, 臼井 健, 伊藤 遼, 小鳥 真司	内分泌・代謝ゴールデンハンドブック			1-452	南江堂
がん治療エッセンシャルガイド　改訂3版　What's New in Oncology 3rd Edition	田上 哲也, 岡本 高宏, 成瀬 光栄	内分泌がん：甲状腺がん			684-695	南山堂
がん治療エッセンシャルガイド　改訂3版　What's New in Oncology 3rd Edition	馬越 洋宜, 立木 美香, 成瀬 光栄	内分泌がん：副腎がん			696-709	南山堂
臨床検査法提要　改訂第34版	植田 洋平、立木 美香、田辺 晶代、成瀬 光栄	心不全マーカー			603-605	金原出版
内分泌代謝専門医のセルフスタディ230	成瀬 光栄、平田 結喜緒、田辺 晶代	編集			1-155	診断と治療社
内分泌代謝専門医のセルフスタディ230	田上 哲也, 他	編集協力			1-155	診断と治療社
Dr. Young's Endocrine Clinical Pearls：実診療から生まれた内分泌クリニカルパール	成瀬 光栄、平田 結喜緒、田辺 晶代	翻訳・編集			1-87	診断と治療社
内分泌代謝臨床研究マニュアル	新保 卓郎、川村 孝、成瀬 光栄	編集			1-204	診断と治療社
クッシング症候群診療マニュアル　改訂第2	平田 結喜緒、成瀬 光栄	編集			1-280	診断と治療社
難治性内分泌代謝疾患Update	成瀬 光栄、平田 結喜緒、田辺 晶代	編集			1-174	診断と治療社
難治性内分泌代謝疾患Update	成瀬 光栄	刊行にあたって			ii	診断と治療社
難治性内分泌代謝疾患Update	成瀬 光栄	指定難病：わが国の新たな難病対策について			2-5	診断と治療社
難治性内分泌代謝疾患Update	田上 哲也	甲状腺ホルモン不応症			38-41	診断と治療社
難治性内分泌代謝疾患Update	田上 哲也	TSH受容体異常症			42-44	診断と治療社
難治性内分泌代謝疾患Update	田上 哲也	甲状腺眼症			45-47	診断と治療社
難治性内分泌代謝疾患Update	成瀬 光栄, 立木 美香, 馬越 洋宜, 難波 多挙, 田辺 晶代	原発性アルドステロン症			86-88	診断と治療社

□ 内分泌・甲状腺・高血圧外来　平成26年度看護概況内容

●平成24年12月より内分泌・甲状腺外来から内分泌・甲状腺・高血圧外来に名称が変り、高血圧の初診患者を全て当科で対応することとなった。

●内分泌・甲状腺・高血圧センターは、小児から高齢者と年齢層も幅広く、また疾患も多岐にわたる。

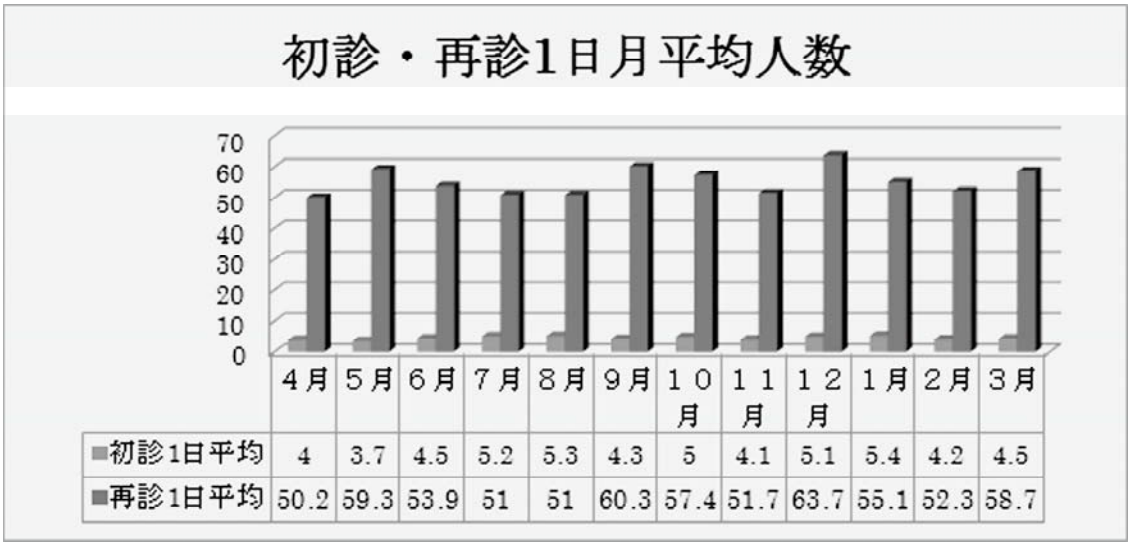
●治療方針や診断確定のために外来での安静採血や負荷試験、検査入院が必要となることが多い。

●平成25年1月より、東日本大震災で被災し福島県より避難された放射能影響の可能性がある子供の方を対象にした甲状腺エコーの協力施設となり、木曜日と金曜日に福島エコー枠を設け実施している。

●内分泌・甲状腺・高血圧外来では負荷試験や検査に不安をもったり苦痛をともなったりしないように精神的なフォローに努めている。

●疾患によっては服薬や自己注射など長期にわたってコントロールを必要とするため、（外来→入院→外来と）継続した関わり、患者の立場に立った援助が行えるように日々心がけている。

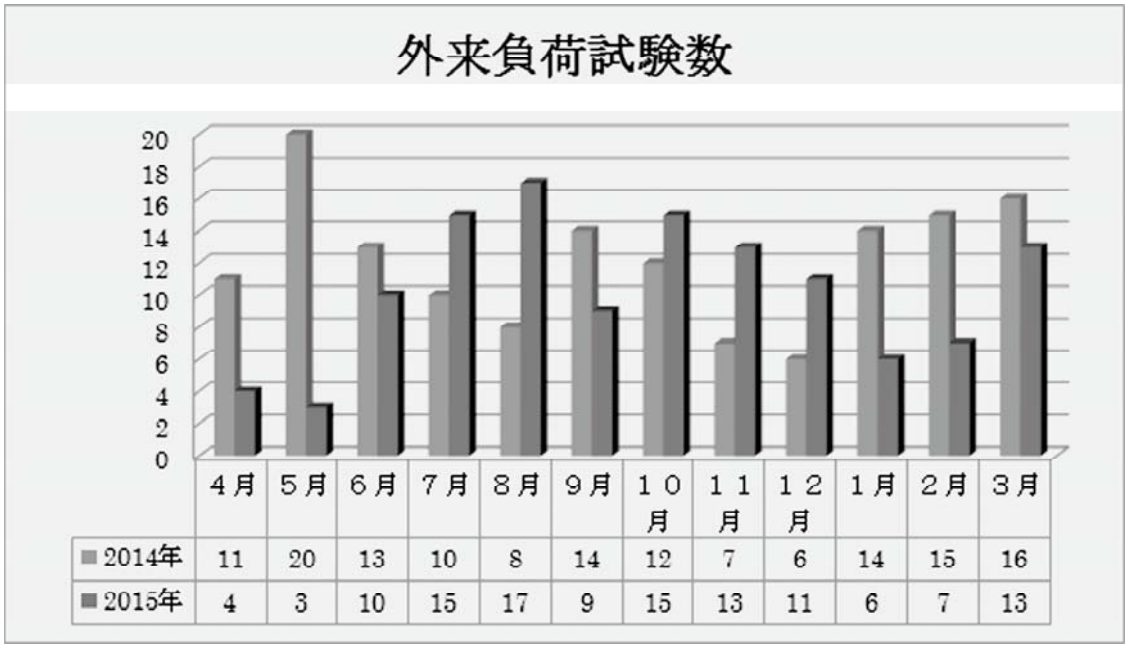
●他院で検査を受け甲状腺疾患を指摘されたり、下垂体疾患で治療中だが専門医での治療目的、高血圧で降圧剤を服用するがコントロールが悪く紹介状を持参されたりして受診される患者さんが多い。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
■初診1日平均	4	3.7	4.5	5.2	5.3	4.3	5	4.1	5.1	5.4	4.2	4.5
■再診1日平均	50.2	59.3	53.9	51	51	60.3	57.4	51.7	63.7	55.1	52.3	58.7

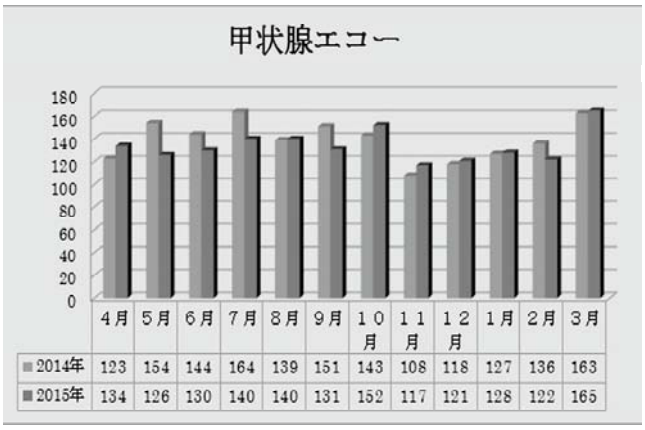
●高血圧疾患が増加しており副腎偶発腫瘍や原お圧性アルドステロン症などの鑑別疾患や下垂体疾患評価目的で外来において安静採血や負荷試験を実施している。安静採血はベッドに30分安静になった状態で採血を行っている。

●下垂体疾患では成長ホルモンの筋肉注射が多い。油性のため調整時、駐車時は慎重を要する。成長ホルモン自己注射導入では若い患者さんが多いため外来受診時に患者さんとその家族に継続的に関わりがもてるように心がけている。

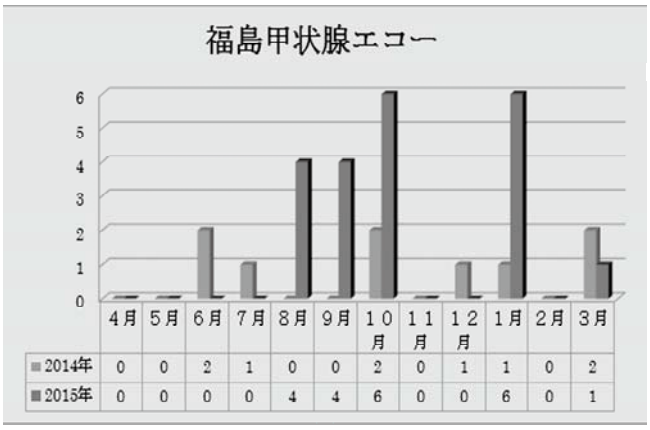


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
■2014年	11	20	13	10	8	14	12	7	6	14	15	16
■2015年	4	3	10	15	17	9	15	13	11	6	7	13

●甲状腺エコーの細胞診検査は穿刺への恐怖と不安感がみられるためできるだけ付き添い状態把握に努めている。
●福島甲状腺エコーでは2歳から21歳までの若年者が受診される。東日本大震災において福島で被災し原発の影響に不安を抱えて来院される両親が多く、また実際に検査を受けるは小さい子供さんが多いため検査が不安無くスムーズに進むように心がけている。

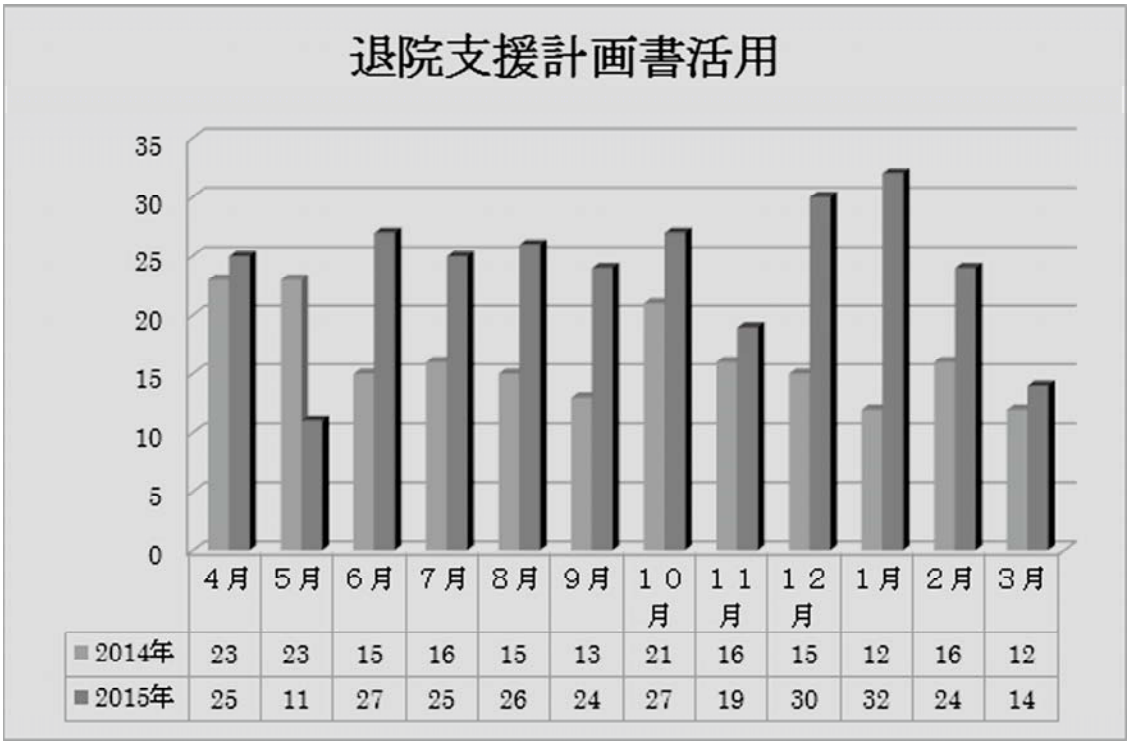


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2014年	123	154	144	164	139	151	143	108	118	127	136	163
2015年	134	126	130	140	140	131	152	117	121	128	122	165



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2014年	0	0	2	1	0	0	2	0	1	1	0	2
2015年	0	0	0	0	4	4	6	0	0	6	0	1

●2012年11月より活用になった退院支援計画書は入院説明時に記載し、支援必要患者には自宅での状況やサービスの使用状況、介護保険の申請状況等を確認しカルテ記載するようにして、病棟との連携がはかれるようにしている。
●退院時次回受診時の説明や退院後の指導も行えるときは病棟に出向いて行っている。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2014年	23	23	15	16	15	13	21	16	15	12	16	12
2015年	25	11	27	25	26	24	27	19	30	32	24	14

（内分泌・甲状腺・高血圧センター看護師　細井 静香）

糖尿病センター（糖尿病内科）



診療科長
(外来部門)
山田　和範

専門医資格等
　京都大学医学博士
　京都大学臨床教授
専門分野
　糖尿病
得意疾患
　糖尿病



診療科長
(入院部門)
河野　茂夫

専門医資格等
　日本糖尿病学会
　糖尿病専門医
　日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医
　日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医
　日本糖尿病学会　評議員
　京都大学医学博士
　京都大学臨床教授
専門分野
　糖尿病
得意疾患
　足病変

医長
中川内　玲子

専門医資格等
　日本糖尿病学会
　糖尿病専門医
　日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医
専門分野
　糖尿病
得意疾患
　足病変

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	村田　　敬	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本糖尿病学会　糖尿病専門医・研修指導医 東京大学医学博士	糖尿病	若年者糖尿病
医　　師	小鳥　真司	日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医 日本内科学会認定内科医 日本肥満学会　肥満症専門医 日本抗加齢医学会専門医 京都大学医学博士	糖尿病	糖尿病
医　　師	岸　純一郎		糖尿病	糖尿病
専修医	水谷結香子	日本内科学会　認定内科医 日本抗加齢学会　専門医 日本医師会認定　産業医	糖尿病	糖尿病
専修医	渡邊　知一	日本内科学会　認定内科医	糖尿病	糖尿病
臨床研究センター長	島津　　章	日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本内科学会　総合内科専門医・指導医 京都大学医学博士 京都大学臨床教授	内分泌代謝疾患、検査医学、神経内分泌	内分泌代謝疾患、検査医学、神経内分泌
予防医学研究室長	坂根　直樹	日本内科学会　認定医 日本肥満学会　評議員 京都府立医科大学医学博士	糖尿病	糖尿病教育

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
臨床代謝栄養研究室長	浅原　哲子	日本内科学会　認定内科医 日本糖尿病学会　糖尿病専門医・研修指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医・評議員 日本心血管内分泌代謝学会　評議員 日本肥満学会　肥満症専門医・指導医・評議員 日本肥満症治療学会　評議員 日本動脈硬化学会　専門医・評議員 日本病態栄養学会　評議員 日本抗加齢医学会　認定専門医 日本人類遺伝学会　臨床遺伝専門医 京都大学医学博士 京都大学非常勤講師	糖尿病、肥満（メタボリックシンドローム）疾患、内分泌内科	糖尿病、肥満（メタボリックシンドローム）疾患、内分泌内科
非常勤医師	吉良　友里	日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本内科学会　認定内科医	糖尿病	糖尿病
非常勤医師	小谷　和彦	日本内科学会　総合内科専門医 日本臨床検査医学会　臨床検査専門医 日本動脈硬化学会　専門医 自治医科大学医学博士	糖尿病	脂質異常症、糖尿病

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本糖尿病学会認定教育施設 日本肥満学会認定専門病院

1．生活習慣病である糖尿病の治療には、患者さんご自身が自己管理能力を身につけることが大事です。当科では糖尿病教育、すなわち患者さんへの教育を実施すると同時に、患者さんに対する指導能力を高めた教育スタッフを育成し、より一層の治療実績アップに努めます

2．地域の糖尿病基幹病院としての責務を果たすべく、地域連携に努めます

□ 主な対象疾患

2型糖尿病、耐糖能異常、1型糖尿病、肥満症、メタボリック症候群、糖尿病神経障害と糖尿病足病変、糖尿病腎症、糖尿病網膜症（眼科）、妊婦糖尿病、脂質異常症（高脂血症）、糖尿病性昏睡、重症低血糖

□ 診療（業務）内容

糖尿病センターでは一般糖尿病外来および入院での診療に加えてさまざまな専門外来を開設し、さまざまなタイプの糖尿病および関連疾患およびそれらの合併症の充実した診療活動につながっている。

下記に専門外来の診療活動について紹介する。

・フットケア外来　毎週月曜日14時～/フットセンター外来　毎週火曜日14時～(2000年開設)フットケア外来では、主に糖尿病に由来する足病変に対応し、全国各地からの紹介患者を集めている。また、非糖尿病足病変患者に対する問い合わせも多く、難治性の足病変を扱う集学的な欧米型のフットセンターを目指している。フットセンター外来では初診は糖尿病センターで行い、一般診察をした上で、関係担当診療科へ紹介している。

・フットウェア外来(月2回：木曜日13時～16時　完全予約制)フットウェア外来では義肢装具士がオーストリア人の整形外科靴マイスター(Orthopedic Shoe Meister)と協力して、靴・装具の指導や調整にあたっている。

・1型糖尿病外来（2005年開設）毎週火曜日9時～16時・金曜日9時～12時/インスリンポンプ外来（2010年開設）毎週月曜日14時～16時

1型糖尿病はインスリン分泌の廃絶を特徴とする。生命維持のみならず慢性の合併症予防のためにはインスリンを上手に用いて平均血糖レベルや血糖値のバラツキをコントロールすることが重要である。1型糖尿病外来では、重症低血糖を起こすことなく平均血糖レベルを改善する方法（カーボカウント、修正インスリンなどによるインスリン自己注射）につき、医師・看護師・管理栄養士のチームがわかりやすく指導している。

インスリンポンプ療法（CSII）はこのためのきわめて有効な血糖管理法である。2016年3月末の1型糖尿病外来通院患者数は約220名（初診23名）、インスリンポンプ療法を行っている患者は74名（新規導入8名）であった。このうち18名は持続血糖測定器（CGM）とインスリンポンプが一体となったセンサー付インスリンポンプ(SAP)を使用している。

・肥満・メタボリックシンドローム外来(2001年開設)　毎週　月曜日・水曜日9時～14時

肥満・メタボリックシンドローム外来では、医師・看護師・栄養士によるチーム医療をベースに、体重グラフや食事記録表を登載した当院独自の「ダイエットノート」を活用し、日本肥満学会が提唱する減量指導を行い、動脈硬化等の合併症も定期的に評価している。

また、外来患者を中心に2006年よりメタボ会（患者会）を定期的に開催。さらにメタボ通信、スマートランチ等をチーム医療で展開し、外来開設から現在まで延べ14,000人以上の患者治療を行ってきた。

さらに、2014年11月にはスマートランチのレシピを家庭でも作りやすいように再編・監修した「京都医療センターメタボ外来の3か月で確実！やせるレシピ」、2015年元旦には「読むだけでやせる女医の言葉」を、そして2016年2月には「京都医療センターメタボ外来のやせる弁当と作りおき」をそれぞれセブン＆アイ出版から発刊し、肥満・メタボ治療に様々な形で取り組んでいる。

・脂質異常症外来（2005年開設、2014年8月までは「高脂血症外来」）毎週木曜日10時～13時、高脂血症療養指導外来（2006年開設）毎週木曜日10時～13時。家族性コレステロール血症（FH）、家族性複合型高脂血症（FCHL）などの脂質異常症受診者を対象。FH診療認定施設（2013年～：日本動脈硬化学会）。頸動脈や特殊検査による動脈硬化リスク評価を行い、管理目標値を設定。スタチン副作用例への対応なども行っている。症例数604例（2005年11月～2015年3月）内訳；家族性高コレステロール血症（101例）、高LDL-コレステロール血症（370例）、高トリグリセライド血症（263例）、高LDL-コレステロール血症＋高トリグリセライド血症（151例）、低HDL-コレステロール血症（45例）。

・妊娠糖尿病外来(2007年3月開設)第2,4火曜及び毎週金曜日13時～15時　妊娠糖尿病は妊娠中に初めて発見された軽度の（糖尿病には至っていないレベルの）耐糖能異常で巨大児その他の周産期合併症の原因となる。また出産後の糖尿病発症リスクが増大する。妊娠前に糖尿病を発症した場合、糖尿病合併妊娠となり、胎児奇形が大きな問題となり、妊娠前血糖管理が重要となる。2015年度当外来を受診した新規患者数は108名であった。

・糖尿病血管合併症外来毎週金曜日13時～16時　糖尿病血管合併症外来では、糖尿病血管合併症のスクリーニングを行い、他科との緊密な連携によって治療にあたっている。特に、閉塞性動脈硬化症などの合併症に加え腎機能障害を有する糖尿病患者の短期入院で、外来での施行が困難な造影剤による画像検査を施行し、定期的なスクリーニング・治療への展開も検討している。

・糖尿病透析予防指導外来　(2012年10月開設）糖尿病腎症2期以上の患者を対象とし、医師、看護師、管理栄養士が連携して自己管理指導を行う。2014年度当外来を受診した受診者数はのべ70名であった。毎週月、水、木曜日に1名ずつの予約枠となっていて、現在3回シリーズとして指導を実施している。

さらに、糖尿病センターではコメディカルスタッフによる指導として一般糖尿病食事指導（管理栄養士）および糖尿病療養指導外来（インスリン自己注射、血糖自己測定、フットケア指導など：看護師）を開設している。また、自己管理（療養）を患者に指導する医療スタッフである糖尿病療養指導士(CDEJ)は、当院内で看護部、薬剤科、栄養科、検査科などに多数を擁し、綿密な糖尿病セルフケアを支援している。

□ 診療実績(平成27年度)

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
16名	345名	17日

外来患者数

1日平均患者数
103名

主な手術・検査の件数など

CGM(連続皮下ブドウ糖測定)	CAVI/ABI測定	CT(内臓脂肪面積測定)
29件	288件	62件

□ 地域医療連携・広報活動

・糖尿病センターだより(糖尿病センター広報誌):2008年４月に糖尿病センター創立40周年を記念して発刊された患者向け広報誌。2016年３月現在、季刊発行となっていて通巻35号を数えている。糖尿病センターおよび関連診療科、伏見医師会の医師、看護師、栄養士、薬剤師、臨床検査技師等が分担して執筆。毎号4000部を通院患者と糖尿病センター関連医療施設に配送付している。全号を京都医療センターHP上で閲覧できる。

・糖友会(患者会):日本糖尿病協会傘下の糖尿病患者会として昭和36年に発足した。初代会長は大村春男氏(後に日本糖尿病協会会長)、現会長は藤井弘氏である。2015年度総会は2015年10月17日に伏見の清和荘で開催された。24名の参加者が松花堂弁当を楽しみながら当院栄養管理室副室長による食事療法の学習を行った。

・糖尿病市民公開講座「第30回DM京都」なぜ、糖尿病を治療しないといけないのか　2015年6月27日　参加者　約100名
特別講演　「なぜ、糖尿病を治療しないといけないのか?」
講師:滋賀県立成人病センター 糖尿病・内分泌内科 科長 山本泰三
講演　「糖尿病のお薬Q＆A」　京都医療センター　薬剤科　横山　晋一郎
講演　「糖尿病の食事って難しい?」～簡単にできるワンポイント!～ 京都医療センター 栄養管理室 繁井 三智子

第16回　メタボリックシンドローム会　2016年3月19日　参加者70名

・特別講演「お手軽ダイエット法から肥満手術まで!」講師:滋賀医科大学　糖尿病内分泌内科講師　森野勝太郎先生・食事療法:「メタボ外来のやせる弁当と作りおき(第2弾)とっておき活用術」講師:京都医療センター　管理栄養室　副室長　上ノ町かおり先生・運動指導:「ちょっと一息!ストレッチ体操＆メタボクイズ」講師:京都医療センター　2-8看護師の皆さん

・第12回 京都医療センター 1型糖尿病セミナー 「高齢1型糖尿病患者のマネジメント」2016年3月5日(土)14:30-17:00、参加者　39名、 高齢糖尿病患者のサルコペニアと骨粗鬆症の問題につき、東京大学大学院医学系研究科加齢医学講座老年病学准教授の小川純人先生を招聘して研修会を開催。

・第24回１型交流会　2015年11月8日　参加者　約50名。特別講演「1型糖尿病治療の進歩　自身の1型糖尿病歴30年を振り返る～リアルタイム持続血糖モニタリングを行いながら血糖値を管理する時代へ～」講師:大阪医療センター　加藤　研先生、特別講演「SAPでフルマラソンも走っています～メドトロニックグローバルヒーローを知ったきっかけ」 講師:愛生会山科病院　神内謙至先生。

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区　分	
国内学会	浅原哲子　生活習慣病の効果的な治療戦略-15年間の肥満外来チーム医療の実践-　第21回KYOTO METABOLIC FORUM　京都
研究会	浅原哲子　脂肪酸トータルマネージメント～EPAの多面的効果～　第10回湖北脂肪酸研究会　滋賀
国内学会	浅原哲子　心血管病発症予防を目指した糖尿病の治療戦略　第50回糖尿病学の進歩　東京
国内学会	浅原哲子 ライフステージを考慮したチームで取り組む効果的な肥満症治療 第25回 臨床内分泌代謝Update Update-9 愛知
国内学会	山陰一、浅原哲子　うつ、服薬アドヒアランスと糖代謝のアセスメントを統合した糖尿病知育連携コホート研究　第25回 臨床内分泌代謝Update Update-9　愛知
研究会	浅原哲子　糖尿病・メタボリックシンドロームと腎障害　-合併症早期予防のための効果的な糖尿病地域連携を目指して- 伏見医師会ランチョンセミナー　京都
研究会	浅原哲子　脂肪酸トータルマネージメント～EPAの多面的効果～　三重県エイコサノイド研究会　三重

研究会	浅原哲子　脂肪酸トータルマネージメント～EPAの多面的効果～　第3回富山脂肪酸研究会　富山
研究会	浅原哲子　肥満症・メタボリックシンドロームにおける大豆たん白質・イソフラボン代謝産物・エクオール投与の血管病リスク軽減効果に関する研究 第18回 不二たん白質研究助成研究報告会 東京
研究会	浅原哲子　メタボリックシンドロームと腎障害　第3回北九州 腎とMetS研究会　福岡
研究会	浅原哲子　国立病院機構における糖尿病治療連携の試み　マロニエ腎セミナー　栃木
研究会	浅原哲子　脂肪酸トータルマネジメント～EPAの多面的効果～　KCJL2015ランチョンセミナー　京都
研究会	浅原哲子　肥満における食欲調節機構の破綻と合併症予防-アディポサイトカインの役割・EPAの効果-　第68回日本栄養・食糧学会中部支部大会　静岡
研究会	浅原哲子　京都医療センターのチームで取り組む肥満症治療　第23回西日本肥満研究会　福岡
研究会	浅原哲子　糖尿病地域連携研究にメンタルヘルスを盛り込んだコホート研究計画　地域連携パスの統合を目指す医療政策研究フォーラム（Karuizawa Forum）　長野
国内学会	浅原哲子　サルコペニア肥満とSite-specificサルコペニア　第33回日本肥満症治療学会学術集会　千葉
国内学会	浅原哲子　精神心理面の問題のため内科的に診ていかざるを得ない高度肥満症例　第33回日本肥満症治療学会学術集会　千葉
国内学会	増田慎也、田中将志、村中和哉、山陰一、島津章、浅原哲子　短時間のパルミチン酸負荷によるC2C12筋管細胞におけるケモカイン・CXCLの発現変化　第36回日本肥満学会　愛知
国内学会	山陰一、小鳥真司、小谷和彦、村中和哉、山田努、荒木里香、岡嶋泰一郎、大石まり子、島津章、浅原哲子 多施設共同肥満症コホートにおける心腎合併症早期評価系確立ー5年間の心血管イベント発症追跡ー　第36回日本肥満学会　愛知
国内学会	橋本貢士、小鳥真司、田上哲也、山陰一、村中和哉、田中将志、増田慎也、坊内良太郎、南勲、土屋恭一郎、吉本貴宣、河野茂夫、島津章、小川佳宏、浅原哲子　血中遊離サイロキシン値は肥満症減量治療の効果予測マーカーとなりうる　第36回日本肥満学会　愛知
国内学会	田中将志、増田慎也、村中和哉、山陰一、島津章、浅原哲子　肥満症では単球のGLP-1受容体を介したオートファジー誘導と泡沫化抑制が障害される　第36回日本肥満学会　愛知
国内学会	田中将志、増田慎也、村中和哉、山陰一、島津章、浅原哲子　GLP-1受容体作動薬によるオートファジー誘導を介した単球・マクロファージの泡沫化抑制作用　第20回アディポサイエンス・シンポジウム　大阪
国内学会	増田慎也、田中将志、村中和哉、山陰一、島津章、浅原哲子　パルミチン酸負荷によるC2C12筋管細胞のCXCケモカイン遺伝子発現変化の検討　第20回アディポサイエンス・シンポジウム　大阪
国内学会	浅原哲子、松尾禎之、田中将志、増田慎也、佐々木洋介、山陰一、村中和哉、猪飼伊和夫、畑啓昭、井上真由美、全泰和、島津章　内臓・皮下脂肪蓄積における線維化関連因子TSP-1の病態生理学的意義の検討　第33回内分泌代謝学サマーセミナー　福岡
国内学会	田中将志、増田慎也、村中和哉、山陰一、島津章、浅原哲子　GLP-1受容体作動薬によるオートファジー誘導を介した単球マクロファージの泡沫化抑制・抗動脈硬化作用　第33回内分泌代謝学サマーセミナー　福岡
国際学会	Satoh-Asahara N, Tanaka M, Matsuo Y, Muranaka K, Yamakage H, Shimatsu A.　Attenuates the Oxidized-LDL-Induced FormCell Formation through Autophagy in Macrophages and Monocytes. ADA 75th scientific sessions,Boston
国内学会	浅原哲子、田中将志、松尾禎之、村中和哉、山陰一、小鳥真司、河野茂夫、島津章　GLP-1受容体作動薬によるマクロファージの泡沫化・炎症抑制効果-オートファジー誘導の関与　第15回抗加齢医学会総会　　福岡
国内学会	浅原哲子、島津章、小川佳宏、長谷川浩二　肥満症・メタボリック症候群における単球機能に着目した動脈硬化早期診断パネルと心腎血管合併症予防法の構築-肥満症多施設共同研究-　第15回抗加齢医学会総会　福岡
国内学会	村田敬、河口八重子、吉岡ふみ、市岡利恵、岸純一郎、渡邊知一、水谷結香子、四枚田耕平、中谷理恵子、岡田浩、小鳥真司、中川内玲子、浅原哲子、河野茂夫、坂根直樹、山田和範　インスリンポンプ療法または頻回注射法を行っている1型糖尿病患者の粗死亡率（第一報）　第58回日本糖尿病学会年次学術集会　山口
国内学会	浅原哲子、田中将志、松尾禎之、村中和哉、山陰一、小鳥真司、河野茂夫、島津章　GLP-1受容体作動薬によるオートファジー誘導を介したマクロファージの泡沫化抑制作用　　第58回日本糖尿病学会年次学術集会　山口
国内学会	松尾禎之、田中将志、佐々木洋介、山陰一、村中和哉、猪飼伊和夫、畑啓昭、島津章、井上真由美、全泰和、浅原哲子　肥満における内臓・皮下脂肪蓄積と線維化関連因子TSP-1との関連解析　第58回日本糖尿病学会年次学術集会　山口
国内学会	山陰一、村中和哉、小谷和彦、山田努、荒木里香、大石まり子、岡嶋泰一郎、島津章、浅原哲子　国立病院機構多施設共同肥満症コホートにおける5年間の心血管アウトカムと心腎連関進展予知指標の検討　第58回日本糖尿病学会年次学術集会　山口
国内学会	松尾禎之、田中将志、佐々木洋介、山陰一、村中和哉、猪飼伊和夫、畑啓昭、島津章、井上真由美、全泰和、浅原哲子　肥満における内臓・皮下脂肪蓄積と線維化関連因子TSP-1との関連解析　第88回日本内分泌学術総会　東京
国内学会	浅原哲子、田中将志、松尾禎之、村中和哉、山陰一、島津章　インクレチン関連薬によるオートファジー誘導による抗動脈硬化作用-マクロファージの泡沫化抑制-　第88回日本内分泌学術総会　東京
国内学会	田中将志、松尾禎之、佐々木洋介、山陰一、村中和哉、塚原徹也、島津章、浅原哲子　糖尿病・肥満における頸動脈プラーク浸潤マクロファージと末梢血単球のM1/M2形質の連関　第88回日本内分泌学術総会　東京
研究会	小鳥真司、村中和哉、田中将志、増田慎也、山陰一、浅原哲子、河野茂夫、島津章　抗精神病薬の変更によって著明な減量および糖・脂質代謝の改善を認めた肥満症の一例　第23回西日本肥満研究会　福岡
教育講演	河野茂夫　糖尿病フットケア　滋賀成人病センター糖尿病患者会　滋賀県守山市
国際学会	Shigeo Kono　Workshop:WS14 Treatment of foot infection and osteomyelitis in low resource countries　7th International Symposium on the Diabetic Foot　Hauge, Netherlands
教育講演	河野茂夫　糖尿病フットケアのトピックスと実際　第6回岡山フットケア研究会　岡山県岡山市

教育講演	河野茂夫　糖尿病フットケア-足は健康の源-　静岡県糖尿病協会講演会　静岡県静岡市
教育講演	河野茂夫　糖尿病とフットケアー国際ガイドライン2015からー　信州糖尿病研究会　長野県松本市
国内学会	河野茂夫　教育講演糖尿病フットケア　日本糖尿病療養指導学会　京都府京都市
研究会	河野茂夫　教育講演5糖尿病フットケア　第52回日本糖尿病学会近畿地方会　京都府京都市
教育講演	河野茂夫　糖尿病足病変治療のトピックスとコメディカルに求めるフットケアのポイント　第9回糖尿病ケアスキルアップセミナー　京都府京都市
教育講演	河野茂夫　糖尿病足病変診療の実際-国際ガイドライン2015のトピックス-　第13回安佐DMカンファレンス　広島県広島市
教育講演	河野茂夫　糖尿病足病変診療のトピックスと展望　第10回糖尿病臨床フォーラム　大阪府大阪市
国内学会	藤本容子、山本利恵、松岡幸代、岡嶋昭、岸純一郎、村田敬、坂根直樹、山田和範　SMBG解析ソフトを用いた1型糖尿病患者の血糖変動評価：シミュレーション機能を利用した自己管理指導：　第58回日本糖尿病学会　下関
研究会発表	藤本容子、山本利恵、松岡幸代、岡嶋昭、村田敬、坂根直樹、山田和範　SMBG解析ソフトを用いた1型糖尿病患者の血糖変動評価：シミュレーション機能を利用した自己管理指導：　第6回近畿糖尿病教育フォーラム　京都リサーチパーク
国際学会	T. Murata, Y. Kawaguchi, S. Yamaji, R. Yamamoto, K. Uenomachi, A. Kokubo, F. Yoshioka, H. Okada, T. Watanabe, Y. Mizutani, K. Yomaida, J. Kishi, S. Odori, R. Nakagawachi, N. Satoh-Asahara, K. Yamada, N. Sakane　MORTALITY RATE OF PATIENTS WITH TYPE 1 DIABETES MELLITUS USING CONTINUOUS SUBCUTANEOUS INSULIN INFUSION OR MULTIPLE DAILY INJECTIONS IN JAPAN　7th International Conference on Advanced Technologies & Treatment for Diabetes　Milan (Italy)
国内学会	村田敬　　CSIIの実際　第58回日本糖尿病学会学年次学術集会 下関
研究会	村田敬　開会の辞　第15回日本先進糖尿病治療研究会　京都
研究会	村田敬、渡邊知一、水谷結香子、河口八重子、山本利恵、岸純一郎、中川内玲子、岡田浩、小鳥真司、中川内玲子、浅原哲子、河野茂夫、吉岡二三、坂根直樹、山田和範　SAPのトランスミッタ固定に難渋した1型糖尿病の1例　第52回日本糖尿病学会近畿地方会　京都
研究会	村田敬、渡邊知一、水谷結香子、河口八重子、山本利恵、岸純一郎、中川内玲子、吉岡ふみ、坂根直樹、山田和範　当院におけるセンサー付きインスリンポンプ(SAP)集団指導の経験　第15回日本先進糖尿病治療研究会　京都
研究会	渡邊知一、村田敬、河口八重子、山本利恵、吉岡ふみ、岸純一郎、水谷結香子、坂根直樹、山田和範　センサー付インスリンポンプ（SAP）を導入した腹膜透析中の糖尿病患者の1例第15回日本先進糖尿病治療研究会　京都
研究会発表	村田敬『聴く力』があなたを変える　第22回鳥取県東中部糖尿病セミナー　鳥取
研究会発表	村田敬　CGMの実際　点から線へ　第8回淀川リバーサイズ糖尿病カンファレンス　大阪
研究会発表	村田敬　1型糖尿病の最新治療　彦根市立病院　小児1型糖尿病に関する講演会　彦根
研究会発表	村田敬　3Cにもとづく Basal-Bolus調節　第4回阪大1型糖尿病塾 大阪
研究会発表	村田敬　高齢1型糖尿病患者のインスリン療法　第12回京都医療センター1型糖尿病セミナー　京都
研究会発表	Takashi Murata　Current situation of device therapy for diabetes in Japan　Kyoto Medical Center Diabetes Technology Meeting　京都
教育講演	村田敬　センサー付きポンプについて 京都つぼみの会 保護者教室　野洲
教育講演	村田敬　ベーサル調節のコツ　第7回CSII ユーザーズミーティング　名古屋
教育講演	村田敬　-患者さんに伝えたいこと、患者さんから学んだこと-　第18回YOKOHAMA VOX　横浜
国際学会	Reiko Nakagawachi,Yuki Izumi,Shigeo Kono　Evaluation health-related quality of life (QOL) and depression in patients with diabetic foot lesion in Japan　7th International symposium on the diabetic foot　The Netherlands
研究会	岡田浩　薬局薬剤師による糖尿病患者支援は有効なのか？　第23回内分泌糖尿病心理行動研究会　大阪
研究会発表	高橋かおる　ミニレクチャー「検査結果が出るまで」 楽しくてためになる健康教育の実践セミナー2015　京都
国内学会	鋤納心, 小谷 和彦, 津崎 こころ, 河口 八重子, 高橋 かおる, 江川 香, 吉村 麻紀子, 北川 義徳, 柴田 浩志, 坂根 直樹　肥満女性における終末糖化産物（AGEs）と食事要因の検討　第58回日本糖尿病学会学術集会　山口
国内学会	津崎こころ, 小谷和彦, 佐野喜子, 藤原真治, 坂根直樹　過体重・肥満におけるHOMA-AD指数と高感度CRPとの関連：徳島県美馬研究から　第58回日本糖尿病学会学術集会　山口
国内学会	Naoki Sakane.　Diabetes prevention in the real world: insights from the JDPP and J-DOIT1　第58回日本糖尿病学会年次学術集会　山口
国内学会	岡田浩, 中川康司, 恩田光子, 庄司雅紀, 坂根直樹　薬局薬剤師による高血圧患者への生活習慣改善支援効果：COMPASS-BP試験のスタディデザイン　第58回日本糖尿病学会年次学術集会　山口
国内学会	高橋かおる, 小谷和彦, 坂根直樹　非糖尿病男性におけるたんぱく尿を陽性化もしくは陰性化させる因子の検討　（ポスター発表）　第58回日本糖尿病学会学術集会　山口
国際学会	Hiroshi Okada.　Support of patients with chronic disease by community pharmacies: developing pharmacy practice, COMPASS Project　The 2nd Kyoto-Bordeaux Symposium 2015　Kyoto, Japan
教育講演	津崎こころ　時間栄養学が導く“早ね・早起き・朝ごはん”　平成２７年度南丹地区食育・学校給食研究協議会　京都
教育講演	津崎こころ　時間栄養学が導くめざましごはん“朝食”　ミッション・SSS「スーパーレッスン 食育講演会」　京都
国際学会	Kokoro Tsuzaki, Kazuhiko Kotani, Yasuki Ito, Naoki Sakane.　Correlation between subfractional high-density lipoprotein cholesterol levels and obesity traits: an electrophoretic method and a homogeneous assay method　American Association for Clinical Chemistry Annual meeting　Atlanta, USA
TV・ラジオ出演	坂根直樹　今日の健康　運動量を増やす秘策
教育講演	坂根直樹　内臓脂肪に着目した保健指導ならびにポピュレーションアプローチ　ー内臓脂肪になりにくい食事ー　日本脂質栄養学会第24回大会　佐賀
国内学会	鋤納心, 津崎こころ, 河口八重子, 岡田浩, 高橋かおる, 小谷和彦, 坂根直樹　男性肥満者に対する血糖自己測定（SMBG）とFacebookを用いた減量プログラムに関する研究：実行可能性試験　第15回日本糖尿病情報学会 学術集会　東京

国際学会	Yaeko Kawaguchi, Junichiro Somei, Takuya Kawamoto, Yoshikazu Yonei, Naoki Sakane　Dietary diversity and skin autofluorescence in community-dwelling older adults : A cross-sectional study　9th Glycation Stress Research Meeting　Kyoto, Japan
国内学会	宮崎亮, 石井好二郎, 綾部誠也, 三輪佳行, 吉川敏一, 森脇久隆, 長谷川力, 平石貴補, 鳥居和久, 米井 嘉一　10-20歳代男女2000名における骨格筋量の1年刻み変化　第70回日本体力医学会大会　和歌山
国内学会	岡田浩, Denise Epp, 坂根直樹　5か国における薬局薬剤師による糖尿病マネジメントのパイロット調査　第4回日本くすりと糖尿病学会　新潟
国内学会	二連木晋輔,　本間俊行,　米代武司,　井上尚彦,　佐藤斉,　津崎こころ, 斉藤昌之,　坂根 直樹, 浜岡隆文　長期カプシエイト類摂取および摂取終了後のヒト褐色脂肪組織の変化　第36回日本肥満学会　名古屋
教育講演	松井浩　骨を強くする運動の実際～認知症にも糖尿病にも効果的～　世界骨粗鬆症デー市民公開講座　東京
研究会発表	高橋かおる 糖尿病の検査について 公益財団法人兵庫県予防医学協会シンポジウム 神戸
国内学会	津崎こころ, 小谷和彦, 伊藤康樹, 山田俊幸　非変性ポリアクリルアミドゲル電気泳動法ならびに直接法におけるHDL亜分画コレステロール値の相関性　第55回日本臨床化学会年次学術集会　大阪
研究会発表	二連木晋輔,本間俊行,黒澤裕子,坂根直樹,浜岡隆文　近赤外線時間分解分光法（NIRTRS)による褐色脂肪組織密度の評価法　第22回医用近赤研究会　東京
研究会発表	黒澤裕子,二連木晋輔,永井優也,本間俊行,浜岡隆文　長時間座位姿勢保持の生理学的反応および弾性タイツ着用の影響　第22回医用近赤研究会　東京
研究会発表	後藤 昌弘, 二連木 晋輔, 長野 明紀, 浜岡 隆文　レジスタンストレーニングに用いる運動関節可動域及び角速度の違いが上腕三頭筋の筋活動及び筋内酸素代謝に及ぼす急性効果　第22回医用近赤研究会　東京
国内学会	河口 八重子　シンポジウム　センサー付きインスリンポンプ療法を成功させるために　第15回日本先進糖尿病治療研究会　京都
教育講演	松井 浩　血糖コントロール+αな運動療法　市民公開講座　埼玉
教育講演	松井 浩　やる気になればカラダは変わる!～糖と脂肪が減る運動～　糖尿病県民公開講座　岡山
教育講演	松井 浩　60代からの健康づくり　市民公開講座　兵庫
国際学会	Hiroshi Okada　Support of Patients with Chronic Disease by Community Pharmacies: Developing Pharmacy Practice, COMPASS Project　3rd Annual Pharmacist Networking Event　Vancouver, Canada
国際学会	Naoki Sakane, Kazuhiko Kotani, Kaoru Takahashi, Yoshiko Sano, Kokoro Tsuzaki, Kentaro Okazaki, Juichi Sato, Sadao Suzuki, Satoshi Morita, Yoshitake Oshima, Kazuo Izumi, Masayuki Kato, Naoki Ishizuka, Mitsuko Noda, Hideshi Kuzuya.　Prevention of metabolic syndrome and components in subjects with impaired fasting glucose by telephone-delivered lifestyle intervention using self-help devices　The 9th International Conference on Advanced Technologies & Treatments for Diabetes　Milan, Italy
教育講演	津崎こころ　「何を食べる?」から「いつ食べる」へ　ー時間栄養学のススメー　～体と頭に効く朝ご飯とは?～　第5回箕面食育フェア　箕面
国内学会	宮崎亮, 綾部誠也, 吉武裕, 宮崎秀夫　88歳高齢者126名における, 朝型夜型パターンを中心とした生活リズムの実態調査　第17回日本健康支援学会年次学術大会　愛知
教育講演	二連木晋輔　健康増進を目的とした食への可能性　経済学会セミナー　京都
国内学会	松岡幸代、山田和範　2型糖尿病外来における炭水化物に着目した食事療法　第58回日本糖尿病学会年次学術集会　山口
研究会	松岡幸代、山本利恵、藤本容子、浅野照子、山田和範　1型糖尿病における自己管理・治療に対するQOL調査の紹介　第6回近畿糖尿病教育フォーラム　京都
教育講演	松岡幸代　動脈硬化性シッツ刊予防ガイドライン2012年版に基づいた脂質異常症に対する食事療法のポイント　平成27年　和歌山県御坊保健所管内保健研修会　和歌山（御坊市）
教育講演	松岡幸代　ステージに合わせた効果的な保健指導のすすめ方～食行動変容への戦略～　平成27年度鳥取県保険者協議会　特定健診・保健指導従事者研修会　鳥取
教育講演	松岡幸代　「行動変容につなげる効果的な食生活支援」～炭水化物に着目した糖尿病食事指導のポイント～　平成27年度大阪府保険者協議会　特定健診・特定保健指導研修会　大阪
国内学会	松岡幸代　山本利恵　藤本容子　山田和範　2年間療養指導を継続し「待つこと」の難しさを経験した1型糖尿病20代前半女性の1例　第2回糖尿病医療学研究会　京都

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	内容
Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	Tanaka M, Masuda S, Matsuo Y, Sasaki Y, Yamakage H, Muranaka K, Wada H, Hasegawa K, Tsukahara T, Shimatsu A, Satoh-Asahara N.　Hyperglycemia and Inflammatory Proerty of Circulating Monocytes are Associated with Inflammatory Property of Carotid Plaques in Patients Undergoing Carotid Endarterectomy.　In Press
PLoS ONE	Ido A, Nakayama Y, Ishii K, Iemitsu M, Sato K, Fujimoto M, Kurihara T, Hamaoka T, Satoh-Asahara N, Sanada K.　Ultrasound-Derived Abdominal Muscle Thickness Better Detects Metabolic Syndrome Risk in Obese Patients than Skeletal Muscle Index Measured by Dual-Energy X-Ray Absorptiometry.　Vol.10　No.12　e0143858,2015.12
Endocrine Journal	Hashimoto K, Tagami T, Yamakage H, Muranaka K, Tanaka M, Odori S, Kono S, Shimatsu A, Ogawa Y, Satoh-Asahara N.　Serum free thyroxine levels is associated with the efficacy of weight reduction therapy in obese female patients.　Vol.63　No.3　221-229,2015.12
Metabolism	Tanaka M, Matsuo Y, Yamakage H, Masuda S, Terada Y, Muranaka K, Wada H, Hasegawa K, Shimatsu A, Satoh-Asahara N.　Differential effects of GLP-1 receptor agonist on form cell formation in monocytes between Non-obese and obese subjects.　Vol.65　No.2　1-11,2015.10

Biol Pharm Bull	Morimoto T, Katanasaka Y, Sunagawa Y, Hirano S, Miyazaki Y, Funamoto M, Hojo Y, Suzuki H, Morimoto E, Ueno M, Shimatsu A, Satoh-Asahara N, Yamakage H, Wada H, Hasegawa K. Effects of statins on left ventricular diastolic function in patients with dyslipidemia and diastolicdysfunction(stat-LVDF study). Vol.38 No.9 1404-1409,2015.5
BMC familoy Practice	Ito H, Sato T, Satoh-Asahara N, Noda M. Impact of medication adherence on renal function in comorbid patients with type2 diabetes and depression:protocol for a cohort study. Vol.15 No.16 124,2015.9
Atherosclerosis	Satoh-Asahara N, Kotani K, Yamakage H, Yamada T, Araki R, Okajima T, Adachi M, Ooishi M, Shimatsu A. Cardio-Ankle Vascular Index Predicts for the Incidence of Cardiovascular Events in Obese Patients: A multicenter prospective cohort study (Japan Obesity and Metabolic Syndrome Study: JOMS). Vol.242 No.2 461-468,2015.8
Cardiovascular Diabetology	Kotani K, Satoh-Asahara N, Nakakuki T, Yamakage H, Shimatsu A, Tsukahara T. Association between metabolic syndrome and multiple lesions of intracranial atherothrombotic stroke: a hospital-based study. Vol.14 No.108,2015.8
Metabolism	Matsuo Y, Tanaka M, Yamakage H, Sasaki Y, Muranaka K, Hata H, Ikai I, Shimatsu A, Inoue M, Chun T-H, Satoh-Asahara N Thrombospondin 1 as a novel biological marker of obesity and metabolic syndrome. Vol.64 No.11 1490-1499,2015.7
京都医療センターメタボ外来のやせるお弁当と作りおき	独立行政法人国立病院機構京都医療センター 京都医療センター メタボ外来のやせるお弁当と作りおき 2016.2
medicina	浅原哲子 内科診断の道しるべ その症候、どう診るどう考える Vol.53 No.4 22-27,2016.4
医学のあゆみ	浅原哲子、田中将志 【最新の解析技術】22.ヒトの単球あるいはマクロファージの解析：脂肪組織慢性炎症とリピドミクス Vol.257 No.6
	浅原哲子 最新エビデンスに学ぶ効果の上がる肥満症食事療法の実践 2.肥満に起因する各種疾患の診療 Vol.127 No.44 12-416,2015.9
The Lipid	浅原哲子 特集：日本人肥満メタボ型糖尿病の実相、病態、治療 Ⅲ.肥満2型糖尿病の治療とその新展開 2.食事療法 Vol.26 No.2 57-64,2015.4
内分泌・代謝内科ゴールデンハンドブック	浅原哲子 G.糖尿病および代謝疾患 インスリン療法 30-32,2015.12
内分泌・代謝内科ゴールデンハンドブック	浅原哲子G.糖尿病および代謝疾患 GLP-1受容体作動薬 34-37,2015.12
内分泌・代謝内科ゴールデンハンドブック	浅原哲子 G.糖尿病および代謝疾患 肥満症・メタボリックシンドローム 46-51,2015.12
内分泌・代謝内科ゴールデンハンドブック	小鳥真司、浅原哲子 G.糖尿病および代謝疾患 2.インスリン分泌調節と作用 316-317,2015.12
内分泌・代謝内科ゴールデンハンドブック	小鳥真司、浅原哲子G.糖尿病および代謝疾患 6.経口血糖降下薬 333-337,2015.12
内分泌・代謝内科ゴールデンハンドブック	小鳥真司、浅原哲子 G.糖尿病および代謝疾患 9.糖尿病の合併症344-349,2015.12
Islet Equality	河野茂夫 2型糖尿病 世界と日本の概況 第12回 Diabetic Foot Vol.4 No.1 2-3,2015.4.20
糖尿病学	河野茂夫 糖尿病足病変の成因・病態 514-521,2015.5.15
ストップ!糖尿病・腎臓病 まるごと合併症	河野茂夫 第３章 糖尿病と足病変 フットケアで足を守ろう Vol.154 増刊号13巻6号 30-32,2015.5.8
臨牀透析 6月増刊号 PAD-フットケアを救肢・救命につなげるために必要な知識	河野茂夫 第４章 フットケアのあり方 (1)フットケアをより効率的に行うために-糖尿病足病変、PADを中心に Vol.31 No.7 55-63,2015.6.20
最新医学 7月増刊号 糖尿病と合併症 (後編) 糖尿病合併症	河野茂夫 ●細小血管障害と大血管障害 糖尿病足病変 Vol.70 7月増刊号 152（1464）-159（1471）,2015.7.25
内分泌・糖尿病・代謝内科	河野茂夫 糖尿病足病変の疫学, 世界の現状 Vol.41 No.2 97-101,2015.8.28
Cardio-Renal Diabetes 糖尿病と循環器・腎臓の融合を目指す学術誌	稲垣暢也、河野茂夫、重松邦広、横井宏佳 Disucussion 座談会 糖尿病の足病変 Vol.4 No.3 8-17,2015.9.10
Diabetes/Metabolism Research and Reviews	Benjamin A. Lipsky, Javier Aragón-Sánchez, Mathew Diggle, John Embil, Shigeo Kono, Lawrence Lavery, Éric Senneville, Vilma Urbančič-Rovan, Suzanne Van Asten and Edgar J. G. Peters, on behalf of the International Working Group on the Diabetic Foot (IWGDF) IWGDF guidance on the diagnosis, prognosis and management of peripheral artery disease in patients with foot ulcers in diabetes Vol.32 45–74,2016.1.26
Diabetes/Metabolism Research and Reviews	E. J. Peters, B. A. Lipsky, J. Aragón-Sánchez, E. J. Boyko, M. Diggle, J. M. Embil, S. Kono, L. A. Lavery, E. Senneville, V. Urbančič-Rovan, S. A. Van Asten, W. J. Jeffcoate and on behalf of the International Working Group on the Diabetic Foot (IWGDF) Interventions in the management of infection in the foot in diabetes: a systematic review Vol.32 145-153,2016.1.26
糖尿病 最新の治療 2016-2018	河野茂夫 XV 糖尿病療養指導6.予防的フットケア 300-302,2016.2.10
Diabetes Frontier	河野茂夫 糖尿病足病変 ～総説～ Vol.27 No.1 13-18,2016.2.25
J Diabetes Investig.	Murata T, Tsuzaki K, Yoshioka F, Okada H, Kishi J, Yamada K, Sakane N. The relationship between the frequency of self-monitoring of blood glucose and glycemic control in patients with type 1 diabetes mellitus on continuous subcutaneous insulin infusion or on multiple daily injections. Vol.6 No.6 687-91,2015.11
インスリンポンプとCGM 糖尿病をうまく管理するためのガイド	村田敬 訳者あとがき 2015.5
内分泌代謝専門医のセルフスタディ230	村田敬 2015.12.
最新インスリン療法 (改訂第2版)	村田敬 インスリンポンプの種類と指導方法 256-264,2015.6
こんな時どうすれば!? 糖尿病・血糖管理コンサルタント	村田敬 コンサルト [14] 脳卒中かと思ったら、実は高血糖高浸透圧症候群! [HHS & DKA]、コンサルト [21] SU薬服薬患者が抗GAF抗体陽性! どうする?、コンサルト [29] 腰部脊柱管狭窄症と診断されました! でも、血糖コントロールが悪くてしばらく手術できないと言われました!、コンサルト [30] 先生! 私妊娠しました! [妊婦の当代謝異常と血糖管理] 188-194, 224-227, 274-285,2015.8

はじめてのカーボカウント(3版)	村田敬　15 インスリンポンプを使っている人でも使えるの?　36-39,2016.2
日本先進糖尿病治療研究会雑誌	村田敬、河口八重子、吉岡ふみ、岡田浩、山本利恵、渡邊知一、　岸純一郎、中川内玲子、水谷結香子、四枚田耕平、坂根直樹、山田和範　CSII導入初期における持効型インスリンまたは中間型インスリン併用の短期的な安全性と有効性の検討 Vol.11　22-26,2015.11
診断と治療	村田敬 重症低血糖時のグルカゴン注射 Vol.103　No.9　1147-1150,2015.9
medicina	村田敬　頻回注射法(MDI)と持続皮下インスリン注入療法(CSII)の利点・欠点 Vol.53　No.1　106-108,2016.1
日本糖尿病情報学会誌	藤原真治, 小谷和彦, 津崎こころ, 佐野喜子, 坂根直樹　「食前に団子を食べる」という地域の食習慣が心血管リスクに及ぼす影響:美馬研究より. Vol.13 No.1　4-11,2015.4
日本糖尿病情報学会誌	藤原真治, 小谷和彦, 津崎こころ, 佐野喜子, 岡田浩, 大林秀樹, 瀬川正昭, 坂根直樹　医療機関と調剤薬局が連携したHbA1c認識向上への取り組み:研究デザインとベースラインの主な結果.　Vol.13　No.1　22-30,2015.4
PLoS One	Yamaguchi M, Kotani K, Tsuzaki K, Takagi A, Motokubota N, Komai N, Sakane N, Moritani T, Nagai N.　Circadian rhythm genes CLOCK and PER3 polymorphisms and morning gastric motility in humans. Vol.10 No.3　e012009,2015.5
Minerva Endocrinologica	Miyazaki R, Kotani K.　Pedometer- and accelerometer-based exercise in subjects with diabetes mellitus　Vol.40 No.2 145-154,2015.5
BMJ Open	Sakane N, Kotani K, Takahashi K, Sano Y, Tsuzaki K, Okazaki K, Sato J, Suzuki S, Morita S, Oshima Y, Izumi K, Kato M, Ishizuka N, Noda M, Kuzuya H. Effects of telephone-delivered lifestyle support on the development of diabetes in participants at high risk of type 2 diabetes: J-DOIT1, a pragmatic cluster randomised trial.　Vol.5　No.8　e007316,2015.8
J Clin Lab Anal	Tsuzaki K, Kotani K, Yamada K, Sakane N.　Fasting Lipoprotein Lipase Protein Levels Can Predict a Postmeal Increment of Triglyceride Levels in Fasting Normohypertriglyceridemic Subjects. In press,2015.8
Nutr Res Pract	Kitaoka K, Kitade A, Nagaoka J, Tsuzaki K, Harada K, Aoi W, Wada S, Asano H, Sakane N, Higashi A.　Lifestyle intervention might easily improve blood pressure in hypertensive men with the C genotype ofangiotensin II type 2 receptor gene. Vol.9　No.4　385-392,2015.9
健康支援	宮崎亮, 米井嘉一, 綾部誠也, 青木拓巳, 河口八重子, 桑原健輔, 石井好二郎　42ヶ月間の身体活動量増進プログラム期間における中高齢者男女の歩数推移　Vol.17　No.2　41-49,2015.9
糖尿病ケア	津崎こころ　Dr.坂根厳選!　糖尿病患者指導のアイデアグッズ50　「Lipocoさん〜食べた脂のゆくえは〜」　秋季増刊号 230-233,2015.9
J Diabetes Investig.	Sakane N, Kotani K, Tsuzaki K, Nishi M, Takahashi K, Murata T, Yamada K, Okazaki K, Yanagisawa K, Yamada K, Kuribayashi N, Totsuka Y,Hiyoshi T, Naka M, Sugimoto M, Aoki Y, Waki M, Furuya M, Kitaoka H, Oishi M, Shimizu I, Miyaoka H, Okada A, Yamamoto T.　Fear of hypoglycemia and its determinants in insulin-treated patients with type 2 diabetes mellitus. Vol.6　No.5　567-570,2015.9
症状と患者背景にあわせた頻用薬の使い分け 改訂版	藤原真治　鎮咳薬　184-201,2015.10
症状と患者背景にあわせた頻用薬の使い分け 改訂版	藤原真治　去痰薬　202-207,2015.10
Value Health	Shoji M, Okada H, Onda M, Sakane N, Nakayama T.　Effect Of Intervention By Community Pharmacists On Awareness Of Continuing Treatment Among Patients With Hypertension.　Vol.18　No.7　A399,2015.11
Nutrition Care	津崎こころ　12.コレステロール　Vol.9　No.1　32-33,2015.12
Nutrition Care	津崎こころ　13. HDLコレステロール　Vol.9　No.1　34-35,2015.12
Nutrition Care	津崎こころ　15.酸化コレステロール　Vol.9　No.1　38-39,2015.12
Nutrition Care	津崎こころ　連載「なに食べる」から「いつ食べる」へ時間栄養学　第1回　時間栄養学とは　Vol.9　No.1　58-59,2015.12
Advances in Experimental Medicine and Biology	Nirengi S, Yoneshiro T, Saiki T, Aita S, Matsushita M, Sugie H, Saito M, Hamaoka T.　Evaluation of Brown Adipose Tissue Using Near-Infrared Time-Resolved Spectroscopy.　Vol.876　371-376,2016.1
Nutrition Care	河口八重子 ナゾ解き生化学おもしろ講座　イラストでわかる脂質・脂肪酸・コレステロールのはたらき(n-6系多価不飽和脂肪酸、n-3系多価不飽和脂肪酸、中鎖脂肪酸)　Vol.9　No.1　24-29,2016.1
ニュートリションケア（通巻92号）	鋤納　心　6.飽和脂肪酸　7.不飽和脂肪酸　Vol.9　No.1　20-23,2016.1
日本糖尿病情報学会誌(JJADI)	鋤納心, 小谷和彦, 津崎こころ, 河口八重子, 岡田浩, 高橋かおる, 坂根直樹　Facebookを用いた体重管理プログラムの開発:実行可能性試験 Vol.14　4-10,2016.1
NutritionCare	高橋かおる　nonHDLコレステロール　Vol.9　No.1　36-37　2016.1
NutritionCare	高橋かおる　中性脂肪　Vol.9　No.1　40-41,2016.1
Nutrition Care	津崎こころ　連載「なに食べる」から「いつ食べる」へ時間栄養学　第2回　からだがリズムをきざむこと:体内時計　Vol.9 No.2　82-83,2016.1
Nutrition Care	津崎こころ　連載「なに食べる」から「いつ食べる」へ時間栄養学　第3回　リズムを生みだす時計遺伝子　Vol.9　No.3 60-61,2016.2
Endocrine Practice	Nirengi S, Fujibayashi M, Tsuzaki K, Furuno S, Uchibe A, Kawase Y, Kotani K, Sakane N.　ACTN3 GENE R577X POLYMORPHISM ASSOCIATED WITH HIGH-DENSITY LIPOPROTEIN CHOLESTEROL AND ADIPONECTIN IN RUGBY PLAYERS.　in press,2016.2
Osuteoporosisu Japan PLUS	松井浩　ウォーキング+筋トレで骨と筋肉を強くする〜認知症や糖尿病予防にも効果的!〜　Vol.1　創刊号130〜3 1 ,2016.2.17
Pharmacology & Pharmacy	Okada H, Mitsuko O, Masaki S, Kazuhiko K, Takeo N, Yasushi N, Naoki S.　Effects of Lifestyle Intervention Performed by Community Pharmacists on Glycemic Control in Patients with Type 2 Diabetes: The Community Pharmacists Assist (Compass) Project, a Pragmatic Cluster Randomized Trial.　Vol.7　124-132,2016.3
Nutrition Care	津崎こころ　連載　「なに食べる」から「いつ食べる」へ時間栄養学　第4回　「早寝早起き朝ごはん」が生まれた理由 Vol.9　No.4　84-85,2016.3
Journal of Biomedical Optics	Nirengi S, Homma T, Inoue N, Sato H, Yoneshiro T, Matsushita M, Kameya T, Sugie H, Tsuzaki K, Saito M, Sakane N, Kurosawa Y, Hamaoka T.　Assessment of human brown adipose tissue density during daily ingestion of thermogenic capsinoids using near-infrared time-resolved spectroscopy　in press,　2016.3
「臨床栄養」臨時増刊(2015年秋季発行)	松岡幸代　肥満症の食事療法各論「食生活(食べ方)と肥満に関する最新知見」　Vol.127　No.4　487-490,2015.9.25

腎臓内科



診療科長
八幡　兼成

専門医資格等　日本腎臓学会専門医・指導医
日本透析医学会専門医・指導医
日本糖尿病学会専門医
日本内科学会専門医
京都大学医学博士

専門分野

得意疾患

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	瀬田　公一	日本腎臓学会専門医・指導医 日本透析医学会専門医・指導医 日本高血圧学会専門医・指導医 総合内科専門医・JMECCインストラクター 日本集中治療医学会専門医 日本救急医学会ICLSインストラクター ICD制度協議会認定インフェクションコントロールドクター 日本急性血液浄化学会認定指導者 京都大学医学博士		
医　　師	小泉　三輝	日本腎臓学会専門医 日本透析医学会専門医 日本集中治療医学会専門医 日本内科学会認定医		
医　　師	村田　真紀	日本腎臓学会専門医 日本透析医学会専門医 日本内科学会認定医		
専修医	北村　憲子			
専修医	高橋　昌宏			
専修医	近藤　悠			
専修医	沈　載紀			

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設

1．積極的に腎生検を行い、早ければ翌日には診断がつく体制を取っている
2．血液透析だけでなく、血漿交換や持続血液ろ過透析など急性血液浄化に対応できる
3．腹膜透析も多く導入している
4．学会発表・論文執筆・臨床研究を積極的に行っている

□ 主な対象疾患

急性腎不全、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、急速進行性糸球体腎炎、多発性嚢胞腎、Gitelman症候群、高血圧症

□ 診療(業務)内容

1. 慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群などに対して腎生検を行い、その結果に基づいて治療を行っている。
2. 保存期腎不全に対し、血圧管理を始めとした腎保護療法を行い、末期腎不全への進行を抑制できるようにしている。
3. 末期腎不全に陥った場合、腎移植・腹膜透析・血液透析の3つの選択肢を提示し、患者に合った治療を提供している。

□ 診療実績（平成27年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
14名	382名	13日

外来患者数

1日平均患者数
33名

主な疾患の件数など

腎生検数	血液浄化療法延べ件数	血液透析導入患者数	腹膜透析導入患者数
73件	3,032件	43件	7件

□ 地域医療連携・広報活動

・世界腎臓デー関連イベント
　2016年3月10日　京都医療センターロビー
・多発性嚢胞腎を考える会 in大津
　「これからのADPKD診療」　瀬田　公一
　2016年2月4日　大津市
・日本運動器疼痛学会
　「整形外科医のための慢性腎臓病講座ー腎臓にやさしい鎮痛薬の使い方ー」　瀬田　公一
　2015年12月12日　愛知県名古屋市
・高血圧フォーラム京都
　「CKD合併高血圧患者における血圧コントロールの実状と問題点」　八幡　兼成
　2015年12月3日　ブライトンホテル京都
・第43回千葉県透析研究会ランチョンセミナー
　「これからのADPKD診療」　瀬田　公一
　2015年11月29日　千葉県松戸市
・西部地区多発性嚢胞腎講演会
　「これからのADPKD診療」　瀬田　公一
　2015年11月27日　神奈川県横浜市
・第3回道南疼痛研究会
　「整形外科医のための慢性腎臓病講座ー腎臓にやさしい鎮痛薬の使い方ー」　瀬田　公一
　2015年11月19日　北海道函館市
・第4回中津整形外科病診連携の集い
　「整形外科医のための慢性腎臓病講座ー腎臓にやさしい鎮痛薬の選択ー」　瀬田　公一
　2015年11月14日　大阪府大阪市
・第11回伏見CKD医療連携の会講演会
　「CKDの食事療法　～ポイントを絞った指導～」　北村　憲子
　「かかりつけ医のためのファブリー病講座」　瀬田　公一
　「CKD連携パスを終了した患者の腎予後　～連携終わっても大丈夫?～」　村田　真紀
　「感染症と腎機能　～～プライマリ・ケアの現場で必要なこと～～」　小田垣　孝雄先生
　「京都の地域医療における慢性腎臓病患者の腎性貧血の治療実態とその効果　～ご報告第5報～」　八幡　兼成
　2015年10月31日　京都タワーホテル

・Tolvaptan Conference
「これからのADPKD診療」　瀬田　公一
2015年10月21日　大阪府大阪市
・バクスターPDセミナー
「腎代替療法選択の古くて新しい考え方」　八幡　兼成
2015年10月17日　毎日インテシオ
・透析患者のトータルケア講演会
「これからのADPKD診療」　瀬田　公一
2015年10月17日　宮城県仙台市
・第5回姫路整形外科慢性疼痛研究会
「整形外科医のための慢性腎臓病講座ー腎臓にやさしい鎮痛薬の選択ー」　瀬田　公一
2015年10月15日　兵庫県姫路市
・京都整形外科医会学術講演会ー新専門医制度の仕組みについてー
「整形外科医のための慢性腎臓病講座ー腎臓にやさしい鎮痛薬の選択ー」　瀬田　公一
2015年10月10日　京都府京都市
・磐田ADPKD学術講演会
「ADPKD診療の新たな展開～TENPOから実臨床へ～」　瀬田　公一
2015年10月1日　静岡県磐田市
・腎臓病教室応用編
2015年9月26日　京都医療センター多目的ホール
・京都南部多発性嚢胞腎セミナー
「ADPKD診療の新たな展開～TENPOから実臨床へ～」　瀬田　公一
2015年9月26日　京都府京都市
・多発性嚢胞腎カンファレンス
「ADPKD診療の新たな展開～TENPOから実臨床へ～」　瀬田　公一
2015年9月3日　滋賀県長浜市
・下京東部医師会講演会
「非専門医のための腎臓病講座ー腎臓にやさしい鎮痛薬の選択ー」　瀬田　公一
2015年8月29日　京都府京都市
・尼崎ADPKD講演会
「ADPKDの診療の新たな展開～TENPOから実臨床へ～」　瀬田　公一
2015年8月27日　兵庫県尼崎市
・三木会学術講演会
「腎臓にやさしい整形外科医とはー鎮痛薬の選択に関連してー」　瀬田　公一
2015年7月30日　北海道旭川市
・静岡県保険医協会西部支部学術研究会
「非専門医のための腎臓病講座ー解熱鎮痛薬の選択に関連してー」　瀬田　公一
2015年7月27日　静岡県浜松市
・大塚e講演会
「これからの多発性嚢胞腎診療」　瀬田　公一
2015年7月16日　京都府京都市
・第5回血液浄化心不全治療研究会ランチョンセミナー
「ADPKD診療の新たな展開～TENPOから実臨床へ～」　瀬田　公一
2015年7月12日　京都府京都市
・坂井地区疼痛治療講演会
「非専門医のための腎臓病講座ー腎臓にやさしい鎮痛薬の選択ー」　瀬田　公一
2015年7月1日　福井県あわら市

・第13回整形外科痛みを語る会
「腎機能低下患者に対する鎮痛剤の選択について」 瀬田　公一
2015年6月27日　佐賀県佐賀市
・京都北部ADPKD研究会
「ADPKD診療の新たな展開～TENPOから実臨床へ～」 瀬田　公一
2015年6月17日　京都府福知山市
・JMS　CAPD講座
「国内外におけるCAPDの現状・CAPDの基礎と臨床」 八幡　兼成
2015年5月17日　JMS大阪支店
・河北郡市医師会学術講演会
「非専門医のためのCKD講座ー腎臓にやさしい鎮痛薬の選択ー」 瀬田　公一
2015年5月13日　石川県かほく市
・第10回伏見CKD医療連携の会講演会
「ADPKD外来やってます!」 瀬田　公一
「血圧コントロールの実情と問題点」 高橋　昌宏
「京都の地域医療における慢性腎臓病患者の腎性貧血の治療実態とその効果　～ご報告第4報～」 八幡　兼成
「CKDの治療戦略」 中山寺いまいクリニック院長　今井圓裕先生
2015年4月25日　京都タワーホテル
・宇治久世医師会学術講演会
「非専門医のための腎臓病講座ー腎臓にやさしい鎮痛薬の選択ー」 瀬田　公一
2015年4月18日　京都府京都市

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	複数亜型が混在したがステロイド反応性良好であった巣状糸球体硬化症の一例 村田 真紀, 高橋 昌宏, 北村 憲子, 小泉 三輝, 菊地 祐子, 瀬田 公一, 八幡 兼成 第45回日本腎臓学会西部学術大会　金沢　2015.10.24-25
国内学会	病理にて血栓性微小循環障害症(TMA;thrombotic microangiopathy)の所見を認めたが原因を特定できなかった80歳代女性 小泉 三輝, 高橋 昌宏, 北村 憲子, 村田 真紀, 菊地 祐子, 瀬田 公一, 八幡 兼成, 岡 一雅 第45回日本腎臓学会西部学術大会　金沢　2015.10.24-25
国内学会	ネフローゼ症候群をきたしセツキシマブとの関連が疑われたthrombotic microangiopathy 高橋 昌宏, 小泉 三輝, 北村 憲子, 村田 真紀, 菊地 祐子, 瀬田 公一, 八幡 兼成 第45回日本腎臓学会西部学術大会　金沢　2015.10.24-25
国内学会	抗核抗体と腎生検で診断された高齢男性のループス腎炎の1例 沈 載紀, 瀬田 公一, 村田 真紀, 小泉 三輝, 菊池 裕子, 八幡 兼成, 原 重雄 第45回日本腎臓学会西部学術大会　金沢　2015.10.24-25
国内学会	保存期腎不全時からintPTH上昇と骨塩量減少がいずれも顕著であった続発性副甲状腺機能亢進症の一例 菊地 祐子, 北村 憲子, 村田 真紀, 小泉 三輝, 瀬田 公一, 八幡 兼成 第60回日本透析医学会学術集会・総会　横浜　2015.6.26-28
国内学会	CKD連携パスを終了した患者の腎予後 村田 真紀, 北村 憲子, 小泉 三輝, 菊地 祐子, 瀬田 公一, 八幡 兼成 第58回日本腎臓学会学術総会　名古屋　2015.6.5-7
国内学会	常染色体優性多発性嚢胞腎の新しい診療体制の構築 瀬田 公一, 村田 真紀, 小泉 三輝, 菊地 祐子, 八幡 兼成 第58回日本腎臓学会学術総会　名古屋　2015.6.5-7
国内学会	京都の地域医療におけるCKD患者への腎性貧血治療の実態とその効果[京都伏見腎性貧血研究:KFRA study](第2報) 八幡 兼成, 村田 真紀, 小泉 三輝, 菊地 祐子, 瀬田 公一 第58回日本腎臓学会学術総会　名古屋　2015.6.5-7
国内学会	CKD合併高血圧患者における診察室血圧・家庭血圧の目標達成率についての検討 高橋 昌宏, 瀬田 公一, 北村 憲子, 村田 真紀, 小泉 光輝, 菊地 祐子, 八幡 兼成 日本高血圧学会臨床高血圧フォーラム　福岡　2015.5.23-5.24
国内学会	メサンギウム領域にIgA沈着を認めたANCA関連腎炎の一例 伊東　悠貴, 村田　真紀, 北村　憲子, 小泉　三輝, 菊地　祐子, 瀬田　公一, 八幡　兼成 内科学会ことはじめ　京都　2015.4.11

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
CEN Case Report 2015;4(1):65-9	Post-infectious acute glomerulonephritis with vasculitis and pulmonary hemorrhage Mitsuteru Koizumi, Kensei Yahata, Keiichi Kaneko, Yuko Kikuchi, Koichi Seta, Noriko Uesugi

腫瘍内科



診療科長
外来化学療法
センター長
安井　久晃

専門医資格等
日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医／指導医、協議員
「がん薬物療法における曝露対策合同ガイドライン」作成委員
がん治療認定医機構／がん治療認定医、暫定教育医
日本内科学会　認定内科医
独立行政法人医薬品医療機器総合機構　専門委員
専門分野
腫瘍内科学（臨床腫瘍学）
緩和医療
得意疾患
固形腫瘍（消化器がん）
原発不明がん



診療科長
外来化学療法
センター長
野﨑　明
平成28年6月1日現在

専門医資格等
臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医・指導医
がん治療認定医機構認定医・暫定教育医
静脈経腸栄養学会認定医
内科学会認定医
医師会認定産業医
専門分野
固形腫瘍および一部造血器悪性腫瘍
得意疾患
消化器がん

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	岡崎　俊介	日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医 日本内科学会　認定内科医	腫瘍内科学（臨床腫瘍学） 緩和医療	消化器がん

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本臨床腫瘍学会認定研修施設

1．患者さんが納得し満足いただける医療を提供します
2．患者さんとご家族を徹底的に支援します
3．エビデンスに基づいた最善の化学療法を行ないます
4．化学療法と並行して、緩和医療を提供します
5．患者さんと一緒に歩み、成長する姿勢を大切にします
6．地域の医療機関との連携を大切にします

□ 主な対象疾患

・消化器がん（食道がん、胃がん、大腸がん、消化管間質腫瘍など）
・膵臓がん、胆道がん
・原発不明がん
・その他の固形腫瘍

□ 診療（業務）内容

・化学療法（がん薬物療法）の実施
・緩和医療の実施
・緩和ケアチーム参加
・他職種カンファレンスの実施
・他科からのコンサルテーション

・セカンドオピニオン
・外来化学療法センターの運営
・化学療法委員会の運営
・中心静脈ポート造設
・臨床試験・治療への参加

□ 診療実績(平成27年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
13名	315名	15日

外来患者数

1日平均患者数
25名

□ 地域医療連携・広報活動

がん医療従事者 多職種合同研修会 （テーマ：化学療法における職業性曝露）「ガイドラインに基づいた がん薬物療法における曝露対策」2016年3月12日：東京（安井久晃）
京都医療センター研修会＜がん薬物療法における曝露対策＞「曝露リスクと健康への影響」2016年2月1日,3日：京都（安井久晃）
抗がん剤曝露対策セミナー「がん薬物療法における曝露対策のポイント ～ガイドラインの観点から～」2015年12月4日：京都（安井久晃）
近畿病院図書室協議会研修会「ギアチェンジをサポートする情報提供」2015年11月14日：京都（安井久晃）
がんステップⅠ研修「がん薬物療法（化学療法）」2015年11月14日：京都（安井久晃）
日本がん看護学会ガイドライン委員会研修会「HDの職業性曝露による健康への影響」2015年10月3日：神戸（安井久晃）
神戸市立医療センター中央市民病院講演会「腫瘍内科医の仕事とは？ ～がん患者をどう支えるか～」2015年4月27日：神戸（安井久晃）
第28回伏見医師会癌医療病診連携の会「大腸がん薬物療法の現状 ～新しい動向と副作用対策～」2015年4月18日：京都（安井久晃）
ＣＶポートトレーニングセミナー「①ＶＡＤにおけるＣＶポートの位置づけ ＣＶポートの管理、②ＣＶポートの留置手技」2015年4月25日、5月23日、11月15日：東京（安井久晃）
生命のがん教育（京都聖母学院中学校）「「がん」って？」2016年1月27日：京都（安井久晃）
生命のがん教育（精華町立山田荘小学校）「「がん」って？」2015年11月12日：京都（安井久晃）
生命のがん教育（京都市立東山泉小中学校）「「がん」って？」2015年5月17日：京都（安井久晃）

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区 分	演者・演題・学会名
国内学会	安井久晃. ３学会合同ガイドラインに基づいた、抗がん剤投与における曝露対策の必要性（教育セミナー9）.第30回日本がん看護学会学術集会. 2016年2月21日：千葉
国内学会	川端康弘, 青木友和, 塚原徹也, 安井久晃, 山本鉄郎, 新宅雅幸, 森吉弘毅, 澤井聡, 楊涛, 福田俊一, 河原﨑知: 頭蓋外転移した頭蓋内原発平滑筋肉腫の一例（P-088）. 第33回日本脳腫瘍学会学術集会. 2015年12月6日：京都
国内学会	安井久晃. 中心静脈ポートの適応と合併症 ～内頸静脈アプローチの有用性～（パネルディスカッション3 がん治療における中心静脈ポートの適応とは）. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2015年7月18日：札幌
国内学会	安井久晃、飯野京子, 平井和恵, 野村久祥, 神田清子. 医療従事者の安全のための「Safe Handling of Hazardous Drugs」の概念構築（ワークショップ5 「がん薬物療法における曝露対策合同ガイドライン」の意義と展望）. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2015年7月17日：札幌
国内学会	安井久晃, 満間綾子. がん薬物療法における曝露対策合同ガイドラインの解説（日本臨床腫瘍学会ガイドライン委員会企画）. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2015年7月16日：札幌
国内学会	岡崎俊介, 岡本奈都子, 大谷哲之, 安井久晃. S-1により重篤な皮疹を来したが、その後UFTに変更して皮疹の再燃を認めず化学療法を継続できた胃癌の一例（P2-8-63）. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2015年7月17日：札幌
国内学会	山下大生, 岡崎俊介, 森吉弘毅, 濱谷康弘, 田中博之, 遠藤文司, 安井久晃. TC療法1コース目に自宅で心肺停止となり、剖検にて直接死因を急性心筋梗塞と診断した膵未分化癌の一例（P1-8-24）. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2015年7月16日：札幌
国内研究会	安井久晃. デンバーシャントにおけるVTE予防について. Meeting of Venous ThromboEmbolism ～今後のVTE治療を考える～, 2015年11月25日：京都

国内研究会	安井久晃. がん薬物療法における曝露対策合同ガイドラインについて ～ 医師の立場から ～. 第 5 回関西がんサポーティブケア研究会, 2015年10月6日：京都
国内研究会	安井久晃. 胃癌化学療法におけるオキサリプラチンの展望. 第12回京都西部消化器研究会, 2015年5月20日：京都

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	タイトル	著者
Int J Clin Oncol 2016 Jan 5. [Epub ahead of print]	Meta-analysis supporting noninferiority of oxaliplatin plus S-1 to cisplatin plus S-1 in first-line treatment of advanced gastric cancer (G-SOX study): indirect comparison with S-1 alone.	Hamada C, Yamada Y, Azuma M, Nishikawa K, Gotoh M, Bando H, Sugimoto N, Nishina T, Amagai K, Chin K, Niwa Y, Tsuji A, Imamura H, Tsuda M, Yasui H, Fujii H, Yamaguchi K, Yasui H, Hironaka S, Shimada K, Miwa H, Hyodo I.
Gastric Cancer. 2015 Oct 16. [Epub ahead of print]	Efficacy and safety of S-1 and oxaliplatin combination therapy in elderly patients with advanced gastric cancer.	Bando H, Yamada Y, Tanabe S, Nishikawa K, Gotoh M, Sugimoto N, Nishina T, Amagai K, Chin K, Niwa Y, Tsuji A, Imamura H, Tsuda M, Yasui H, Fujii H, Yamaguchi K, Yasui H, Hironaka S, Shimada K, Miwa H, Hamada C, Hyodo I.
Cancer Chemother Pharmacol 76(3):605-614, 2015	S-1 and irinotecan with or without bevacizumab versus 5-fluorouracil and leucovorin plus oxaliplatin with or without bevacizumab in metastatic colorectal cancer: a pooled analysis of four phase II studies.	Iwasa S, Nagashima K, Yamaguchi T, Matsumoto H, Ichikawa Y, Goto A, Yasui H, Kato K, Okita NT, Shimada Y, Yamada Y.
Ann Oncol 26(1):141-148, 2015	Phase III study comparing oxaliplatin plus S-1 with cisplatin plus S-1 in chemotherapy-naïve patients with advanced gastric cancer.	Yamada Y, Higuchi K, Nishikawa K, Gotoh M, Fuse N, Sugimoto N, Nishina T, Amagai K, Chin K, Niwa Y, Tsuji A, Imamura H, Tsuda M, Yasui H, Fujii H, Yamaguchi K, Yasui H, Hironaka S, Shimada K, Miwa H, Hamada C, Hyodo I.
クリニカル・アロマテラピー 第3版 介護 福祉 医療の現場に活かす（原著：Clinical Aromatherapy: Essential Oils in Healthcare, 3e）. 382-402, フレグランスジャーナル社, 2015年12月	第Ⅲ部 臨床専門分野でのアロマテラピー 第16章 オンコロジー（腫瘍学）	ジェーン・バックル（著）, 前田 和久, 岸田 聡子, 今西 二郎（監訳）, 安井 久晃（訳）
研修医のための見える・わかる外科手術. 86-69, 羊土社, 2015年11月	第3章 各科の手術手順と操作のポイント §1 一般外科 1 CV ポート.	津田萌, 安井久晃

精神科



医　長
杉崎　全良

専門医資格等　精神保健指定医
日本精神神経学会認定　精神科専門医
専 門 分 野　精神病理学

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	吉田　貴子	精神保健指定医 日本精神神経学会認定　精神科専門医	精神病理学	
医　　師	沼本　和記	日本医師会認定産業医	精神病理学	
非常勤臨床心理士	梶川　和行	臨床心理士		
非常勤臨床心理士	西尾ゆう子	臨床心理士		
非常勤臨床心理士	筒井　優介	臨床心理士		
非常勤臨床心理士	繁昌　芳恵	臨床心理士		

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本精神神経学会精神科専門医研修施設

1．確定診断と精神療法的な意味を兼ねて、初診時診察に十分な時間をかける。
2．精神疾患の病態を自然科学的、人間学的視点から多角的に把握する。
3．共感的、探究的な診察態度を心がけ、繊細な薬物療法を工夫する。
4．器質性精神障害が疑われるときには、他科と連携し、頭部ＭＲＩ等を利用して病態検索が可能である。

□ 主な対象疾患

・睡眠障害
・身体表現性自律神経機能不全、その他の身体表現性障害
・パニック障害、その他の不安障害
・適応障害、その他のストレス関連障害
・強迫性障害、その他の神経症性障害
・躁うつ病、その他の気分障害
・統合失調症、妄想性障害等
・器質性あるいは症状性精神障害

□ 診療（業務）内容

1．精神科入院病棟は無いため、入院治療が必要と判断される時は、精神科病院等に紹介する。
2．医師による診療後、病態として心理学的に複雑な葛藤が想定される場合は、心理療法士による標準型精神分析療法等を併用することが可能。
3．一般病棟の他科入院患者に対し、依頼に応じて、リエゾン・コンサルテーション精神科医療に従事している。

□ 診療実績(平成27年度)

外来患者数

1日平均患者数
52名

神経内科



診療科長
中村　道三

専門医資格等　日本神経学会専門医　指導医
日本内科学会認定医　指導医
京都大学医学部神経内科臨床教授
京都大学医学博士
専 門 分 野　神経内科, 臨床神経学
得 意 疾 患　ミオパチー、認知症

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	大谷　　良	日本神経学会専門医　指導医 日本脳卒中学会専門医　評議員 日本認知症学会専門医　指導医 日本内科学会認定医　指導医 京都脳神経超音波研究会世話人 脳血管内治療デバイス資格医 京都大学医学部神経内科　臨床教授 京都大学医学博士	神経内科（臨床神経学） 脳血管障害 認知症	脳血管障害 認知症
医　　長	村瀬　永子	日本神経学会専門医　指導医 日本内科学会認定医　指導医 脳波筋電図学会認定医 京都大学医学部　高次脳機能総合解析センター・非常勤講師 関西脳波・筋電図研究会世話人 京都大学医学博士 日本定位・機能神経外科学会技術認定医	神経内科 電気生理 運動異常症	ジストニア パーキンソン病 運動異常症
専 修 医	後藤　昌広		神経内科	
専 修 医	斉ノ内　信		神経内科	
専 修 医	栗田　康弘		神経内科	
専 修 医	髙田　真基		神経内科	
専 修 医	増田　裕一		神経内科	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本神経学会研修施設

1. 納得できる医療を目指します
2. 紹介医との密な連絡（病診連携）および大学や機関病院との連携に努めます
3. 看護師、薬剤師、理学療法士など他の医療従事者とのチーム医療を推進します
4. 若手医師の教育に尽力します

□ 主な対象疾患

脳血管障害（脳梗塞、脳出血など）、認知症（アルツハイマー病など）、パーキンソン病、ジストニア脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などの数多の神経難病、多発性硬化症、重症筋無力症などの免疫神経疾患、脳炎、髄膜炎など神経感染症、頭痛、てんかんなどの発作性疾患、ギランバレー症候群、種々のニューロパチーなどの末梢神経疾患、筋炎、筋ジストロフィーなどの筋疾患など

□ 診療（業務）内容

神経内科一般

脳血管障害外来：脳血管障害の予防及び再発予防（臨床研究対象も含む）、頸部血管エコー検査

電気生理外来：電気診断学にもとづく神経・筋疾患の電気生理検査

ボツリヌス治療：対象疾患　ジストニア、脳卒中後の痙縮、半側顔面痙攣

深部脳刺激によるパーキンソン病, ジストニアの治療

神経内科・音楽療法外来：認知症を対象とする音楽療法

□ 診療実績（平成27年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数	深部脳刺激治療（パーキンソン病・ジストニア）
27名	445名	22日	6例

外来患者数

1日平均患者数
54名

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

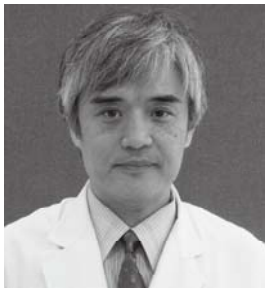
区　分	演 者	演 題 ・ 学 会 名
国際学会	K Yasuda, S Fukuda, M Nakamura, R Ohtani, M Sainouchi, M Gotou, S Kawarazaki, Y Kawabata, N Murase, T Aoki, M Akao, T Tsukahara	The Fushimi AF Registry: Analysis of Cerebral Infarction Events for the Follow-up Period of One Year European Stroke Conference　Vienna
国内学会	川端康弘、福田俊一、手島啓幾、青木友和、大谷良、塚原徹也瀬永子、中村道三、塚原徹也	ネック／ドームから血管が分枝している脳動脈瘤の塞栓術　第31回日本脳神経血管内治療学会学術総会 岡山
国内勉強会	大谷良	DATスキャンの臨床診断における有用性（MIBGシンチとの相関）第33回　京滋RI検査を語る会 京都
国内学会	髙田 真基, 池田 周平, 栗田 康弘, 斉ノ内 信, 後藤 昌広, 安田 謙,村瀬 永子, 大谷 良, 中村 道三	７年間に渡りTIA様発作の症状を繰り返した後, 脳梗塞に至った一例　日本神経学科近畿地方会　大阪
テレビ出演	中村　道三, 飯塚　三枝子	四国羅針盤「音楽を"処方"する　～音楽療法　そのメカニズムに迫る～」NHK四国放送局
国内勉強会	髙田真基, 安田謙, 川端康弘, 栗田康弘, 後藤昌広, 斉ノ内信, 村瀬永, 大谷良, 中村道三	急性期血管内治療が奏功した脳静脈洞血栓症の一例 KSK 京都
国内学会	後藤昌広、大谷　良、川端康弘、斎ノ内信、安田　謙、村瀬永子、中村道三、塚原徹也	放射線治療後の頸部血管狭窄に対して血管内治療を施行した２症例の検討　第40回　日本脳卒中学会総会（STROKE 2015）広島
国内学会	K Yasuda, M Nakamura, R Ohtani, M Sainouchi, M Gotou, S Kawarazaki, Y Kawabata, N Murase, T Aoki, S Fukuda, M Akao, T Tsukahara	Analysis of Cerebral Infarction Events for the One Year Follow-up 第56回日本神経学会総会 新潟
国内勉強会	安田謙	伏見AFレジストリにおける脳卒中イベントの解析(1年時データ)　第5回　京都心原性塞栓症研究会 京都
国内勉強会	後藤昌広, 栗田康弘, 髙田真基, 斉ノ内信, 安田謙, 村瀬永子, 大谷良, 中村道三	WEBINO症候群を呈したCISの１例 KSK 大阪
国内勉強会	中村　道三	認知症に対する治療　　ー音楽療法を中心にー 伏見医師会勉強会 京都
市民講座	森俊夫、荒牧敦子、大谷良、高謙一郎	パネルディスカッション　「認知症になっても、このまちで暮らし続けるために」 市民公開講座　認知症と共に生きる 京都
国内勉強会	髙田 真基, 池田 周平, 栗田 康弘, 斉ノ内 信, 後藤 昌広, 安田 謙,村瀬 永子, 大谷 良, 中村 道三	７年間に渡りTIA様発作の症状を繰り返した後, 脳梗塞に至った一例 Stroke 研究会 京都
国内学会	安田謙, 端祐一郎, 吉永健二, 村瀬永子, 大谷良, 中村道三	著明な多発神経肥厚を認め、CIDPが疑われた一例 第102回神経学会近畿地方会 神戸
国内勉強会	大谷　良	脳梗塞治療　～最新の動向, 病診連携の重要性～ Stroke 学術交流会 京都
国内勉強会	安田謙	伏見AFレジストリにおける脳卒中イベントの解析(1年時データ) 第23回 京都神経内科専門医会 京都
国内勉強会	大谷　良	脳梗塞治療　～心原性脳塞栓症の急性期治療と予防～ 京都南部脳卒中学術交流会 京都
テレビ出演	中村　道三, 飯塚　三枝子	NHKおはよう日本「認知症・音楽療法 思い出の曲で　よみがえる記憶」NHK
国内勉強会	大谷　良	パーキンソン病およびレビー小体型認知症診断におけるDAT　SPECTとMIBG心筋シンチグラフィの有用性 第9回　関西脳核医学研究会 大阪

国内学会	安田謙, 吉永健二, 川端康弘, 三橋賢大, 村瀬永子, 大谷良, 中村道三	非感染性血栓性心内膜炎が原因の脳塞栓症に対し, 急性期血管内治療を試みた1剖検例 第104回神経学会近畿地方会 大阪
国際学会	Nagako Murase, Bülent Cengiz, John Rothwell	Short-interval intracortical inhibition with the threshold tracking method can predict inter-individual variation in the after-effect of paired associative stimulation Complex Medical Engineering Okayama, Japan
国内学会	村瀬永子、太田真紀子、神吉里枝、吉永健二、平林秀裕	舞踏運動、ジストニア、パーキンソン症候群を呈した39歳男性 Movement Disorder Society of Japan 東京
国内学会	Nagako Murase, Bülent Cengiz, John Rothwell	音楽家や運動選手における 閾値追跡法による短間隔皮質内抑制 (short interval intracortical inhibition: SICI) 日本臨床神経生理学会 大阪
国内学会	村瀬永子	深部脳刺激療法(DBS)の適応判断と施行施設への紹介(紹介をうける側から) 日本神経治療学会 名古屋
教育講演	村瀬永子	パーキンソン病における脳の可塑性とイストラデフィリン 南京都パーキンソン病研究会 京都
教育講演	村瀬永子	パーキンソン病の治療ガイドラインおよび新薬にのっとった治療戦略 伏見医師会ランチョンセミナー 京都
教育講演	村瀬永子	当院におけるロチゴチン(ニュープロ® パッチ)の使用経験からの考察 京都医療センター iPSの細胞移植:基礎から臨床までを学ぶ会 京都
教育講演	Nagako Murase	Neurophysiological bases of new neuromodulation techniques in Deep Brain Stimulation (DBS):adaptive stimulation and coordinated reset (CR) neuromodulation 京都大学高次脳機能総合研究センター 京都
教育講演	村瀬永子	経頭蓋磁気刺激(TMS) 関西脳波・筋電図セミナー 京都
教育講演	村瀬永子	外傷後運動異常症の3症例 (post-traumatic movement disorders) 日本神経学会・近畿地方会 大阪
教育講演	村瀬永子	糖尿病神経障害 京都医療センター 内分泌・代謝性疾患研修会 京都
教育講演	村瀬永子	ロチゴチン(ニュープロ® パッチ)の有用性と皮膚症状対策 伏見区薬剤師会学術研修会 京都
教育講演	村瀬永子	パーキンソン病の治療:iPSとDBSの最新の話題 パーキンソン病友の会泉会 大阪
教育講演	村瀬永子	パーキンソン病の治療の基礎からDBS, iPSまで〜やさしく解説 難病連 大阪

□ 投稿論文など

著者・雑誌名	タ イ ト ル
冨本秀和, 大谷良 認知症予防テキストブック	第2章 各論 3. 血管性認知症 P49-64 2015.10.10
安田謙, 斎ノ内信, 後藤昌広, 村瀬永子, 大谷良, 中村道三 臨床神経学(Clinical Neurology)	多発脳神経障害, 尿崩症を呈したMPO-ANCA関連肥厚性硬膜炎の1例 Vol.56 No.5 in press
村瀬永子 Clinical Neuroscience	運動野の閾値トラッキング Vol.34 No.1 P1531-1534 2015.12

呼吸器センター



診療科長
(呼吸器内科)
三尾　直士

専門医資格等
　日本がん治療認定医機構暫定教育医
　日本内科学会認定内科医、指導医
　日本医師会認定産業医
　アメリカ胸部疾患学会（ATS）
　アメリカ臨床腫瘍学会（ASCO）
　京都大学　医学博士
　京都大学　臨床教授
専門分野
　呼吸器内科全般
得意疾患
　肺癌・間質性肺炎



医長
(呼吸器外科)
澤井　聡

専門医資格等
　日本呼吸器外科学会/指導医・評議員
　呼吸器外科専門医
　気管支鏡指導医
　外科専門医
　滋賀医科大学医学博士
専門分野
　呼吸器外科全般
得意疾患
　肺癌・縦隔腫瘍

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	中谷　光一	日本内科学会　認定内科医 日本呼吸器学会　呼吸器専門医・指導医	呼吸器内科全般	肺癌・睡眠時無呼吸症候群・呼吸器内科全般
医　　師	元石　　充	外科専門医 呼吸器外科専門医 気管支鏡専門医	呼吸器外科全般	呼吸器外科全般
医　　師	岡村　美里	日本内科学会　認定内科医	呼吸器内科全般	肺癌・呼吸器内科一般
医　　師	藤田　浩平	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医 日本呼吸器学会　呼吸器専門医 日本感染症学会　感染症専門医 京都大学医学博士	呼吸器内科全般	呼吸器感染症・呼吸器内科全般
医　　師	金井　　修	日本内科学会　認定内科医 日本呼吸器学会　呼吸器専門医 日本呼吸器内視鏡学会　気管支鏡専門医 日本エイズ学会　治療指導医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定 エイズ拠点病院　施設代表	呼吸器内科全般	HIV感染症・睡眠時無呼吸症候群・呼吸器内科一般
医　　師	岡本　圭伍	呼吸器外科専門医	呼吸器外科全般	肺癌・縦隔腫瘍
医　　師	賀来　良輔		呼吸器外科全般	肺癌・縦隔腫瘍

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器外科基幹施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設

呼吸器疾患は悪性腫瘍・感染症・気道系疾患・呼吸不全・びまん性肺疾患・生活習慣病など、他の臓器には見られないほど多岐にわたり、その多くが生命に直接関わる重要な領域です。

肺癌は罹患率が高くかつ治癒率が低いために最も死亡数が多い悪性腫瘍です。肺癌は今でも難治ではありますが、分子標的剤や免疫チェックポイント阻害剤などの新しい治療法や支持療法の開発が現在急速に進んでおります。従来は治療ができないと考えられていた超高齢や様々な合併症のある患者さんや、さらに治療不応となっている患者さんにも治療を提供できる可能性があります。私たち呼吸器内科では最新の治療法を取り入れて常に患者さんに最新・最良の治療を提供するように努力しています。

悪性腫瘍の診療に置いては外科治療・放射線治療・化学療法の三本柱に加えて緩和医療が重要な位置を占めます。当院での肺癌診療は、呼吸器内科・外科はもとより放射線科、化学療法部、緩和ケア部と緊密な協力関係を保ちながら進めていますので、診断・治療から緩和ケアまで、患者さんに安心して治療を受けていただけます。また、肺癌については新たな治療への取り組みも重要ですあり、様々な臨床研究を行っております。

気道系疾患である喘息、慢性閉塞性肺疾患は特に有病率が高い疾患ですが、終生にわたって治療を続けていく必要性があり、当科では診断・治療導入やリハビリテーションなどの専門病院でないとできない診療を中心に、患者さんの負担を出来るだけ少なくするように地域の医療機関と連携して診療を行なっています。

呼吸器感染症は、ヒトの疾患の中でも最も重要な疾患の一つですが、当院では最近急増している非結核抗酸菌の患者数が多く、積極的に臨床・研究に取り組んでいます。

上記以外にも呼吸器には急性・慢性の呼吸不全、睡眠時無呼吸症候群、間質性肺疾患など重要な疾患が多数あります。それらの疾患をもつ患者さんに対しても常に最良の治療を提供できるように日々研鑽しながら診療に当たっています。

1. 呼吸器外科は、肺癌をはじめとする胸部の腫瘍(肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍)や気胸を代表とする嚢胞性肺疾患に対して主に胸腔鏡を用いた手術を行っております。
2. 膿胸などの炎症性疾患に対しても積極的な外科治療(局所麻酔下胸腔鏡を含む)を行っています。
3. 気道狭窄に対するステント留置やレーザー焼灼術などの気管支鏡下手術も行っています。
4. 漏斗胸に対する矯正術(Nuss法)も行います。

□ 主な対象疾患

肺癌　転移性肺腫瘍　縦隔腫瘍　中皮腫　胸腺腫　胸壁腫瘍　気胸　肺嚢胞症　気道狭窄　漏斗胸　膿胸
慢性閉塞性肺疾患　気管支喘息　慢性・急性呼吸不全、呼吸器感染症（肺炎・非結核性抗酸菌症・結核）
びまん性肺疾患（間質性肺炎、サルコイドーシス、好酸球性肺炎、膠原病に伴う間質性肺炎など）
睡眠時無呼吸症候群　HIV感染症

□ 診療（業務）内容

呼吸器内科の外来診察日は月曜から金曜まで毎日新患外来を含めて3外来を行なっています。
呼吸器外科の外来診察日は月、火、木、金曜日で、手術は水、金曜日に行っています。
睡眠時無呼吸症候群の専門外来は毎週水曜日です。完全紹介制としております。初めての方は紹介元の施設で予約を取得して頂きますよう、よろしくお願い致します。
気管支鏡検査、CTガイド下生検検査は原則として１泊の入院で行なっています。
それぞれ月・火・木と火・木曜日の午後に行っています。

□ 診療実績(平成27年度)

呼吸器内科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
45名	1,166名	14日

呼吸器内科外来患者数

1日平均患者数
65名

呼吸器外科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
9名	219名	14日

呼吸器外科外来患者数

1日平均患者数
11名

主な手術・検査の件数など

手術(全身麻酔)	肺癌手術(診断含)	気管支鏡検査	局所麻酔下胸腔鏡検査	CTガイド下肺生検
156件	80件	299件	7件	32件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
呼 吸 器 内 科	
国内学会	藤田浩平　当院でのafatinibの使用症例の検討　呼吸器学会総会　2015.4.17
国内学会	金井修　EBUS-TBNAはサルコイドーシスの診断においてTBLBよりも高い正診率を有する 呼吸器内視鏡学会学術集会　2015.6.12
国内学会	金井修　当院における先端巨大症患者に対する睡眠時無呼吸症候群の精査の現状 日本睡眠学会学術集会　2015.7.2
国内学会	藤田浩平　膿胸との鑑別が困難であった肉腫型悪性胸膜中皮腫の1例　呼吸器学会近畿地方会（夏）　2015.7.11
国内学会	金井修　カルボプラチン、パクリタキセルが奏功した上皮型悪性胸膜中皮腫の1例　呼吸器学会近畿地方会(夏) 2015.7.11
国内学会	宗宮、藤田浩平　分子標的薬治療経過中に胸水細胞診で小細胞癌への転化が判明した肺腺癌の1例　呼吸器学会近畿地方会（冬）　2015.12.19
国内学会	有田創、金井修　び漫性間質性陰影を呈した肺腺癌の1例　呼吸器学会近畿地方会（冬）　2015.12.19
研究会発表	藤田浩平　肺炎球菌ワクチンの話題　伏見医師会　2015.1
研究会発表	藤田浩平　気管支喘息と感染症　2015.9.18
呼 吸 器 外 科	
国内学会	岡本圭伍,賀来良輔, 元石充, 澤井聡 Porphyromonas gingivalisc-fos肺膿瘍の1切除例 第32回日本呼吸器外科学会総会 2015.5.14 高松
国内学会	賀来良輔、岡本圭伍, 元石充, 澤井聡 腹膜透析中のダウン症患者に発症した横隔膜交通症の一手術例 第32回日本呼吸器外科学会総会 2015.5.15 高松
国内学会	元石充、岡本圭伍, 賀来良輔, 澤井聡, 大塩麻友美 肺および胸腺カルチノイドを合併した多発性内分泌腫瘍症1型の1例 第32回日本呼吸器外科学会総会 2015.5.15 高松
国内学会	片岡瑛子、大塩麻友美, 堀本かんな, 白鳥琢也, 林一喜, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 橋本雅之, 寺本晃治, 手塚則明, 花岡淳, 澤井聡 中葉低形成に発生したカルチノイドの1例 第32回日本呼吸器外科学会総会 2015.5.14 高松
国内学会	賀来良輔、岡本圭伍, 元石充, 澤井聡、金井修 気管支食道瘻に対して食道ステント留置により経口摂取および自宅退院可能であった一例 第38回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 2015.6.11 東京
国内学会	賀来良輔、岡本圭伍, 元石充, 澤井聡、花岡淳、寺本晃治 非小細胞肺癌に対して根治手術を施行した50歳未満の女性の臨床病理学的特徴について 第68回日本胸部外科学会定期学術集会 2015.10.19 神戸
研究会	岡本圭吾、賀来良輔, 元石充, 澤井聡 感染性肺嚢胞に合併した粘液性腺癌の1例 第197回近畿外科学会 2015.5.9 京都
研究会	澤井聡、林喜一、賀来良輔、元石充 iDrive TM ウルトラの使用経験 第33回近畿胸腔鏡研究会 2015.8.22 大阪

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著 者 ・ タ イ ト ル
呼 吸 器 内 科	
BMJ Case Reports	Fujita K,　Patients with lung adenocarcinoma manifesting as an unusual migratory pulmonary infiltration　2015.7
Clinical Case Reports	Fujita K,　Rapidly progressive sarcomatoid malignant mesothelioma of the pleura mimicking pulmonary empyema　2015.9
呼 吸 器 外 科	
SpringerOpen Journal	Keigo Okamoto,Makoto Motoishi、Ryosuke Kaku、Satoru Sawai、Jun Hanaoka　A surgical case of eosinophilic angiocentric fibrosis of the lung　2015.7；1(52):1-4
日本呼吸器外科学会雑誌	元石充,岡本圭伍、賀来良輔、澤井聡 孤立性小結節を呈した肺原発diffuse large B-cell lymphomaの1例　2015.3;28(1):85-90
日本呼吸器外科学会雑誌	片岡瑛子,岡本圭伍、大塩麻友美、元石充、花岡淳、澤井聡　広範な壊死を認めた胸腺腫の1例 2015.7;29(5):627-631

消化器内科



診療科長
部長
（医事管理担当）
勝島　慎二

専門医資格等　日本消化器病学会消化器病専門医・指導医・同評議員
日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医・同評議員
日本医学放射線学会放射線科診断専門医
日本肝臓学会肝臓専門医・同西部会評議員
日本内科学会認定内科医　同近畿支部評議員
日本がん治療認定医機構がん治療暫定教育医・認定医
日本消化器がん検診学会胃認定医
京都大学医学博士

専門分野　消化器内科全般

得意疾患　肝疾患
炎症性腸疾患

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医長 副健診センター長	島　伸子	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本内科学会認定内科医 日本ヘリコバクター学会H.pylori(ピロリ菌)感染症認定医	消化器内科全般	消化器内科疾患全般
医長	水本　吉則	日本消化器病学会消化器病専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医　同評議員 日本内科学会総合内科専門医	消化器内科全般	消化管・胆・膵の内視鏡検査・治療全般、炎症性腸疾患
医師	笠原　勝宏	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本内科学会認定内科医 日本プライマリ・ケア連合会プライマリ・ケア認定医	消化器内科全般	消化管・内視鏡検査・治療全般
医師	岩本　諭	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本肝臓学会肝臓専門医 日本内科学会認定内科医 京都大学医学博士	消化器内科全般	消化管・内視鏡検査・治療全般
医師	江坂　直樹	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本内科学会認定内科医	消化器内科全般	ESD、小腸内視鏡、食道胃静脈瘤治療、緩和医療、PEG
医師	太田　義之	日本内科学会認定内科医	消化器内科全般	消化管疾患
医師	熊谷　健	日本内科学会認定内科医	消化器内科全般	消化管疾患
専修医	下釜　翼	日本内科学会認定内科医	消化器内科全般	消化管疾患
専修医	中野　重治	日本内科学会認定内科医	消化器内科全般	消化管疾患
レジデント	筑後　孝紀		消化器内科全般	消化管疾患
非常勤医師	前川　高天	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医 日本内科学会認定内科医 日本ヘリコバクター学会H.pylori(ピロリ菌)感染症認定医 京都府医師会消化器がん検診委員会委員長 京都大学医学博士	上部消化管内視鏡	H.pylori(ピロリ菌)関連疾患

非常勤医師	米田　俊貴	日本消化器病学会消化器病専門医 日本肝臓学会肝臓専門医・同西部会評議員 日本内科学会総合内科専門医・指導医 京都大学医学博士	消化器内科全般	肝疾患
非常勤医師	遠藤　文司	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・同近畿支部評議員 日本肝臓学会肝臓専門医 日本内科学会認定内科医 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 日本医師会認定産業医 ICD協議会認定インフェクションコントロールドクター 臨床研修指導医	消化器内科全般	胆道・膵疾患検査治療
非常勤医師	見島　裕之	日本内科学会認定内科医	消化器内科全般	消化管・内視鏡検査・治療

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設

1. 三次救急病院の消化器内科として、緊急内視鏡検査(ERCP含む)治療・PTCDなどに24時間対応
2. 地域がん診療連携拠点病院の消化器内科として消化器癌全般の診断と早期癌の内視鏡的あるいは経皮的治療に全て対応
3. 地域医療支援病院の消化器内科として紹介による内視鏡検査の実施、PEG/PTEGの造設・管理に対応
4. 炎症性腸疾患の専門診療を実施
5. 多数の慢性肝疾患症例を専門的に診療
6. 潰瘍性大腸炎、クローン病、神経内分泌腫瘍に対する治験Phase Ⅲを実施

□ 主な対象疾患

消化器癌全般(食道、胃、大腸、肝臓、膵臓、胆嚢、胆管系)
炎症性腸疾患(クローン病、潰瘍性大腸炎)
急性および慢性肝疾患(ウイルス性、自己免疫性)
肝硬変
ヘリコバクター感染症関連疾患（消化性潰瘍、ＭＡＬＴ）

□ 診療（業務）内容

消化器内科一般外来および肝臓専門外来
上部消化管、下部消化管内視鏡検査および治療
ERCPおよびERCP関連治療
PTCおよびPTC関連治療
EUSおよびEUS-FNA、Interventional EUS
消化管・胆膵系ステント留置
小腸内視鏡(カプセルおよびバルーン内視鏡)
炎症性腸疾患に対する免疫療法(免疫調節剤、生物学的製剤)
ウイルス性肝炎に対する抗ウイルス療法(内服薬、インターフェロン)
肝癌に対する経皮的治療
セカンドオピニオン外来
内視鏡技師の育成
治験Phase Ⅱ および Ⅲ

□ 診療実績(平成27年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
53名	1,313名	15日

外来患者数

1日平均患者数
134名

主な手術・検査の件数など

上部消化管内視鏡検査	下部消化管内視鏡検査	ERCP	食道・胃ESD	大腸ESD	肝癌ラジオ波焼灼術
5,855件	3,036件	542件	146件	52件	52件

□ 地域医療連携・広報活動

＜開催研究会等＞

・第7回深草消化器医療連携の会　2015/9/3 京都医療センター

＜講演・パネリストなど＞

演者	演題	講演会名
前川高天	理想的なH.pylori除菌療法を求めて	タケキャブ公開web講演会2015/7/9
遠藤文司	PPIの適正使用について	第7回深草消化器医療連携の会2015/9/3
江坂直樹	Collagenous colitis(CC)の1例	第7回深草消化器医療連携の会2015/9/3
勝島慎二	C型肝炎診療Up to date	第7回深草消化器医療連携の会2015/9/3
前川高天	『H.Pylori感染症と胃癌』～胃癌による死亡者数を減少させるために～	宇治久世医師会学術講演会2015/9/12
江坂直樹	薬剤起因性の消化管出血について	循環器・消化器ジョイントフォーラム～抗血栓療法をめぐるイベント管理2016/2/18

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者	演　題	学会名
国内学会	井本勉, 金守良, 田中靖人, 飯尾悦子, 矢野嘉彦, 榎本大, 米田俊貴, 勝島慎二, 福永豊和, 堀江裕, 廣畑成也, 尹聖哲, 鄭浩柄, 國立裕之	散発性急性C型肝炎例の転帰及び治療効果に関連した諸因子の検討	第51回日本肝臓学会総会 2015.05.22　熊本
国際学会	Naoki Esaka,Bunji Endo,Osamu Fukuda, Yoshinori Mizumoto,Shinji Katsushima, Nobuaki Shime	Appropriate Empiric Antibiotic Therapy of Community-Acquired and Healthcare-associated Biliary Tract Infection.	DDW2015 (Digestive Disease Week) 2015.05.16 Washington,D.C.,USA
国内学会	水本吉則, 遠藤文司, 勝島慎二	タブレット端末を使用した画像キャプチャ機能付き音声認識所見入力システムの構築	第89回日本消化器内視鏡学会総会 2015.05.31 名古屋
国内学会	水本吉則, 江坂直樹, 勝島慎二	放射線治療後の食道ステントの適応の可否	第89回日本消化器内視鏡学会総会 2015.05.31 名古屋
国内学会	遠藤文司, 志馬伸朗	市中・医療関連胆道感染症に対する経験的抗菌薬治療の選択	第63回日本化学療法学会総会 2015.06.05 東京
国内学会	志馬伸朗, 遠藤文司	救命救急センターにおけるantimicrobial stewardshipをすすめるための工夫	第63回日本化学療法学会総会 2015.06.05 東京
国内学会地方会	楠本聖典, 濱田暁彦, 水本吉則	超高齢者（85歳以上）の総胆管結石治療5-10mmの結石に対するEST VS EPLBDの有効性と安全性の検討	日本消化器内視鏡学会近畿支部第94回支部例会 2015.06.20 大阪
国内学会地方会	太田義之, 水本吉則, 勝島慎二	当院での側方発育型腫瘍（LST)の現状	日本消化器内視鏡学会近畿支部第94回支部例会 2015.06.20 大阪
国内学会地方会	岩本諭, 水本吉則, 勝島慎二	当院における総胆管結石に対するEPLBDの治療成績	日本消化器内視鏡学会近畿支部第94回支部例会 2015.06.20 大阪
国内学会地方会	岩本諭, 米田俊貴, 勝島慎二	全例SVRを目指した第一世代IFN-free therapyの導入基準	日本消化器病学会近畿支部第103回例会 2015.09.26 大阪
国内学会	勝島慎二, 米田俊貴, 中野重治, 下釜翼, 熊谷健, 太田義之, 江坂直樹, 遠藤文司, 岩本諭, 笠原勝宏, 島伸子, 水本吉則	76歳以上のC型肝炎例におけるIFN-free therapy	JDDW2015TOKYO （第57回日本消化器病学会大会） 2015.10.08 東京

国内学会	遠藤文司, 中野重治, 下釜翼, 熊谷健, 江坂直樹, 太田義之, 岩本諭, 笠原勝宏, 米田俊貴, 水本吉則, 勝島慎二	胆道感染症に対する初期経験的抗菌薬の適切な選択に寄与する因子の検討	JDDW2015TOKYO（第57回日本消化器病学会大会）2015.10.08 東京
国内学会	勝島慎二, 米田俊貴, 小畑達郎, 中野重治, 下釜翼, 熊谷健, 太田義之, 江坂直樹, 遠藤文司, 岩本諭, 笠原勝宏, 島伸子, 水本吉則	後期高齢者C型肝炎における抗ウイルス療法の選択	JDDW2015TOKYO（第19回日本肝臓学会大会）2015.10.08 東京
国内学会	勝島慎二, 米田俊貴, 中野重治, 下釜翼, 熊谷健, 太田義之, 江坂直樹, 遠藤文司, 岩本諭, 笠原勝宏, 島伸子, 水本吉則	全例SVRを目指した第一世代INF-free therapyの導入基準	JDDW2015TOKYO（第19回日本肝臓学会大会）2015.10.08 東京
国際学会	Yumi Matsumura,Etsuro Hatano,Yosuke Yamamoto,Shinji Katsushima,Makoto Ueno,Hiroaki Nagano,Takanori Sakaguchi,Shoji Kubo Hidemasa Azechi,Hideaki Takahashi,Atsushi Sugioka, Tatsuya Iokap.	Randomized double-blind controlled trial of the pre-emptive steroid treatment on Hand-foot skin reaction with sorafenib(PRESSO).	第53回日本癌治療学会学術集会（3rd International Conference of Federation of Asian Clinical Oncology）2015.10.29 Kyoto,Japan
国内学会地方会	江坂直樹, 水本吉則, 勝島慎二	当院における内視鏡診療時のヘパリンブリッジの現状	日本消化器内視鏡学会近畿支部第95回支部例会 2015.11.07 大阪
国内学会地方会	笠原勝宏, 遠藤文司, 岩本諭	Whipple病の一例	日本消化器内視鏡学会近畿支部第95回支部例会 2015.11.07 大阪
国内学会地方会	下釜翼, 遠藤文司, 水本吉則, 筑後孝紀, 中野重治, 熊谷健, 太田義之, 江坂直樹, 岩本諭, 笠原勝宏, 米田俊貴, 島伸子, 勝島慎二	大口径金属ショートステントを用いた内視鏡的ネクロセクトミーにて治癒しえた壊死性膵炎の一例	日本消化器病学会近畿支部第104回例会 2016.02.06 大阪
国内学会地方会	筑後孝紀, 水本吉則, 中野重治, 下釜翼, 熊谷健, 太田義之, 遠藤文司, 江坂直樹, 岩本諭, 笠原勝宏, 勝島慎二, 濱田暁彦	良性リンパ濾胞性ポリープの一例	日本消化器病学会近畿支部第104回例会 2016.02.06 大阪
研究会発表	筑後孝紀, 中野重治, 下釜翼, 熊谷健, 太田義之, 遠藤文司, 江坂直樹, 岩本諭, 笠原勝宏, 水本吉則, 米田俊貴, 勝島慎二, 孫瑜	診断に難渋した肝障害の一例	第38回京大消化器内科関連病院研究会 2015.06.06 天理
研究会発表	山口史隆	若年男性の膵腫瘤の一例	第127回総合画像診断症例検討会 2015.08.01 京都
研究会発表	筑後孝紀, 水本吉則, 中野重治, 下釜翼, 熊谷健, 太田義之, 遠藤文司, 江坂直樹, 岩本諭, 笠原勝宏, 勝島慎二	直腸腫瘍の１例	第12回京都大腸内視鏡研究会 2015.09.25 京都
研究会発表	勝島慎二, 米田俊貴, 小畑達郎	後期高齢者C型肝炎における抗ウイルス療法の選択	第19回R24肝臓カンファレンス 2015.09.26 奈良
研究会発表	角田圭雄, 小畑達郎, 勝島慎二, 田中斉祐, 川崎俊彦	C型代償性肝硬変症例に対するペガシス/コペガス併用療法の有効性・安全性の検討－R24肝臓カンファレンス多施設共同試験－	第19回R24肝臓カンファレンス 2015.09.26 奈良
研究会発表	熊谷健	大腸の１例	第116回京都胃腸勉強会 2015.10.16 京都
研究会発表	遠藤文司	胆道感染症に対する抗菌薬治療	京阪奈胆膵診療フォーラム 2016.01.16 京都
研究会発表	勝島慎二	C型肝炎合併細胞癌根治後にSVRを得る意義についての検討	平成27年度第２回国立病院機構共同臨床研究、第２回厚生労働科学研究費補助金合同班会議 2016.02.05 大村

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
敗血症性ショックの診療戦略エキスパートの実践 2015;112-120.	遠藤文司, 志馬伸 第2章敗血症性ショックの治療1（7.京都医療センターでは）
International Journal of Surgery Case Reports 2015;12:123-127.	Masato Narita,Bunji Endo,Yoshinori Mizumoto,Ryo Matsusue,Hiroaki Hata,Takashi Yamaguchi,Tetsushi Otani Iwao Ikai. Multicentric recurrence of intraductal papillary neoplasms of bile duct in the remnant intrahepatic bile duct after curative resection.
レジデント 2015;8:78-84.	遠藤文司 特集 ICUにおける抗菌薬処方～こうすれば上手く使える（10.de-escalation）
消化器外科 2015;38:1785-1796.	水本吉則, 筑後孝紀, 中野重治, 下釜翼, 熊谷健, 太田義之, 遠藤文司, 江坂直樹, 岩本諭, 笠原勝宏, 勝島慎二 特集 外科医が知っておきたい緩和ケア緩和的処置（1）消化管閉塞に対する内科的アプローチ）
京都消化器医会会報 2015;31:29-32.	下釜翼, 水本吉則, 勝島慎二 大腸隆起性病変の一例

循環器内科



部長
診療科長
赤尾　昌治

専門医資格等　日本循環器学会認定循環器専門医、代議員（社員）、
近畿支部評議員
日本内科学会認定内科医、指導医、近畿支部評議員
日本不整脈心電学会評議員
日本心血管脳卒中学会評議員
京都大学臨床教授、非常勤講師

専 門 分 野　心房細動、不整脈、臨床疫学、医学教育

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医長 カテ室チーフ 医療安全 管理副部長	阿部　　充	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本心血管インターベンション治療学会専門医、指導医、代議員	心臓カテーテル検査・治療、造影剤腎症、医学統計	
医　　長 CCUチーフ	益永　信豊	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医 日本心血管インターベンション治療学会認定医	冠動脈カテーテル治療、末梢動脈カテーテル治療、大動脈ステントグラフト治療	
医　　師 不整脈チーフ	小川　　尚	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	不整脈、電気生理、カテーテルアブレーション治療、デバイス治療	
医　　師	井口　守丈	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	心不全、循環器領域の画像診断	
医　　師	石井　　充	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医 日本心血管インターベンション治療学会認定医	狭心症・心筋梗塞・閉塞性動脈硬化症などのインターベンション、循環器全般	
医　　師	安　珍守	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医 日本不整脈心電学会　認定不整脈専門医 日本心血管インターベンション治療学会認定医	不整脈、カテーテルアブレーション治療、デバイス治療	
医　　師	鵜木　　崇	日本内科学会認定内科医 日本救急医学会専門医	心臓救急、心肺停止蘇生、低体温療法、虚血性心疾患	
医　　師	髙木　大輔		循環器一般	
医　　師	手塚　祐司	日本内科学会認定内科医	循環器一般	
展開医療研究部部長	長谷川浩二	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医専門医 アメリカ心臓協会専門医（FAHA） アメリカ心臓病学会専門医（FACC） 日本禁煙科学会認定　禁煙支援医	心不全、虚血性心疾患、心血管危険因子管理・特に禁煙指導、心血管展開医療研究	
展開医療研究部室長	和田　啓道	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	循環器学、リスクファクター管理、予防医学	
医　　長	中島　康代	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医 総合内科専門医・指導医	循環器一般、心臓リハビリテーション	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本循環器学会認定循環器研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定教育施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設

診療科モットー:「地域、世界、そして将来に貢献する循環器内科」
1.「地域」:命を守る責任感をもって、信頼される地域医療を提供すること
2.「世界」:より良い医療を探求する情熱を持ち、世界に向けて情報発信すること
3.「将来」:指導者として人を教え育て、学習者として人から学び成長すること

「地域」は診療、「世界」は研究、「将来」は教育をあらわしています。診療・研究・教育の3本柱は、それぞれが互いを刺激して高めあう関係にあります。この3本柱がバランス良くしかも高いレベルで達成されていること、これが我々の診療科の目指す姿であり、また課せられた使命であると考えています。

□ 主な対象疾患

虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)
不整脈
心不全、心原性ショック
心筋症、心筋炎
心臓弁膜症
感染性心内膜炎
心膜疾患、心タンポナーデ
高血圧
大動脈瘤、大動脈解離
閉塞性動脈硬化症
静脈血栓症
肺塞栓症

□ 診療(業務)内容

心臓、血管系の疾病全般を扱っています。専門性に偏ることなく、バランスの取れた診療を行っていくよう、常に心がけています。
2014年9月8日に、心臓カテーテル検査室が移転、新装オープンし、「心血管治療センター」として稼働を開始しました。「心血管治療センター」では、冠動脈疾患や末梢動脈疾患に対するカテーテル検査・治療、不整脈疾患に対する電気生理検査・アブレーション治療を行っています。最新鋭のレントゲン透視装置で鮮明な画像が得られるため、より正確な診断と、より確実な治療が行えます。放射線の被ばく量も減少させることができます。より安全で確実に、清潔で快適な環境で、患者さんに検査や治療を受けて頂けるよう、そしてさらにレベルの高い医療を提供して地域に貢献してまいる所存です。
当院は、三次救急病院として地域医療の最後の砦であるという自覚と責任感を持って、絶対に断らない医療を目標としています。医療関係者専用の当科医師への直通電話(循環器ホットライン:070-6506-7304)を設けています。24時間365日、緊急症例、診療のご相談、なんでも気軽にお電話下さい。重症度や緊急度によりましては、当科ドクターカーを派遣することも可能です。
高齢化の進むわが国において、心疾患の終末像ともいえる心不全患者が増加の一途を辿っています。心不全の治療には、薬物療法だけでなく、食事療法、心臓リハビリなどの運動療法、訪問介護・看護などを含めた生活の支援も重要になります。当科では、心臓リハビリスタッフ、看護師、栄養士、薬剤師、ソーシャルワーカー、医師を中心に、心不全チーム医療を充実させ、多職種介入による包括的管理に力を入れています。
また、当科ではつねに多くの臨床研究や、新しい薬剤や医療機器の治験をおこなっており、より有効性・安全性の高い医療を求めて積極的に研究活動を行っています。とくに、当科が中心となって2011年より開始した「伏見心房細動患者登録研究(伏見AFレジストリ)」は、日本の実臨床の現場における心房細動患者の実態を反映するデータとして全国の注目を集めており、その成果を国内や国外の一流学会や論文に発表しております。

□ 診療実績(平成27年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
26名	1,120名	9日

1日平均患者数
70名

主な手術・検査の件数など

冠動脈カテーテル治療	冠動脈カテーテル検査	下肢動脈カテーテル治療	カテーテルアブレーション
295件	656件	43件	51件

ペースメーカー植込
38件

□ 地域医療連携・広報活動

第8回伏見心血管病勉強会「ポリファーマシー」　平成27年10月1日
第2回伏見AFネットワークミーティング　平成27年3月21日

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

学　会　名	演　　題	演　　者
THE 24th ANNUAL SCIENTIFIC MEETING of THE INDONESIAN HEART ASSOCIATION Jakarta, Indonesia 2015.4.10	State of The Art:The Rule of Molecular Biology in Cardiology	Tatsuya Morimoto
THE 24th ANNUAL SCIENTIFIC MEETING of THE INDONESIAN HEART ASSOCIATION Jakarta, Indonesia 2015.4.10	Updates in management of diastolic left vantricular failure:Recent Complimentary Evidence	Tatsuya Morimoto
20th Asian Pacific Society of Cardiology Congress Abu Dhabi, UAE 2015.04.29　他6件	The Effects of Weight Gain after Smoking Cessation on an Atherogenic Low-Density Lipoprotein	Maki Komiyama, Hiromichi Wada, Shuichi Ura, Hajime Yamakage, Noriko Satoh-Asahara, Sayaka Shimada, Akira Shimatsu, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa
12th Asian Congress of Nutrition 神奈川 2015.5.14	Amorphous Curcumin Dispersions Has a High Absorption Potency in Human -A Double Blind, Randomized, 4-Way Crossover Study-	Nobuko Okamura,Yoichi Sunagawa,Yasufumi Katanasaka,Hiromichi Wada,Atsushi Imaizumi, Tadashi Hashimoto, Akira Shimatsu, Hideaki Kakeya,Koji Hasegawa,Tatsuya Morimoto
19th Annual Scientific Meeting of the ISCP Buenos Aires, Argentina 2015.06.25　他4件	Are Endothelial Markers useful for Drug Selection in ACS?	Koji Hasegawa
European Society of Cardiology Congress 2015 London, UK. 2015.08.29　他10件	Association of hypertension with the incidence of adverse events in patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry.	Mitsuru Ishii, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Moritake Iguchi, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji, Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
AHA Scientific Sessions 2015 Orlando, USA 2015.11.07　他7件	Left atrial enlargement is an independent risk factor of stroke or systemic embolism in atrial fibrillation patients: The Fushimi AF registry.	Yasuhiro Hamatani, Daisuke Takagi, Hisashi Ogawa, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
プラザキサ全国学術講演会 東京 2015.04.04	日本の抗凝固療法の実態はなにを伝えているか〜Fushimi AF Registryから見えてくる課題	赤尾　昌治
第3回 Stroke Expert Meeting in 千葉 幕張 2015.4.8	循環器専門医から見た伏見AFレジストリ	阿部　充
プラザキサWeb講演会 京都 2015.04.07	クレアチニンクリアランスからNOAC適正使用を考える	赤尾　昌治
第29回日本医学会総会2015関西 京都 2015.04.11　他1件	職域における禁煙推進―産業医としての務め	長谷川浩二、高橋裕子
エリキュースinternet講演会 京都 2015.04.16	ニッポンにおける抗凝固療法の現状と課題〜Fushimi AF レジストリから考える	赤尾　昌治
第27回三重不整脈研究会 津市 2015.04.17	伏見AFレジストリから見た、日本の実臨床の現場における心房細動の疫学	赤尾　昌治
第79回日本循環器病学会学術集会総会 大阪 2015.04.24　他41件	Antithrombotic Therapies and Clinical Outcomes of Patients with Atrial Fibrillation and History of Coronary Intervention: From the Fushimi AF Registry	Mitsuru Abe, Takashi Unoki, Mitsuru Ishii, Nobutoyo Masunaga, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao.
第79回日本循環器病学会学術集会ランチョンセミナー16 大阪 2015.04.24	クレアチニンクリアランスからNOAC適正使用を考える	赤尾　昌治
第79回日本循環器病学会学術集会ランチョンセミナー54 大阪 2015.04.24	NOAC前夜、そして登場後の抗凝固療法〜伏見AFレジストリからの考察	赤尾　昌治
エリキュース座談会 大阪 2015.04.24	日本における高齢心房細動患者の合併症を踏まえた抗凝固療法を考える	赤尾　昌治
Meet The Specialist 川崎 2015.5.8	脳梗塞、地域で防ぐ!伏見AFレジストリを介した心房細動の医療連携	阿部充
リアルワールドのクロストーク 札幌 2015.05.19	CHADS2スコアを疑え!〜伏見AFレジストリから見た日本人の脳卒中リスク因子	赤尾　昌治
西濃抗血栓療法カンファレンス2015 大垣市（岐阜県） 2015.05.21	伏見AFレジストリの最新知見〜超ハイリスク患者の抗凝固をどうするか	赤尾　昌治
臨床高血圧フォーラム 福岡 2015.05.23	心房細動治療におけるβ遮断薬の役割〜伏見AFレジストリからの考察	赤尾　昌治
第四回　禁煙治療研究会 京都 2015.05.24　他3件	外国人から見たわが国の受動喫煙状況　東京オリンピック・パラリンピック成功に向けて	尾崎裕香、高橋裕子、小見山麻紀、飯田 真美、、大和　浩、藤原久義、長谷川浩二

千葉県イグザレルト錠発売3周年記念講演会 幕張 2015.05.28	伏見AFレジストリの最新知見～超ハイリスク患者の抗凝固をどうするか	赤尾　昌治
第15回日本抗加齢医学会総会 福岡 2015.05.29　他5件	慢性閉塞性肺疾患、心血管炎症と高吸収クルクミン	長谷川　浩二
Tokyo Heart & Brain Joint Forum 東京 2015.06.01	CHADS2スコアを疑え!～伏見AFレジストリから見た日本人の脳卒中リスク因子	赤尾　昌治
第177回YOKOHAMA CARDIAC SEMINAR 横浜 2015.6.3	造影剤腎症 恐るるに足らず	阿部　充
心房細動治療戦略研究会 岡崎市（愛知県） 2015.06.04	脳梗塞、地域で防げ!～伏見AFレジストリを介した心房細動の医療連携	赤尾　昌治
J-ISCP学術集会ラウンドテーブルディスカッション 京都 2015.06.20	疫学調査から抗凝固療法の実態を学ぶ	赤尾　昌治
第1回J-ISCP学術集会 京都 2015.06.20 他23件	体細胞からiPS細胞への初期化の分子機構の解明	川村　晃久
第2回K-PCIカンファレンス 大阪 2015.6.26	胸部動脈瘤術前に冠動脈造影を施行し興味深い所見が得られた一例	阿部　充
日本循環器学会九州地方会ランチョンセミナー 福岡 2015.06.27	超ハイリスクAF患者の 抗凝固、どうしますか？～伏見AFレジストリからの考察	赤尾　昌治
エリキュース発売2周年記念講演会@静岡 静岡市 2015.06.30	CHADS2スコアを疑え!～伏見AFレジストリから見た日本人の脳卒中リスク因子	赤尾　昌治
Meet The Specialist 京都 2015.7.3	伏見AFレジストリから見えてくる、抗血栓療法の現状と問題点	阿部　充
Catheter Intervention Summer Seminar 2015 京都 2015.7.4	高度石灰化のためPCIに難渋したCABG後のCTO症例	阿部　充
第61回　日本薬学会東海支部大会 愛知 2015.7.4　他4件	PRMT5/MEP50メチル化複合体による心筋細胞肥大制御機構の解析	刀坂泰史、中田淳也、宮崎雄輔、砂川陽一、鈴木秀敏、和田啓道、長谷川浩二、森本達也
クレアチニンクリアランスからNOAC適正使用を考える 姫路市 2015.07.11	クレアチニンクリアランスからNOAC適正使用を考える	赤尾　昌治
沖縄中部地区Network Meeting 宜野湾市 2015.07.16	CHADS2スコアを疑え!～伏見AFレジストリから見た日本人の脳卒中リスク因子	赤尾　昌治
第63回東海血栓症研究会 名古屋市 2015.07.17	伏見AFレジストリの最新知見～超ハイリスク患者の抗凝固をどうするか	赤尾　昌治
SAKAI抗凝固講演会2015 大阪 2015.07.18	脳梗塞、地域で防げ!～伏見AFレジストリを介した心房細動の医療連携	赤尾　昌治
Meet the Expert in Thrombosis 2015 埼玉 2015.07.21	CHADS2スコアを疑え!～伏見AFレジストリから見た日本人の脳卒中リスク因子	赤尾　昌治
久留米内科医会学術講演会 久留米 2015.7.21	脳梗塞、地域で防ぐ!伏見AFレジストリを介した心房細動の医療連携	阿部　充
ラジオNIKKEI心臓財団心疾患セミナー 大阪 2015.07.25	実地医家からみた心房細動治療	赤尾　昌治
日本不整脈学会・日本心電学会合同学術集会, 京都 2015.07.28	Digitalis is Not Associated with an Increased Risk of Mortality in Japanese Patients with Atrial Fibrillation: From The Fushimi AF Registry.	Hisashi Ogawa, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
第24回日本心血管　インターベンション治療学会学術集会 福岡 2015.07.30	Antithrombotic therapy in atrial fibrillation patients with percutaneous coronary intervention: The Fushimi AF registry.	Nobutoyo Masunaga, Hisashi Ogawa, Moritake Iguchi, Mitsuru Ishii, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji, Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
CVIT 福岡 2015.7.31	「AF合併PCI患者の抗血栓療法」:PCI歴を有するAF患者の抗血栓療法と予後：伏見AFレジストリより	阿部　充
京都府医師会学術講演会 京都 2015.08.08	CHADS2スコアを疑え!～伏見AFレジストリから見た日本人の脳卒中リスク因子	赤尾　昌治
心房細動フォーラム in 仙台 仙台 2015.08.20	CHADS2スコアを疑え!～伏見AFレジストリから見た日本人の脳卒中リスク因子	赤尾　昌治
甲府地区Network Meeting 甲府市 2015.08.21	CHADS2スコアを疑え!～伏見AFレジストリから見た日本人の脳卒中リスク因子	赤尾　昌治
第5回阪神不整脈の会 伊丹市 2015.08.22	脳梗塞、地域で防げ!～伏見AFレジストリを介した心房細動の医療連携	赤尾　昌治
心房細動のTotal Management 大阪 2015.09.05	発作性と慢性心房細動、塞栓症リスクは同等か～伏見AFレジストリからの考察	赤尾　昌治
奈良AF病診合同カンファレンス 奈良 2015.09.12	伏見AFレジストリの最新知見～超ハイリスクAF患者の抗凝固をどうするか	赤尾　昌治
三重中央地区Network Meeting 津市 2015.09.18	発作性と慢性心房細動、塞栓症リスクは同等か～伏見AFレジストリからの考察	赤尾　昌治
日本心臓病学会学術集会　実地医家セッション　シンポジウムI 横浜 2015.09.20	実地医家が参加するレジストリから診療の実態を学ぶ	赤尾　昌治
射水市医師会学術講演会 富山 2015.09.24	伏見AFレジストリの最新知見～超ハイリスクAF患者の抗凝固をどうするか	赤尾　昌治
Meet the Expert in Osaka 大阪 2015.09.26	CHADS2スコアを疑え!～伏見AFレジストリから見た日本人の脳卒中リスク因子	赤尾　昌治
第109回春日部循環器懇話会 埼玉 2015.10.02	超ハイリスクAF患者の 抗凝固、どうしますか？～伏見AFレジストリからの考察	赤尾　昌治
第227回彦根循環器談話会 滋賀 2015.10.03	超ハイリスクAF患者の 抗凝固、どうしますか？～伏見AFレジストリからの考察	赤尾　昌治
山口市Network Meeting 山口 2015.10.6	脳梗塞、地域で防ぐ!伏見AFレジストリを介した心房細動の医療連携	阿部　充
第166回浜松循環器研究会 浜松市 2015.10.08	CHADS2スコアを疑え!～伏見AFレジストリから見た日本人の脳卒中リスク因子	赤尾　昌治

山科Network Meeting 京都 2015.10.10	CHADS2スコアを疑え!～伏見AFレジストリから見た日本人の脳卒中リスク因子	赤尾　昌治
北海道PCIカンファレンス 札幌 2015.10.10	造影剤腎症 恐るるに足らず	阿部　充
第52回京滋奈良Interventional Cardiology研究会 京都 2015.10.17	大動脈解離を疑い治療方針に苦慮したSTEMIの２例	阿部　充
第64回日本農村医学会学術総会ランチョンセミナー 秋田 2015.10.22	脳梗塞、地域で防ぐ!～伏見AFレジストリから見た抗凝固療法の現状と病診連携～	阿部　充
第19回日本心不全学会学術集会 大阪 2015.10.22 他2件	A Natural Polymethoxy Flavonoid, Nobiletin, Prevents Pressure-overload Induced Cardiac Hypertrophy in Mice	Yoichi Sunagawa, Kehima Hieda, Ryoga Sakurai, Shintaro　Ogawahara, Masafumi Funamoto, Yasufumi Katanasaka, Tomohiro Asakawa, Toshiyuki Kan, Akira Murakami, Hiromichi Wada, Tadashi Hashimoto, Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto
第19回日本心不全学会学術集会　ランチョンセミナー14 大阪 2015.10.22	心房細動患者において、心不全は脳卒中リスクか?～伏見AFレジストリからの考察	赤尾　昌治
第19回日本心不全学会学術集会 大阪 2015.10.22　他1件	The impact of systolic heart failure on the incidence of stroke in AF patients: The Fushimi AF registry.	Moritake Iguchi, Hisashi Ogawa, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
呉抗血栓療法学術講演会　2015.10.23	CHADS2スコアを疑え!～伏見AFレジストリから見た日本人の脳卒中リスク因子	赤尾　昌治
Meet the Expert 東京 2015.10.24	発作性と慢性心房細動、塞栓症リスクは同等か～伏見AFレジストリからの考察	赤尾　昌治
第20回静岡健康・長寿学術フォーラムポスターセッション 静岡 2015.10.30　他7件	Highly Absorptive Curcumin Reduces Serum Levels of Atherosclerotic LDL in Mild COPD Subjects	Masafumi Funamoto, Shimizu Kana, Yoichi Sunagawa, Yasufumi Katanasaka, Yusuke Miyazaki, Atsushi Imaizumi, Hajime Yamakage, Noriko Satoh-Asahara, Akira Shimatsu, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto
β遮断薬の真のパラダイムシフト@高崎群馬 2015.10.30	心房細動治療におけるβ遮断薬の役割～伏見AFレジストリからの考察	赤尾　昌治
名古屋市南西地区Network Meeting 名古屋 2015.10.31	伏見AFレジストリの最新知見～超ハイリスク患者の抗凝固をどうするか	赤尾　昌治
中丹地区Network Meeting 福知山市 2015.11.05	伏見AFレジストリの最新知見～超ハイリスク患者の抗凝固をどうするか	赤尾　昌治
第10回日本禁煙科学会学術総会 横浜 2015.11.07 他10件	禁煙治療におけるコツと留意点：うつ状態評価と肥満・糖尿病	長谷川　浩二
日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会2015 愛知 2015.11.11　他17件	柑橘類果皮成分Nobiletinの慢性心不全モデルでの検討および標的因子の同定	稗田蛍火舞、砂川陽一、櫻井涼賀、小川原慎太郎、鈴木杏奈、刀坂泰史、和田啓道、村上明、橋本　正、島津　章、長谷川浩二、森本達也
京都府Care AF 講演会 京都 2015.11.14	日常診療における抗凝固療法の現状と課題:伏見AFレジストリから見えてきたこと	阿部　充
平成27年度一般財団法人糧食研究会一般公募研究成果豪国会 東京 2015.11.16	柑橘類果皮成分の心不全治療に関する研究	森本　達也
VI-Today 京都 2015.11.16	カテーテルインターベンション近未来 ESC,TCT2015からの洞察	阿部　充
NOAC meeting in 志太榛原 静岡 2015.11.19	CHADS2スコアを疑え!～伏見AFレジストリから見た日本人の脳卒中リスク因子	赤尾　昌治
第3回 Tango Cardiology Communication Forum 京都府宮津 2015.11.20	伏見AFレジストリから見えてくる、AF患者のPCI後の抗血栓療法	阿部　充
大阪CRCVカンファレンス 大阪 2015.11.26	CHADS2スコアを疑え!～伏見AFレジストリから見た日本人の脳卒中リスク因子	赤尾　昌治
第120回日本循環器学会近畿地方会 大阪 2015.11.28	喫煙の心疾患バイオマーカーに与える影響	長谷川　浩二
心房細動のトータルマネージメントの提案 岡山 2015.12.01	CHADS2スコアを疑え!～伏見AFレジストリから見た日本人の脳卒中リスク因子	赤尾　昌治
大津・湖西・甲賀Network Meeting 大津 2015.12.03	CHADS2スコアを疑え!～伏見AFレジストリから見た日本人の脳卒中リスク因子	赤尾　昌治
第32回　ISHR日本部会総会 兵庫 2015.12.10	MEP50 inhibites p300/GATA4-induced hypertrophic gene transcription by recruiting PRMT5 to p300	Yusuke Tsutsui, Yusuke Miyazaki, Yasufumi Katanasaka, Ryoga Sakurai, Yoichi Sunagawa, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto
第32回　ISHR日本部会総会 兵庫 2015.12.10	PRMT5 accelerates cardiac hypertrophy and the deterioration of left ventricular systolic function with aging	Hiroki Wakabayashi, Ryoga Sakurai, Yasufumi Katanasaka, Yusuke Miyazaki, Yoichi Sunagawa, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto
PAC15 東京 2015.12.12	大動脈解離の除外が必要な、ショックを呈したSTEMIの一症例	阿部　充
心房細動治療の最前線 米子 2015.12.15	CHADS2スコアを疑え!～伏見AFレジストリから見た日本人の脳卒中リスク因子	赤尾　昌治
伏見医師会ランチョンセミナー 京都 2016.1.15	日頃の悩み、抗血小板薬と抗凝固薬の使い分けと休薬時の対応について	阿部　充
抗血栓療法を考える会 つくば市 2016.01.22	NOAC全盛時代到来!ワルファリンはなくてもいいのか?	赤尾　昌治
小松地区Stroke Prevention Conference 小松 2016.2.5	脳梗塞、地域で防ぐ!伏見AFレジストリを介した心房細動の医療連携	阿部　充
第11回日本PCIフェローコース 横浜 2016.2.6	冠動脈疾患と腎障害（循環器内科医から）~腎機能障害は心臓カテーテル検査の妨げか?~	阿部　充
循環器・消化器ジョイントフォーラム 京都 2016.2.18	当院における周術期の抗血栓薬休薬時の対応について	阿部　充
豊能地区 Core Member Meeting 豊中市 2016.03.02	超高齢化社会の抗凝固療法はどうあるべきか～伏見AFレジストリからの考察	赤尾　昌治
K-PCI カンファレンス 大阪 2016.3.4	奥深き臨床研究~J-CTOスコアから伏見AFレジストリまで~	阿部充

第89回日本薬理学会年会 神奈川 2016.3.9	高吸収性クルクミン製剤を用いた心不全治療への展開医療研究	砂川陽一
Minato Anticoagulation Network 東京 2016.03.11	NOAC時代の心房細動診療における医療連携の意義を考える	赤尾　昌治
超高齢社会における循環器疾患・糖尿病診療を考える 京都 2016.03.12	心房細動レートコントロールにおけるβ遮断薬の位置付け～伏見AFレジストリからの考察	赤尾　昌治
栗駒・一迫循環器セミナー 宮城 2016.03.17	NOACで心房細動の抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリから	赤尾　昌治
第80回日本循環器病学会　学術集会総会 仙台 2016.03.18　他35件	Initiation of Oral Anticoagulants in Patients with Atrial Fibrillation in the Real-World: The Fushimi AF Registry.	Yugo Yamashita, Masahiro Esato, Yeong-Hwa Chun, Hikari Tsuji, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Hisashi Ogawa, Mitsuru Abe, Masaharu Akao.
第80回日本循環器学会学術集会ランチョンセミナー 仙台市 2016.03.18	NOACで心房細動の抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリから	赤尾　昌治
日本薬学会第136年回 神奈川 2016.3.26　他8件	新規Nobiletin標的因子過剰発現マウスは圧負荷で誘導される心不全の進行を抑制した	鈴木杏奈、砂川陽一、櫻井涼賀、稗田蛍火舞、小川原慎太郎、刀坂泰史、和田啓道、稲垣暢也、村上明、今泉厚、島津章、長谷川浩二、森本達也
心原性脳塞栓症を予防するプロジェクト in 奈良 奈良 2016.03.26	NOACで心房細動の抗凝固療法はどう変わったか～伏見AFレジストリから	赤尾　昌治

□ 投稿論文など

タイトル・著書・雑誌名	著者
禁煙治療中の体重増加に関連する因子についての検討 禁煙科学会 2015;9(1):1	小見山麻紀、和田弘道、浦　修一、山陰　一、浅原哲子、小山　弘、河野公一、高橋裕子、長谷川浩二
禁煙支援の実際とコツ 日本循環器学会専門医誌「循環器専門医」2016;24(1)	小見山麻紀、高橋裕子、長谷川浩二
循環器―腹部大動脈瘤、動脈硬化、高血圧、その他 喫煙と健康―喫煙と健康問題に関する検討会報告書（第四版） 2016;2章第4節	小見山麻紀、長谷川浩二
受動喫煙の健康被害と全面禁煙に関する日米アンケート比較調査 日本禁煙科学会学術誌 2016;10(1):1-9	尾崎裕香、高橋裕子、小見山麻紀、和田啓道、浅原哲子、山陰　一、船本雅文,砂川陽一、森本達也、飯田真美、大和　浩、藤原久義、長谷川浩二
受動喫煙の健康被害と全面禁煙に関する日米アンケート比較調査―禁煙状況別解析― 日本禁煙科学会学術誌 2016;10(2):13-27	尾崎裕香、高橋裕子、小見山麻紀、和田啓道、浅原哲子、山陰　一、船本雅文,砂川陽一、森本達也、飯田真美、大和　浩、藤原久義、長谷川浩二
わが国の現状と課題の抽出・課題解決の方策の検討　第14条　禁煙治療 厚生労働科学研究費補助金　循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業 たばこ規制枠組み条約を踏まえたたばこ対策に係る総合研究 平成26年度　総括・分担研究報告書 2015.3;27-37	長谷川浩二、小見山麻紀、尾崎裕香
Effects of Statins on Left Ventricular iastolic Function in Patients with yslipidemia and Diastolic Dysfuncion(Stat-LVDF Study) The Pharmaceutical Society of Japan Btol.Pharm.Bull. 2015;38(9):1404-1409	Tatsuya Morimoto,Yasufumi Ktanasaka, Yoichi sunagawa, Sae Hirano, Yusuke Myazaki, Masafumi Funamoto, Yuya Hojo, Hidetoshi Suzuki, Eriko Morimoto,Morio Ueno, Akira Shimatsu,Noriko Satoh-Asahara,Hajime Yamakage,Hiromichi Wada,Koji Hasegawa.
Colloidal Submicron-Particle Curcumin Exhibits High Absorption Efficiency-A Double-Blind, 3-Way Crossover Study Journal of Nutritional Science and Vitaminology 2015;61(1):37-44	Yoichi Sunagawa, Sae Hirano, Yasufumi Katanasaka, Yusuke Miyazaki, Masafumi Funamoto, Nobuko Okamura, Yuya Hojo, Hidetoshi Suzuki, Osamu Doi, Tsunehiro Yokoji T, Eriko Morimoto, Tsukasa Takahashi, Histomi Ozawa, Atsushi Imaizumi, Morio Ueno, Hideaki Kakeya, Akira Shimatsu, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto.
Antihypertensive effects of foods World Journal of Hypertension 2015;5(2):53-62	Kehima Hieda,Yoichi Sunagawa,Yasufumi Katanasaka,Koji Hasegawa,Tatsuya Morimoto
Clinical applications of curcumin PharmaNutrition 2015;3(4):131-135	Yoichi Sunagawa, Yasufumi Katanasaka, Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto
クルクミンの臨床応用の可能性 Functional Food 2015.6;9(1):23-29	砂川陽一、刀坂泰史、長谷川浩二、森本達也
緑茶とアンチエイジング アンチエイジング医学の基礎と臨床 2015.9;第3版：316-317	刀坂泰史、森本達也
医師が知っておきたいサプリメント～循環器領域～ 機能性表示食品DATA BOOK 2015.11;132-135	稗田蛍火舞、砂川陽一、刀坂泰史、長谷川浩二、森本達也
降圧効果を持つ機能性食品の薬理作用～血圧コントロールが期待される食品～ 日本薬理学雑誌 2015.7;146(1):33-39	稗田蛍火舞、砂川陽一、刀坂泰史、長谷川浩二、森本達也
機能性食素材による心臓のアンチエイジングの可能性 日本抗加齢医学会雑誌 2015.8;11(4):60-64	砂川陽一、刀坂泰史、長谷川浩二、森本達也
肺の硬化を抑制するセラクルクミン心臓拡張機能も有意に改善 健康ジャーナル 2015.5;5月19日号:7	森本達也
Clinical characteristics and outcomes of dialysis patients with atrial fibrillation: the Fushimi AF Registry. Heart Vessels. 2016 Mar 14; Epub ahead of print	Yamashita Y, Takagi D, Hamatani Y, Iguchi M, Masunaga N, Esato M, Chun YH, Itoh H, Nishimura M, Wada H, Hasegawa K, Ogawa H, Abe M, Akao M.
Impact of J-CTO score on procedural outcome and target lesion revascularisation after percutaneous coronary intervention for chronic total occlusion: a substudy of the J-CTO Registry (Multicentre CTO Registry in Japan). EuroIntervention. 2016 Jan 22;11(9):981-8	Tanaka H, Morino Y, Abe M, Kimura T, Hayashi Y, Muramatsu T, Ochiai M, Noguchi Y, Kato K, Shibata Y, Hiasa Y, Doi O, Yamashita T, Morimoto T, Hinohara T, Fujii T, Mitsudo K.
Incidence of Stroke or Systemic Embolism in Paroxysmal Versus Sustained Atrial Fibrillation: The Fushimi Atrial Fibrillation Registry. Stroke. 2015 Dec;46(12):3354-61	Takabayashi K, Hamatani Y, Yamashita Y, Takagi D, Unoki T, Ishii M, Iguchi M, Masunaga N, Ogawa H, Esato M, Chun YH, Tsuji H, Wada H, Hasegawa K, Abe M, Lip GY, Akao M.
Predictors for Stroke and Death in Non-Anticoagulated Asian Patients with Atrial Fibrillation: The Fushimi AF Registry. PLoS One. 2015 Nov 5;10(11):e0142394	Hamatani Y, Yamashita Y, Esato M, Chun YH, Tsuji H, Wada H, Hasegawa K, Abe M, Lip GY, Akao M.
J-POP Registry Investigators. Regional cerebral oxygen saturation monitoring for predicting interventional outcomes in patients following out-of-hospital cardiac arrest of presumed cardiac cause: A prospective, observational, multicentre study. Resuscitation 2015 Nov;(96):135-41	Nishiyama K, Ito N, Orita T, Hayashida K, Arimoto H, Beppu S, Abe M, Unoki T, Endo T, Murai A, Hatada T, Yamada N, Mizobuchi M, Himeno H, Okuchi K, Yasuda H, Mochizuki T, Shiga K, Kikuchi M, Tsujimura Y, Hatanaka T, Nagao K
Characteristics of regional cerebral oxygen saturation levels in patients with out-of-hospital cardiac arrest with or without return of spontaneous circulation: A prospective observational multicentre study. Resuscitation. 2015 Nov;(96):16-22	Nishiyama K, Ito N, Orita T, Hayashida K, Arimoto H, Abe M, Unoki T, Endo T, Murai A, Ishikura K, Yamada N, Mizobuchi M, Anan H, Watanabe T, Yasuda H, Homma Y, Shiga K, Tokura M, Tsujimura Y, Hatanaka T, Nagao K.

One-year outcome of a prospective trial stopping dual antiplatelet therapy at 3 months after everolimus-eluting cobalt-chromium stent implantation: ShortT and OPtimal duration of Dual AntiPlatelet Therapy after everolimus-eluting cobalt-chromium stent (STOPDAPT) trial. Cardiovasc Interv Ther. 2015 Oct 30 [Epub ahead of print]	Natsuaki M, Morimoto T, Yamamoto E, Shiomi H, Furukawa Y, Abe M, Nakao K, Ishikawa T, Kawai K, Yunoki K, Shimizu S, Akao M, Miki S, Yamamoto M, Okada H, Hoshino K, Kadota K, Morino Y, Igarashi K, Tanabe K, Kozuma K, Kimura T.
Final 3-Year Outcome of a Randomized Trial Comparing Second-Generation Drug-Eluting Stents Using Either Biodegradable Polymer or Durable Polymer: NOBORI Biolimus-Eluting Versus XIENCE/PROMUS Everolimus-Eluting Stent Trial. Circ Cardiovasc Interv. 2015 Oct8;(10) pii: e002817	Natsuaki M, Kozuma K, Morimoto T, Kadota K, Muramatsu T, Nakagawa Y, Akasaka T, Igarashi K, Tanabe K, Morino Y, Ishikawa T, Nishikawa H, Awata M, Abe M, Okada H, Takatsu Y, Ogata N, Kimura K, Urasawa K, Tarutani Y, Shiode N, Kimura T.
Incidence and predictors of ischemic stroke during hospitalization for congestive heart failure. Heart Vessels. 2015 Jul 29 [Epub ahead of print]	Hamatani Y, Iguchi M, Nakamura M, Ohtani R, Yamashita Y, Takagi D, Unoki T, Ishii M, Masunaga N, Ogawa H, Hamatani M, Abe M, Akao M.
Clinical characteristics and outcomes in extreme elderly (age ≥85) Japanese patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry. Chest. 2015 Jul 16 [Epub ahead of print]	Yamashita Y, Hamatani Y, Esato M, Chun YH, Tsuji H, Wada H, Hasegawa K, Abe M, Lip GY, Akao M.
Indications, applications, and outcomes of inferior vena cava filters for venousthromboembolism in Japanese patients. Heart Vessels. 2015 Jul 2. [Epub ahead of print]	Yamashita Y, Unoki T, Takagi D, Hamatani Y, Ishii M, Iguchi M, Ogawa H, Masunaga N, Wada H, Hasegawa K, Abe M, Akao M.
Clinical efficacy of thrombus aspiration on 5-year clinical outcomes in patients with ST-segment elevation acute myocardial infarction undergoing percutaneous coronary intervention. J Am Heart Assoc. 2015 Jun 15;4(6):e001962.	Watanabe H, Shiomi H, Nakatsuma K, Morimoto T, Taniguchi T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Horie M, Kimura T; CREDO - Kyoto AMI investigators, Kimura T, Sakata R, Marui A, Matsuda M, Mitsuoka H, Onoe M, Nakagawa Y, Yamanaka K, Fujiwara H, Takatsu Y, Ohno N, Nohara R, Murakami T, Takeda T, Nobuyoshi M, Iwabuchi M, Hanyu M, Tatami R, Matsushita T, Shirotani M, Nishiwaki N, Kita T, Furukawa Y, Okada Y, Kato H, Eizawa H, Is K, Tanaka M, Nakayama S, Lee JD, Nakano A, Koshiji T, Morioka K, Takizawa A, Shimamoto M, Yamazaki F, Takahashi M, Nishizawa J, Horie M, Takashima H, Tamura T, Aota M, Takahashi M, Tabata T, Tei C, Hamasaki S, Imoto Y, Yamamoto H, Kambara H, Doi O, Matsuda K, Nara M, Mitsudo K, Kadota K, Komiya T, Miki S, Mizoguchi T, Nakajima H, Ogawa H, Sugiyama S, Kawasuji M, Moriyama S, Hattori R, Aoyama T, Araki M, Suwa S, Tanbara K, Kitagawa K, Yamauchi M, Okamoto N, Fujino Y, Tezuka S, Saeki A, Hanazawa M, Sato Y, Hibi C, Sasae H, Takinami E, Uchida Y, Yamamoto Y, Nishida S, Yoshimoto M, Maeda S, Miki I, Minematsu S, Abe M, Shiomi H, Tada T, Tazaki J, Kato Y, Hayano M, Tokushige A, Natsuaki M, Nakajima T.
Thyroid Storm with Heart Failure Treated with a Short-acting Beta-adrenoreceptor Blocker, Landiolol Hydrochloride. Intern Med. 2015;54(13)1633-7	Yamashita Y, Iguchi M, Nakatani R, Usui T, Takagi D, Hamatani Y, Unoki T, Ishii M, Ogawa H, Masunaga N, Abe M, Akao M.
CREDO-Kyoto PCI/CABG registry cohort-2 investigators. Antiplatelet therapy discontinuation and the risk of serious cardiovascular events after coronary stenting: observations from the CREDO-Kyoto Registry Cohort-2. PLoS One. 2015 Apr8;10(4)e0124314.	Watanabe H, Morimoto T, Natsuaki M, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Yamaji K, Ando K, Shizuta S, Shiomi H, Tada T, Tazaki J, Kato Y, Hayano M, Abe M, Tamura T, Shirotani M, Miki S, Matsuda M, Takahashi M, Ishii K, Tanaka M, Aoyama T, Doi O, Hattori R, Kato M, Suwa S, Takizawa A, Takatsu Y, Shinoda E, Eizawa H, Takeda T, Lee JD, Inoko M, Ogawa H, Hamasaki S, Horie M, Nohara R, Kambara H, Fujiwara H, Mitsudo K, Nobuyoshi M, Kita T, Kastrati A, Kimura T
Low Body Weight Is Associated With the Incidence of Stroke in Atrial Fibrillation Patients. Circ J. 2015;79(5):1009-17	Hamatani Y, Ogawa H, Uozumi R, Iguchi M, Yamashita Y, Esato M, Chun YH, Tsuji H, Wada H, Hasegawa K, Abe M, Morita S, Akao M.
Stroke prevention in atrial fibrillation: Evidence from real-world studies Eur Heart J 2015;17(SupplD):D42-52	Masaharu Akao, Jan Beyer-Westendorf, Shinya Goto, Eric Peterson
Antiplatelet therapy in Japanese patients with atrial fibrillation without oral anticoagulants: Pooled analysis of Shinken Database, J-RHYTHM Registry and Fushimi AF Registry Int J Cardiol. 2015; 190:344-346	Hisashi Ogawa, Masaharu Akao, Shinya Suzuki, Takeshi Yamashita, Ken Okumura, Hirotsugu Atarashi, Hiroshi Inoue
伏見心房細動患者登録研究(Fushimi AF Registry)におけるクレアチニンクリアランス分布に関する検討 Pharma Medica 2015; 33(33):137-146	赤尾　昌治
日本のプライマリ・ケアにおける高齢者の心房細動診療の現状と課題 治療. 2015; 97(4):463-468	赤尾　昌治
心房細動罹患人口とその合併疾患ー世界と日本ー カレントテラピー 2015; 33(3):226-231	赤尾　昌治
心房細動診療のリアル・ワールド　伏見AFレジストリーの最新知見から 週刊医学界新聞 2015.7	小川尚、赤尾昌治
心房細動の疫学と心房細動診療のリアルワールドー伏見AFレジストリから 循環器内科 2015;78(5):18-24	赤尾　昌治
日本人における心原性脳塞栓症リスクー欧米人との相違 診断と治療. 2015	赤尾　昌治
心房細動合併心不全に対する抗凝固療法 単行本「ーエキスパートが明かすー心不全診療の極意」2015	井口守丈、赤尾昌治
microRNAs and Cardiovascular Remodeling. Adv Exp Med Biol. 2015;888:197-213	Ono K.
Functions of microRNA-33a/b and microRNA therapeutics. J Cardiol. 2015.11 Epub ahead of print	Ono K.
Emerging Novel Biomarkers for Arteriosclerosis Obliterans. J Atheroscler Thromb. 2015 Epub ahead of print	Horie T, Kimura T, Ono K.
Expression Patterns of miRNA-423-5p in the Serum and Pericardial Fluid in Patients Undergoing Cardiac Surgery PLoS One. 2015;10(11):e0142904	Miyamoto S, Usami S, Kuwabara Y, Horie T, Baba O, Hakuno D, Nakashima Y, Nishiga M, Izuhara M, Nakao T, Nishino T, Ide Y, Nakazeki F,Wang J, Ueyama K,Kimura T, Ono K.
microRNA-33 Regulates ApoE Lipidation and Amyloid-β Metabolism in the Brain. J Neurosci. 2015;35(44):14717-26	Kim J, Yoon H, Horie T, Burchett JM, Restivo JL, Rotllan N, Ramírez CM, Verghese PB, Ihara M, Hoe HS, Esau C,Fernández-Hernando C, Holtzman DM, Cirrito JR, Ono K, Kim J.
Influence of Sex on Long-Term Outcomes Afte Implantation of Bare-Metal Stent: A Multicenter Report From the Coronary Revascularization Demonstrating Outcome Study-Kyoto (CREDO-Kyoto) Registry Cohort-1. Circulation. 2015;132(24):2323-33	Yamaji K, Shiomi H, Morimoto T, Toyota T, Ono K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Ando K, Shirai S, Kato M, Takatsu Y, Doi O, Kambara H, Suwa S, Onodera T,Watanabe H, Natsuaki M, Kimura T.
MicroRNAs and High-Density Lipoprotein Cholesterol Metabolism. Int Heart J 2015;56(4):365-71	Ono K, Horie T, Nishino T, Baba O, Kuwabara Y, Kimura T.
Long-Term Outcomes After Coronary Stent Implantation in Patients Presenting With Versus Without Acute Myocardial Infarction (an Observation from Coronary Revascularization Demonstrating Outcome Study-Kyoto Registry Cohort-2). Am J Cardiol. 2015.7;116(1):15-23	Yamaji K, Natsuaki M, Morimoto T, Ono K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Ando K, Shirai S, Watanabe H, Shiomi H, Kimura T.
MicroRNA-133a in the Development of Arteriosclerosis Obliterans. J Atheroscler Thromb. 2015;22(4):342-3	Ono K

CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-2 Investigators. High-density lipoprotein cholesterol levels and cardiovascular outcomes in Japanese patients after percutaneous coronary intervention: A report from the CREDO-Kyoto registry cohort-2. Atherosclerosis. 2015.05;242(2):632-8	Izuhara M, Ono K, Shiomi H, Morimoto T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Shizuta S, Tada T,Tazaki J, Horie T, Kuwabara Y, Baba O,Nishino T, Kita T, Kimura T
MicroRNA-33a/b in Lipid Metabolism-novel "thrifty" models. Circ J 2015;79(2):278-84	Ono K, Horie T, Nishino T, Baba O, Kuwabara Y, Yokode M, Kita T, Kimura T.
Clinical Impact of Left Ventricular Outflow Tract Obstruction in TakotsuboCardiomyopathy Circ J 2015;79:839-46	Kawaji T, Shiomi H, Morimoto T, Tazaki J, Imai M, Saito N, Makiyama T, Shizuta S, Ono K, Kimura T.
Non-Invasive Detection of Functional Myocardial Ischemia: Multifunction cardiogram Evaluation in Diagnosis of Functional Coronary Ischemia Study (MED-FIT). Annals of Noninvasive Electrocardiology 2015	Kawaji T, Shiomi H, Morimoto T, Nishikawa R, Yano M, Higami H, Tazaki J, Imai M, Saito N, Makiyama T, Shizuta S, Ono K, Kimura T
MicroRNA-451 Exacerbates Lipotoxicity in Cardiomyocytes and High-Fat Diet-Induced Cardiac Hypertrophy in Mice through Suppression of the LKB1/AMPK Pathway Circ Res 2015;116(2):279-88	Kuwabara Y, Horie T, Baba O, Watanabe S, Nishiga M, Usami S, Izuhara M, Nakao T, Nishino T, Otsu K, Kita T, Kimura T, Ono K
miRNAと循環器疾患 循環器内科 2015.4;77(4)	尾野　亘
マイクロRNA制御による心不全治療 循環器内科 2015	尾野　亘
マイクロRNAと転写因子相互作用による脂質代謝制御 生化学会雑誌 2015	尾野　亘
心血管疾患の新規治療標的としてのmiR-33a/b 循環器専門医 2015	尾野　亘
マイクロRNAと動脈硬化症 臨床化学 2015	尾野　亘
microRNA Medical Evidence 2015	Koh Ono, Gaetano Santulli (Eds)
生活習慣病とmiRNA 実験医学　ノンコーディングRNAテキストブック 2015;122-125	尾野　亘

小児科



診療科長
秋山　祐一

専門医資格等　日本小児科学会専門医
京都大学　小児科　臨床教授
専 門 分 野　血液・腫瘍
得 意 疾 患　予防接種・心身症

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	黒須　英雄	日本小児科学会専門医	未熟児・新生児	小児発達/母乳
医　　長	河田　　興	日本小児科学会専門医 日本周産期学会　新生児専門医 日本臨床薬理学会　専門医	未熟児・新生児	妊娠とくすり、新生児とくすり
医　　長	浅井　康一	日本小児科学会専門医 日本アレルギー学会　指導医	アレルギー疾患	喘息・アトピー、食物アレルギー
医　　師	石塚　哲也		小児感染症/小児救急	小児感染症/小児救急
医　　師	豊田　有子	日本小児科学会専門医 日本内分泌学会専門医	小児内分泌代謝	低身長・甲状腺・遺伝子解析・先天異常
医　　師	北　　誠	日本小児科学会専門医	未熟児・新生児/小児全般	虐待・遺伝子解析・先天異常
医　　師	阿水　利沙	日本小児科学会専門医	極小・超未熟児・先天異常	極小・超未熟児・先天異常

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本小児科学会研修施設 周産期（新生児）専門医暫定研修施設 日本アレルギー学会専門医教育研修

1. お子さんの、心とからだの発達を重視します
2. スタッフ全員が未熟児・新生児から思春期までの診療がおこなえるよう研鑽しています
3. 小児期からもちこした疾患の診療に関与します
4. 御家族全体が健康であるように、配慮します
5. 長期入院の場合に学習の継続を重視します（院内学級併設）

□ 主な対象疾患

1．平成12年4月から新生児集中治療室（NICU6床）を開設しました。
赤ちゃんの診療、発達の評価、育児相談を大切にしています。

2．産婦人科と密接に協力して24時間体制で赤ちゃんの診療を行っています。未熟児出生の可能性のある場合は小児科医師全員が妊婦さんの状態を把握出来るシステムが完備しています。赤ちゃんの診断治療に超音波診断を積極的に行っています。

3．小児科病棟（2-3病棟）では小児血液疾患、悪性腫瘍、慢性腎疾患、小児膠原病、難治性喘息、重症アトピー、神経疾患等の慢性疾患の入院治療を行います。院内学級に通学しながら治療を継続します。
4．乳幼児の肺炎や脱水など短期の入院も積極的に取り扱っています。

□ 診療（業務）内容

受精から胎児期、分娩、新生児、乳児、幼児、小児、思春期、結婚・妊娠までのライフ・サイクルを考えて小児科診療を行います。
このすべてに関して小児科では相談の窓口になります。遺伝相談、不登校、小人症、糖尿病、肥満、等の相談を歓迎します。
初診の場合は可能であればかかりつけの先生の紹介状を是非御持参下さい。
主な取り扱い疾患は以下の通りです。

- ・新生児・低出生体重児（2500g未満）
- ・小児血液疾患（白血病、血小板減少症、貧血）
- ・アトピー性皮膚炎、気管支喘息、膠原病
- ・小児腎疾患（血尿・蛋白尿）
- ・小児感染症全般
- ・小児心臓疾患
- ・小児内分泌疾患（甲状腺疾患・低身長など）
- ・小児代謝疾患（糖尿病・副腎過形成など）
- ・小児のてんかん、発達障害

□ 診療実績(平成27年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
11名	375名	11日

外来患者数

1日平均患者数
37名

□ 地域医療連携・広報活動

京都小児救急研究会世話人　京都小児感染症研究会世話人
2016年2月8日第31回京都府小児保健研究会　理事会　秋山祐一　「発達障害」
2015年10月3日第22回伏見小児臨床懇話会
睡眠期に持続棘徐波を示すてんかん（CSWS）と考えられた、当初BECTSの小学生
京都医療センター小児科
北 誠、秋山 祐一、阿水 利沙、豊田 有子、石塚 哲也、黒須 英雄、河田 興、浅井　康一
2016年2月28日第23回伏見小児臨床懇話会
環軸椎回旋位固定を併発した急性散在性脳脊髄炎（ADEM）の5歳女児
京都医療センター小児科
増田 裕一、北 誠、秋山 祐一、阿水 利沙、豊田 有子、石塚 哲也、黒須 英雄、河田 興、浅井　康一
森小児科クリニック　　森　啓之

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

学会名	演　者	演　題
第24回母乳育児シンポジウム 2015.8.2	黒須英雄、河田興、橋本恵	生後24時間の授乳回数と体重減少率、補足率、母乳率との関係
第69回国立病院総合医学会 2015.10.2	黒須英雄、豊田有子、阿水利沙、北誠、石塚哲也、浅井康一、河田興、秋山祐一	甲状腺疾患母体から出生した新生児80症例の検討
第51回日本周産期新生児医学会学術集会　2015. 07.11	阿水利沙、北誠、黒須英雄、河田興	未熟児無呼吸発作に対するカフェイン製剤の副作用評価方法についての検討
第69回国立病院総合医学会 2015. 10.02	阿水利沙、北誠、豊田有子、石塚哲也、黒須英雄、河田興、浅井康一、秋山祐一	母体エチゾラム投与により傾眠状態が持続した新生児の一例

第20回京都小児感染症研究会　2015.11.7	阿水利沙、北誠、豊田有子、石塚哲也、黒須英雄、河田興、浅井康一、秋山祐一	A群溶連菌の子宮内感染の一例
近畿小児科学会　2016.03.06	阿水利沙、北誠、豊田有子、石塚哲也、黒須英雄、河田興、浅井康一、秋山祐一	Streptococcus bovis髄膜炎の一例
第52回日本小児アレルギー学会　2015.11.22	浅井康一	市民公開講座　気管支ぜんそく児の家庭での注意点
第48回発育異常研究会 2015.6.20	北誠、桑田康弘、臼井 健、秋山 祐一、島津 章	GATA3変異を同定したHDR症候群の一例
第49回日本小児内分泌学会学術集会　2015.10.9	北 誠、桑田 康弘、臼井 健、秋山 祐一、島津 章	GATA3変異を同定したHDR症候群の1家系
第51回日本周産期・新生児医学会学術集会　2015/7/10	河田 興, 阿水利沙, 黒須英雄, 北 誠	早産児の尿中NTx（尿中I型コラーゲン架橋N-テロペプチド）の検討
第69回国立病院総合医学会（札幌）　2015/10/2	河田 興, 阿水利沙, 久保井徹	新生児黄疸における　コニカミノルタ黄疸計ノモグラム（基準値）の検討
第14回新生児黄疸管理研究会　2015/10/3	河田 興, 阿水利沙	コニカミノルタ黄疸計（ＪM-103）を用いた出生後早期の新生児黄疸管理
第60回日本新生児成育医学会学術集会　2015/10/23	河田 興, 伊藤 進, 国方徹也	極低出生体重児における 母乳中ヨード濃度測定
第42回日本小児臨床薬理学会　2015/11/15	河田 興, 藤村尚子, 平野慎也	新生児適応外医薬品リスト案の作成
第42回日本小児臨床薬理学会　2015/11/15	河田 興, 阿水利沙, 北 誠, 豊田有子, 石塚哲也, 黒須英雄, 浅井康一,秋山祐一, 藤村尚子, 喜田孝史	ラモトリギン内服母体からの新生児血中濃度測定
第36回　日本臨床薬理学会学術総会　2015/12/9	河田 興, 藤村尚子, 平野慎也	新生児適応外医薬品リスト案の作成
山口県病院薬剤師会第６回妊婦・授乳婦専門薬剤師研修セミナー　2016/1/17	河田 興	授乳のメリットと授乳と薬剤
第37回日本病院薬剤師会近畿学術大会（神戸）2016/1/24	河田 興	NICUでの薬剤師の活躍
妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師講習会（大阪）　2016/11/26	河田 興	授乳のメリットと授乳と薬剤

□ 投稿論文など

	タイトル・著書・雑誌名・著者
河田 興, 藤村尚子, 平野慎也 日本小児臨床薬理学会雑誌 28：11-16　2015	新生児適応外医薬品リストの現状調査と適応外使用解決への提言ー平成14・15年度リスト薬品の平成26年添付文書記載ー
Suga S, Yasuhi I, Aoki M, Nomiyama M, Kubo N, Kawakami K, Okura N, Okazaki K, Ota A, Kawada K. J Matern Fetal Neonatal Med.29： 447-451　2015	Risk factors associated with respiratory disorders in late preterm infants.

外科



診療科長
(肝胆膵責任者)
猪飼　伊和夫

専門医資格等　日本外科学会 外科専門医、指導医
日本消化器外科学会 消化器外科専門医、指導医
日本肝胆膵外科学会 肝胆膵外科高度技能指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医
日本肝癌研究会幹事・取扱い規約委員
日本臨床外科学会　評議員
京都大学医学部　臨床教授
京都大学　医学博士

専門分野　肝胆膵外科

得意疾患　肝臓がん、胆道がん、膵臓がん

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医長 (乳腺責任者)	山﨑　誠二	日本外科学会　外科専門医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医・暫定教育医 日本乳癌学会　乳腺専門医・認定医 検診マンモグラフィ読影認定医	乳腺	乳がん
医長 臨床栄養科長 (上部消化管責任者)	大谷　哲之	日本外科学会　外科専門医 日本消化器外科学会　消化器外科認定医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医・暫定教育医 京都大学医学部　臨床教授	上部消化管	胃がん 食道がん
医長 (下部消化管責任者)	山口　高史	日本外科学会 外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器がん外科治療認定医 日本大腸肛門病学会　大腸肛門病専門医・指導医 日本内視鏡外科学会　内視鏡外科技術認定医・技術認定審査員・評議員 京都大学医学部　臨床准教授 京都大学　非常勤講師	下部消化管	大腸がん 骨盤外科
医師	成田　匡大	日本外科学会　外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器がん外科治療認定医 日本肝胆膵外科学会 評議員・肝胆膵外科高度技能専門医 日本消化器病学会　専門医 Le DiplÔme Inter Universitaire EUROPEAN CANCERS HEPATO BILIO PANCREATIQUES 京都大学　医学博士	肝胆膵外科	肝臓がん 胆道がん 膵臓がん

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	畑　　啓昭	日本外科学会　外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医・指導医 日本外科感染症学会　周術期感染管理認定医・教育医・評議員・教育委員 日本内視鏡外科学会　内視鏡外科技術認定医 日本食道学会　食道科認定医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医 日本消化器外科学会　消化器がん外科治療認定医 ICD(インフェクションコントロールドクター)	上部消化管	胃がん 食道がん
医　　師	松末　　亮	日本外科学会 外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医 日本内視鏡外科学会　内視鏡外科技術認定医 内痔核治療法研究会　四段階注射法講習会受講 京都大学　医学博士	下部消化管	大腸がん 肛門疾患
医　　師	花田　圭太	日本外科学会 外科専門医	外科一般	
医　　師	佐治　雅史	日本外科学会 外科専門医	外科一般	
専　修　医	菊地　志織			
専　修　医	中西　宏貴			
専　修　医	直原　駿平			
非常勤医師	鳥井　雅恵	日本外科学会 外科専門医 日本乳癌学会　乳腺認定医 検診マンモグラフィ読影認定医	乳腺	乳がん

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本外科学会外科専門医修練施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本肝胆膵外科学会認定肝胆膵外科高度技能専門医修練施設A 日本大腸肛門病学会認定施設 日本乳癌学会関連施設 日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設 JCOG大腸がんグループ参加施設 JCOG胃がんグループ参加施設

1. 消化器がんや乳がんなど悪性腫瘍の外科治療を中心に行っています。
2. 臓器別（上部消化管・下部消化管・肝胆膵・乳腺）に専門医がおり、専門性が高く高度で安全な外科手術を行っています。
3. 腹腔鏡手術を始めとした低侵襲な手術（体への負担が少ない手術）を積極的に行なっている一方、高度進行がんに対しては、必要に応じて拡大手術を行ったり、抗がん剤や放射線を併用した集学的治療を行って臓器温存を図ったりしています。
4. 外科医、消化器内科医、放射線科医、腫瘍内科医、病理医が協議して治療方針を検討しています。
   各科が必要に応じた治療が可能なため、特定の科の治療にかたよることもありません。

□ 主な対象疾患

食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん、胆嚢がん、胆管がん、膵臓がん、乳がん

□ 診療（業務）内容

消化器がん(食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん、胆嚢がん、胆管がん、膵臓がん)や乳がんを中心とし、腹部良性疾患、肛門疾患や腹部救急疾患の外科治療を行っております。

□ 診療実績(平成27年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
41名	1018名	15日

外来患者数

1日平均患者数
73名

手術実績

全手術件数（外来手術含める）	893件
全麻手術	750件
腰麻手術	38件
局麻手術	105件

※うち緊急手術件数158件

主な術式別手術件数

術　　式	手術件数	※うち鏡視下手術 (ポリペクトミー、EMR,ESDなど内視鏡的切除は除く)
食道がん切除術	12	11
幽門側胃切除術（幽門保存胃切除術を含む）	66	52
胃全摘術（噴門側胃切除術を含む）	20	9
結腸切除術	106	76
直腸前方切除術	57	43
直腸切断術	6	3
肝切除術（葉切除以上）	17	0
肝切除術（区域・亜区域切除術）	28	4
肝切除術（上記以外）	20	4
膵頭十二指腸切除術	10	0
膵体尾部切除術（胃がん手術に伴うものは除く）	6	4
膵切除術（その他）	2	0
乳がん手術	75	0
胆嚢摘出術	121	95
脾摘術	3	1
虫垂切除術	42	32
ヘルニア手術（小児を除く）	118	12
良性肛門疾患手術	38	0
小児外科手術（ヘルニアも含む）	12	2

□ 地域医療連携・広報活動

2015/5/8	科研製薬　社外講師勉強会　　成田匡大
2015/5/30	第77回伏見医師学術集談会　「食道癌に対する術前化学療法・胸腔腹腔鏡手術の症例～最近の治療法など～」　畑啓昭

2015/6/2	第14回京都南部外科集談会 「当院での食道癌手術の現状」 畑啓昭
2015/6/6	京滋奈和若手胃外科医のためのビデオクリニック3 「腹腔鏡下幽門側胃切除」 畑啓昭
2015/7/4	第42回京大外科関連施設癌研究会 「進行直腸癌に対する術前化学療法の治療成績」 松末亮
2015/7/18	第57回京都肝疾患懇話会 「術前診断に苦慮した肝内結石合併肝内胆管癌の一例」 花田圭太、猪飼伊和夫
2015/7/25	京都大腸癌治療フォーラム 「グリソン進展を伴った大腸癌肝転移に対する肝切除術」 花田圭太、猪飼伊和夫
2015/10/25	研修医のための輸液セミナー 「「術後輸液」の部屋 何を どれだけ どんな根拠で?」 畑啓昭
2015/10/31	第四回遠江創傷治癒セミナー 「当科でのVAC療法経験とコツ」 畑啓昭
2015/11/7	第78回伏見医師会学術集団会 「胆のう疾患に対する低侵襲手術のとりくみ」 成田匡大
2016/1/10	「見落としがちな術前・術後のポイント」セミナー(福岡) 「消化器外科の術前・術後管理」 畑啓昭
2016/3/5	第17回 京都肝胆膵外科セミナー 「膵頭十二指腸切除における膵消化管吻合」 成田匡大
2016/3/6	「見落としがちな術前・術後のポイント」セミナー(神戸) 「消化器外科の術前・術後管理」 畑啓昭

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区 分	演 者	演 題	学会名	開催地	会期
国内学会	成田匡大 直原駿平 中西宏貴 菊地志織 佐治雅史 花田圭太 松末亮 畑啓昭 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	成人鼠径ヘルニア術後難治性慢性疼痛に対する治療介入とその成績	第115回日本外科学会定期学術集会	名古屋	2015
国際学会	Narita M, Matsusue R, Hata H, Yamaguchi T, Otani T, Ikai I	ポスター THERAPEUTIC STRATEGY FOR PATIENTS WITH REFRACTORY CHRONIC PAIN FOLLOWING INGUINAL HERNIA REPAIR	1st World Conference on Abdominal Wall Hernia Surgery	イタリアミラノ	2015
国内学会	成田匡大 直原駿平 中西宏貴 菊地志織 佐治雅史 花田圭太 松末亮 畑啓昭 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	当院における成人鼠径ヘルニア術後難治性慢性疼痛の治療アルゴリズム	第13回日本ヘルニア学会学術集会	名古屋	2015
国内学会	成田匡大 直原駿平 中西宏貴 菊地志織 佐治雅史 花田圭太 松末亮 畑啓昭 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	膵頭十二指腸切除後の安全かつ簡便な陥入式膵胃吻合	第27回日本肝胆膵外科学会学術集会	東京	2015
国内学会	花田圭太 成田匡大 直原駿平 菊地志織 中西宏貴 佐治雅史 松末亮 畑啓昭 山口高史 大谷哲之 山﨑誠二 猪飼伊和夫	正中弓状靭帯による腹腔動脈狭窄を有する遠位胆管癌に対して亜全胃温存膵頭十二指腸切除を施行した一例	第27回日本肝胆膵外科学会学術集会	東京	2015
国内学会	佐治雅史 猪飼伊和夫 成田匡大 花田圭太 山﨑誠二 大谷哲之 山口高史 畑啓昭 松末亮 中西宏貴 菊地志織 直原駿平	待機的経後腹膜ネクロセクトミーが奏功した感染性膵壊死の一例	第27回日本肝胆膵外科学会学術集会	東京	2015
国内学会	成田匡大 直原駿平 佐治雅史 花田圭太 松末亮 畑啓昭 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	再発させないヘルニア手術 - Direct Kugel Patchを用いた前方到達法ヘルニア修復術 -	第70回日本消化器外科学会総会	浜松	2015
国内学会	畑啓昭 大谷哲之 安井久晃 岡崎俊介 花田圭太 松末亮 成田匡大 山口高史 猪飼伊和夫	当科でのP0CY1胃癌症例に対する化学療法先行治療の効果の検討	第70回日本消化器外科学会総会	浜松	2015
国内学会	直原駿平 成田匡大 猪飼伊和夫 佐治雅史 川口清貴 花田圭太 松末亮 畑啓昭 山口高史 大谷哲之	膵Mixed acinar-endocrine carcinomaの一例	第70回日本消化器外科学会総会	浜松	2015
国内学会	畑啓昭	CDCガイドラインドラフト版を読み解く	日本外科感染症学会特別セミナー	広島	2015
国内学会	畑啓昭 坂井義治	大腸癌術前化学的腸管処置の当科での変遷	JDDW 2015	東京	2015
国内学会	畑啓昭	CDCガイドラインドラフト版を読み解く	日本外科感染症学会特別セミナー	奈良	2015
国内学会	畑啓昭	外科におけるがん化学療法時の感染症	第4回北海道サージカル・インフェクション・フォーラム	札幌	2015
国内学会	松末亮 山口高史 直原駿平 菊地志織 中西宏貴 佐治雅史 花田圭太 畑啓昭 成田匡大 大谷哲之 猪飼伊和夫	直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術の短期・長期成績	第70回日本大腸肛門病学会学術集会	名古屋	2015
国内学会	畑啓昭	CDCガイドラインドラフト版を読み解く	日本外科感染症学会特別セミナー	鹿児島	2015
国内学会	山口高史 松末亮 直原駿平 中西宏貴 菊地志織 佐治雅史 花田圭太 畑啓昭 成田匡大 大谷哲之 猪飼伊和夫	整容性やコストを意識し細径鉗子を利用した腹腔鏡下ストーマ造設術	第77回日本臨床外科学会総会	福岡	2015
国内学会	松末亮 山口高史 直原駿平 菊地志織 中西宏貴 佐治雅史 花田圭太 畑啓昭 成田匡大 大谷哲之 猪飼伊和夫	直腸切断術・骨盤内臓全摘術後のSSI予防の取り組み	第77回日本臨床外科学会総会	福岡	2015
国内学会	佐治雅史 松末亮 直原駿平 菊地志織 中西宏貴 花田圭太 畑啓昭 成田匡大 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	CA19-9の著明な上昇を伴う腹壁深部原発の類皮嚢胞の1切除例	第77回日本臨床外科学会総会	福岡	2015
国内学会	畑啓昭	教育委員会企画プログラム 「SSI予防と治療の今」	第28回日本外科感染症学会学術集会	名古屋	2015
国内学会	畑啓昭	CDCガイドラインドラフト版を読み解く	日本外科感染症学会特別セミナー	仙台	2016
国内学会	畑啓昭	日本外科感染症学会ジョイントシンポジウム「周術期感染対策ーどうしていますか?」	第31回日本環境感染学会総会	京都	2016

国内学会	畑啓昭 佐治雅史 大谷哲之 直原駿平 菊地志織 中西宏貴 花田圭太 松末亮 成田匡大 山口高史 猪飼伊和夫	治療方針に苦慮したNo.112aoに転移を伴った食道胃接合部癌の1切除例	胃癌学会	大分	2016
国内学会	佐治雅史 畑啓昭 大谷哲之 直原駿平 菊地志織 中西宏貴 花田圭太 松末亮 成田匡大 山口高史 猪飼伊和夫	腫瘍随伴皮膚病変（dermadrome）を契機に発見された胃癌の1例	胃癌学会	大分	2016

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	発行年および月
Narita M, Oussoultzoglou E, Chenard MP, Fuchshuber P, Yamamoto T, Addeo P, Jaeck D, Bachellier P.	Predicting Early Intrahepatic Recurrence After Curative Resection of Colorectal Liver Metastases with Molecular Markers.	World J Surg.	39	5	1167-76	2015.5
Narita M, Endo B, Mizumoto Y, Matsusue R, Hata H, Yamaguchi T, Otani T, Ikai I.	Multicentric recurrence of intraductal papillary neoplasms of bile duct in the remnant intrahepatic bile duct after curative resection	International Journal of Surgery Case Reports	12		123–127	2015.5
Misawa K, Terashima M, Uenosono Y, Ota S, Hata H, Noro H, Yamaguchi K, Yajima H, Nitta T, Nakada K.	Evaluation of postgastrectomy symptoms after distal gastrectomy with Billroth-I reconstruction using the Postgastrectomy Syndrome Assessment Scale-45 (PGSAS-45).	Gastric Cancer	18	3	675-81	2015.7
山口高史 松末亮 畑啓昭 花田圭太 佐治雅史 成田匡大 大谷哲之 猪飼伊和夫	Reduced port surgery の代替案としての細径鉗子の有用性	臨床外科	70	8	952-956	2015.8
Narita M, Oussoultzoglou E, Bachellier P, Jaeck D, Uemoto S.	Post-hepatectomy liver failure in patients with colorectal liver metastases.	Surg Today.	45	10	1218-26	2015.10
Narita M, Moriyoshi K, Hanada K, Matsusue R, Hata H, Yamaguchi T, Otani T, Ikai I	Successful treatment for patients with chronic orchialgia following inguinal hernia repair by means of meshoma removal, orchiectomy and triple-neurectomy.	Int J Surg Case Rep.	14	16	157-161	2015.10
花田圭太 畑啓昭 菊地志織 中西宏貴 佐治雅史 松末亮 成田匡大 山口高史 大谷哲之 猪飼伊和夫	胃切除・Roux-en-Y再建術後の内ヘルニア発症に関する検討	日本消化器外科学会雑誌	48	11	890-896	2015.11
Matsuo Y, Tanaka M, Yamakage H, Sasaki Y, Muranaka K, Hata H, Ikai I, Shimatsu A, Inoue M, Chun TH, Satoh-Asahara N	Thrombospondin 1 as a novel biological marker of obesity and metabolic syndrome.	Metabolism.	64	11	1490-9	2015.11
畑啓昭		研修医のための見える・わかる外科手術「どんな手術?何をするの?」 基本と手順がイラスト300点でイメージできる			1-367	2015.11
成田匡大	第3章 各科の手術手順と操作のポイント 12 肝臓手術	研修医のための見える・わかる外科手術「どんな手術?何をするの?」 基本と手順がイラスト300点でイメージできる			206-229	2015.11
松末亮	第3章 各科の手術手順と操作のポイント 3 人工肛門造設術	研修医のための見える・わかる外科手術「どんな手術?何をするの?」基本と手順がイラスト300点でイメージできる			102-104	2015.11
松末亮	第3章 各科の手術手順と操作のポイント 8 直腸手術	研修医のための見える・わかる外科手術「どんな手術?何をするの?」基本と手順がイラスト300点でイメージできる			142-153	2015.11
花田圭太	第3章 各科の手術手順と操作のポイント 6 ヘルニア手術	研修医のための見える・わかる外科手術「どんな手術?何をするの?」基本と手順がイラスト300点でイメージできる			110-123	2015.11
佐治雅史	第2章 外科手術の基本操作 1 糸の種類と糸結び	研修医のための見える・わかる外科手術「どんな手術?何をするの?」基本と手順がイラスト300点でイメージできる			56-60	2015.11

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	発行年および月
畑啓昭　志馬伸朗	【ICUにおける抗菌薬処方～こうすれば上手く使える】周術期の予防的抗菌薬	月刊レジデント	8	12	100-107	2015.12
佐治雅史 山口高史 松末亮 畑啓昭 大谷哲之 猪飼伊和夫	腹腔鏡下大腸癌切除後に生じた空腸間膜デスモイド腫瘍の1例	手術	69	13	1839-1843	2015.12
Niitsu H, Hinoi T, Kawaguchi Y, Ohdan H, Hasegawa H, Suzuka I, Fukunaga Y, Yamaguchi T, Endo S, Tagami S, Idani H, Ichihara T, Watanabe K, Watanabe M; Japan Society of Laparoscopic Colorectal Surgery	Laparoscopic surgery for colorectal cancer is safe and has survival outcomes similar to those of open surgery in elderly patients with a poor performance status: subanalysis of a large multicenter case-control study in Japan.	J Gastroenterol.	51	1	43-54	2016.1
Okabe H, Hata H, Ueda S, Zaima M, Tokuka A, Yoshimura T, Ota S, Kinjo Y, Yoshimura K, Sakai Y; Kyoto University Surgical Oncology Group (KUSOG).	A phase II study of neoadjuvant chemotherapy with S-1 and cisplatin for stage III gastric cancer: KUGC03.	J Surg Oncol.	113	1	36-41	2016.1
Kudo M, Ueshima K, Kubo S, Sakamoto M, Tanaka M, Ikai I, Furuse J, Murakami T, Kadoya M, Kokudo N; Liver Cancer Study Group of Japan	Response Evaluation Criteria in Cancer of the Liver (RECICL) (2015 Revised version).	Hepatol Res.	46	1	3-9	2016.1
角謙介　畑啓昭　三枝隆博	2章　病態症候論：主な症状・徴候 6節　消化器系の異常	イメージできる病態生理学			68-89	2016.1
Narita M, Hata H, Ikai I.	Portal annular pancreas: An unusual pancreatic anomaly.	J Visc Surg.	153	2	153-5	2016.1
花田圭太　畑啓昭　大谷哲之　成田匡大　山口高史　猪飼伊和夫	鼠径リンパ節穿刺によるリンパ管造影が有用であった食道癌術後乳糜胸の１例	日本臨床外科学会雑誌	77	2	322-327	2016.2
Narita M, Hanada K, Moriyoshi K, Matsusue R, Hata H, Yamaguchi T, Otani T, Ikai I.	laparoscopic resection of an epidermoid cyst arising from intrapancreatic accessary spleen	Jop.J Pancreas (Online)	S	1	138-141	2016.2
Narita M, Matsusue R, Hata H, Yamaguchi T, Otani T, Ikai I.	Double Purse-String Telescoped Pancreaticogastrostomy using an Atraumatic Self-retaining Ring Retractor in a Subtotal Stomach-Preserving Pancreaticoduodenectomy.	Ann Surg Oncol	23	3	1034	2016.3
Narita M, Ikai I	Spontaneous Rupture of Anaplastic Pancreatic Cancer.	J Gastrointest Surg.	20	3	664-5	2016.3

整形外科



診療科長
中川　泰彰

専門医資格等　日本整形外科学会専門医
専 門 分 野　スポーツ、軟骨、関節
得 意 疾 患　膝、肩、肘関節

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	山 田　　茂	日本整形外科学会専門医	股関節、膝関節	股関節
医　　師	向 井　章 悟	日本整形外科学会専門医	スポーツ、膝、肩、小児	膝、肩
医　　師	宮 田　誠 彦	日本整形外科学会専門医 日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医 脊椎脊髄病医	脊椎、脊髄外科	頚椎症、OPLL、上位頚椎疾患、リウマチ頚椎症、脊髄腫瘍、腰椎すべり症、変性側弯症
医　　師	太 田　英 吾	日本整形外科学会専門医	小児整形、整形外科一般	小児側弯症
医　　師	佐 治　隆 彦	日本整形外科学会専門医	スポーツ、膝、肩	膝、肩
医　　師	坪 内　直 也	日本整形外科学会専門医	脊椎	脊椎一般
医　　師	薮 本　浩 光	日本整形外科学会専門医	整形外科一般	
専 修 医	三 輪　晶 子			

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本整形外科学会研修施設

1. スポーツ、肩、肘、股関節、膝関節、脊椎のそれぞれのスペシャリストがいます。
2. 救命救急センターとタイアップし、様々な外傷にも対応しています。
3. 脊椎・脊髄外科は後頭骨～頸胸椎・腰椎～骨盤までインスツルメンテーション手術に対応。ナビゲーションシステムを使用し、精緻な手術を心がけている（特に頸胸椎）。脊髄誘発電位を使用し、手術の安全性の向上に努めている。
4. スポーツ医学センターを併設し、発育期、競技スポーツ、中高年のスポーツ復帰のリハビリも行っています。
5. 骨軟骨疾患に対する自家骨軟骨移植術の件数は、日本最多で、中期成績も優秀です。

□ 主な対象疾患

様々な関節の変形性関節症、肩関節脱臼、腱板断裂、膝靱帯損傷、様々な脊椎疾患、離断性骨軟骨炎などのスポーツ障害

□ 診療（業務）内容

スポーツ、肩、肘、股関節、膝関節、脊椎のそれぞれの専門家が執刀する手術（安定した治療成績が獲得できています）及び、外来での経過観察や保存的治療を行っています。術後のリハビリは疾患に応じて、当院リハビリ科とスポーツ医学センターで行っており、特に、スポーツ医学センターでは、術後のスポーツ復帰だけでなく、再受傷予防などの対策も立てています。また、外来通院による保存的治療としてのリハビリも行っています。

□ 診療実績(平成27年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
52名	769名	24日

外来患者数

1日平均患者数
90名

主な術式別手術件数

頸椎手術	胸腰椎手術	人工股関節置換術	人工膝関節置換術
34件	116件	53件	68件

自家骨軟骨移植術
50件

□ 地域医療連携・広報活動

京都府軟式野球連盟からの依頼により、2011年からスポーツ医学センターにて、小中学生野球選手のメディカルチェックを行っています。

・少年野球におけるスポーツ障害の予防と対策
　平成27年京都府軟式野球連盟指導者研修会　2015.6.5京都（中川泰彰）
・2015年からのドーピング検査―うっかりドーピングも含めて―
　平成２７年度京都府体育協会主催ドーピング講習会　2015.6.15　京都、日本（中川泰彰）
・スポーツ傷害の基礎知識ー発育・発達段階に応じた傷害の予防についてー
　平成２７年度京都府スポーツセンター指導者研修講座　2016.2.11　京都、日本（中川泰彰）

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	井上直人、中川泰彰、向井章悟、新宮信之、伊藤盛春、廣瀬ちえ 高位脛骨骨切り術に骨軟骨柱移植術を併用した変形性膝関節症患者の術後1年の経過　第50回理学療法学術集会 2015.6.7 東京
国内学会	井上直人、中川泰彰、向井章悟、新宮信之、伊藤盛春、廣瀬ちえ 高位脛骨骨切り術に骨軟骨柱移植術を併用した変形性膝関節症患者の術後成績　～65歳未満と65歳以上の比較検討～　第7回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科　2015.6.18 札幌
国内学会	井上直人、中川泰彰、向井章悟、薮本浩光、新宮信之、伊藤盛春、廣瀬ちえ、大場友裕、橋本雅至、木下和昭、高嶋厚史、石束友輝、吉川晋矢 小学生軟式野球選手におけるSide Bridge testの有用性 第26回日本臨床スポーツ医学会学術集会　2015.11.8 神戸
国内学会	廣瀬ちえ、中川泰彰、向井章悟、薮本浩光、新宮信之、伊藤盛春、井上直人、大場友裕 小学生軟式野球選手における野球歴と外側肘障害・ポジションの関係性 第26回日本臨床スポーツ医学界　2015.11.8 兵庫
国内学会	伊藤盛春、中川泰彰、向井章吾、薮本浩光、新宮信之、井上直人、廣瀬ちえ、大場友裕 学童期少年野球選手における関節可動域の経年変化～各年代間の比較～ 第26回日本臨床スポーツ医学会　学術集会　2015.11. 8 神戸
国際学会	Y.Nakagawa, S. Mukai Chronological changes of the cartilage in recipient sites and theirmirror areas on second-look imaging after mosaicplasty　10th ISAKOS Congress　June 7-11, 2015, Lyon France
国際学会	S.Mukai, Y.Nakagawa The comparative analysis of clinical symptoms and MRI findings after the osteochondral autograft transfer for the spontaneous osteonecrosis of the knee　10th ISAKOS Congress June 7-11, 2015, Lyon France
国際学会	Y. Nakagawa, S.Mukai, S.Yamada, T. Hashimoto, A. Imaizumi, J. Nishihira, T. Nakamura Short-term effects of highly-bioavailable curcumin for treating early and advanced knee　osteoarthritis in human. The 8nd International Conference and Exibition for Neutraceuticals Functional Foods (ISNFF2015)、2015.9.21-23、Wuxi, China
研究会	向井章悟 京都府の少年野球の検診における問題点と今後の展望　京都整形外科医会学術講演会　2015.4.25 京都 日本

国内学会	向井章悟、中川泰彰、山田茂、向田征司、二宮周三、佐治隆彦、坪内直也、藪本浩光、樽見映里、中村孝志 大腿骨内顆骨壊死に対する自家骨軟骨移植術後の臨床成績とMRI所見との相関 第８８回日本整形外科学会学術総会　2015.5.21-24　神戸 日本
国内学会	中川泰彰、向井章悟、瀬戸口芳正、後藤匡志、古川泰三、山田茂、佐治隆彦、藪本浩光、樽見映里、中村孝志 自家骨軟骨移植術のドナーが健常膝であった症例のドナー部の術後成績 第８８回日本整形外科学会学術総会　2015.5.21-24　神戸 日本
国内学会	藪本浩光、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、二宮周三、佐治隆彦、坪内直也、樽見映里、中村孝志 脛骨近位骨軟骨損傷に対する自家骨軟骨移植術の治療成績 第８８回日本整形外科学会学術総会　2015.5.21-24　神戸 日本
教育講演	中川泰彰 2015年からのドーピング検査―うっかりドーピングも含めて― 平成２７年度京都府体育協会主催ドーピング講習会　2015.6.15　京都 日本
国内学会	藪本浩光、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、二宮周三、佐治隆彦、坪内直也、樽見映里、中村孝志　膝蓋大腿関節の末期変形性関節症に対し、膝蓋骨溝のみ自家骨軟骨移植術を施行した１例 第７回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会　2015.6.18-20　札幌 日本
国内学会	中川泰彰、向井章悟、佐治隆彦、藪本浩光、樽見映里、中村孝志 膝骨壊死に対する自家骨軟骨移植術の治療成績 第７回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会　2015.6.18-20　札幌 日本
国内学会	井上直人、中川泰彰、向井章悟、新宮信之、伊東盛春、廣瀬ちえ 脛骨高位骨切り術と骨軟骨移植術を併用した患者の術後成績－６５歳未満と６５歳以上の比較検討－ 第７回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会　2015.6.18-20　札幌 日本
国内学会	向井章悟、中川泰彰、佐治隆彦、藪本浩光、樽見映里、中村孝志 内側型OAに対する自家骨軟骨移植併用OWHTOの再鏡視所見は臨床スコアと相関するか 第７回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会　2015.6.18-20　札幌 日本
国内学会	向井章悟、中川泰彰、佐治隆彦、藪本浩光、樽見映里、中村孝志 内側型OAに対する自家骨軟骨移植併用OWHTOの再鏡視所見に影響する因子について 第７回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会　2015.6.18-20　札幌 日本
国内学会	中川泰彰、向井章悟、佐治隆彦、藪本浩光、三輪晶子、中村孝志 脛骨高位骨切り術後の骨切り部周辺に出現した皮膚炎の検討 第７回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会　2015.6.18-20　札幌 日本
国内学会	佐治隆彦、中川泰彰、向井章悟、新井隆三 中関節上腕靱帯(MGHL)損傷が肩関節不安定性の原因と考えられた１例 第７回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会　2015.6.18-20　札幌 日本
国内学会	藪本浩光、中川泰彰、二宮周三、藤原正利 人工骨頭脱臼を繰り返した臼蓋縁欠損を伴う大腿骨近位部骨折 第41回日本骨折治療学会　2015.6.26-27　奈良 日本
研究会	藪本浩光 臼蓋縁欠損を伴う大腿骨近位部骨折において術後人工骨頭脱臼を予測するBikini sign 平成２７年度ひふみ会　2015.7.25　京都 日本
国内学会	三輪晶子、中川泰彰、向井章悟、中村孝志 膝蓋骨骨軟骨疾患に対する骨軟骨移植術後のスポーツ復帰 第４１回日本整形外科スポーツ医学会学術集会　2015.9.11-12　京都 日本
国内学会	向井章悟、中川泰彰、佐治隆彦 バンカート修復術後のcollision スポーツによる影響について 第４２回日本肩関節学会　2015.10.9-10　仙台 日本
国内学会	佐治隆彦、中川泰彰、向井章悟、中村孝志 初回脱臼後に整復の維持が困難であった肩関節脱臼の１例 第４２回日本肩関節学会　2015.10.9-10　仙台 日本
国内学会	中川泰彰 軟骨損傷に対する手術 第７回JOSKASセミナー　2015.10.24-25　札幌 日本
国内学会	伊藤盛春、中川泰彰、向井章悟、佐治隆彦、藪本浩光、新宮信之、井上直人、廣瀬ちえ、大場友裕 学童期少年野球選手における関節可動域の経年変化、各年代間の比較 第２６回日本臨床スポーツ医学会学術集会　2015.11.7-8　神戸 日本
国内学会	向井章悟、中川泰彰、新宮信之、井上直人、伊藤盛春、廣瀬ちえ 野球検診の義務化、有料化という二大課題への試み 第２６回日本臨床スポーツ医学会学術集会　2015.11.7-8　神戸 日本
国内学会	廣瀬ちえ、中川泰彰、向井章悟、佐治隆彦、藪本浩光、新宮信之、井上直人、伊藤盛春、大場友裕 小学生軟式野球選手における野球歴と外側肘障害・ポジションの関連性 第２６回日本臨床スポーツ医学会学術集会　2015.11.7-8　神戸 日本
国内学会	井上直人、中川泰彰、向井章悟、佐治隆彦、藪本浩光、新宮信之、伊藤盛春、廣瀬ちえ、橋本雅至、大場友裕、木下和明、高嶋厚史、石束友輝、吉川晋也 小学生軟式野球選手におけるSide Bridge testの有用性 第２６回日本臨床スポーツ医学会学術集会 2015.11.7-8 神戸 日本
国内学会	大場友裕、中川泰彰、向井章悟、佐治隆彦、藪本浩光、新宮信之、井上直人、伊藤盛春、廣瀬ちえ 成長期の軟式野球選手における関節可動域及び筋力、筋パワー要素についてーポジションの違いによる検討― 第２６回日本臨床スポーツ医学会学術集会　2015.11.7-8　神戸 日本
国内学会	中川泰彰、向井章悟、服部祐司、中村孝志 格闘技である相撲が成長期の脊椎・脊髄に与える影響 日本小児整形外科学会学術集会　2015.12.4-5　岐阜 日本
国内学会	中川泰彰 相撲競技が四肢体幹に与える影響 日本武道学会相撲分科会　2015.12.5　東京 日本
国内学会	三輪晶子、中川泰彰、山田茂、向井章悟、佐治隆彦、坪内直也、藪本浩光、中村孝志、瀬戸口芳正 術前診断が上腕骨小頭離断性骨軟骨炎であった上腕骨外上顆剥離骨折の１例 第２１回スポーツ傷害フォーラム　2016.1.23　大阪 日本

国内学会	中川泰彰 スポーツ傷害の基礎知識ー発育・発達段階に応じた傷害の予防についてー 平成２７年度京都府スポーツセンター指導者研修講座　2016.2.11　京都 日本
国内学会	向井章悟、中川泰彰、中村孝志、瀬戸口芳正 上腕骨離断性骨軟骨炎の病巣型と自家骨軟骨移植術後のMRI所見との関係 第２８回日本肘関節学会学術集会　2016.2.12-13　岡山 日本
国内学会	中川泰彰、向井章悟、藪本浩光、中村孝志 モザイクドナー部の軟骨形成に与えるアレンドロネートの影響 第２９回日本軟骨代謝学会　2016.2.19-20　広島 日本

□ 投稿論文など

著者・タイトル・著書雑誌名
井上直人、中川泰彰、向井章悟 変形性膝関節症患者に高位脛骨骨切り術と骨軟骨柱移植術を併用した患者の術後成績 日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会雑誌 2015.6 Vol.40;No.3:744-748
Yasuaki Nakagawa, Shogo Mukai, Hiromitsu Yabumoto, Eri Tarumi, Takashi Nakamura Cartilage degeneration and alignment in severe varus knee osteoarthritis Cartilage 2015, 6: 208-215
中川泰彰 A-4 変形性膝関節症の有効性を導くための被験者選定と評価項目設定 PharmStage、vol.14; no. 10: 30-34, 2015
藪本浩光、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、二宮周三 A-5 自家骨軟骨移植術でスポーツ復帰を果たしたシニアスポーツ愛好家の１例 整形外科、　vol.66 no.5, 441-444, 2015
樽見映里、中川泰彰、向井章悟、佐治隆彦、藪本浩光、中村孝志 A-3 外側型変形性膝関節症に対する髄内釘を用いた大腿骨遠位内反骨切り術の術後成績 JOSKAS, vol.40:416-417, 2015
藪本浩光、中川泰彰、二宮周三、佐治隆彦、坪内直也、樽見映里 A-3 90歳以上の超高齢者に対する人工膝関節全置換術の術後成績 中部整災誌、58：371-372, 2015
中川泰彰、向井章悟、樽見映里、中村孝志 A-3 健常膝をドナーとした骨軟骨移植術のドナー部の短期臨床成績 JOSKAS, VOL40: 656-659, 2015
井上直人、中川泰彰、向井章悟 A-3 変形性膝関節症に脛骨高位骨切り術と骨軟骨柱移植術を併用した患者の術後成績 JOSKAS, VOL40: 744-748, 2015
西谷江平、中川泰彰、森浩二 IV.さまざまな病態に対する超音波診断。４. 関節軟骨 A-4 整形外科　66：840-845、2015

形成外科



診療科長
荒田　順

専門医資格等　日本形成外科学会専門医
日本手外科学会専門医
日本創傷外科学会専門医
京都大学　臨床教授
専 門 分 野　手外科・先天異常
得 意 疾 患　手足指短縮症

□スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	瀬崎　信一	日本形成外科学会専門医	顔面形成 形成一般	
医　　師	鈴木　茉友	日本形成外科学会専門医	形成一般	乳房
専修医	海透　修子		形成一般	
専修医	熊切　将宜		形成一般	

□診療科の特徴

施設認定等	日本形成外科学会認定施設 日本手外科学会認定基幹研修施設

□主な対象疾患

先天異常、皮膚・皮下軟部腫瘍、顔面外傷、手外科、瘢痕拘縮、頭頸部・乳房再建

□診療（業務）内容

当科では

・手足、顔面、体幹の先天異常をはじめとする小児形成外科
・整容を重視した眼瞼下垂、内反症および外反症などの眼瞼形成
・体表における腫瘍の切除、皮膚潰瘍に対する皮膚移植、遊離皮弁による潰瘍の閉鎖などの皮膚疾患に対する整容面に配慮した外科治療
・顔面骨骨折を中心とする顔面外傷に対する整容を重視した治療、口腔外科と合同で行う顎顔面外科
・切断指を含む手外科疾患の初期治療から二次的な機能再建
・頭頸部外科と合同で頭頸部癌に対する癌切除後の機能損失を最小限にすることを目的としたマイクロサージャリーを駆使した組織移植を積極的に行い、乳腺外科との合同で乳がんに対する乳房再建を手がけています。
・レーザー：ルビーレーザー（黒、茶あざ、しみ）、Ｖビーム（血管腫）、ＣＯ２レーザー（小腫瘍の蒸散、瘢痕の修正）を所持しており、美容を目的としたしみに対するレーザー治療など幅広い治療を行っています。

□診療実績（平成27年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
9名	249名	13日

外来患者数

1日平均患者数
23名

主な術式別手術件数

皮膚皮下腫瘍	眼瞼形成	顔面骨骨折および外傷	手外科
373件	23件	87件	60件

マイクロサージャリー
35件

□学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者	演　題	学会名
国内学会	荒田順　石坂知華　瀬崎伸一 鈴木茉友　海透修子	電動デルマトームによる足底からの採皮法の検討	第58回日本形成外科学会総会
国内学会	瀬崎伸一　荒田順　石坂知華 鈴木茉友　海透修子	頬骨骨折に対する低侵襲手術の検討	第58回日本形成外科学会総会
国内学会	荒田順　石坂知華　瀬崎伸一 鈴木茉友　海透修子	腱性マレット指に対する手術治療症例の検討	第7回日本創傷外科学会
国内学会	鈴木茉友　荒田順　石坂知華 瀬崎伸一　海透修子	当院における局所陰圧閉鎖療法の各科の使用状況	第7回日本創傷外科学会
国内学会	荒田順　益岡弘　瀬崎伸一 鈴木茉友　海透修子	遊離空腸移植術症例における腸間膜によるモニタリング法の検討	第42回日本マイクロサージャリー学会

脳神経外科



副院長
塚原　徹也

専門医資格等
　日本脳神経外科学会
　専門医/ 指導医
　日本脳卒中学会専門医
専門分野
　脳神経外科
得意疾患
　脳血管障害
　脳卒中の外科的治療



診療科長
福田　俊一

専門医資格等
　日本脳神経外科学会
　専門医/ 指導医
　日本脳卒中学会専門医
専門分野
　脳神経外科
得意疾患
　脳動脈瘤
　良性脳腫瘍
　頭蓋底手術
　バイパス術

□スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	青木　友和	日本脳神経外科学会 専門医 / 指導医 日本脳卒中学会　専門医 日本癌治療学会　暫定教育医	脳神経外科	脳腫瘍(悪性)、下垂体腫瘍、顔面痙攣、三叉神経痛
医　　師	川端　康弘	日本脳神経外科学会 専門医 / 指導医 日本脳卒中学会　専門医 脳神経血管内治療学会 専門医	脳神経外科	脳血管障害、脳血管内治療、脳腫瘍
医　　師	河原﨑　知	日本脳神経外科学会 専門医 / 指導医	脳神経外科	
専修医	手島　啓幾		脳神経外科	

□診療科の特徴

施設認定等	日本脳神経外科学会研修施設

1. 当科は、脳卒中や頭部外傷などの脳神経外科領域の救急疾患に２４時間対応し、地域救急医療に貢献していると同時に、困難な脳神経系疾患に対して集約的な治療も行っています。
2. 脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷、脊髄疾患など脳神経外科領域全般にわたって、患者さんの入院および外来加療を行っています。
3. 脳神経外科領域の疾患では、緊急に手術等の処置を行わなければ生命にかかわる場合もあれば、逆に病気はあるものの、定期的に外来で経過を観て行くことが適当である場合もあります。
4. 上記3.のような場合を除けば、手術をすべきかどうかは、その疾患自体だけではなく、症状や年齢、全身状態、手術の難易度、さらには患者さんの性格や家族構成などを考慮して決めるべきであり、たとえ同じ疾患でも個々の患者さんによって方針が異なってきます。
5. 私たちは、患者さんご自身やご家族に充分に病気についての説明をし、相談をした上で、インフォームドコンセントをとり、その上で適切な治療方針をとることが大切であると考えています。
6. いったん手術が必要であると決まった場合には、たとえ難易度の高い手術でも、従来の顕微鏡を用いた開頭手術に加え、血管内手術や神経内視鏡手術などの様々な手術法を用い、積極的に治療を行っています。

□主な対象疾患

・脳血管障害（脳梗塞・クモ膜下出血・未破裂脳動脈瘤・脳内出血・その他の脳血管障害）
・脳腫瘍（グリオーマ・下垂体腺腫・頭蓋底腫瘍・聴神経腫瘍・転移性脳腫瘍・脳内リンパ腫・胚細胞腫・頭蓋咽頭腫）
・神経内視鏡手術
・頭部外傷
・機能的脳神経外科（顔面けいれん・三叉神経痛）

□診療（業務）内容

・脳血管障害（脳梗塞に対する血行再建術・破裂および未破裂脳動脈瘤に対するクリッピング術および脳動静脈奇形・脳内出血に対する開頭摘出術、内視鏡手術）
・脳神経血管内治療(脳動脈瘤塞栓、ステント設置、腫瘍塞栓、脳動静脈奇形塞栓、急性期血管血行再建など)
・脳腫瘍（グリオーマ・下垂体腺腫・頭蓋底腫瘍・聴神経腫瘍・転移性脳腫瘍・脳内リンパ腫・胚細胞腫・髄膜腫・頭蓋咽頭腫）に対する摘出術
・神経内視鏡手術（下垂体腫瘍、脳室内腫瘍、水頭症、脳内出血など)
・頭部外傷(血腫除去術)
・脊椎背髄疾患
・機能的脳神経外科（顔面けいれん・三叉神経痛に対する神経減圧術)
・頭蓋底および頚部腫瘍: 腫瘍摘出および血行再建術

□診療実績（平成27年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
18名	352名	17日

外来患者数

1日平均患者数
36名

□ 地域医療連携・広報活動

第12回脳卒中市民講座　2015年1月10日　於：京都医療センター

□学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
研究会	福田俊一、下權谷祐児、福田美雪、安藤譲二、長谷川浩二；　計算流体力学(CFD)解析と実験的脳動脈瘤誘発動物モデルを用いた脳動脈瘤形成における血行力学的因子の役割検討：Part2　第69回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会　2015.4.18　大阪
国際学会	Yasuhiro Kawabata, Tetsuya Tsukahara, Shunichi Fukuda, Tokokazu Aoki, Satoru Kawarazaki；　Algorithmic selection of emboli protection device during the procedure of carotid artery stenting　ASNR53rd Annual Meeting & the Foundation of the ASNR Symposium2015　25-30 April 2015,　Chicago
研究会	福田俊一；　脳動脈瘤形成における血行力学因子の役割について：実験的脳動脈瘤誘発動物とヒト脳動脈瘤CFD解析　第54回生体医工学会大会　2015.5.8　名古屋
国際学会	K Yasuda, S Fukuda, M Nakamura, R Otani, M Sainouchi, M Gotou, D Takagi, S Kawarazaki, Y Kawabata , N Murase, T Aoki, N Yonemoto, M Akao, T Tsukahara. The Fushimi AF Registry Analysis of Cerebral Infarction Events for the Follow-up Period of One Year. 24th European Stroke Conference　13-15 May 2015　Vienna, Austria
研究会	川端康弘；Large sizeの破裂内頚動脈瘤の1例　Stryker product update　2015　2015.5.24　埼玉
研究会	青木友和；グリオーマ治療の最新情報　脳腫瘍2015　2015.7.3　大阪
研究会	手島啓幾、河原﨑知、川端康弘、青木友和、福田俊一、塚原徹也；　急性期血行再建術を行った一例　STROKE研究会　2015.7.3　京都
研究会	福田俊一；脳血管障害と危険因子について：高血圧・糖尿病・喫煙など　伏見医師会ランチョンセミナー　2015.7.24　京都
研究会	青木友和；癌免疫療法のパラダイムシフト　第70回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会　2015.9.5　大阪
研究会	手島啓幾、川端康弘、河原﨑知、福田俊一、青木友和、塚原徹也、大谷良；Trevo® provueレトリーバーとPenumbra®で血行再建を行った中大脳動脈閉塞の一例　第70回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会　2015.9.5　大阪
国際学会	Tetsuya Tsukahara；Surgical treatment of carotid arterial stenosis in high-risk patients　15th Interim Meeting of the World Federation of Neurosurgical Societies September 8-12 2015　Roma,Italy
国際学会	Shunichi Fukuda；A role of hemodynamic stress on the cerebral aneurysm formation: A series of studies using an animal model of experimentally induced cerebral aneurysms　10th World Congress for Microcirculation　2015.9.24　Kyoto Japan
国際学会	Yuji Shimogonya, Shunichi Fukuda；Computational fluid dynamics for simulating the blood flow in arteries: Its applications to hemodynamic analyses of the cerebral aneurysm formation　10th World Congress for Microcirculation　2015.9.24　Kyoto Japan

国内学会	福田俊一、下權谷祐児；CFD解析は未破裂脳動脈瘤の破裂・増大予測や治療に貢献しうるか？多施設前向き臨床研究：CFD ABO Study中間解析報告 日本脳神経外科学会第74回学術総会 2015.10.15 札幌
国内学会	青木友和； 再発悪性神経膠腫に対するTemozolomideとACNUの併用化学療法(TA療法)の第Ⅰ/Ⅱ相試験 京都脳腫瘍グループ 日本脳神経外科学会第74回学術総会 2015.10.16 札幌
国内学会	川端康弘、塚原徹也、福田俊一、三宅英則、青木友和、河原﨑知；中大脳動脈瘤に対するコイル塞栓術の治療成績 日本脳神経外科学会第74回学術総会 2015.10.16 札幌
研究会	手島啓幾、他；脳出血で診療に苦慮した硬膜動静脈瘻の一例 第11回京滋脳卒中臨床カンファランス 2015.10.9 京都
研究会	川端康弘； 当院における脳梗塞急性期の結構再建術について～ステント型血栓回収機器は急性期血行再建の切り札となり得るか？～ 第7回伏見脳卒中セミナー 2015.10.24 京都
国際学会	Yasuhiro Kawabata; Functional outcomes of endovascular coiling of ruptured cerebral aneurysms 13th Congress of the World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology WFITN2015 9-13 November 2015 Gold Coast, Australia
国際学会	Yasuhiro Kawabata; Endovascular coil embolization of intracranial aneurysms with a branch arising from the sac 13th Congress of the World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology WFITN2015 9-13 November 2015 Gold Coast, Australia
国際学会	Yasuhiro Kawabata; Successful endovascular treatment of a dissecting aneurysm of vertebral artery associated with double origin of the posterior inferior cerebellar artery: Case report 13th Congress of the World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology WFITN2015 9-13 November 2015 Gold Coast, Australia
国内学会	川端康弘、河原﨑知、福田俊一、手島啓幾、塚原徹也、青木友和、大谷良； ネック／ドームから血管が分枝している脳動脈瘤の塞栓術 第31回日本脳神経血管内治療学会学術総会 2015.11.19 岡山
国際学会	Aoki Tomokazu, Tetsuya Ueba, Jun Takahashi, Shin-Ichi Miyatake, Masao Matsutani； Phase II study of ifosfamide, carboplatin, and etoposide inpatients with a first recurrence of glioblastoma multiforme 20th Annual Scientific Meeting and Education Day of the Scociety for Neuro-Oncology November 19-22, 2015 San Antonio, Texas,
国内学会	川端康弘、青木友和、塚原徹也、安井久晃、山本鉄郎、新宅雅幸、森吉弘毅、澤井聡、楊涛、福田俊一、河原﨑知； 頭蓋外転移した頭蓋内原発平滑筋肉腫の一例 第33回日本脳腫瘍学会学術集会 2015.12.6 京都
国内学会	青木友和；グリオーマの新しい免疫療法（A short history of PD1） 第33回日本脳腫瘍学会学術集会 2015.12.6 京都
国内学会	青木友和；テモゾロミド ＋ ACNU化学療法：再発悪性神経膠腫：第Ⅰ/Ⅱ相試験 京都脳腫瘍G 第33回日本脳腫瘍学会学術集会 2015.12.7 京都
研究会	川端康弘；脳血管内治療Up to Date 第13回脳卒中市民講座 2015.12.19 京都
国際学会	Shunichi Fukuda, Yuji Shimogonya, Miyuki Fukuda, Tetsuya Tsukahara; Hemodynamic Localizations in Anterior Communicating Artery Aneurysms in Comparison With Middle Cerebral Artery Aneurysms With Computational Fluid Dynamics Analysis International Stroke Conference 2016 February 17-19, 2016 Los Angeles, California
研究会	森田匠、川端康弘；内頸動脈-前脈絡叢動脈分岐部動脈瘤の一例 第6回熱海脳血管内治療セミナー 2016.3.6 静岡
研究会	川端康弘；若年発症の中大脳動脈tiny aneurysmの一例 第6回熱海脳血管内治療セミナー 2016.3.6 静岡
研究会	川端康弘；動脈瘤破裂によるdirect CCFの1例 第37回京滋脳神経血管内治療懇話会 2016.3.19 滋賀
研究会	福田俊一；脳血管障害における血行力学因子の役割について 第３回予防医学研究セミナー 2016.3.28 大阪

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
Cardiovascular Diabetology 2015	Kotani Kazuhiko, Satoh-Asahara Noriko, Nakakuki Takuya, Yamakage Hajime, Shimatsu Akira, Tsukahara Tetsuya; Association between metabolic syndrome and multiple lesions of intracranial atherothrombotic stroke: a hospital-based study 2015.8;14
Interv Neuroradiol	Kawabata Y, Tsukahara T, Fukuda S, Kawarazaki S, Aoki T. Successful endovascular treatment of a dissecting aneurysm of vertebral artery associated with double origin of the posterior inferior cerebellar artery. 2015.11;22(1):62-66
J Cereb Blood Flow Metab	Gu YH, Kanazawa M, Hung SY, Wang X, Fukuda S, Koziol JA, Del Zoppo GJ. Cathepsin L acutely alters microvessel integrity within the neurovascular unit during focal cerebral ischemia. 2015.11;35(11):1888-1900
Interventional Neuroradiology	Yasuhiro Kawabata, Tetsuya Tsukahara, Shunichi Fukuda, Satoru Kawarazaki and Tomokazu Aoki; Successful endovascular treatment of a dissecting aneurysm of vertebral artery associated with double origin of the posterior inferior cerebellar artery 2016.2;22(1):62-66

血管外科



診療科長
浅田　秀典

専門医資格等　心臓血管外科専門医
日本外科学会専門医
日本脈管学会評議員
旭川医科大学　医学博士

専門分野　血管外科（閉塞性動脈硬化症、動脈瘤、急性動脈閉塞、血管炎、血管外傷に対する各種血行再建術）、静脈、リンパ疾患

□診療科の特徴

1．あらゆる診療科や地域医療機関で直面した血管疾患の問題に迅速に対応してまいります。
2．患者さんには診療内容に対する十分な説明と満足な治療成果が得られるよう努力いたします。
2006年（平成18年）4月に発足した、主に末梢動脈疾患に対する血行再建を担当する診療科です。
近年、糖尿病や腎不全による慢性透析患者さんが増加するとともに、閉塞性動脈硬化症例（ASO）が増加しています。
閉塞性動脈硬化症とは、動脈硬化による下肢血流障害により各種症状（歩行時の下肢の痛み、安静時の足の痛みおよび足部潰瘍・壊死）を生じ、最終的には下肢切断にも至る疾患です。
このような症例には、迅速な診断とともに適切な治療が必要で、時には技術的に困難とされる足関節周囲への末梢バイパス手術と適切な局所処置が必要となります。
当科は、京都では数少ない血管外科専門科として日々下肢血流障害の治療にあたっています。
患者さんの多くは動脈硬化性の全身合併症があり、術前評価には循環器内科、脳神経外科、また、術前後には麻酔科はもちろん、糖尿病内科、腎臓内科、形成外科、整形外科、皮膚科などとの協力が必要で、各科連携した総合的診療を心がけています。

□主な対象疾患

大動脈疾患（腹部大動脈瘤、大動脈解離など）
閉塞性動脈硬化症（糖尿病合併症例、慢性透析例を含む）
閉塞性血栓血管炎（バージャー病）
急性動脈閉塞症（血栓症、塞栓病、外傷など）
下肢静脈瘤、静脈（鬱滞）性潰瘍
深部静脈血栓症、肺塞栓症
リンパ浮腫
血管内治療（動・静脈閉塞性疾患、動脈瘤）
内シャント（blood access）作成

□診療（業務）内容

外来診療は、月、水の午前・午後、木曜日午前中の3日間実施しております。
心疾患、脳疾患、糖尿病、腎臓病などの併存症を持っている方でも院内全体の診療科が協力し、安全で安心できる治療を行っています。

□診療実績（平成27 年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
10名	238名	16日

外来患者数

1日平均患者数
10名

主な手術・検査の件数など

下肢末梢動脈手術	腹部大動脈瘤手術	透析内シャント手術	下肢静脈瘤手術
79件	18件	91件	2件

四肢カテーテル治療	四肢動脈造影
41件	99件

□学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	浅田秀典、片岡剛、白神幸太郎 long-term outcomes of distal bypass for PAD 第43回日本血管外科学会 2015.6. 5 横浜
研究会発表	浅田秀典 高齢、静脈確保が困難な重症虚血肢 第 1 回関西血管外科倶楽部 2015.10. 2 大阪
研究会発表	浅田秀典、片岡剛、白神幸太郎 重症虚血肢に対して人工血管ー静脈のいわゆるcomposite graftを用いてdistal bypassを施行した例 第49回京滋心臓血管外科研究会 2016.2. 6 京都

□投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
研修医のための見える・わかる外科手術	浅田秀典　静脈瘤手術、末梢動静脈シャント造設術　2015.11;284-291

心臓外科



診療科長
部長（医療安全担当）
白神　幸太郎

専門医資格等　心臓血管外科専門医
心臓血管外科修練指導者
外科専門医
京都大学臨床教授、非常勤講師

専門分野　成人心臓大血管疾患
成人心臓大血管手術

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	片岡　　剛	心臓血管外科専門医 外科専門医 脈管専門医	成人心臓大血管疾患	成人心臓大血管手術

□ 診療科の特徴

京都府南部地域における循環器疾患の基幹施設として機能すべく、2011年に開設。2013年までの実績により、心臓血管外科専門医認定機構より基幹施設認定を受けた。①心臓外科診療を通して人々のお役に立つ②手術や診療の透明性を確保する③循環器診療の最後の砦となる、という3つの診療指針の下、循環器内科、血管外科、救命救急科、麻酔科との緊密な連携を維持しながら安全な医療を提供するように努力している。

□ 主な対象疾患

虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞など）に対する冠動脈バイパス術
弁膜症（大動脈弁疾患、僧帽弁疾患など）に対する弁形成術や弁置換術、不整脈手術
大血管疾患（胸部大動脈瘤、急性大動脈解離など）に対する人工血管置換術

□ 診療（業務）内容

心臓大血管疾患の手術適応およびリスク評価を体系的にかつ厳密に行い、安全な手術治療を目指す。循環器内科、血管外科と共に心臓血管カンファレンスを行い、手術適応、術前リスクと治療方針の検討、周術期治療経過の報告を行い、治療の透明性を担保している。また緊急を要する症例について積極的に手術治療を行い、地域医療に貢献することを目標としている。

□診療実績（平成27年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
7名	74名	31日

外来患者数

1日平均患者数
5名

主な手術・検査の件数など

冠動脈バイパス術	心臓弁膜症手術	大動脈手術	その他心臓手術
15件	32件	16件	2件

2011年4月心臓外科開設。2011年（6月より12月までに34例、2012年65例、2013年74例、2014年72例、2015年心臓大血管手術は69例であった。単独冠動脈バイパス術13例中、8例を体外循環非使用手術、4例を体外循環使用心拍動下手術として施行した。弁膜症に対しては32例に対して治療を行った。大動脈弁手術は25例、うち生体弁による大動脈弁置換術が20例、機械弁使用2例、弁形成術3例であった。僧帽弁閉鎖不全症に対しては弁形成術を第一選択としており、僧帽弁手術10例のうち弁形成術が7例であった。心房細動に対するメイズ手術は4例施行し、3例が正常洞調律に復帰した。大動脈手術は解離性大動脈瘤に対して8例、うち緊急手術が6例、真性大動脈瘤に対する手術が7例であった。予定手術における院内死亡は2例でともに大動脈手術であり上行弓部大動脈置換術を施行した症例で、1例は術前肝硬変を有し術後敗血症を続発した1例、もう1例は術前慢性腎不全による透析施行症例であった。緊急症例での死亡例は認めなかった。予定、緊急を含めた院内総死亡率は2.9%であった。

本年度より本格的に大動脈疾患に対する血管内治療（ステントグラフト留置術）を開始し、腹部大動脈瘤、胸部大動脈瘤に対するステントグラフト留置術の実施施設認定を受け、腹部大動脈瘤に対するステントグラフト留置術を8例に対して施行した。

□ 地域医療連携・広報活動

医師会、救急隊を通じての広報活動を行い、他院循環器内科とも積極的に協働している。院外からの手術目的紹介症例は年々増加している。

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	白神幸太郎、坂田隆造、坂本喜三郎、坂口元一、南方謙二、小山忠明 京都大学心臓血管外科グループの教育プログラム策定、運用の検証 第77回日本臨床外科学会総会 2015.11. 27 福岡
国内学会	白神幸太郎、片岡剛、浅田秀典、阿部充、右野恵、黒川久美子、山崎茂 宗教的輸血拒否患者に対する当院の取り組み 第69回国立病院総合医学会 2015.10. 3 札幌
研究会	白神幸太郎、片岡剛、浅田秀典、阿部充、右野恵、黒川久美子、山崎茂 宗教的輸血拒否患者に対する当院の取組み 第13回日本医療マネジメント学会京滋支部学術集会 2015.6.2. 13 京都
研究会	白神幸太郎、阿部充、右野恵、黒川久美子、山崎茂 インシデントレポーティングシステム導入の効果と応用 第13回日本医療マネジメント学会京滋支部学術集会 2015.6.2. 13 京都
研究会	白神幸太郎、阿部充、右野恵、黒川久美子、山崎茂 オカーレンスを活かす一事例検討から医師へのフィードバック 第13回日本医療マネジメント学会京滋支部学術集会 2015.6.2. 13 京都
研究会発表	片岡剛、白神幸太郎 当科におけるJapan Scoreによる術前リスク評価と実際の手術成績の検討 第4回心臓手術を考える山紫水明の会 2015.9. 18 京都

□ 投稿論文など

著　書　・　雑　誌　名	著　者　・　タ　イ　ト　ル
研修医のための見える外科手術	白神幸太郎　上行大動脈置換術　冠動脈バイパス術 2015.11. 15
脈管学	片岡剛、浅田秀典、吉良浩勝、白神幸太郎 両下肢に重度壊死を伴った重症仮死虚血に対して両側distal dual bypassを施行し、救肢治癒できた1例 2015.4. 10;55(3):53-57
日本血管外科学会誌	片岡剛、白神幸太郎、吉良浩勝、浅田秀典 胸部鈍的外傷により個別に生じた、腕頭動脈と右鎖骨下動脈の仮性瘤に対する1手術例 2015.10. 7;24(6):915-919
日本血管外科学会誌	片岡剛、浅田秀典、吉良浩勝、白神幸太郎 全身性エリテマトーデスに抗リン脂質抗体症候群を合併して発症した虚血壊死に対して、distal bypass術を施行し治癒に至った1例 2015.10. 5；24(6):887-891

皮膚科



医長
十一　英子

専門医資格等　日本皮膚科学会皮膚科専門医
京都大学医学博士
京都大学医学部臨床教授
京都皮膚科医会理事
専門分野　皮膚科一般
皮膚免疫
得意疾患　乾癬
糖尿病足病変

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	岡本奈都子	日本皮膚科学会皮膚科専門医	皮膚科一般	
医　　師	渋谷　真美	日本皮膚科学会皮膚科専門医	皮膚科一般	
レジデント	臼居　駿也		皮膚科一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本皮膚科学会専門医研修施設 生物学的製剤使用承認施設

1. 乾癬に対する生物学的製剤による治療を行っています。
2. 糖尿病足病変、基礎疾患を持つ蜂窩織炎、帯状疱疹などの感染症や難治性潰瘍など、総合病院の特色を生かして他科と密に連携して治療しています。
3. 地域の他病院から紹介された診断困難な症例、難治例、重症例なども多く受け入れています。

□ 主な対象疾患

アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、うっ滞性皮膚炎、蕁麻疹、乾癬、掌蹠膿疱症、薬疹、水疱症、
細菌感染症（ざ瘡、蜂窩織炎、丹毒、伝染性膿痂疹、など）、
ウイルス感染症（帯状疱疹、単純疱疹、カポジ水痘様発疹症、尋常性疣贅など）、
真菌感染症（足白癬、股部白癬、爪白癬、カンジダ症など）、
皮膚潰瘍、皮膚腫瘍など

□ 診療（業務）内容

糖尿病に合併する皮膚疾患：糖尿病センターとの連携のもと、糖尿病と関連した足病変、皮膚病変の診療を行っています。
乾癬：中等症～重症では、生物学的製剤の治療を受ける患者さんが増えており、スクリーニング検査をし適応を決め投与しています。
帯状疱疹（ヘルペス）：重症度に応じて、抗ウイルス剤の内服、或いは入院で点滴治療を行っています。
爪白癬：難治な爪の水虫には抗真菌剤の内服治療を行っています。
接触皮膚炎：かぶれの原因検索に、パッチテストを行っています。
薬疹：重症薬疹は入院で治療しています。
水疱症：天疱瘡の中等症以上では血漿交換療法や免疫グロブリン大量療法を行っています。
診断・治療のために積極的に皮膚生検を行っています。

□診療実績（平成27年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
4名	76名	21日

外来患者数

1日平均患者数
75名

主な手術・検査の件数など

皮膚生検	皮膚切開術	皮膚皮下腫瘍摘出術
242件	108件	93件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

演題・演者・学会名
踵骨裂離骨折を契機に増悪した右踵部潰瘍の１例 渋谷真美, 徳永茉以, 岡本奈都子, 十一英子 第440回　日本皮膚科学会京滋地方会　2015年6月6日　京都
ステロイド内服を２年中止後に再燃した落葉状天疱瘡の一例 臼居駿也, 渋谷真美, 岡本奈都子, 十一英子 第66回　日本皮膚科学会中部支部学術大会　2015年11月1日　神戸
芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍の１例 岡本奈都子, 臼居駿也, 渋谷真美, 十一英子, 奥野芳章, 森吉弘毅 第443回　日本皮膚科学会京滋地方会　2015年12月19日　京都
経口避妊薬内服中に多発した毛細血管拡張生肉芽腫の一例 臼居駿也, 小亀敏明, 渋谷真美, 岡本奈都子, 十一英子 第444回　日本皮膚科学会京滋地方会　2016年3月5日　京都

□ 投稿論文など

著者・タイトル・著書・雑誌名
岡本奈都子, 野々村優美, 林雄二郎, 山本鉄郎, 十一英子　皮下結節の生検から多臓器症状の診断に至ったIgG4関連疾患の１例.　臨床皮膚科　69(6):421-426, 2015
徳永茉以, 渋谷真美, 岡本奈都子, 山本鉄郎,十一英子　陰部潰瘍と口唇・口腔内潰瘍を認めたサイトメガロウイルス感染症の１例.　皮膚科の臨床　57(4):399-403, 2015
岡本奈都子, 徳永茉以, 渋谷真美, 吉川伊津美, 坂田晋吾, 十一英子　妊婦の肉芽腫性乳腺炎ー結節性紅斑を併発した症例ー　皮膚病診療　37(8):775-778, 2015第443回　日本皮膚科学会京滋地方会　2015年12月19日　京都
徳永茉以, 野々村優美, 林雄二郎, 嘉山智子, 岡本奈都子, 田中宏典,三品睦輝,十一英子　陰茎のみに生じた壊疽性膿皮症の１例.　皮膚科の臨床　57(9):1425-1430, 2015
林雄二郎, 野々村優美, 岡本奈都子, 坂田晋吾, 十一英子　副乳癌と鑑別を要したmucinous carcinoma of the skinの男性例.　臨床皮膚科　69(12):945-948, 2015
渋谷真美, 徳永茉以, 岡本奈都子,十一英子　市販外用剤に含有されたセバシン酸ジエチルによる接触皮膚炎の１例.　皮膚科の臨床　57(13):1989-1993, 2015

泌尿器科



診療部長　科長
奥野　博

専門医資格等　日本泌尿器科学会専門医・指導医
京都大学臨床教授
関西医科大学臨床教授
日本生殖医学会評議員
日本アンドロロジー学会評議員
日本癌治療認定医
日本移植学会腎移植認定医
日本内視鏡外科学会技術認定医
日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
京都大学医学博士

専門分野　泌尿器科一般

得意疾患　前立腺癌、男性学

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	三品　睦輝	日本泌尿器科学会専門医・指導医 日本癌治療認定医 日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 京都大学医学博士	泌尿器科一般	膀胱癌 精巣癌 尿路結石症
医　　師	眞鍋　由美	日本泌尿器科学会専門医 日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医	泌尿器科一般	女性泌尿器科学
医　　師	田島　基史	日本泌尿器科学会専門医 ICD：Infection control doctor	泌尿器科一般	尿路性器感染症
医　　師	藤井　将人	日本泌尿器科学会専門医 日本癌治療認定医	泌尿器科一般	前立腺肥大症 PVP
医　　師	松本　敬優	日本泌尿器科学会専門医	泌尿器科一般	膀胱癌 尿路変更術
医　　師 (非常勤)	伊東　晴喜	日本泌尿器科学会専門医・指導医	泌尿器科一般	夜間頻尿

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本泌尿器科学会研修施設

1．体腔鏡、内視鏡をはじめとする低侵襲手術・検査（痛みが少なく入院期間を短く）により患者さんへの負担の軽減を図ります。
2．最先端医療も積極的に取り入れます。
3．地域の開業医、診療所、病院と積極的に医療連携を行います。
4．患者さんの人権を尊重し、安心と満足のいく良質の医療提供を目指します。

□ 主な対象疾患

腎臓癌、膀胱癌、前立腺癌、副腎腫瘍、前立腺肥大症、尿路結石症、過活動膀胱、夜間頻尿、尿失禁、膀胱瘤、骨盤臓器脱、男性不妊症、性機能障害、内分泌障害、尿路感染症、性感染症、小児泌尿器科、腹膜透析、慢性腎不全

□ 診療（業務）内容

・尿路性器悪性腫瘍に対する集学的治療を多部門と連携し積極的に行っている
・体腔鏡、内視鏡をはじめとする低侵襲手術に取り組んでいる
・初診外来担当医は患者さんの入院、手術、退院後の診療を一貫して責任をもって受け持つ
・外来及び入院看護師には排尿機能検査士の取得者を配置し、専門的な医療と看護を提供
・外来診療：木曜は４診　火曜、金曜は３診、月曜、水曜は２診
・手術：月、水、金曜日の週3日間
・火曜日の早朝には外来カンファレンス、夕方からは病理医を招いて臨床病理カンファレンス
・木曜日の早朝から全体回診（医師、看護師長）
・木曜日の朝に放射線科医を招いて放射線画像・放射線治療カンファレンス
・木曜日夕方から薬剤師、看護師を交えた症例カンファレンス
・金曜日早朝には最新の海外文献の抄読会やビデオ供覧会
・平成23年11月～前立腺肥大症に対し、光選択的前立腺レーザー蒸散術（PVP)を導入
・平成25年02月～前立腺癌に対し、腹腔鏡下前立腺全摘を導入
・平成26年08月～前立腺癌に対し、ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘を導入

□診療実績（平成27年度）

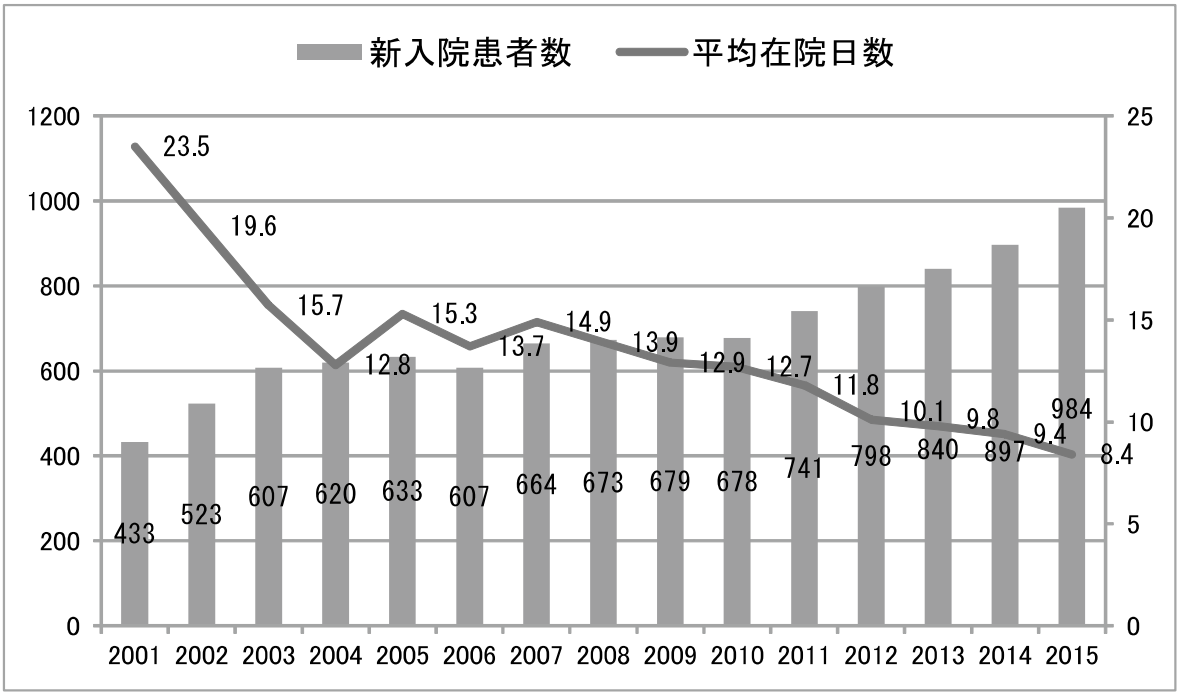
入院患者数

１日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
23名	984名	8日

外来患者数

１日平均患者数
79名

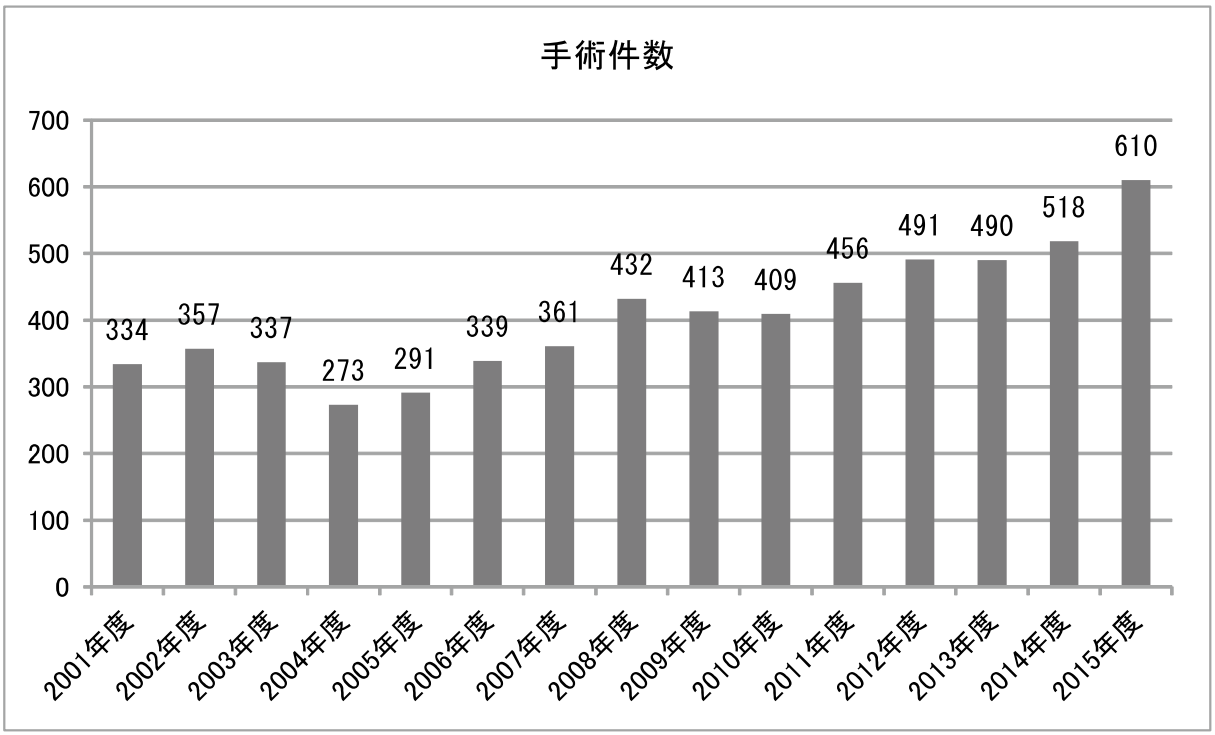
入院統計（年度）過去15年間の推移



主な手術・検査の件数など（2015年度）

ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘	腹腔鏡下前立腺全摘	腎摘（腹腔鏡含め）	前立腺肥大症内視鏡手術	膀胱癌内視鏡手術	骨盤臓器脱・尿失禁手術
37件	0件	21件	77件	104件	15件

手術統計（年度）過去15年間の推移
---ESWLを除く（2012年2月手術室導入　2014年2月放射線部門へ移転）



□ 地域医療連携・広報活動

第20回記念　内科ー泌尿器科病診連携の会（藤ノ森カンファレンス）。テーマ「適切治療とは？」 2015.09.12（京都・ホテルグランヴィア京都）

第2回Kyoto Hands-on Seminar 座長：奥野博　基調講演：七里泰正「これからのRALPに＋α」 2015.06.20（京都・アーバンネット四条烏丸ビル７F）

第10回　泌尿器科東山サマーセミナー　2015.08.21　（京都・芝蘭会館本館）

第6回　Young Urologist Conference　座長：奥野博　特別講演：神波大己「臨床医の留学の勧め」2015.11.06（リーガロイヤルホテル京都・京都市）

奥野　博：特別講演「泌尿器科疾患の最新の話題～排尿障害を中心に～」山科薬剤師会研修会　2015.06.13（京都・みやこ薬剤本店　2階　会議室）

奥野　博：京都市前立腺がん検診の状況について　平成27年度前立腺がん検診講習会　2015.06.18（京都・京都府医師会館）

奥野　博：記念講演「熟年男性の健康と性生活」～女性にも聞いてほしい！知ってほしい！～　第6回「EUSM研究会」2015.06.27（大阪・ホテル大阪ベイタワー）

奥野　博：Mini　Lecture　II「前立腺癌スクリーニングで不要な前立腺生検（過剰診断）を避けることができるか？」第20回記念　内科ー泌尿器科病診連携の会（藤ノ森カンファレンス）。 2015.09.12（京都・ホテルグランヴィア京都）

眞鍋由美：講演１「女性の排尿障害連携パスについて」 排尿障害連携パス連絡会　2016.01.14（京都・ホテルグランヴィア京都）

奥野　博：講演２「男性の排尿障害連携パスについて」 排尿障害連携パス連絡会　2016.01.14（京都・ホテルグランヴィア京都）

伊東晴喜：講演３「夜間頻尿連携パスについて」 排尿障害連携パス連絡会　2016.01.14（京都・ホテルグランヴィア京都）

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国 際 学 会	Hiroshi Okuno Photpselective Vaporization of the Prostate (PVP). Current Status and Potential Areas for Further Exploration. Joint CUA/KUA/KUA Symosium SIU 2015.10.15 (AUSTRARIA　Melboume)
国 内 学 会	奥野　博、増田憲彦、佐倉雄馬、松本敬優、藤井将人、田島基史、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝 不必要な生検回避のためのPSAグレーゾーン症例におけるMRI及びPSAパラメーターを用いた前向き研究 第103回日本泌尿器科学会総会　2015.04.18-21（発表04.18）（金沢市：石川県立音楽堂・ANAクラウンプラザ金沢・ホテル日航金沢・ホテル金沢・金沢市アートホールもてなしドーム）
国 内 学 会	奥野　博 特別講演「泌尿器科疾患の最新の話題～排尿障害を中心に～」 山科薬剤師会研修会　2015.06.13（京都・みやこ薬剤本店　2階会議室）
国 内 学 会	奥野　博 京都市前立腺がん検診の状況について 平成27年度前立腺がん検診講習会　2015.06.18（京都・京都府医師会館）
国 内 学 会	奥野　博 記念講演「熟年男性の健康と性生活」～女性にも聞いてほしい！知ってほしい！～ 第6回「EUSM研究会」2015.06.27（大阪・ホテル大阪ベイタワー）
国 内 学 会	奥野　博 Mini Lecture II「前立腺癌スクリーニングで不要な前立腺生検（過剰診断）を避けることができるか？」 第20回記念　内科ー泌尿器科病診連携の会（藤ノ森カンファレンス）　2015.09.12（京都・ホテルグランヴィア京都）
国 内 学 会	奥野　博 講演２「男性の排尿障害連携パスについて」 排尿障害連携パス連絡会　2016.01.14（京都・ホテルグランヴィア京都）
国 内 学 会	藤井将人、松本敬優、田島基史、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博 ポスター「前立腺肥大症に対する選択的前立腺レーザー蒸散術（PVP）の性機能に与える影響について～質問紙法を用いた検討～」 第103回日本泌尿器科学会総会　2015.04.18-21（発表04.19）（金沢市：石川県立音楽堂・ANAクラウンプラザ金沢・ホテル日航金沢・ホテル金沢・金沢市アートホールもてなしドーム）
国 内 学 会	藤井将人、松本敬優、田島基史、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博 PVP術前術後における勃起・射精に関する検討～第二報～ 第4回　PVP研究会学術集会　2015.05.09（名古屋・ウインチあいち　13階　1303）
国 内 学 会	藤井将人 一般演題「当院における前立腺肥大症に対する外科治療変遷～光選択的前立腺レーザー蒸散術（PVP）を中心に～」 第26回　京都泌尿器科医会学術講演会2015.05.30（京都・ANAクラウンプラザホテル京都）
国 内 学 会	藤井将人、松本敬優、田島基史、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野 博 光選択的前立腺レーザー蒸散術のコツとピットフォール 第65回日本泌尿器科学会中部総会　2015/10/23-25(発表10/24)(岐阜市：長良川国際会議場)
国 内 学 会	藤井将人、松本敬優、田島基史、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博 糖尿病性腎不全に合併した陰茎切断を要したCalciphylaxisの1例 日本泌尿器科学会第87回宮崎地方会　2016.01.23（宮崎・ホテルJALシティ宮崎）
国 内 学 会	藤井将人、松本敬優、田島基史、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博 術後10年で右精索に再発した前立腺癌の1例 第231回日本泌尿器科学会関西地方会　2016.02.06（京都・京都大学医学部　芝蘭会館）
国 内 学 会	藤井将人、松本敬優、田島基史、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博 反省すべき腎結石の1例 第252回 Monthly Meeting　2016.03.05（京都・ルビノ京都堀川）
国 内 学 会	三品睦輝、松本敬優、藤井将人、田島基史、眞鍋由美、伊東晴喜、奥野　博 「尿管鏡施行後　発熱が続き　診断、治療に苦慮した１例」 マンスリーミーティング　2015.12.05　（京都）

国内学会	眞鍋由美 「妊婦に対する泌尿器科的対応」第10回 泌尿器科東山サマーセミナー　2015.08.21　(京都・芝蘭会館本館)
国内学会	眞鍋由美 講演 1「女性の排尿障害連携パスについて」 排尿障害連携パス連絡会　2016.01.14 (京都・ホテルグランヴィア京都)
国内学会	眞鍋由美 【一般演題】腎癌「右腎癌に対する根治的右腎摘除術中に見つかった左側下大静脈の1例」 第34回泌尿器科手術研究会　2016.01.23 (京都・ハイアットリージェンシー京都)
国内学会	伊東晴喜、松本敬優、藤井将人、田島基史、眞鍋由美、三品睦輝、奥野　博 夜間頻尿の病因である膀胱蓄尿障害、夜間多尿、睡眠障害、多尿には何が寄与しているのか? 第22回日本排尿機能学会　2015.9.9-2015.9.11　(発表2015.9.10) (北海道・京王プラザホテル札幌)
国内学会	伊東晴喜 講演 3「夜間頻尿連携パスについて」 排尿障害連携パス連絡会　2016.01.14 (京都・ホテルグランヴィア京都)
国内学会	伊東晴喜 夜間頻尿の病因である膀胱蓄尿障害、夜間多尿、睡眠障害、多尿には何が寄与しているのか?～排尿日誌が評価できない場合の病因の推定～ 第12回夜間頻尿を考える会　2016.2.13 (福岡)
国内学会	田島基史、松本敬優、藤井将人、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博 臓器転移を有する化学療法後の去勢抵抗性前立腺癌にエンザルタミドが著功した1例 第231回日本泌尿器科学会関西地方会　2016.02.06 (京都・京都大学医学部　芝蘭会館)
国内学会	松本敬優、藤井将人、田島基史、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博 RALP後に恥骨前立腺炎を発症した1例 第252回　マンスリーミーティング　2016.03.05 (京都・ルビノホテル京都堀川)
国内学会	関　成人、黒松　功、桑原勝孝、伊原博之、奥野　博、杉村芳樹、山口秋人 光選択的前立腺レーザー蒸散術の有用性と安全性に関する多施設共同前向き研究の中間解析結果 第103回日本泌尿器科学会総会　2015.04.18-21 (発表04.21) (金沢市：石川県立音楽堂・ANAクラウンプラザ金沢・ホテル日航金沢・ホテル金沢・金沢市アートホールもてなしドーム)
国内学会	関　成人、黒松　功、桑原勝孝、伊原博之、奥野　博、杉村芳樹、野村博之、山口秋人 BPHに対するPVPとTURPならびにHoLEPの医療コストに関する比較検討 第22回日本排尿機能学会　2015.9.9-2015.9.11 (発表2015.09.10) (北海道・京王プラザホテル札幌)
国内学会	北村浩二、堀内大介、沖原浩治、奥野　博、神波大己、清川岳彦、上田朋宏、宮嵜慎也 京都市前立腺がん検診3年目の報告 第23回日本がん検診・診断学会総会　2015.08.21-22　(発表2015.08. 22) (北海道・ホテルさっぽろ芸文館)

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
「新薬と臨床」64：266-274、2015	眞鍋由美、大杉治之、北村悠樹、増田憲彦、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：前立腺肥大症に伴う蓄尿症状に対するナフトピジルの有用性に関する単施設研究
西日本泌尿器科 77 : 88-94, 2015	藤井将人, 大杉治之, 北村悠樹 眞鍋由美, 伊東晴喜, 三品睦輝 , 奥野 博, 中谷理恵子, 垣田真以子, 成瀬光栄 :悪性との鑑別が困難であった多発褐色細胞腫に多発傍神経節腫を合併した2症例

産科婦人科



副院長
診療科長
髙倉　賢二

専門医資格等　日本産科婦人科学会専門医・指導医・代議員
日本婦人科腫瘍学会専門医
日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
日本婦人科腫瘍学会　評議員
日本産婦人科内視鏡学会　評議員
日本内分泌学会　代議員
日本受精着床学会　評議員
京都大学　医学博士
京都大学医学部　非常勤講師
京都大学医学部　臨床教授
三重大学医学部　非常勤講師
三重大学医学部　リサーチ・アソシエイト
三重大学医学部　客員教授
関西医科大学　臨床教授

専門分野　婦人科腫瘍
産婦人科手術
内分泌疾患の診断・治療

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医療情報部長	北岡　有喜	日本産科婦人科学会専門医・京都大学医学博士	生殖分子生理学・医療情報学・情報システム学	
産科婦人科医長	高尾　由美	日本産科婦人科学会専門医・指導医・京都大学医学博士・日本医師会認定産業医	産婦人科一般	婦人科腫瘍 不妊症
産科婦人科医長	住友　理浩	日本産科婦人科学会専門医・指導医・日本がん治療認定医機構　がん治療認定医・日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法専門コースインストラクター・ALSO-Japan認定インストラクター	産婦人科一般	婦人科腫瘍・周産期救急・リスクマネージメント
医師	宇治田 麻里	日本産科婦人科学会専門医	産婦人科一般	産婦人科一般
医師	和田 美智子	日本産科婦人科学会専門医・日本周産期・新生児医学会周産期専門医（母体・胎児）・日本がん治療認定医機構　がん治療認定医	産婦人科一般	周産期一般
医師	川村　洋介	日本産科婦人科学会専門医・日本がん治療認定医機構　がん治療認定医	産婦人科一般	
医師	中木　絢子	日本産科婦人科学会専門医	産婦人科一般	
医師	髙倉　賢人	日本産科婦人科学会専門医・日本がん治療認定医機構　がん治療認定医	産婦人科一般	
専修医	小椋　惠利		産婦人科一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本産科婦人科学会　専攻医指導施設 日本婦人科腫瘍学会認定研修施設 日本周産期・新生児医学会　母体・胎児専門医制度研修施設（指定） 日本産科婦人科内視鏡学会　技術認定医研修施設

～産科～

何よりも安全で、妊婦さんひとりひとりが心から満足のいく分娩を提供します。

女性にとって、お産は重要なイベントです。そして、それぞれのお産についての妊産婦さんの考えや要望は年々変化してきています。私たちは、お産の質の向上、および医療者側のお産に対する的確な対応が、ますます大切なものとなってきていると考えています。

～婦人科～

女性の社会進出に伴い、外来治療や低侵襲手術（腹腔鏡手術や腟式手術、小開腹手術）を推進し、早期の社会復帰を目指します。充実した診療スタッフにより、幅広い婦人科疾患に対して対応可能です。特に、婦人科がんに対してハイレベルな診療を行います。

□ 診療（業務）内容

～産科～

1. 妊婦健診では、一般的な健診のみならず、病棟助産師が立ち会い、継続して保健指導を行い、生活指導なども適宜行っています。
2. 分娩（出産）は、自然分娩を尊重しながらも、合併症や急変に対しても、小児科（NICU）・内科・麻酔科などとも連携をとり、チームワークで対応します。
   合併症妊娠やハイリスク妊娠の症例も多く取り扱っています。 2015年度の周産期救急搬送（母体搬送）の受け入れ件数は39件で地域の周産期救急にも積極的に貢献しています。医学的根拠に基づいた安全で安心なお産を提供すべく、日々努力しています。
3. 産前・産後の母乳ケアを行い、母乳育児をサポートします。

～婦人科～

1. 治療前のインフォームド・コンセントを重視します
   十分な説明を行い、納得いただいたうえで治療を行うことにより、満足の得られる医療を行うことを診療のモットーとしています。また、疾患について画一化された治療を行うのではなく、それぞれの患者さんの身体的・精神的・社会的状況や希望なども十分ふまえたうえで治療方針を決定します。
2. 幅広い婦人科疾患に対応します
   充実した診療スタッフにより、良性疾患から悪性疾患まで幅広い婦人科疾患に対応可能です。
3. 低侵襲手術を行います
   女性の社会進出に伴い、入院期間・自宅療養期間の短縮が求められています。そのような社会のニーズに応えるため、悪性（癌）の疑いのない腫瘍に対しては、積極的に低侵襲手術（腹腔鏡下手術、腟式手術、小開腹手術）を行い、早期の社会復帰を目指します。
4. 悪性腫瘍に対してハイレベルな診療を行います
   京都府のがん診療拠点病院および日本婦人科腫瘍学会認定施設に指定されており、悪性腫瘍に対する診療経験が豊富にあります。常に最新の情報に基づいて、他科と連携してハイレベルな治療を行います。子宮頸癌に対する神経温存広汎性子宮全摘術に関しては2007年から先駆けて行っています。卵巣癌、子宮体癌に対しても、傍大動脈リンパ節郭清までの必要十分な手術を行う一方で、緻密な出血量の少ない手術操作により術後合併症を回避し、術後早期回復をはかります。リンパ浮腫専門外来を擁し、退院後のQOLにも配慮した診療を行います。
5. 更年期からの健康管理を推進します
   直面する超高齢化社会においては、元気な老後を迎えられるよう更年期（50歳前後）からの健康管理が重要になります。更年期障害や骨粗鬆症などの女性特有の疾患に対応するため更年期からの健康管理を推進します。

□ 診療実績(平成27年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
29名	1,376名	8日

外来患者数

1日平均患者数
72名

主な手術・検査の件数など

分娩件数	帝王切開件数	婦人科開腹手術	悪性腫瘍手術
592件	172件	185件	48件
腹腔鏡下手術	腟式手術		
76件	194件		

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	学会名・演題・演者
国内学会	第67回日本産婦人科学会学術講演会　母子ともに救命し得た劇症型A群連鎖球菌感染症「分娩型」の１例　下園寛子　住友理浩　中木絢子　川村洋介　秦さおり　奥田亜紀子　伊藤美幸　江川晴人　髙尾由美　山本紳一　北岡有喜　髙倉賢二 2015.4.10　横浜市
研究会	第132回近畿産科婦人科学会　子宮体癌術後補助化学療法後に肝門部結核性リンパ節炎を発症し、消化管内視鏡下に診断し得た一例　秦さおり　下園寛子　平田侑里子　中木絢子　川村洋介　奥田亜紀子　住友理浩　髙尾由美　江川晴人　北岡有喜　山本紳一　髙倉賢二　2015.6.27　神戸市
研究会発表	第8回温知会サマークリニカルフォーラム　当院における双胎妊娠症例の現状と経腟分娩症例で分娩時出血量が増加した要因についての検討　川村洋介　江川晴人　下園寛子　髙倉賢人　中木絢子　秦さおり　奥田亜紀子　住友理浩　髙尾由美　北岡有喜　髙倉賢二　2015.7.20　京都市
国内学会	第57回日本婦人科腫瘍学会学術講演会　悪性卵巣腫瘍に併存した典型的な子宮筋腫と考えられた腫瘍が子宮平滑筋肉腫であった1例　下園寛子　住友理浩　髙倉賢人　中木絢子　川村洋介　秦さおり　奥田亜紀子　髙尾由美　江川晴人　髙倉賢二　2015.8.8　盛岡市
国内学会	第57回日本婦人科腫瘍学会学術講演会　子宮体癌術後補助化学療法後に肝門部結核性リンパ節炎を発症し、消化管内視鏡下に診断し得た一例　秦さおり　下園寛子　髙倉賢人　川村洋介　中木絢子　奥田亜紀子　住友理浩　髙尾由美　江川晴人　髙倉賢二　2015.8.7　盛岡市
国内学会	第57回日本婦人科腫瘍学会学術講演会　周術期管理に苦慮した30kgの巨大卵巣腫瘍の一例　奥田亜紀子　下園寛子　髙倉賢人　川村洋介　秦さおり　住友理浩　髙尾由美　江川晴人　髙倉賢二　2015.8.7　盛岡市
国内学会	第57回日本婦人科腫瘍学会学術講演会　リンパ節転移を疑わせるリンパ節腫大がリンパ脈管筋腫症によるものであった卵巣癌の1例 住友理浩　伊藤美幸　下園寛子　平田侑里子　髙倉賢人　川村洋介　中木絢子　秦さおり 奥田亜紀子　江川晴人　髙尾由美　髙倉賢二　2015.8.9　盛岡市
国内学会	第57回日本婦人科腫瘍学会学術講演会　原発性腹膜癌14症例の臨床的検討　髙尾由美　下園寛子　平田侑里子　中木絢子　川村洋介　秦さおり　奥田亜紀子　住友理浩　江川晴人　髙倉賢二　2015.8.8　盛岡市
研究会発表	京都周産期カンファレンス　産褥大量出血をきたした癒着胎盤症例に対し、開腹子宮縫合（Square suture変法）を行い、子宮温存し得た1症例　住友理浩　江川晴人　下園寛子　髙倉賢人　中木絢子　川村洋介　秦さおり　奥田亜紀子　髙尾由美　北岡有喜　髙倉賢二　2015.10.10　京都市
研究会	平成27年度京都産科婦人科学会学術集会　宗教的無輸血患者に対して行ったBEP療法の副作用への対応　髙倉賢人　中木絢子　江川晴人　下園寛子　川村洋介　秦さおり　奥田亜紀子　住友理浩　髙尾由美　髙倉賢二　2015.10.17　京都市
研究会発表	第7回京都婦人科鏡視下手術研究会　超音波凝固切開装置による熱損傷で発生したと思われる遅発性膀胱腟瘻の一例　秦さおり　奥田亜紀子　下園寛子　髙倉賢人　中木絢子　川村洋介　住友理浩　髙尾由美　髙倉賢二　2015.12.12　京都市
研究会	日本産婦人科医会　母と子のメンタルヘルスフォーラム　当院における虐待未然防止への取り組み　江川晴人　2015.7.5　東京都
研究会発表	児童虐待未然防止研修会　妊産婦のメンタルヘルスケアー妊娠・出産・子育てを地域で支えるために　江川晴人　2015.9.5　京田辺市
教育講演	京都府委託事業　京都府看護協会「産前・産後訪問支援員養成講座」 ハイリスク妊産婦への支援ーハイリスク妊娠・出産・産褥期の疾患、合併症、治療について　江川晴人　2015.10.12　京都市

□ 投稿論文など

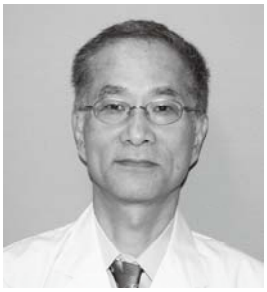
著者	タイトル	著書・雑誌名
髙尾由美　伊藤美幸　関山健太郎　秦さおり　山西優紀夫　上田優輔　江川晴人　髙倉賢二	特異な毒性医学的背景と家族集積性を有した膣原発悪性黒色腫の1症例 2015.6;33(3):706-711	日本婦人科腫瘍学会雑誌
髙倉賢二　住友理浩　秦さおり	解剖レクチャー～女性骨盤臓器 2015.11;317-321	研修医のための見える・わかる外科手術
髙倉賢二　住友理浩　秦さおり	子宮頸部円錐切除術 2015.11;322-327	研修医のための見える・わかる外科手術
住友理浩　髙倉賢二	子宮筋腫核出術 2015.11;328-331	研修医のための見える・わかる外科手術
秦さおり　髙倉賢二	付属器切除術 2015.11;332-333	研修医のための見える・わかる外科手術
秦さおり　髙倉賢二	卵管切除術 2015.11;334	研修医のための見える・わかる外科手術
秦さおり　髙倉賢二	付属器腫瘍核出術（卵巣腫瘍核出術） 2015.11;335-337	研修医のための見える・わかる外科手術
秦さおり　髙倉賢二	膣式子宮全摘術 2015.11;338-341	研修医のための見える・わかる外科手術
住友理浩　髙倉賢二	腹式単純子宮全摘術 2015.11;342-346	研修医のための見える・わかる外科手術
住友理浩　髙倉賢二	腹式広汎子宮全摘術 2015.11;347-350	研修医のための見える・わかる外科手術

緩和ケア科



専門医資格等
緩和ケア

診療部長
(緩和ケア外科)
土屋　宣之



専門医資格等
日本緩和医療学会暫定
指導医
専門分野
緩和ケア

診療科長
(緩和ケア内科)
久保　速三

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	石田　大助	婦人科学会専門医	緩和ケア	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本緩和医療学会

□ 主な対象疾患

癌一般

□ 診療（業務）内容

1．与えられた構造の中で環境整備ー視覚（照明、花木）、聴覚（院内放送の個室内制限）などー
2．利用者の価値観や生き方を尊重するためにことさら根気と丁寧さを要するケア、自立性を奪われていく困難と苦痛の中で行われるケア
3．上記のような場を提供・俯瞰、特殊な感情労働に従事するケアスタッフへの目配り
4．場の提供に続いてそこで有意義な時間空間を作る力を持った利用者や家族の選択のために入棟の適応の可否を判定員会で議論検討する。
5．目的としてでなく手段としての症状緩和、薬剤による対処療法の役割は限定的である。たとえ症状緩和に成功しなくとも生きる場所を提供できる可能性もある。自宅に遠く及ばなくとも、多職種による行事企画や音楽療法、食事への気配り、家人への配慮を通してかけがえない時間を過ごす場を作りうる。あくまで我々は触媒でしかないのだが。
6．在宅への橋渡し、レスパイト入院への門戸開放
7．遺族への配慮：訪問遺族の傾聴に時間をかける他に遺族会、遺族への書状を通して継続的な関わりを試みる
8．緩和ケアチームを中心とした、一般病棟、地域医療への貢献

□ 診療実績(平成27年度)

緩和ケア内科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
9名	23名	54日

緩和ケア内科外来患者数

1日平均患者数
0名

緩和ケア外科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
12名	65名	52日

緩和ケア外科外来患者数

1日平均患者数
4名

□ 地域医療連携・広報活動

2015年(平成27年)緩和ケア研修会関係
2015/1/24-25
宇治第2岡本総合病院、企画担当者およびファシリテーター
2015/1/31-2/1
公立南丹病院　ファシリテーター
2015/2/7-8
京都市立病院　ファシリテーター及び演者(『オピオイドを始めるとき』)
2015/2/15
三重フォローアップ研修会　ファシリテーター及び演者(『死が近づいたとき』)
2015/2/21
静岡フォローアップ研修会　ファシリテーター及び演者(『アドバンス・ケア・プランニング』)
2015/3/21-22
愛知医科大学　ファシリテーター及び演者(『オピオイドを始めるとき』)
2015/5/23-24
名古屋医療センター　ファシリテーター及び演者(『疼痛事例検討腎癌』)
2015/7/4-5
独立行政法人国立病院機構　京都医療センター
フォローアップ研修会　企画担当者
2015/7/11-12
市立奈良病院　ファシリテーター及び演者(『オピオイドを始めるとき』)
2015/8/1-2
静岡市立静岡病院　ファシリテーター及び演者(『呼吸困難』)
2015/9/26-27
大阪鉄道病院　　ファシリテーター及び演者(新指針『M1a緩和ケア概論』)
2015/10/31-11/1
独立行政法人国立病院機構　京都医療センター　企画担当者
2015/11/7
愛知県緩和ケアフォローアップ研修会　ファシリテーター及び演者(M-15死が近づいたとき)
2015/11/14-15
公立南丹病院　ファシリテーター及び演者(新指針『M2b つらさの包括的評価と症状緩和』)

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	久保速三、土屋宣之 超高齢社会における終末期医療を考える―QOLの改善?― 第29回医学会総会 2015.4.12 京都
国内学会	久保速三、山尾なつみ 理学療法士と医師の対話を通してend of life careにおけるQOL維持を考える―レスポンス・シフトを参照枠として― 第20回日本緩和医療学会 2015.6.21 横浜
国内学会	久保速三、上村直子　自分らしい逝き方のために緩和ケア外来をアドバンス・ケア・プランニング(ACP)の場として活用する　第39回死の臨床研究会 2015.10.12 岐阜
国内学会	土屋宣之 在宅癌チーム医療を支える、在宅医・訪問看護師・調剤薬剤師・基幹病院の発展と問題点 第53回日本癌治療学会 2015.10.31 京都

□ 投稿論文など

著者・タイトル・著書・雑誌名
久保速三　がんのリハビリテーション―緩和ケア病棟医師の立場から―　理学療法京都　2015;44(44):19-22

眼科



診療部長
喜多　美穂里

専門医資格等　京都大学臨床教授
京都大学非常勤講師
京都大学医学博士
日本眼科学会指導医・日本眼科学会専門医
ＰＤＴ認定医
Ｂｅｓｔ　Ｄｏｃｔｏｒｓ　2012-2017
専門分野　網膜硝子体疾患
内視鏡併用硝子体手術
得意疾患　網膜剥離
糖尿病網膜症

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	濵　　祥代	日本眼科学会専門医	眼科一般	
医　　師	川越　直顕	日本眼科学会専門医	眼科一般	
医　　師	藤井友起子	日本眼科学会専門医	眼科一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本眼科学会研修施設

・科長交代があった2012年より、手術・検査機器を整備し、網膜硝子体手術を本格始動いたしました。
・当院眼科は、白内障手術を多く手掛けること、網膜硝子体疾患に強いことが特長です。
・最新硝子体・白内障手術装置、広角観察システム、眼内シャンデリア照明、眼内内視鏡を用いた小切開硝子体手術で、糖尿病網膜症・網膜剥離・増殖硝子体網膜症などの高難度の網膜硝子体疾患の治療を行っています。
・2012年4月より新しく保険収載となった眼内内視鏡硝子体手術を積極的に行っています。内視鏡手術では、国内外で先駆的な役割を果たしています。
・眼科全般に、高度で最新の医療を提供します。
・新しい治療方法・手術機器の開発や、手術成績などに関して、国内外に情報を発信し、他施設との連携を密に行い、毎日の診療の場に還元できるように努力しています。
・糖尿病網膜症：当院がWHO指定の糖尿病センターであることもあり、当院糖尿病センター・内分泌代謝疾患センターと連携して、糖尿病患者さんの網膜症診療を担当しています。病気の進行を定期的にチェックし、必要に応じて、レーザーによる網膜光凝固術や、合併症である白内障や糖尿病網膜症に対し、手術治療を行います。
・未熟児網膜症：NICUを有する当院小児科と連携して、未熟児の重篤な合併症である網膜症に対し、赤ちゃんの視力を守るための検査・治療を行います。

□ 主な対象疾患

・網膜剥離・増殖硝子体網膜症・糖尿病網膜症・黄斑円孔・黄斑上膜・黄斑浮腫・加齢黄斑変性などの網膜硝子体疾患
・白内障全般、緑内障全般
・感染症および非感染性ぶどう膜炎・眼内炎・角膜炎、視神経疾患

□ 診療（業務）内容

1. “見える”というゴールを目標に、全身の一部としての眼科治療をめざします
   眼科的疾患のほかにも様々な全身疾患を併せ持つ患者さんにも、手術をはじめ、様々な治療を安全に効率良く提供し、より良い視力の 獲得にむけて努力しています。
2. 地域医療の一翼として、開業医や他病院の先生方と協力し、より良い医療の提供をめざします
   さまざまな医療資源を備える総合病院として、ホームドクターの先生との連携のもと、より高度な医療の提供に努力しています。 内視鏡硝子体手術をはじめとする先進的医療の実践に努めます。
3. メディカルスタッフ一丸となって、安心で確かな医療を実践します
   医師、看護師、視機能訓練士、メディカルクラーク等のチームワークを大切に、各々の職種が全力で日々切磋琢磨し、安心して確かな医療を受けていただけるように努力しています。

□ 診療実績(平成27年度)

入院患者数

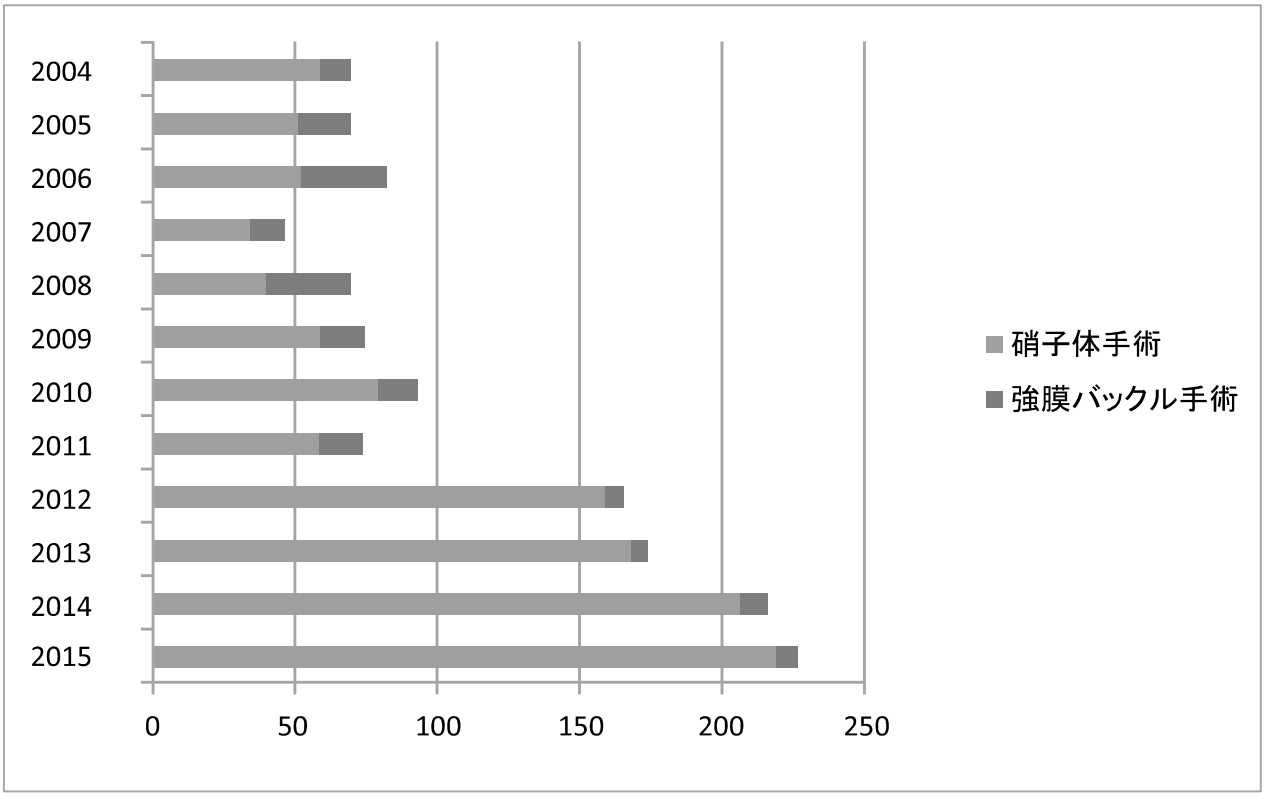
1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
17名	725名	8日

外来患者数

1日平均患者数
65名

主な手術・検査の件数など

水晶体再建術	硝子体手術	強膜バックル手術	緑内障手術	観血手術件数合計
911件	219件	7件	2件	1,010件



□ 地域医療連携・広報活動

・喜多　美穂里. 安心. 硝子体手術で失明回避：名療法発見. 2015;5:118-122
・喜多　美穂里. 糖尿病センターだより. 眼科診療最前線!「白内障の手術」2015;31:12-13
・喜多　美穂里. 糖尿病センターだより. 眼科診療最前線!「白内障の手術２」2015;32:12-13
・喜多　美穂里. 糖尿病センターだより. 眼科診療最前線!「白内障の手術３」2015;33:10-11
・喜多　美穂里. 糖尿病センターだより. 眼科診療最前線!「白内障の手術４」2015;34:6-7

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	喜多美穂里. 第119回 日本眼科学会総会 ＭＩＶＳ世代の眼内内視鏡.ランチョンセミナー4. オーガナイザー、座長 2015.4.16 札幌市
国内学会	喜多美穂里、大島佑介、門之園一明、木村英也、日下俊次、栗山晶治、竹内忍. 第69回 日本臨床眼科学会 網膜剥離ファイトクラブ一症例をシェアして自分のものにする2（インストラクションコース、オーガナイザー） 2015.10.23 名古屋
国内学会	喜多美穂里（シンポジウム）. 第39回 日本眼科手術学会総会 網膜硝子体手術の最先端ー眼内内視鏡. 2016.1.29 福岡市
国内学会	今井大輔、加藤慶　山本素士、藤井友起子、川越直顕、濵祥代、喜多美穂里. 第54回 日本網膜硝子体学会総会, 第32回 日本眼循環学会合同学会 網膜静脈・動脈閉塞症におけるOCT angiography. 2015.12.4 東京
国内学会	今井大輔、加藤慶　山本素士、藤井友起子、川越直顕、濵祥代、喜多美穂里. 第66回 京大眼科同窓会学会 網膜静脈・動脈閉塞症におけるOCT angiographyの有用性. 2015.11.29 京都市
国内学会	喜多美穂里、藤井友起子、松崎祥子、川越直顕、濵祥代. 第66回 京大眼科同窓会学会 角膜混濁眼における内視鏡併用硝子体手術. 2015.11.29 京都市
国内学会	山本素士、武村美智代、山藤満、大門彩香、加藤慶、今井大輔、横山純子、津崎こころ、坂根直樹、喜多美穂里. 第56回 日本視能矯正学会 超広角レンズを用いたHRA2での周辺部網膜撮影用外部固視標の有用性. 2015.11.7 東京
国内学会	喜多美穂里　（座長）. 第39回 日本眼科手術学会総会 網膜硝子体「硝子体4　ＡＭＤ、網膜下出血」. 2016.1.30 博多市
研究会	喜多美穂里. 京都の病院間連携の会 明日から診療に役立つトピックス. 2015.9.25 京都市
研究会	喜多美穂里. 第３３回 ビト研（特別講演）なんてったって内視鏡. 2015.10.9 東京
研究会	喜多美穂里（オーガナイザー）、大澤俊介、瓶井資弘、門之園一明、栗山晶治、篠田啓、本田　茂. 第3回 眼科コールドケース　2015.12.10 京都市、東京、横浜市、名古屋市、津市、神戸市
研究会	喜多美穂里　（座長）. 第4回 なでしこセミナー 特別講演：日常診療でよく遭遇する角結膜疾患（佐々木香る）. 2015.10.17 京都市
研究会	喜多美穂里. 第4回 京都医療センター 医療連携フォーラム 糖尿病網膜症を斬る. 2015.1.31 京都市
教育講演	喜多美穂里. 第38回 コメディカル講習会 薬物、眼科疾患. 2016.1.23 京都市
教育講演	喜多美穂里、渡部大介. おもしろ看護眼科学 裂孔原性網膜剥離. 2016.2.21 大阪
教育講演	喜多美穂里、渡部大介. おもしろ看護眼科学 ぶどう膜炎. 2016.2.21 大阪
教育講演	喜多美穂里、渡部大介. おもしろ看護眼科学 加齢黄斑変性. 2016.2.21 大阪
教育講演	喜多美穂里、渡部大介. おもしろ看護眼科学 これから. 2016.2.21 大阪
教育講演	喜多美穂里、渡部大介. おもしろ看護眼科学 なぜものが見えるか. 2016.2.21 大阪
教育講演	喜多美穂里、渡部大介. おもしろ看護眼科学 白内障. 2016.2.21 大阪
教育講演	渡部大介、喜多美穂里. おもしろ看護眼科学 糖尿病網膜症. 2016.2.21 大阪
教育講演	渡部大介、喜多美穂里. おもしろ看護眼科学 緑内障. 2016.2.21 大阪

□ 投稿論文など

著者・タイトル・著書・雑誌名
喜多美穂里. 眼科臨床エキスパート. 角膜混濁を有する網膜剥離. 網膜剥離と極小切開硝子体手術. 2015;76-81
今井大輔、山本素士、藤井友起子、川越直顕、濵祥代、喜多美穂里. 眼臨紀. 糖尿病網膜症における超広角走査レーザー検眼鏡を用いた４方向視最周辺蛍光眼底造影の有用性. 2015;8:675-678
今井大輔、山本素士、濵祥代、喜多美穂里. 臨床眼科. ガス白内障. 2015;69:1300
吉仲さおり、山本素士、山藤満、大門彩香、横山純子、今井大輔、喜多美穂里. 日本視機能訓練士協会誌. 超広角走査レーザー検眼鏡撮影時の睫毛の影響を除外する開瞼方法の検討. 2015;44:103-110

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

No Image

診療科長
(耳鼻咽喉科)
辻　純

専門医資格等
　日本耳鼻咽喉科専門医
　京都大学医学博士
　京都大学医学部臨床
　教授
　日本耳鼻咽喉科学会
　代議員
専門分野
　耳科学・耳鼻咽喉科
得意疾患
　中耳疾患、めまい疾患



診療科長
(頭頸部外科)
安里　亮

専門医資格等
　日本耳鼻咽喉科専門医
　頭頸部がん専門医
　内分泌外科専門医
　気管食道科専門医
　日本がん治療認定医
　日本頭頸部癌学会評議員
　日本頭蓋底外科学会評議員
専門分野
　頭頸部外科・甲状腺外科
得意疾患
　頭頸部がん、甲状腺手術

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　員 (頭頸部外科)	宮崎　眞和	日本耳鼻咽喉科専門医 頭頸部がん専門医	頭頸部外科	頭頸部癌・甲状腺癌
医　　員 (耳鼻咽喉科)	嘉田　真平	日本耳鼻咽喉科学会専門医 頭頸部がん専門医	耳鼻咽喉科・頭頸部外科一般	頭頸部癌・甲状腺癌・音声疾患
医　　員 (頭頸部外科)	本多　啓吾	日本耳鼻咽喉科専門医 頭頸部がん専門医 日本がん治療認定医	耳鼻咽喉科・頭頸部外科一般	頭頸部癌・甲状腺癌
医　　員 (耳鼻咽喉科)	辻村　隆司	日本耳鼻咽喉科学会専門医・ 気管食道科専門医 頭頸部がん専門医 日本がん治療認定医	耳鼻咽喉科一般、 鼻副鼻腔疾患	鼻副鼻腔炎
医　　員 (耳鼻咽喉科)	片岡　通子		耳鼻咽喉科・頭頸部外科一般	耳鼻咽喉科一般

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医研修施設 内分泌・甲状腺外科専門医制度認定施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医制度専門医研修施設 日本気管食道科専門医認定施設

1. 伝音再建を中心とした中耳疾患手術
2. 頭頸部進行癌に対する拡大手術を中心とした集学的治療による治癒率向上
3. 頭頸部癌による低侵襲手術の開発によるQOL向上
4. QOLを考慮した甲状腺手術
5. 頭頸部・甲状腺外科執刀医養成のシステム
6. スタッフ全員による入院患者の診断・治療
7. 中耳・頭蓋底手術セミナーへ講師として参加

□ 主な対象疾患

・真珠腫性中耳炎・慢性中耳炎
・頭頸部癌（口腔癌：舌癌・歯肉癌・頬粘膜癌・口腔底癌、咽頭癌、喉頭癌、鼻・副鼻腔癌：上顎洞癌・篩骨同癌、耳下腺癌・顎下腺癌など）
・甲状腺癌・甲状腺良性腫瘍・副甲状腺腫瘍・バセドウ病（手術）
・頭頸部良性腫瘍・頭蓋底進展腫瘍・咽頭表在癌

□ 診療（業務）内容

耳鼻咽喉科と頭頸部外科はともに外来・病棟・手術を行っている（手術数などは両科合同）。真珠腫・中耳炎・めまい・顔面神経麻痺など耳科全域を行っている。一般的な頭頸部癌・甲状腺癌の治療はもとより進行癌の治療も積極的に行い根治治療を目指しており、再建を要する頭頸部進行癌や縦隔浸潤する甲状腺癌・頭蓋底に進展する頭頸部腫瘍は関西一円はもとより関東・中国地方などからも治療をうけにこられている。また、低侵襲手術としての口腔癌に対するPGAシート被覆法を開発し、学会などで積極的に発表し標準治療としての普及を図っている。さらに経口的な咽頭がんの切除により、QOLを保った治療も積極的に行っており、これらも関西以外からも手術を希望されて当科に紹介される場合が多い。

□ 診療実績(平成27年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
32名	624名	19日

外来患者数

1日平均患者数
60名

主な手術・検査の件数など

耳手術	鼻副鼻腔手術	甲状腺・副甲状腺手術	頭頸部腫瘍手術
27件	61件	128件	202件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者	演　題	学会名
国内学会	片岡道子、辻村隆司、本多啓吾、嘉田真平、安里亮、辻純	甲状腺癌を疑った甲状腺アミロイドーシス例	第116回日本耳鼻咽喉科学会 2015.5.23　東京
国内学会	本多啓吾、安里亮、辻純、嘉田真平、辻村隆司、片岡通子、神田智子	頭頸部扁平上皮癌術後早期再発例の検討	第116回日本耳鼻咽喉科学会 2015.5.23　東京
研究会	片岡道子、辻村隆司、本多啓吾、嘉田真平、宮崎眞和、安里亮、辻純	扁桃炎を契機に診断に至ったHIV感染症例	第121回日耳鼻京滋合同地方会 2015.6.20　京都
研究会	辻村隆司、片岡通子、本多啓吾、嘉田真平、宮崎眞和、安里亮、辻純	舌癌リンパ節転移様式	第121回日耳鼻京滋合同地方会 2015.6.20　京都
研究会	本多啓吾、片岡通子、辻村隆司、嘉田真平、宮崎眞和、安里亮、辻純	下歯肉癌にたいする下顎単純切除	第121回日耳鼻京滋合同地方会 2015.6.20　京都
研究会	片岡通子、辻村隆司、本多啓吾、嘉田真平、宮崎眞和、安里亮、辻純	甲状腺癌を疑った甲状腺アミロイドーシス例	第15回京滋甲状腺懇話会 2015.7.4　京都
国内学会	本多啓吾、片岡通子、辻村隆司、嘉田真平、宮崎眞和、安里亮、辻純	頸部郭清における頸神経温存	第48回日本甲状腺外科学会 2015.10.29　東京
国内学会	片岡通子、辻村隆司、本多啓吾、嘉田真平、宮崎眞和、安里亮、辻純	甲状腺癌を疑った甲状腺アミロイドーシス例	第48回日本甲状腺外科学会 2015.10.30　東京
国内学会	嘉田真平、片岡通子、辻村隆司、本多啓吾、宮崎眞和、安里亮、辻純	局所麻酔下副甲状腺手術症例の検討	第48回日本甲状腺外科学会 2015.10.29　東京

国内学会	本多啓吾、片岡通子、辻村隆司、嘉田真平、安里亮、辻純	耳鼻咽喉科・頭頸部外科における全医師診察の有用性	第69回国立病院総合医学会 2015.10.3　札幌
国内学会	片岡道子、辻村隆司、本多啓吾、嘉田真平、安里亮、辻純	甲状腺癌を疑った副甲状腺癌例	第69回国立病院総合医学会 2015.10.3　札幌
国内学会	安里亮、片岡通子、辻村隆司、本多啓吾、嘉田真平、辻純	口腔癌切除後に対するMCFP法の進化	第69回国立病院総合医学会 2015.10.3　札幌
研 究 会	本多啓吾	悪性腫瘍に対する頭蓋底術後合併症	第27回京都耳鼻咽喉科研究会 2015.12.5　京都
研 究 会	辻村隆司	内視鏡補助下ルビエールリンパ節手術	第27回京都耳鼻咽喉科研究会 2015.12.5　京都
研 究 会	嘉田真平、片岡通子、辻村隆司、本多啓吾、宮崎眞和、安里亮、辻純	副甲状腺腺腫に対する局所麻酔下手術	第3回上方内分泌外科研究会 2016.3.11　大阪
研 究 会	宮崎眞和、本多啓吾、安里亮、片岡通子、辻村隆志、嘉田真平、安里亮、辻純	Fusobacterium necrophorumによる咽頭炎例	第123回日耳鼻京滋合同地方会 2016.3.12　京都
研 究 会	辻村隆司、片岡通子、本多啓吾、嘉田真平、宮崎眞和、安里亮、辻純	ESD後の下咽頭狭窄に対する狭窄解除術	第30回近畿手術手技研究会 2016.2.6　大阪
国内学会	安里亮	側頭骨亜全摘	第27回日本頭蓋底外科学会 2015.7.10　名古屋
国内学会	安里亮	En-bloc petrosectomy	第27回日本頭蓋底外科学会 2015.7.9　名古屋
研究会	安里亮	当科における頭頸部癌治療戦略	倉敷頭頸部癌治療コアセミナー 2015.9.5　倉敷
国内学会	安里亮	頭頸部癌症例　あなたならどうする?　口腔癌	第29回日本耳鼻咽喉科専門医講習会　2015.12.23　札幌

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著　者	タイトル	巻・ページ
EBM 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の治療 2015ー2016	安里 亮	頭蓋底手術のエビデンスは?	547-7　2015
JOHNS	安里 亮	頭蓋底外科の教育システム　2) オープンサージェリー	Vol.31 No.7 887-90 2015
週刊日本医事新報	安里 亮	Tg, Non-RIAキットー甲状腺機能関連検査最前線	No.4762 2015
ライフライン21「がんの先進医療」	安里 亮	口腔がん	Vol.19 24-7 2015
ライフライン21「がんの先進医療」	本多啓吾	甲状腺がん	Vol.19 32-5 2015
JOHNS	安里 亮	PGAシート	Vol.32 No.4 524-8 2016
medicina	安里 亮	甲状腺腫大・結節	Vol.53 No.4 224-8 2016

麻酔科



診療科長
七野　力

専門医資格等　厚労省標榜医
日本麻酔科学会指導医・専門医
日本集中治療学会専門医
京都大学医学部臨床教授
関西医科大学臨床教授

専　門　分　野　麻酔管理一般、集中治療、心臓血管外科麻酔

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	平方　秀男	厚労省標榜医 日本麻酔科学会指導医・専門医	麻酔管理一般 血小板および血栓止血学	
医　　師	杉本　亮大	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医	麻酔管理一般、心臓血管外科麻酔	
医　　師	嵯峨　慶子	厚労省標榜医 日本麻酔科学会指導医・専門医	麻酔管理一般、集中治療	
医　　師	野口 英梨子	厚労省標榜医 日本麻酔科学会専門医	麻酔管理一般	
医　　師	原　　祐介	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医	麻酔管理一般	
医　　師	原　　りさ	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医	麻酔管理一般	
医　　師	廣津　聡子	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医 日本周術期経食道エコー認定試験(JBPOT)合格	麻酔管理一般	
医　　師	水津　　悠	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医 日本周術期経食道エコー認定試験(JBPOT)合格	麻酔管理一般	
専　修　医	鈴木　陽世	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医	麻酔管理一般	
専　修　医	山内　千奈		麻酔管理一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本麻酔科学会研修施設 日本集中治療学会認定施設

1. 麻酔管理
2. 集中治療管理

□ 主な対象疾患

麻酔管理：外科手術一般
集中治療：敗血症、肺炎、ＡＲＤＳ、多臓器不全、術後管理一般

□ 診療（業務）内容

手術を受けられる患者さんに対する麻酔の施行と全身管理
　当科では患者さんのご希望を最大限に尊重しながら、患者さんの全身状態、手術の内容を勘案してもっとも安全で苦痛の少ない麻酔法を選択しています。近年は全身麻酔と神経ブロックなど、各種麻酔法を組み合わせる方法が増加しています。それぞれの長所を生かしつつ、かつ短所を最小限に抑えることにより、手術が終わっても痛みが少なく、安全でしかも目覚めがよい麻酔を心がけています。

重症患者さんに対する集中治療室（ＩＣＵ）での集学的治療
　本院は院内に2か所の集中治療室を有する全国でも数少ない施設です。救命センターと手術室フロアにそれぞれ設置されており、ともに日本集中治療学会認定の専門医が従事しています。麻酔科ではこのうち、手術室フロアのＩＣＵ（院内ＩＣＵ）の管理を行っています。院内ＩＣＵでは主に手術後の患者さんと重症の入院患者さんの全身管理を行っています。

□ 診療実績(平成27年度)

主な手術・検査の件数など

全身麻酔（鎮静を含む）	全身麻酔（+脊、硬、ブロック）	脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔
2,644件	696件	437件

麻酔科管理症例　計	院内ＩＣＵ入室患者数
3, 777件	696件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	子安聡子、水津悠、七野力　冠動脈バイパス術中の体温上昇により、経食道心エコーと連続的心拍出量モニターが使用できなくなった1症例.　第26回日本臨床モニター学会.　2015年5月15日：札幌
国内学会	水津悠、子安聡子、七野力　特発性血小板減少性紫斑病合併患者に対し術前に大量免疫グロブリン療法を行った1例.第20回日本心臓血管麻酔学会学術大会.　2015年10月11日：福岡

□ 投稿論文など

著者	タイトル・著書・雑誌名・編集者等	発行年月
七野　力	神経線維腫症　まれな疾患の麻酔A to Z　高崎眞弓、河本昌志、木内恵子、白神豪太郎、萩平哲編　東京　文光堂　408-409	2015.5

放射線科



医療技術部長
伊藤　剛

専門医資格等　日本医学放射線学会専門医
臨床研修指導医
京都大学医学部臨床教授
専 門 分 野　画像診断

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
放射線治療科科長	荒木　則雄	日本医学放射線学会専門医、日本放射線腫瘍学会専門医、がん治療認定医、臨床研修指導医	放射線腫瘍学	放射線治療
放射線診断科科長	広川　侑奨	日本医学放射線学会専門医、日本核医学会専門医	画像診断、IVR	腹部画像診断
放射線科医師	黒田　昌志	日本医学放射線学会専門医	画像診断	骨軟部画像診断
放射線科医師	浜中　訓生		画像診断、IVR	救急画像診断
放射線科医師	楢林　正流		放射線腫瘍学	放射線治療
放射線科レジデント	佐藤　敏之		画像診断	
放射線科レジデント	大嶋　園子		画像診断	
放射線科レジデント	キシュ　ボルバーラ		画像診断	
放射線科レジデント	渡邉幸香		画像診断	
技師長	片倉　和雄	放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師、医学物理士		
副技師長	西野　敏博	血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師, X線CT認定技師, 医療情報技師		
副技師長	伊藤　篤	放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師		
主任	榎本　直之	核医学専門技師		
主任	山中　早苗	放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師、マンモグラフィ認定技師		
主任	麻布 三枝子	マンモグラフィ認定技師		
主任	樋口　孝次	血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師		
主任	坂本　龍彦			
主任	山本　匠			
技師	川端　清志	放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師		

技　　師	大西　　孝志	マンモグラフィ認定技師、肺がんＣＴ認定技師、放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師		
技　　師	西川　　峰生	救急撮影認定技師		
技　　師	小田　　晴義	マンモグラフィ認定技師、救急撮影認定技師		
技　　師	淺野　　朱香	マンモグラフィ認定技師		
技　　師	山本　　崇	マンモグラフィ認定技師		
技　　師	永井　　康宏			
技　　師	新家　　睦巳			
技　　師	竹原　　和宏			
技　　師	熊給　　淳			
技　　師	嵯峨根 真也			
技　　師	辰野　　絢香			
技　　師	濱田 佳代子			
技　　師	藤田　　訓充			
技　　師	若畑　　旬弥			
技　　師	山本　　翼			
技　　師	池上　　周平			
技　　師	小嶋　　智大			
技　　師	中村　あゆみ			
技　　師	戸川　　謙太			
技　　師	穴吹　　泰博			

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本医学放射線学会総合修練施設

□ 主な対象疾患

悪性腫瘍全般

□ 診療（業務）内容

ほぼ全領域の画像診断、頭部および心臓血管領域を除くIVR、悪性腫瘍を中心とする放射線治療

□ 診療実績(平成27年度)

外来患者数

1日平均患者数
38名

主な手術・検査の件数など（放射線治療）

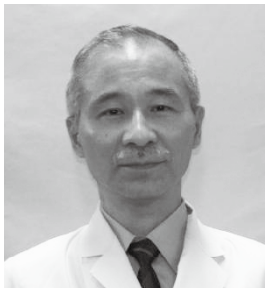
年間治療件数
12,243件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
研究会	濱中訓生、キシュ ボルバーラ、佐藤敏之、大嶋園子、黒田昌志、広川侑奨、荒木則雄、伊藤剛 褐色細胞腫の自然破裂による出血性ショックにTAEを施行した一例 第311回日本医学放射線学会関西地方会 2015.10.24 大阪
研究会	大嶋園子、キシュ ボルバーラ、佐藤敏之、濱中訓生、黒田昌志、広川佑奨、荒木則雄、伊藤剛 肝原発腫瘍との鑑別が困難であった副腎皮質癌の一例 第312回日本医学放射線学会関西地方会 2016.2.20 大阪
国内学会	大西孝志、熊給淳、坂本龍彦、西野敏博、伊藤篤、片倉和雄 膀胱単純MR検査を想定したヨード造影剤がMR画像に及ぼす影響 第69回国立病院総合医学会 2015.10.2 札幌
教育講演	大西孝志 一般撮影技術を考える-マニュアル作成を通じて- 関西医科大学枚方病院一般撮影勉強会 2015.6.24 大阪

教育講演	大西孝志 一般撮影技術を考える-マニュアル作成を通じてその先に- 松下記念病院　一般撮影勉強会 2016.2.18 大阪
国内学会	小田晴義、永井康宏、山本崇、藤田訓充、西野敏博、伊藤篤、片倉和雄　急変時における放射線科ICLS WGの取り組み　第69回国立病院総合医学界 2015.10.2 札幌
研究会	小田晴義、榎本直之、西野敏博、伊藤篤、片倉和雄 PET-CTにおける散乱補正法の違いがSUVに与える影響 第24回国立病院療養所近畿放射線技師会学術大会 2015.10.31 大阪
国内学会	山本匠、植木渉、東野由樹、安達睦、大西義隆、森田佳明　MRI対応ペースメーカリード先端部のメタルアーチファクト領域について比較検討 第71回日本放射線技術学会総会学術大会 2016.04.18 横浜
国内学会	山本匠、植木渉、安達睦、大西義隆、森田佳明　脈波同期MPRAGEによる大動脈内腔がnullになるTIの検討　第43回磁気共鳴医学会大会 2015.09.11 東京
国内学会	山本匠、植木渉、安達睦、大西義隆、森田佳明　脈波同期MPRAGEによる大動脈内腔がnullになるTIの検討　第69回国立病院総合医学会 2015.10.02 札幌
研究会	淺野朱香、榎本直之、西野敏博、伊藤篤、片倉和雄　ＦＤＧ-ＰＥＴ/ＣＴ呼吸同期撮像法が画像に及ぼす影響 国立病院療養所　近畿放射線技師会　学術大会 2015.10.31 大阪
研究会	嵯峨根真也、永井康宏、榎本直之、西野敏博、片倉和雄　線条体イメージングSPECT画像における散乱・減弱補正が定量値に与える影響 国立病院療養所近畿放射線技師会　学術大会 2015.10.31 大阪

リハビリテーション科



診療科長
岩辻　賢一郎

専門医資格等　日本神経学会専門医
日本内科学会認定内科医
専 門 分 野　神経内科一般

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野
医　　長	中島　康代	日本循環器学会循環器専門医　日本内科学会総合内科専門医・日本内科学会指導医、日本内科学会認定内科医、日本リハビリテーション医学会認定医	循環器内科
医　　師	井村　美紀	日本リハビリテーション医学会認定医	リハビリテーション
看　護　師	横山　知枝	1名	
理学療法士	12名（士長1名、主任1名）		
作業療法士	4名（主任1名）		
言語聴覚士	4名		
医療クラーク	0名		
事務クラーク	2名		

□ 診療科の特徴

1．入院患者の急性期リハビリを主眼に置いています。
2．外来は退院後の失語症治療と心臓大血管リハビリの集団療法のみです。

□ 主な対象疾患

詳しくはHPに掲載しております。
主治医からご依頼があれば新生児から全疾患に対応しております。

□ リハビリテーション統計

2015年度部門別毎月リハビリオーダー数

部　門	年　間　件　数	最　小　～　最　大	平　均
一般理学療法	2,191件	154～194件	182.6件
心臓理学療法	403件	25～49件	33.6件
作業療法	1、031件	69～99件	85.9件
言語療法	539件	33～57件	44.9件
合計	4,164件	292～381件	347件

取り扱い	脳血管疾患等Ⅰ	廃用症候群Ⅰ	運動器Ⅰ	呼吸器Ⅰ	がん患者	心大血管Ⅰ
合計	13,652件	1,644件	4,721件	8,303件	3,884件	5,883件
上記百分率	35.8%	4.3%	12.4%	21.8%	10.2%	15.4%
実施単位数	45.2%	3.3%	10.2%	15.0%	7.2%	17.9%

参考：摂食機能療法　265単位／年（0.33%）
　　算定外リハビリテーション（緩和ケアなど）実施：929単位（1.2%）

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	澤田真理子、片岡剛、白神幸太郎、中島康代　第21回日本心臓リハビリテーション学会　当院における開心術症例の心臓リハビリテーション進行に影響する因子について　2015.7.19　福岡

歯科口腔外科



診療科長
吉田　和也

専門医資格等　日本口腔外科学会専門医・指導医
日本顎関節学会専門医・指導医
日本補綴歯科学会専門医・指導医
日本睡眠学会認定歯科医・評議員
日本睡眠歯科学会専門医・指導医・評議員
大阪歯科大学歯学博士
京都大学医学博士
厚生労働省歯科医師臨床研修指導歯科医
専門分野　口腔外科一般
得意疾患　睡眠時無呼吸症候群、顎口腔領域の不随意運動（ジストニア、ジスキネジア、ブラキシズム）、顎顔面補綴

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	大野　　純	日本小児口腔外科学会認定医 厚生労働省歯科医師臨床研修指導歯科医	口腔外科一般	歯科用インプラント、顎変形症
レジデント	福原 紫津子	日本口腔外科学会認定医 厚生労働省歯科医師臨床研修指導歯科医 日本口腔ケア学会認定医	口腔外科一般	口腔ケア
レジデント	宮本 絵里加	日本口腔ケア学会認定医	口腔外科一般	口腔ケア

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本口腔外科学会認定機関 日本顎関節学会認定機関 日本睡眠学会認定機関 日本補綴歯科学会認定機関

1．迅速で的確な診断を心がけます。
2．複数の治療法を呈示し、十分に話し合った後、最適な治療を行います。
3．治療にあたっては低侵襲を心がけます。
4．口腔ケアや口腔衛生指導によって、治療と予防を実践します。

□ 主な対象疾患

親知らず（智歯）、埋伏歯の抜歯・口の中の腫瘍（腫れ物）、のう胞（膿の袋）・顎の骨折や歯、口腔の外傷・顎関節症、その他の顎関節疾患・顎変形症（歯並び、咬み合わせ、受け口など顎の形の異常）・口腔乾燥や唾液の異常、舌痛症（舌のヒリヒリする痛みや違和感）・顎口腔領域の手術後や外傷による顎顔面欠損の顎顔面補綴治療・手術、放射線治療、化学療法前後の口腔衛生指導、口腔ケア・歯茎、顎の骨の炎症・口内炎、舌や頬の炎症・入院患者さんあるいは全身疾患（心疾患、糖尿病、高血圧、抗血栓療法中など）のある外来患者さんの歯科治療

専門で取り扱っている疾患
・睡眠呼吸障害（睡眠時無呼吸症候群、いびき、上気道抵抗症候群）
・顎口腔領域の不随意運動（ジストニア、ブラキシズム、ジスキネジアなど）
・顎変形症（下顎前突症、下顎後退症、顔面非対称、上顎前突症など）
・顎関節疾患（顎関節症、咬筋肥大症、筋突起過長症、咀嚼筋腱・腱膜過形成症など）
・顎口腔領域の手術後や外傷による顎顔面欠損

□ 診療（業務）内容

当科は日本口腔外科学会の認定機関であるばかりではなく、日本顎関節学会、日本睡眠学会、日本補綴歯科学会の認定機関でもあり、顎口腔領域のさまざまな疾患の総合的な診断と一貫した治療が可能です。多くの大学医学部あるいは歯学部附属病院や総合病院から多数の患者さんが紹介受診されています。一般的な口腔外科的治療や救急対応、有病者（心疾患、糖尿病、高血圧、抗血栓療法中、ビスフォスフォネート系薬剤使用中など）の歯科治療、入院患者さん(一般病棟、ICU、緩和ケア病棟）の歯科治療や手術前後の口腔ケアを行います。口腔外科的治療とは主に顎変形症、顎関節疾患、口腔腫瘍、顎顔面外傷などの手術を要する疾患に対して行われる治療を指します。

専門で取り扱っている疾患と治療として睡眠呼吸障害（睡眠時無呼吸症候群、いびき、上気道抵抗症候群）に対する口腔内装置治療（マウスピース）や顎矯正手術、顎関節疾患（顎関節症、咬筋肥大症、筋突起過長症、咀嚼筋腱・腱膜過形成症など） の補綴的あるいは口腔外科的治療、インプラント治療、顎口腔領域の不随意運動（ジストニア、ジスキネジア、ブラキシズムなど）の内服治療、局所麻酔薬によるブロック療法（MAB療法）、ボツリヌス療法や口腔外科的手術療法、顎口腔領域の手術後や外傷による顎顔面欠損の顎顔面補綴治療などがあります。口と顎の領域のジストニアを専門で治療や研究を行っている科は全国的にも例がありません。当科ホームページよりアクセス可能な患者さん用のサイト（http://sites.google.com/site/oromadibulardystonia/）があり、日本全国および海外からも問い合わせ、受診が急増しております。遠方の患者さんにはSkype（スカイプ）を利用したコンピューター上での遠隔診断も行なっています。治療のため当院に入院していただくメディカルツーリズム（医療観光）により遠方からも患者さんに受診していただけるよう願っております。

□ 診療実績（平成27年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
1名	88名	5日

外来患者数

1日平均患者数
39名

主な手術・検査の件数など

抜歯術	嚢胞摘出術	腫瘍摘出術	インプラント手術	消炎手術
818件	65件	48件	17件	13件

顎変形症手術	骨折手術
9件	9件

□ 地域医療連携・広報活動

教育講演	下郷麻衣子　京都医療センター　第8回うずらPEACE　緩和ケア研修会　がん患者の口腔内の問題と医科歯科連携 2015.10.31 京都
教育講演	下郷麻衣子　京都医療センター　第9回うずらPEACE　緩和ケア研修会　がん患者の口腔内の問題と医科歯科連携 2016.3.12 京都

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	内　　容
国内学会	吉田和也 第2回ボツリヌス治療学会 顎口腔領域のジストニアの遠隔診断と医療観光 2015.10.2 東京
国内学会	大野純、吉田和也、宮本絵里加、下郷麻衣子、福原志津子、兵行忠　第60回　日本口腔外科学会総会　ボツリヌス療法が有効であった高齢者の片側性習慣性顎関節脱臼の１例 2015.10.16 名古屋
教育講演	大野純　第169回　京都歯科口腔外科集談会 呼吸サポートチーム（RST）における歯科口腔外科の取り組み 2015.7.18 京都

研　究　会	福原紫津子、宮本絵里加、大野純、吉田和也、兵行忠　第46回日本口腔外科学会近畿支部会　眼窩壁の広範な吸収を認めた巨大な術後性上顎嚢胞の1例 2015.6.13 兵庫
教育講演	福原紫津子　京都医療センターRST主宰　院内口腔ケア研修会 気管挿管患者および一般病棟における口腔ケア 2015.1.29 京都
教育講演	福原紫津子　第169回　京都歯科口腔外科集談会 院内RSTラウンドにおける 当科の取り組み 2015.7.18 京都
教育講演	福原紫津子　京都医療センターRST主宰　院内口腔ケア研修会 気管挿管患者における口腔ケア 2015.7.30 京都
TV・ラジオ出　演	福原紫津子　ＦＭ79.7ＭＨｚ　きょうとこれからラジオ「親知らず」のお話 2015.9.18 京都
教育講演	下郷麻衣子　愛知県一宮市歯科医師会 骨吸収抑制薬と顎骨骨髄炎・顎骨壊死 2015.5.27 愛知
教育講演	下郷麻衣子　京都医療センター　がん診療セミナー がん患者の口腔トラブルとケアについて 2015.11.26 京都
教育講演	下郷麻衣子　京滋NST研究会 がん終末期患者の口腔トラブルとそのケアについて　～京都医療センター緩和ケア病棟での取り組み～ 2016.1.23 京都
教育講演	下郷麻衣子　京都医療センター　成果発表会　緩和ケア病棟における歯科介入による効果　―介入前後で看護師の意識調査を実施して― 2016.2.20 京都
教育講演	宮本絵里加　京都医療センターRST主宰　院内口腔ケア研修会 一般病棟における口腔ケアについて 2016.3.7 京都

□ 投稿論文など

年	著書・雑誌名	内　容
2016	J Oral Maxillofac Surg	Maezawa H, Tojyo I, Yoshida K, Fujita S Recovery of impaired somatosensory evoked field after improvement of tongue sensory deficits with neurosurgical reconstruction
2015	糖尿病センターだより	吉田和也　咀嚼による糖尿病への影響
2015	糖尿病センターだより	吉田和也　フレッチャーの咀嚼主義
2015	糖尿病センターだより	吉田和也　睡眠時無呼吸症候群と歯科
2016	糖尿病センターだより	吉田和也　睡眠時無呼吸症候群のマウスピースによる治療

救命救急センター（救命救急科）



センター長
西山　慶

専門医資格等
- 日本救急医学会専門医
- 日本循環器学会専門医
- 日本集中治療学会CCU委員会委員
- 日本救急医学会　学会主導研究評価特別委員会　委員
- 日本循環器学会　蘇生科学小委員委員
- FAHA
- 京都大学医学部　臨床教授

専門分野
- 救急医学
- 蘇生科学
- 集中治療学

得意疾患
- 蘇生後症候群
- 体外循環
- ショック



診療部長
赤尾　昌治

専門医資格等
- 日本循環器学会認定循環器専門医・代議員（社員）・近畿支部評議員
- 日本内科学会認定内科医・指導医・近畿支部評議員
- 日本不整脈心電学会評議員
- 日本心血管脳卒中学会評議員
- 京都大学臨床教授・非常勤講師

専門分野
- 心房細動
- 不整脈
- 臨床疫学
- 医学教育

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	笹橋　　望	日本救急医学会専門医 日本外科学会認定医 日本胸部外科学会認定医・指導医	救急医学	ER
医　　長	別府　　賢	日本救急医学会専門医 日本集中治療医学会専門医 日本麻酔科学会指導医・専門医・認定医 麻酔科標榜医 JATECインストラクター FCCSインストラクター ICLSインストラクター/ディレクター	集中治療 麻酔 感染症 救急医学	重症感染症
医　　師	竹 下　　淳	日本集中治療医学会専門医 麻酔科標榜医 日本麻酔科学会専門医・認定医 日本心臓血管麻酔学会正式認定 心臓血管麻酔専門医 日本周術期経食道心臓エコー認定医(JB-POT) National Board of Echocardiography Advanced PTEeXAM Testamur(米国周術期経食道心エコー認定医)	心臓麻酔 小児超音波ガイド下血管カテーテル留置 神経ブロック 集中医療医学	

医　　師	田中　博之	日本救急医学会専門医 日本内科学会認定医/総合内科専門医 日本医師会認定産業医 呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 JATECインストラクター ITLSインストラクター JPTECインストラクター ICLSインストラクター/ディレクター JMECCインストラクター/ディレクター 日本DMAT隊員・統括DMAT	救急医学 呼吸管理 災害医療	呼吸器疾患 災害医療
医　　師	岡田　信長	日本救急医学会専門医	救急医学	医学教育
医　　師	浜崎　幹久		救急医学	
医　　師	手島　啓幾		救急医学	神経救急
医　　師	濱中　訓生	日本救急医学会専門医 麻酔科標榜医 マンモグラフィー読影認定医	救急放射線	救急 救急放射線
専修医	藤野　光洋		救急、集中治療	
専修医	貞松　毅大		救急、集中治療	
顧　　問	金子　一郎	帝京大学救急医学講座　准教授		
顧　　問	志馬　伸朗	広島大学救急集中治療医学　教授		

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本救急医学会専門医認定施設 日本集中治療医学会専門医認定施設

1. 京都南部の重症患者を受け入れる拠点として活動。
2. 重症多発外傷、重度熱傷、敗血症性ショックなど重症患者を集中治療室にて管理。
3. 循環器、脳卒中など専門各科と協力し、質の高い医療を提供。
4. 積極的に研修医に救急外来で初期対応をさせ、教育。

□ 主な対象疾患

敗血症/重症感染症、多発外傷、重症熱傷、急性呼吸不全、中毒

□ 診療（業務）内容

救急搬送症例に対する初期外来対応、専門診療科紹介、入院加療など
重症救急患者への集中治療
院内重症患者に対する集中治療
他院からの重症紹介症例の受け入れ
多施設との症例検討会や情報交換
各種災害訓練の実施と参加
蘇生講習などへの参加と指導
研修医教育(京都大学、京都府立医科大学病院研修医を含む)
臨床医学教育（京都大学、京都府立医科大学、同志社大学、橘大学）
コメディカルに対する教育研修
市民に対する救急啓蒙教育
消防局との連携ならびに情報交換
医師会、他病院との連携ならびに情報交換

□ 診療実績(平成27年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
14名	960名	7日

外来患者数

1日平均患者数
11名

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国際学会	K. Nishiyama, N. Ito, T. Orita, M. Abe, H. Yasuda, Y. Honma, H. Arimoto, M. Tokura, K. Hayashida, K. Nagao Characteristics of regional cerebral oxygen saturation levels in patients who experience out-of-hospital cardiac arrest with or without return of spontaneous circulation 2015 European Society of Cardiology annual scientific session 2015.8.31 London, UK
国際学会	T. Unoki, K. Nishiyama, N. Ito, Y. Tsujimura, M. Abe, S. Beppu, T. Endo, H. Anan, T. Nakayama, K. Nagao Patients with moderate cerebral perfusion deficit upon hospital arrival may be good candidates for therapeutic hypothermia following out-of-hospital cardiac arrest 2015 European Society of Cardiology annual scientific session 2015.9.2 London, UK
国際学会	Hideto Yasuda, Kei Nishiyama, Noritoshi Ito, Hideki Arimoto, Tomohiko Orita, Murai Akira, Kazuo Okuchi, Hideaki Anan, Tsuyoshi Hatada,Shinichi Ishimatsu, Michiaki Tokura, Kazuhiro Shiga, Shigeki Kushimoto, and Shingo Hori Impact of Prehospital Advanced Care on Regional BrainOxygen Saturation at Hospital Arrival and Neurological Outcomes at 90 Days in Patients with Out-of-Hospital Cardiopulmonary Arrest 2015 American Heart Association Resuscitation Science Symposium 2015.11.8 Orlando, USA
国際学会	Shunsuke Yamanaka, Kei Nishiyama, Hiroyuki Hayashi, and Ji Young Huh The Most Appropriate Number of Personnel Needed for Chest Compressions for In-hospital Cardiac Arrest: A Randomized, Crossover Manikin Study 2015 American Heart Association Resuscitation Science Symposium 2015.11.8 Orlando, USA
国際学会	Kei Nishiyama, Noritoshi Ito, Tomohiko Orita, Kei Hayashida, Hideki Arimoto, Takashi Unoki, Tomoyuki Endo, Hideto Yasuda, Ken Nagao, J-POP Registry Investigators Severity Assessment of Brain Damage with rSO2 monitoring for E-CPR after Out-of-hospital Cardiac Arrest The 2nd Conference of Asia-Pacific Chapter of Extracorporeal Life Support Organization 2015.7.17 Kyoto, Japan
国内学会	西山慶 rSO2を用いた院外心肺停止患者への脳障害の重症度評価、optimal critical careの実施に向けて 第79回日本循環器学会学術集会 2014.4.25 大阪
国内学会	西山慶 院外心肺停止患者における脳低酸素重症度および長期予後から見たE-CPR・THの適応の検討 第8回日本蘇生科学シンポジウム（J-ReSS） 2015.6.4 富山
国内学会	西山慶,伊藤賀敏, 辻村有香, 有元秀樹, 林田敬, 折田智彦, 鵜木崇, 遠藤智之, 安田英人, 長尾健, J-POP registry investigators 心停止の転帰予測 心原性院外心肺停止患者に対する来院時rSO2値に基づいた低体温療法の適応決定についての検討 第18回 日本脳低温療法学会 2015.7.10 高松
教育講演	西山慶 突然死を招く心臓発作とは 第30回日本不整脈学会学術大会・第32回日本心電学会学術集会 合同学術大会 市民公開講座 2015.7.31 京都
国内学会	西山慶 低体温療法は、来院時rSO2値が41%~60%の中程度低酸素脳症の患者に有効である 第43回日本集中治療医学会学術集会 2016.2.11 神戸
国内学会	西山慶、佐藤格夫、鈴木崇生、小池薫 救急隊員による院外心肺停止患者へのrSO2計測に関する研究：Prehospital rSO2 study 第42回日本救急医学会総会・学術集会 2016.10.21 東京
国内学会	西山慶、伊藤賀敏、辻村有香、有元秀樹、林田敬、折田智彦、遠藤智之、安田英人、別府賢、長尾健、J-POPregistry investigtors 院外心肺停止患者における脳低酸素重症度および長期予後から見たE-CPR・THの適応の検討 第42回 日本救急医学会総会・学術集会 2016.10.21 東京
国内学会	西山慶 大量酸素投与が必要な肺移植レシピエントの陸路による長距離搬送の経験 第42回 日本救急医学会総会・学術集会 216.10.23 東京
教育講演	西山慶 Physiological monitoring guided CPRのための rSO2（脳局所酸素飽和度）計測：BLSから集中治療まで 第42回 日本救急医学会総会・学術集会 ランチョンセミナー 2016.10.22 東京
国内学会	Kei Nishiyama Regional cerebral oxygen saturation monitoring after CPA for physiological monitoring-guided CPR and tailoring interventions 第80回日本循環器学会学術集会 2016.3.19 仙台
国内学会	Kei Nishiyama, Kaoru Koike Physiological Monitoring-Guided Cardiopulmonary Resuscitation using Regional Cerebral Saturation: Preliminary Case Series from the Pre rSO2 Study 第80回日本循環器学会学術集会 2016.3.20 仙台
国際学会	Yasuda H, Sanui M, Komuro T, Hatakeyama J, Matsukubo S, Kawano S, Yamamoto H, Andoh K, Seo R, Shime N. Comparison of threecutaneous antiseptic solutions for the prevention of catheter colonization in the adult intensive care unit: A multicenter prospective randomized controlled trial. The 35th international symposium on intensive and emergency medicine 2015.3.18 Brussels.
国際学会	Esaka N, Endo B, Fukuda O, Mizumoto Y, Katsushima S, Shime N. Appropriate empiric antibiotic therapy of community-acquired and healthcare-associated biliary tract infection. Digestive Disease Week 2015.5.16 Wahinton DC
国際学会	Fujino M, Tanaka H, Shime N. A fulminant case due to hepatitis B infection. The 8th. Asian Conference of Emergency Medicine 2015.11.8 Taipei
国内学会	堤貴彦, 志馬伸朗 入院後に気道狭窄を来し, 緊急気道確保を来した右顎下腺腫瘍の一例 第111会近畿救急医学研究会 2015.3.7 和歌山

国内学会	濵田聖子、志馬伸朗、笹橋望、別府賢、竹下淳、田中博之、藤井雅士、狩野謙一、藤野光洋．　気腫性膵炎の一例．　第112会日本集中治療医学会近畿地方会．2015.7.3 大阪
国内学会	藤井雅士、田中博之、竹下　淳、別府賢、笹橋望、志馬伸朗．慢性呼吸不全の急性増悪に対し、ドキサプラムの投与によって気管挿管が回避できた一例．第112回近畿救急医学会．2015.7.3 大阪
国内学会	藤井雅士、藤野光洋、狩野謙一、堤貴彦、吉田浩輔、濱中訓生、田中博之、竹下淳、別府　賢、笹橋望、志馬伸朗．慢性呼吸不全の急性増悪に対し、ドキサプラムの投与によって気管挿管が回避できた一例．第37回日本呼吸療法医学会学術集会．2015.7.18 京都
国内学会	別府賢、柳澤雅美、志馬伸朗．VAE サーベイランスの臨床的妥当性の検討．第37回日本呼吸療法医学会学術集会．2015.7.18 京都
国内学会	志馬伸朗．救命救急センターにおけるantimicrobial stewardshipをすすめるための工夫．第63回日本化学療法学会総会．2015.6.5 東京
国内学会	藤野光洋, 濱中訓生, 志馬伸朗, 笹橋望, 別府賢, 竹下淳, 田中博之, 吉田浩輔, 堤貴彦, 狩野謙一．救命し得た外傷性胸部大動脈破裂の一例．第29回日本外傷学会総会・学術集会．2015.6.11 札幌
国内学会	狩野謙一, 濱中訓生, 志馬伸朗．抗凝固療法を行った多発外傷後下大静脈血栓症の1例 第29回日本外傷学会総会・学術集会．2015.6.11 札幌
国内学会	吉田浩輔, 志馬伸朗．静注抗真菌薬投与症例におけるリスク因子の後方視的検討．第89回日本感染症学会学術集会 2015.4.15 京都
国内学会	田中博之, 志馬伸朗, 笹橋望, 別府賢, 竹下淳, 濱中訓生, 吉田浩輔, 藤井雅士, 堤貴彦, 狩野謙一, 藤野光洋．難治性の心室性不整脈を頻発した急性薬物中毒の一例 第69回国立病院総合医学会 2015.10.2 札幌
国内学会	朴井三矢, 奥田 直之, 梅原玲緒奈, 土井敏行, 上野裕之, 山崎邦夫, 北村良雄, 志馬伸朗. 抗MRSA薬の使用調査. 第69回国立病院総合医学会 2015.10.2 札幌
国内学会	伊藤千慧, 中村美咲, 福田修, 常松裕子, 井本元治, 住田善之, 末武貢, 益田喜信, 志馬伸朗, 藤森 洋一 尿中細菌直接同定・薬剤感受性検査の有用性について．第69回国立病院総合医学会 2015.10.2 札幌
国内学会	常松裕子, 中村美咲, 伊藤千慧, 福田修, 井本元治, 住田善之, 末武貢, 益田喜信, 志馬伸朗, 藤森 洋一．サポニン加ブロスを用いた迅速菌種同定ならびに薬剤感受性についての検討 第69回国立病院総合医学会 2015.10.2 札幌
国内学会	中村美咲, 伊藤千慧, 福田修, 常松裕子, 井本元治, 住田善之, 末武貢, 益田喜信, 志馬伸朗, 藤森 洋一．迅速な菌種同定報告の有用性について 第69回国立病院総合医学会 2015.10.2 札幌
国内学会	別府賢, 小田裕太, 藤野光洋, 狩野謙一, 武部弘太郎, 浜崎幹久, 岡田信長, 大木伸吾, 藤井雅士, 田中博之, 竹下淳, 笹橋望, 志馬伸朗．VAE サーベイランスの臨床的妥当性の検討．第69回国立病院総合医学会 2015.10.2 札幌
国内学会	堤貴彦, 濱中訓生, 志馬伸朗, 桑原遼, 広川侑奨, 伊藤剛．左副腎腫瘍の破裂に対し、動脈塞栓術を施行した一例．第51日本医学放射線学会秋季臨床大会 2015.10.2 盛岡
国内学会	濱中訓生, 志馬伸朗, 伊藤剛．急性腹症に対する診断的イメージングの限界(Limitations of diagnostic imaging for acute abdomen)．第51日本医学放射線学会秋季臨床大会 2015.10.2 盛岡
研究会	狩野謙一, 志馬伸朗, 小田祐太, 藤野光洋, 浜崎幹久, 岡田信長, 藤井雅士, 田中博之, 竹下淳, 別府賢．経験的抗菌薬投与プロトコル導入による菌血症治療への影響．第43回日本集中治療医学会学術集会．2016.2.13 神戸

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	出版社	発行年および月
Nishiyama K, Koike K.	Detection of Pulseless Electric Activity using Regional Cerebral Saturation Monitoring	Resuscitation	93	n/a	e19-20		2015.8
Nishiyama K, Ito N, Orita T, Hayashida K, Arimoto H, Abe M, Unoki T, Endo T, Murai A, Ishikura K, Yamada N, Mizobuchi M, Anan H, Watanabe T, Yasuda H, Homma Y, Shiga K, Tokura M, Tsujimura Y, Hatanaka T, Nagao K	Characteristics of regional cerebral oxygen saturation levels in patients with out-of-hospital cardiac arrest with or without return of spontaneous circulation: A prospective observational multicentre study.	Resuscitation	26	96	16-22		2015.7
Kawano T, Tsugawa Y, Nishiyama K, Morita H, Yamamura O, Hasegawa K.	Shelter crowding and increased incidence of acute respiratory infection among evacuees following the Great Eastern Japan Earthquake and Tsunami.	Epidemiol Infect	144	4	787-5		2016.3
Nishiyama K, Ito N, Orita T, Hayashida K, Arimoto H, Beppu S, Abe M, Unoki T, Endo T, Murai A, Hatada T, Yamada N, Mizobuchi M, Himeno H, Okuchi K, Yasuda H, Mochizuki T, Shiga K, Kikuchi M, Tsujimura Y, Hatanaka T, Nagao K, for the J-POP Registry Investigators	Regional cerebral oxygen saturation monitoring for predicting interventional outcomes in patients following out-of-hospital cardiac arrest of presumed cardiac cause: A prospective, observational, multicentre study	Resuscitation	17	96	135-141		2015.8
Kawano T, Nishiyama K, Morita H, Yamamura O, Kohei. Hasegawa K, Hiraide A	Association Between Shelter Crowding and Incidence of Sleep Disturbance Among Disaster Evacuees: A Retrospective Medical Chart Review Study	BMJ open	n/a	n/a	e009711		2016.1
時津葉子、西山慶	救急領域でのNIRSモニタリングの意義と有用性	Medical Science Digest	n/a	2015年6月臨時増刊号	49-52	ニューサイエンス社	

Shime N, Hosokawa K, MacLaren G.	Ultrasound Imaging Reduces Failure Rates of Percutaneous Central Venous Catheterization in Children.	Crit Care Med.	16	8	718-25		2015.5
Shime N, MacLaren G.	Innovation, Cost, and Sustainability of Pediatric Ventricular Assist Device Programs.	Pediatr Crit Care Med.	16	6	589-90		2015.6
Shime N, MacLaren G.	Polymyxin B haemoperfusion in septic shock patients.	Intensive Care Med.	41	11	2033		2015.11
Shime N.	Clinical and investigative critical care medicine in Japan.	Intensive Care Med.	41	11	2033		2016.3
藤井雅士，志馬伸朗，山内千奈, 狩野謙一, 田中博之	NPPV使用時にドキサプラム投与により気管挿管を回避しえた慢性呼吸不全増悪の一例.	人工呼吸	32	2	212-215		2015.11
駒井翔太，徳平夏子，志馬伸朗，井上美帆，加藤祐子，安炳文, 柳生茂希, 橋本悟	神経芽細胞腫由来のカテコラミンで低血圧症状がマスクされた乳児重症敗血症の一例.	日本集中治療医学会雑誌	22	3	225-226		2015.5

健診センター



健診センター長
田上　哲也

専門医資格等　日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医・近畿支部評議員
日本内分泌学会　内分泌代謝科(内科)専門医・指導医・教育責任者・評議員
日本甲状腺学会　専門医・評議員
厚生労働省　臨床研修指導医
京都大学医学部　臨床教授・非常勤講師
京都大学　医学博士
専門分野　内科、内分泌・代謝
得意疾患　内分泌疾患、甲状腺疾患

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
副健診センター長	島　　伸子	日本内科学会　認定内科医 日本消化器病学会　専門医 日本消化器内視鏡学会　専門医 日本ヘリコバクター学会　H. pylori（ピロリ菌）感染症認定医	内科 消化器内科 消化器内視鏡検査	消化器疾患 消化器内視鏡検査
非常勤医師	小坂田元太	日本内科学会　認定内科医・指導医 日本循環器学会　認定循環器専門医・近畿支部評議員 日本超音波医学会　超音波専門医・指導医 日本人間ドック学会　人間ドック認定医 京都大学　医学博士	内科 循環器内科 超音波医学	循環器疾患 超音波検査
非常勤医師	前川　　高天	日本内科学会　認定内科医 日本消化器病学会　指導医 日本消化器内視鏡学会　指導医・評議員 日本ヘリコバクター学会　H. pylori（ピロリ菌）感染症認定医	消化器内科一般	消化管疾患

□ 診療科の特徴

食生活の乱れや過度の飲酒、運動不足、喫煙など不適切な生活習慣の積み重ねにより、高血圧や脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病が急激に増加しています。生活習慣病の多くは、自覚症状がほとんどないため、気付かないうちに動脈硬化が進行し、心筋梗塞や脳卒中などの重大な結果を招いてしまうことも少なくありません。生活習慣病は、まず予防すること、そして早期発見と早期治療が大切です。また、増加の一途をたどっている様々な臓器に発生する癌においても、予防や早期発見・早期治療が重要であることはいうまでもありません。京都医療センター健診センターは、生活習慣病や癌の早期発見に貢献しています。 特に、癌の全身検索に適しているPET-CT健診や、苦痛の少ない経鼻内視鏡を用いた胃がん検診などを行い、癌の早期発見に力を入れています。ご自身だけでなく、大切なご家族の健康を守るために、定期的に健診を受けられることをお勧めします。

□ 診療（業務）内容

高度で贅沢な設備とスタッフ

京都医療センターは各種の高度専門医療施設に指定されていますので、それぞれの診療設備については高度かつ精密な検査機器が配備されています。また、各学会認定の専門医が多数常勤しており、専門的かつ高度な診断が可能となっています。当健診センターでは、最高の設備・スタッフを駆使することにより、みなさまに安心していただける健診を提供しています。

健診センター専用棟での迅速な健康診断

平成16年5月に完成した健診センター専用棟には、待合ロビー、診察室、心電図室、超音波検査室、肺機能検査室、X線一般撮影/造影撮影室がすべて完備されていますので、それぞれの検査・診察が効率的かつ迅速にすすめることが可能となっています。また、待ち時間の短縮など、受診されるみなさまのご負担をできるだけ軽減できるよう、常にこころがけていますので、是非ご利用いただきますよう職員一同お待ちしています。

1．より"迅速"に、より"的確"に

健診センター専用棟には、診察室、心電図、腹部超音波検査装置、X線撮影装置、上部消化管内視鏡が完備されていますので、それぞれの検査を迅速かつ効率的にすすめることが可能になっています（コース、オプション内容によっては、中央診療棟での検査，診察になります）。また、各学会の認定医・専門医が多数在籍していますので、より専門的で的確な診断が可能になっています。

2．"点"から"線"の健診

従来の、結果を眺めるだけの"点"の健診ではなく、継続的な健康管理に役立つ"線"の健診を目指しています。特にここ数年来問題視されているメタボリックシンドローム、喫煙関連疾患、ヘリコバクターピロリ菌感染症については、各診療科の専門外来と協力し、継続的な診療を受けていただけるよう心がけています。

3．より"確実"な早期発見

各領域の悪性疾患については、最近の低侵襲治療の発達で、その早期発見はより重要になっています。 また近年、がんに対する様々なリスクファクターが明らかにされており、これらのリスクを考慮したハイリスク検診の試みも始まっています。当健診センターでは、子宮がん検診に、子宮頚がんのリスクファクターとされるhuman papilloma virus (HPV)検査を、胃がん検診に血清ペプシノゲン/血中ヘリコバクターピロリ菌抗体検査を、前立腺癌にPSA測定を導入し、また、2014年10月からPETがん検診を開始し、各疾患の早期発見を目指しています。

4．より"楽"な検査

胃がんの早期発見には内視鏡検査（胃カメラ検査）の有用性が指摘されていますが、受診者にとっては、これまで"つらい"検査の一つでした。当健診センターでは極細径内視鏡による経鼻内視鏡検査を導入し、受診者にとって"つらい"検査から"楽な"検査への転換を図っています。

〈健診コース〉

基本コース	★基本コース（一般コース・脳ドック・レディースコース）に加えて、各種オプション（肺：胸部CT検査、婦人科：診察・US、乳がん：マンモグラフィなど）を受診者の希望に応じて実施しています。また、本年度からPET健診を始めました。 ★血液サラサラ健診 血液は体内に必要な栄養素，酵素等を運び、老廃物を取り除く働きをします。 生活習慣病予防のために「血液サラサラ健診」を受けてみませんか？ ★鼻から行う内視鏡 鼻から行う内視鏡をご存じですか？ 経鼻内視鏡検査は、口からの検査に比べ検査時の吐き気、不快感が少ないものとなっています。
一般健診	
生活習慣病	
脳ドック	
レディース	
オプション	
脳オプション	
動脈硬化オプション	
血液サラサラ度オプション	
骨粗鬆症オプション	
各種がんオプション：肺，前立腺，乳腺，子宮	
PET健診	

□ 診療実績（平成27年度）

〈受診者数〉

基本健診

	総受診者数	一般健診	生活習慣病	脳ドック	レディース	PET	胃癌
2011年度	992	891	8	26	26	-	-
2012年度	844	764	11	27	30	-	-
2013年度	866	805	6	34	16	-	-
2014年度	1041	972	6	25	27	11	-
2015年度	1074	965	2	29	20	47	4

オプション

	脳	動脈硬化	血液流動性検査	骨粗鬆症
2011年度	137	94	21	102
2012年度	118	94	36	101
2013年度	122	85	43	93
2014年度	144	135	88	135
2015年度	135	133	69	139

がんオプション

	肺がん	前立腺がん	乳がん	子宮がん
2011年度	48	199	169	157
2012年度	48	161	183	140
2013年度	54	175	197	136
2014年度	76	207	221	138
2015年度	65	215	227	152

〈健診で発見されたがん〉

	咽喉頭癌	食道表在癌	早期胃癌	十二指腸腫瘍	大腸癌	乳癌
2013年度	1（内視鏡）	1（内視鏡）	5（内視鏡）	0	2	0
2014年度	1（内視鏡）	1（内視鏡）	3（内視鏡）	0	1	1（MMG）
2015年度	0	1（内視鏡）	2（内視鏡）	1（内視鏡）	3	1（PET）

	肺癌	前立腺癌	白血病
2013年度	0	0	0
2014年度	1（CT）	0	0
2015年度	1（PET）	1	1

上部消化管検診

	総数	内視鏡		透視
		経鼻	経口	
2013年度	762	244	206	312
2014年度	951	389	410	152
2015年度	953	458	390	105

★経鼻内視鏡検査の比率が増加し、透視件数が減少した。

胃がんリスク検診

	2015年度	2014年度
A群	617	616
B群	46	88
C群	17	56
D群	5	9
E群（除菌後）	254	168
計	939	937

★HP現感染者が減少し、除菌後の件数が増加した（当院消化器内科を紹介し除菌治療に力を入れた）。

大腸がん検診

	便潜血検査		要精検者数	要精検率（%）	精検受診者数	精検受診率（%）	癌	癌発見率（%）
	件数	陽性数						
2013年度	781	73	73	9.3	37	50.7	2	0.26
2014年度	962	162	157	16.3	121	77.0	1	0.10
2015年度	995	145	142	14.4	78	54.9	3	0.3

	癌陽性反応的中度（%）	腺腫	腺腫発見率（%）	腺腫陽性反応的中度（%）
2013年度	2.74	6	0.77	8.23
2014年度	0.64	44	4.57	28.0
2015年度	2.11	19	1.91	13.4

2015 年度　PET検診（47人）で発見された腫瘍性病変

肺癌	1
乳癌	1

★47人中2人と高率に癌が発見されている。

2015年度

乳がん検診　249人	実数	%
要精検率	98/249	39.4
精検受診率	78 /98	79.6
精検未受診率	1/98	1.0
精検未把握率	19/98	19.4
乳がん発見率	0/249	0.0
陽性反応的中度	0/98	0.0

子宮がん検診　172人	実数	%
要精検率	4/172	2.3
精検受診率	4/4	100.0
精検未受診率	0/4	0.0
精検未把握率	0/4	0.0
子宮頚がん発見率	0/172	0.0
陽性反応的中度	0/4	0.0

前立腺がん検診（PSA）　215人	実数	%
要精検率	8/215	3.7
精検受診率	6/8	75.0
精検未受診率	0/8	0.0
精検未把握率	2/8	25.0
前立腺がん発見率	1/215	0.5
陽性反応的中度	1/8	12.5

〈サリドマイド健診〉

先行の「全国のサリドマイド胎芽病患者の健康、生活実態に関する研究班」の研究成果を踏まえ、中年期を向かえた患者の今後の医療上・生活上の問題点を明確にし、有効な医療及び支援のあり方を検討する。また、外国での患者に対する医療の取組みに関する調査も進め、国際的な医療情報交換を推進し、患者に対する支援のあり方、取組みを世界的規模で検討していく。

京都医療センター健診センターでは、西日本居住者を対象に健診を実施している。

	サリドマイド健診
2012年度	10名
2013年度	8名
2014年度	8名
2015年度	7名

臨床研究センター



臨床研究センター長
臨床研究企画運営部長(併任)
糖尿病研究部長(併任)
治験管理室長(併任)
研究室長(糖尿病合併症:併任)
島津　章

専門医資格等　日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医
日本糖尿病学会　糖尿病専門医
日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医
専 門 分 野　内科・内分泌代謝・神経内分泌、検査医学

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野
副センター長・内分泌代謝高血圧研究部長・研究室長(高血圧:併任)	成瀬　光栄	日本内科学会　指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本腎臓学会　腎臓専門医・指導医 日本高血圧学会　専門医	内科・内分泌代謝(副腎疾患)・高血圧
展開医療研究部長	長谷川浩二	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医専門医 アメリカ心臓協会専門医(FAHA) アメリカ心臓病学会専門医(FACC) 日本禁煙科学会認定　禁煙支援医	心不全、虚血性心疾患、心血管危険因子管理・特に禁煙指導、心血管展開医療研究
研究室長(予防医学)	坂根　直樹	日本内科学会　認定医 日本肥満学会　評議員	糖尿病、糖尿病教育
研究室長(臨床内分泌代謝)	臼井　健	日本内科学会認定医・指導医 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医・指導医 日本人類遺伝学会/日本遺伝子カウンセリング学会　臨床遺伝専門医・指導医 臨床研修指導医	内科・内分泌代謝・臨床遺伝学
研究室長(先端医療技術開発)	和田　啓道	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	循環器学、リスクファクター管理、予防医学、臨床研究(バイオマーカー、メタボリックシンドローム、喫煙)、実験医学(心筋梗塞、高血圧性心疾患、血管新生)
研究室長(臨床代謝栄養)	浅原　哲子	日本糖尿病学会　糖尿病専門医・研修指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本内科学会　認定内科医 日本肥満学会　評議員 日本病態栄養学会　評議員 臨床遺伝専門医	糖尿病、肥満(メタボリックシンドローム)疾患
研究室長(情報化推進:併任)	北岡　有喜	日本産科婦人科学会専門医 国立病院等総合情報ネットワーク研究会副会長 ＩＴコンソーシアム京都 医療情報化部会長	生殖分子生理学医療情報学・情報システム学　集中治療における呼吸・循環管理

	氏　　名	専門医資格等	専門分野
研究室長(分子内分泌代謝:併任)	田上　哲也	日本内科学会　総合内科専門医・認定医・指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医・教育責任者 日本甲状腺学会　専門医臨床研修指導医	内科・内分泌代謝 (甲状腺疾患)
研究室長(内分泌系腫瘍:併任)	奥野　　博	日本泌尿器科学会　指導医・専門医 日本生殖医学会　評議員 日本アンドロロジー学会　評議員 京都大学　医学博士京都大学医学部 臨床教授関西医科大学　臨床教授 米国泌尿器科学会　日本癌治療認定医 日本臨床腎移植学会　腎移植認定医 日本内視鏡外科学会　技術認定医 日本泌尿器内視鏡学会　腹腔鏡技術認定医	前立腺がん、体腔鏡手術、女性・男性泌尿器科学
研究室長(臨床疫学情報:併任)	小山　　弘	日本内科学会総合内科専門医	内科一般、内科診断学、医学教育、臨床疫学
研究室長(糖尿病:併任)	河野　茂夫	日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本糖尿病学会　評議員	糖尿病、足病変
研究室長(血管障害:併任)	塚原　徹也	日本脳神経外科学会　脳神経外科専門医・評議員 日本脳卒中学会　脳卒中専門医・評議員 日本脳神経外科学会　脳神経外科専門医・評議員 日本脳卒中学会　脳卒中専門医・評議員	脳卒中外科、脳血管障害、脳腫瘍、脳神経外科一般
研究室長(がん医療:併任)	猪飼伊知夫	日本外科学会 外科専門医、指導医 日本消化器外科学会 外科専門医、指導医 日本肝胆膵外科学会 肝胆膵外科高度技能指導医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医	肝胆膵外科(肝臓がん、胆道がん、膵臓がん)
研究室長(生命情報科学:併任)	七野　　力	厚生労働省による麻酔科標榜許可日本麻酔科学会認定　麻酔科専門医・指導医日本集中治療医学会認定　集中治療専門医	麻酔科学全般　心臓血管外科手術の麻酔管理　集中治療における呼吸・循環管理
流動研究員	松島　大介		
流動研究員	津崎こころ		
流動研究員	田中　将志		
流動研究員	曽和　尚也		

□ 診療(業務)内容

京都医療センターは平成11年3月「内分泌・代謝性疾患」の高度専門医療施設(準ナショナルセンター)として位置づけられ、その研究体制強化の一環として平成15年10月1日付で臨床研究センターが設置されました。国立病院機構の臨床研究体制再構築に伴い、平成20年度から「内分泌・代謝性疾患」にとどまらず、がん診療支援を含めた幅広い分野を臨床研究の活動分野とすることになりました。

今までの研究基盤の上に立ち、内分泌・代謝性疾患に加え、がん医療、成育医療、循環器疾患、腎疾患、感覚器疾患など幅広い医療分野において、他の研究施設や大学には備わっていない当院独自の特性を生かした臨床研究を行う学術機関として位置づけられています。現在、臨床研究センターは、臨床研究企画運営部、内分泌代謝高血圧研究部、糖尿病研究部、展開医療研究部の4部門15研究室から構成され、院内の臨床部門と密接に連携協力し、研究体制の支援、あわせて院外研究員や諸機関と広く協力して、研究施設の効率的運用を図り、医療の向上に資する臨床研究を強力に推進しています。

□ 地域医療連携・広報活動

・下垂体患者の会 医療講演会（東京） 2015年7月11日 講演「間脳下垂体疾患 診療のトピック：指定難病をめぐって」虎の門病院講堂
・下垂体患者の会 医療講演会（関西） 2015年11月7日 講演「下垂体疾患の今後」看護助産学校視聴覚室
・NHK Eテレ番組「きょうの健康」 2015年6月16日20:30-20:45「気づきにくいホルモンの病気」第2回「下垂体・成長ホルモンの病気」
・第16回メタボリックシンドローム会　2016年3月19日　京都医療センター　多目的ホール
・伏見内分泌代謝ネットワーク　第23回連携の会　「テーマ：内分泌疾患と糖尿病診療のポイント」　2015年5月9日　伏見医師会館
・伏見内分泌代謝ネットワーク　第24回連携の会　「テーマ：内分泌代謝疾患の診療・研究倫理」　2015年10月29日　伏見医師会館
・第6回 京都医療センター医療連携フォーラム　2016年1月30日　京都
・楽しくてためになる健康教育の実践セミナー　2015年4月12日　京都
・平成27年度 南丹地区食育・学校給食研究協議会　2015年5月26日 京都
・ミッション・SSS「スーパーレッスン 食育講演会」時間栄養学が導くめざましごはん“朝食”　2015年6月30日　京都
・世界骨粗鬆症デ―　市民公開講座　骨を強くする運動の実際～　認知症にも糖尿病にも効果的～　2015年10月25日　東京
・市民公開講座　血糖コントロール+αな運動療法　2015年11月14日　埼玉
・糖尿病県民公開講座　やる気になればカラダは変わる!～糖と脂肪が減る運動～　2015年11月15日　岡山
・市民公開講座　60代からの健康づくり　2015年11月17日　兵庫
・第5回箕面食育フェア　「何を食べる?」から「いつ食べる」へ　ー時間栄養学のススメー　～体と頭に効く朝ご飯とは?～　2016年2月13日　箕面
・滋賀成人病センター　糖尿病患者会　「糖尿病フットケア」2015年5月9日　滋賀
・彦根市立病院　小児1型糖尿病に関する講演会　「1型糖尿病の最新治療」　2016年1月22日　彦根

他

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

演　　者	演　　題	講　演　会　名
Shimada S, et al.	Time-dependent changes of atherosclerotic LDL complexes in smoking patients	20th Asian Pacific Society of Cardiology Congress
Abe T, Naruse M, et al.	A novel CYP11B2-specific positron emission tomography imaging agent for detection of aldosterone-producing adenomas	ENSAT 14th Scientific Symposium
Umakoshi H, Naruse M, et al.	Adrenal venous sampling in patients without primary aldosteronims	41st International Aldosterone conference
Komiyama M, Wada H, et al.	Analysis on time course changes of atherosclerotic low-density lipoprotein complexes and body weight gain after smoking cessation	American Heart Association　Scientific Sessions 2015
Hasegawa K	Are endothelial markers useful for drug selection in ACS?	19th Annual Scientific Meeting of the ISCP
Satoh-Asahara N, et al.	Attenuates the oxidized-LDL-induced formcell formation through autophagy in macrophages and monocytes	American Diabetes Association 75th scientific sessions
Tsuzaki K, et al	Correlation between subfractional high-density lipoprotein cholesterol levels and obesity traits: an electrophoretic method and a homogeneous assay method	American Association for Clinical Chemistry Annual meeting
Umakoshi H, et al.	Evidence for clinical questions of adrenal vein sampling in primary aldosteronism: multicenter collaborative study in Japan	The 8th International Aldosterone Forum
Sakane N, et al.	Prevention of metabolic syndrome and components in subjects with impaired fasting glucose by telephone-delivered lifestyle intervention using self-help devices	The 9th International Conference on Advanced Technologies & Treatments for Diabetes
Shimatsu A, et al.	Phase III, multicenter, double-blind, randomaized withdrawal study of osilodrostat (LCI699) in patients with Cushing's disease (CD): A study design.	European Congress of Endocrinology (ECE) 2015
Tagami T, et al.	Specific symptoms of thyroid dysfunction in Japanese: reevaluation of classical symptoms in modern thyroid function tests	15th International thyroid congress
Okada H, et al.	Support of patients with chronic disease by community pharmacies: developing pharmacy practice, COMPASS Project	3rd Annual Pharmacist Networking Event

他、948件

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	発行年および月
Moriyama K, et al.	Molecular characterization of human thyroid hormone receptor β isoform 4	Endocrine Research	41	1	34-42	2016.2
Iwama S, et al.	Rabphilin-3A as a targeted autoantigen in lymphocytic infundibulo- neurohypophysitis	Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism	100	7	E946-954	2015.7
Habu M, et al.	Pituitary metastases - Current practice in Japan -	Journal of Neurosurgery	123	4	998-1007	2015.10
Hattori N, et al.	Variability in the detection of macro TSH in different immunoassay systems	European Journal of Endocrinology	174	1	9-15	2016.1
Hashimoto K, et al.	Serum free thyroxine levels is associated with the efficacy of weight reduction therapy in obese female patients	Endocrine Journal	63	3	221-229	2016.3
Hattori N, et al.	A possible cause of variable detectability of macroprolactin by different immunoassay systems	Clinical Chemistry and Laboratory Medicine	54		in press	2016
Fleseriu M, et al.	Osilodrostat, a potent oral 11β-hydroxylase inhibitor: 22-week, prospective, Phase II study in Cushing's disease	Pituitary	19		in press	2016
Abe T, et al.	A novel CYP11B2-specific imaging agent for detection of unilateral subtypes of primary aldosteronism	The Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism	101	3	1008-1015	2016.3
Yamaguchi M, et al.	Circadian rhythm genes CLOCK and PER3 polymorphisms and morning gastric motility in humans	PLoS One	10	3	e012009	2015.5
Nanba K, et al.	Shortened saline infusion test for subtype prediction in primary aldosteronism.	Endocrine	50	3	802-806	2015.12
Ueda Y, et al.	A family of RTHβ with p.R316C mutation presenting occasional syndrome of inappropriate secretion of TSH	Endocrine Journal	62	3	251-260	2015
Umakoshi H, et al.	Adrenal venous sampling in patients with positive screening but negative confirmatory testing for primary aldosteronism	Hypertension	67	5	1014-1019	2016.3
Umakoshi H, et al.	Optimum position of left adrenal vein sampling for subtype diagnosis in primary aldosteronism	Clinical Endocrinology	83	6	768-773	2015.5
Shimatsu A, et al.	Possible predictors for QOL improvement following GH replacement therapy in adult GHD	Endocrine Journal	62	8	749-756	2015.8
Komiyama M, et al.	The effects of weight gain after smoking cessation on atherogenic α1-antitrypsin-low-density lipoprotein	Heart and Vessels	30	6	734-773	2015.11
Matuo Y, et al.	Thrombospondin 1 defines sex- and age-dependent phenotypes of human obesity and diabetes	Metabolism	64	11	1490-1499	2015.11
Hattori N, et al.	Macro TSH in patients with subclinical hypothyroidism. Macro TSH in patients with subclinical hypothyroidism.	Clinical Endocrinology (Oxf)	83	6	923-930	2015.12
Tanaka M, et al.	Differential effects of GLP-1 receptor agonist on foam cell formation in monocytes between non-obese and obese subjects	Metabolism	65	2	1-11	2016.2
Shimatsu A, et al.	Efficacy and safety of monotherapy by pegvisomant, a growth hormone receptor antagonist, in Japanese patients with acromegaly	Endocrine Journal	63	4	337-347	2016
Miyazaki R, Kotani K.	Pedometer- and accelerometer-based exercise in subjects with diabetes mellitus	Minerva Endocrinologica	40	2	145-154	2015.5
Tsuzaki K, et al.	Fasting lipoprotein lipase protein levels can predict a postmeal increment of triglyceride levels in fasting normohypertriglyceridemic subjects	Journal of Clinical Laboratory Analysis	online (DOI:10.1002/jcla.21869)			2015.8
Murata T, et al.	The relationship between the frequency of self-monitoring of blood glucose and glycemic control in patients with type 1 diabetes mellitus on continuous subcutaneous insulin infusion or on multiple daily injections	Journal of Diabetes Investigation	6	6	687-691	2015.11
Nirengi S, et al.	Evaluation of brown adipose tissue using near-infrared time-resolved spectroscopy	Advances in Experimental Medicine and Biology	876		371-376	2016.1
Nirengi S, et al.	Actn3 gene r577x polymorphism associated with high-density lipoprotein cholesterol and adiponectin in rugby players	Endocrine Practice	in press			2016.2
Nirengi S, et al.	Assessment of human brown adipose tissue density during daily ingestion of thermogenic capsinoids using near-infrared time-resolved spectroscopy	Journal of Biomedical Optics	21	9	91305	2016.3
Tanaka M, et al.	Hyperglycemia and inflammatory proerty of circulating monocytes are associated with inflammatory property of carotid plaques in patients undergoing carotid endarterectomy	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	in press			in press

Satoh-Asahara N, et al.	Cardio-Ankle vascular index predicts for the incidence of cardiovascular events in obese patients: A multicenter prospective cohort study (Japan Obesity and Metabolic Syndrome Study: JOMS)	Atherosclerosis	242	2	461-468	2015.8
Kotani K, et al.	Association between metabolic syndrome and multiple lesions of intracranial atherothrombotic stroke: a hospital-based study	Cardiovascular Diabetology	14	108		2015.8
Sakane N, et al.	Effects of telephone-delivered lifestyle support on the development of diabetes in participants at high risk of type 2 diabetes: J-DOIT1, a pragmatic cluster randomised trial	BMJ Open	5	8	e007316	2015.8
Sakane N, et al.	Fear of hypoglycemia and its determinants in insulin-treated patients with type 2 diabetes mellitus	Journal of Diabetes Investigation	6	5	567-570	2015.9
Döneray H, et al.	The first turkish case of hypoparathyroidism,deafness and renal dysplasia(HDR) syndrome	Journal of Clinical Research in Pediatric Endocrinology (JCRPE)	7	2	140-143	2015
Murakami T, et al.	A novel missense mutation of the MEN1 gene in a patient with multiple endocrine neoplasia type 1 with glucagonoma and obesity	internal medicine	54		2475-2481	2015.10
Yamashita S, et al.	Novel AVPR2 mutation causing partial nephrogenic diabetes insipidus in a Japanese family	Journal of Pediatric Endocrinology and Metabolism	29	5	591-6	2016.5
Li JE, et al.	Cinnamaldehyde contributes to insulin sensitivity by activating PPARδ, PPARγ, and RXR	The American Journal of Chinese Medicine	43	5	879-892	2015
Khosroshahi A, et al.	International consensus guidance statement on the management and treatment of IgG4-related disease	Arthritis and Rheumatology	67	7	1688-1699	2015.7

他、308件

□ 獲得した競争的研究資金

項　目	研究課題	研究者名	研究事業者名	主任分担の例	主任/分担研究者直接経費金額
日本学術振興会科学研究費	偽性副甲状腺機能低下症をモデルとしたエピゲノム病の病態基盤解析	臼井 健	基盤研究(C)	主任	110万円
日本学術振興会科学研究費	心血管病予防に向けた摂取栄養素とアディポサイトカインに基づく効果的栄養指導	佐々木 洋介	若手研究(B)	主任	140万円
日本学術振興会科学研究費	時間栄養学を活用した交代勤務者のための食事調査票と指導法開発についての研究	津崎 こころ	基盤研究(C)	主任	85万円
日本学術振興会科学研究費	家族や地域を巻き込んだ糖尿病予防プログラムの開発と効果検証	坂根　直樹	基盤研究(C)	主任	115万円
日本学術振興会科学研究費	骨髄・単球由来分子を標的とした肥満・糖尿病合併症の新規診断指標と治療戦略の確立	佐藤　哲子	基盤研究(C)	主任	130万円
日本学術振興会科学研究費	心筋細胞肥大の核内情報伝達機構を標的とした創薬による新規心不全療法の確立	長谷川 浩二	基盤研究(C)	主任	130万円
日本学術振興会科学研究費	終の暮しといのちを支えるホームホスピスの生活者のQOLとQODに影響を与える要因	片山　知美	挑戦的萌芽研究	主任	60万円
日本学術振興会科学研究費	骨格筋の恒常性維持にかかるNotch2シグナルの役割の解明	増田　慎也	基盤研究(C)	主任	110万円
国立高度専門医療センター等研究費	アジア開発途上国における糖尿病合併症に対する介入戦略に関する研究	河野　茂夫	国際開発費25指1	分担	61万円
国立高度専門医療センター等研究費	難病のゲノム医療推進体制構築に関するフィージビリティの検討	成瀬　光栄	国際開発費26指111	分担	40万円
国立高度専門医療センター等研究費	難治性副腎腫瘍の疾患レジストリーと診療実態に関する検討	成瀬　光栄	国際開発費27指1402	分担	200万円
その他財団等からの研究費	２型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験（ＪーＤＯＩＴ３）	河野　茂夫	ＪーＤＯＩＴ３	主任	50万円
国立高度専門医療センター等研究費	アジア開発途上国における糖尿病合併症に対する介入戦略に関する研究	河野　茂夫	国際展開推進事業	主任	762.4838万円
日本医療研究開発機構研究費	簡便な新規心血管イベント予知マーカーによる効率的なハイリスク患者抽出方法の確立	和田　啓道	日本医療研究開発機構	主任	1042.3万円

日本医療研究開発機構研究費	重症性原発性アルドステロン症の診療の質向上に資するエビデンス構築	成瀬　光栄	日本医療研究開発機構	主任	1277.647万円
日本医療研究開発機構研究費	間脳下垂体機能障害に関する長期予後調査研究	島津　章	日本医療研究開発機構	主任	180万円
厚生労働科学研究費	間脳下垂体機能障害における診療ガイドライン作成に関する研究	島津　章	厚生労働省	主任	165.9万円
その他財団等からの研究費	エネルギー消費・代謝に関わる遺伝子発現におけるニコチン及びその代謝物の影響	田上　哲也	喫煙科学研究財団	主任	200万円
その他財団等からの研究費	日本人の糖尿病における腎糸球体（毛細血管）と腎最小動脈硬化症に関与する遺伝子と生活環境因子に関する研究	服部　正和	成人血管病研究振興財団	主任	350万円

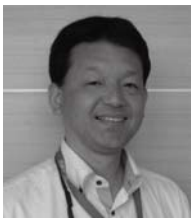
他、81件

医療安全管理部


医療安全管理部長
白神　幸太郎


医療安全管理副部長
阿部　充


副看護師長
黒川　久美子


訴訟専門職
山﨑　茂


医療安全管理係長
右野　恵
平成28年3月31日まで


医療安全管理係長
柿本　由美子
平成28年4月1日現在

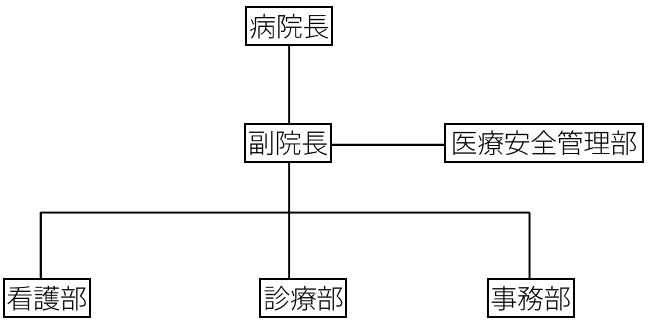
患者安全の確保、医療の質の担保と向上への取り組みは、急性期基幹病院である当院において最も重要な課題であり、安全文化の醸成は医療教育機関としての責務である。これらの課題、責務を達成するために医療安全管理部が活動している。院内に医療安全管理室を設置し、各部署に医療安全推進担当者（リスクマネージャー）をおいて医療安全管理体制を整備している。医療安全管理委員会、リスクマネージャー会議などの定例会議を主催するとともに、随時オカレンス症例検討会、ハイリスク診療検討会などを開催している。平成27年7月より電子化した報告システムによりインシデント・アクシデント事例を収集し、個々の事例に対応するだけでなく、マニュアル等の定期的な見直しを行い医療安全管理体制の強化充実を図っている。また院内で共有すべき情報については積極的に情報発信を行い、スタッフ教育にも力を注いでいる。

平成27年10月より新たな医療事故調査制度がスタートし、当院でも新制度に対応すべく、院内で生じた死亡症例についてモニタリングし、迅速かつ適切に事例の収集と検討が可能となるシステムを整備した。

これらの取り組みを通じて、医療に伴って発生する様々な危険や有害事象をモニターし、調査、分析して医療に反映させること、重大な有害事象に対して病院をあげて迅速に対応すること、スタッフ教育や院内システムの改善に役立てることを目標としている。

1．医療安全組織図

1）副院長直下に医療安全管理部を設ける。



2）構成メンバー

医療安全管理部長　１名
医療安全管理副部長　１名
医療訴務専門職　１名
医療安全管理係長　１名
看護部医療安全担当副看護師長：1名
医療安全推進担当者（リスクマネージャー）各部署から１名　計59名

2．医療安全に関する日常活動

1）医療安全に関する院内の情報収集及び実態調査（定期的な院内の巡回・点検、マニュアルの遵守状況の点検）
2）マニュアルの作成及び点検と見直しの提言等
3）インシデント・アクシデントレポートの収集、保管、分析、具体的な改善策の提案、分析結果の現場へのフィードバックと集計結果の管理
4）医療安全に関する最新情報の把握と職員への周知
5）医療安全に関する職員への啓発、広報
6）医療安全に関する教育研修の企画・運営
7）医療安全対策ネットワーク整備事業に関する報告
8）医療安全管理に係る連絡調整に関すること

3．業務実績

1）医療事故に関する会議開催状況　(平成27年度)

① 拡大医療安全管理委員会　　0件
② 医療事故本部対策会議　　1件
③ オカレンス事例検討会議　　26件
④ ハイリスク診療検討会議　　6件

2）マニュアル、ガイドラインの作成・改訂

・抗血栓薬の適正使用と周術期の取り扱いに関するガイドライン改訂版（2015年改訂）
・中心静脈カテーテル運用マニュアル（2012年）
・術前リスクと術後合併症評価ガイドライン（2012年）
・インスリン指示に関する対症指示テンプレート整備（2012年）
・ロヒプノール院内使用指針（2014年）
・事故防止対策マニュアル改訂版（2014年）
・院内転倒時の頭部打撲対応（2016年）
・医療事故調査制度開始に伴う手順整備(2016年10月開始)

3）インシデント・アクシデントレポート収集

・平成27年度報告件数
インシデント　3,652 件
アクシデント　271 件

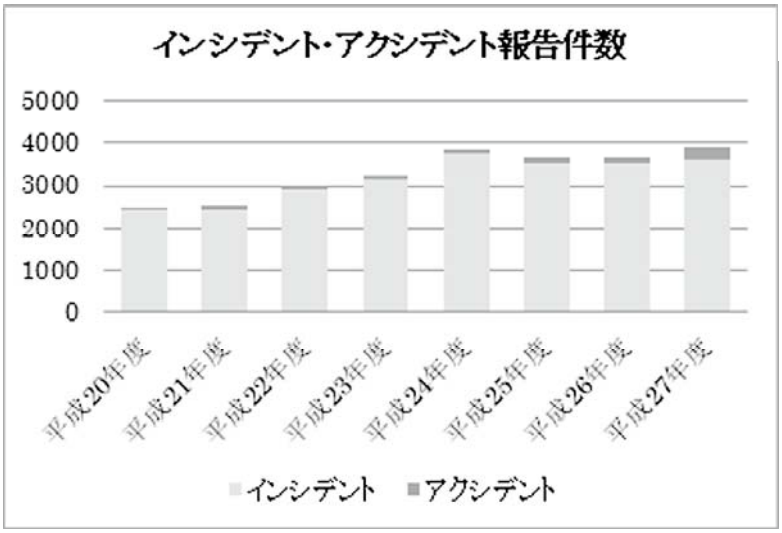


表１　職種別報告件数

看護部	3,311	84.4%
医師	298	7.6%
薬剤	69	1.8%
栄養	43	1.1%
検査	43	1.1%
放射線	63	1.6%
リハビリ	47	1.2%
臨床工学技士	27	0.7%
事務	22	0.6%
合計	3,923	

4）平成２７年度　緊急コール件数

ドクターハートコール：25件

ＭＥＴＳコール（平成25年9月稼働）：11件

ホワイトコードコール：15件

警察対応事例：4件

5）医療安全に関する活動及び情報提供

・医療安全管理委員会　１回/月　計１２回

・リスクマネージャー会議　１回/月　計１２回

・診療科長会議、医局会、管理診療会議での情報提供

・事故事例の情報発信等

（針刺し予防、麻薬、転倒転落予防、看護技術再確認、輸液ルートと接続部確認、患者取り違え、誤認、誤薬等）

・医療安全カレンダー作成、配布

・「2回チャレンジルール」（2014年11月開始）

・各部門カンファレンス・検討会等参加

・インシデントレポーティングシステム「ファントルくん」導入

6）医療安全に関する教育研修

(1）医療安全研修会

第1回「感染管理と医療安全」外部講師　平成27年5月25日開催

第2回「訴訟に強いカルテと求められるIC」外部講師　平成28年1月18日開催

(2)医療事故防止研修会　計15回開催

＜テーマ＞
この視点で変わる～転倒予防ケア～
緊急気道確保シミュレーション
CVC・PICC シミュレーション
麻薬について
必ず守ってほしい事　「ＭＲ検査・造影剤について」
ちょっとまった!！その管理方法「正しい検体の取り扱い方」
安全な輸血のために
食事の安全対策　　アレルギー登録・安全な食事提供とは？
誤薬はなぜおこる！？
急変前兆候？　チームとして行動できること
プレアボイド事例の集積と解析より～薬剤師の視点からみた医薬品適正使用～
パワーポートの使用方法と管理
新しいシリンジポンプ説明会
ファントルくん説明会
平成 27 年度成果発表会　考えてみよう！「トラブル対応の心構え」

(3)医局会において「医療安全アップデート」として18テーマについて情報発信

＜テーマ＞
患者誤認防止
体内異物遺残の防止
個人情報保護規程
インシデント・アクシデント報告の重要性
新レポーティングシステムについて
外来科学療法のリスクについて
外来における個人情報管理
同意書の記載、保管について
医療事故調査制度について
ＣＴ画像見落としの危険
画像診断における見落としアンケート
院内発症頭部外傷への対策
ドクターハラスメントについて
急変対応の整備
薬剤に関する自動車運転禁止指導
異状死の取り扱いについて
薬剤プレアボイドについて
パニック値の対応について

7）医療安全に関する講義

新採用者研修、看護助手等採用時の研修、幹部看護師任用候補者研修、看護学校、実習指導者講習会、スペシャルメディカルクラーク研修、等

8）平成27年度学会発表

(1)国立病院学会（札幌）

「宗教的輸血拒否患者に対する当院の取り組み」

(2)日本医療マネジメント学会第13回京滋支部学会（京都）

「オカレンスを活かす　～事例検討から医師へのフィードバック～」

「インシデントレポーチティングシステム導入とその効果」

「宗教的輸血拒否患者に対する当院の取り組み」

医療情報部



部長
情報システム管理室室長
診療情報管理室室長
臨床研究センター
政策医療企画研究部
情報化推進研究室室長
北岡　有喜

専門医資格等　京都大学博士（医学）
同志社大学博士（政策科学）
日本産科婦人科学会　専門医
総務省　地域情報化アドバイザー
地方公共団体情報システム機構　経営審議会委員
独立行政法人情報処理推進機構
「先進的IoTプロジェクト支援事業」メンター
ジャパン・クラウド・コンソーシアム
健康・医療クラウドWG総合監修
ＩＴコンソーシアム京都　医療情報化部会長
京都府がん医療戦略推進会議
院内がん登録部会　部会長

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等
副　部　長	八幡　兼成	京都大学博士（医学） 日本腎臓学会　専門医・指導医 日本透析医学会　専門医・指導医 日本糖尿病学会　専門医 日本内科学会　専門医
診療情報管理室　主任	金子　悦代	診療情報管理士・院内がん登録実務指導者
診療情報管理室　室員	前田　夕子	診療情報管理士・院内がん登録実務中級者
診療情報管理室　室員	秋好　香織	診療情報管理士
診療情報管理室　室員	上田　好美	診療情報管理士・院内がん登録実務中級者
診療情報管理室　室員	口村　恭子	診療情報管理士
スペシャル医療クラーク	西田千賀子	産婦人科
スペシャル医療クラーク	牧原麻理子	産婦人科
スペシャル医療クラーク	木村　仁美	眼科担当
スペシャル医療クラーク	長谷川紗世	内分泌代謝センター担当
スペシャル医療クラーク	成田　朋代	泌尿器科担当
スペシャル医療クラーク	赤井　樹理	外科担当・院内がん登録実務初級者・日本癌治療学会認定データマネージャー・JCOG（日本臨床腫瘍研究グループ）臨床試験セミナー入門編修了
スペシャル医療クラーク	甲田　実樹	呼吸器内科担当・院内がん登録実務初級者
スペシャル医療クラーク	柴田　暢子	形成外科担当・院内がん登録実務初級者
スペシャル医療クラーク	品川　智子	循環器内科担当・薬剤師
スペシャル医療クラーク	村上　雅代	救命センター担当
スペシャル医療クラーク	中村　繭子	消化器内科・内視鏡センター担当・院内がん登録実務初級者
スペシャル医療クラーク	西山万里子	血管外科担当・看護師
スペシャル医療クラーク	小川　文代	呼吸器外科担当・管理栄養士
スペシャル医療クラーク	中條　夏子	脳神経センター担当

スペシャル医療クラーク	三浦　圭代	小児内科担当
スペシャル医療クラーク	中尾　真理	腎臓内科担当
スペシャル医療クラーク	藤本　容子	糖尿病センター担当・薬剤師
スペシャル医療クラーク	加藤由美子	緩和ケア科担当
スペシャル医療クラーク	金本　知恵	皮膚科担当
スペシャル医療クラーク	南野　和代	整形外科担当・院長室
スペシャル医療クラーク	田中　直美	心臓外科担当
スペシャル医療クラーク	黒田　果奈	脳神経センター担当
スペシャル医療クラーク	横山　順子	放射治療科担当
スペシャル医療クラーク	木下　幸子	腫瘍内科担当・院内がん登録実務初級者
スペシャル医療クラーク	井上　恭子	脳神経センター・地域連携室担当
スペシャル医療クラーク	金山　聡美	整形外科担当
スペシャル医療クラーク	細川真莉奈	麻酔科担当
スペシャル医療クラーク	川口裕希子	消化器内科・内視鏡センター担当
スペシャル医療クラーク	藤澤　静香	耳鼻科担当
医療クラーク	松本紀美子	事務助手(地域連携室担当)
医療クラーク	戸田由美子	事務助手(手術室担当)
情報システム管理室室員	園田　淳	運用管理職員(委託)
情報システム管理室室員	奥田　英智	運用管理職員(委託)
情報システム管理室室員	太田　佳子	運用管理職員(委託)
情報システム管理室室員	伊藤智菜美	運用管理職員(委託)
流動研究員	松島　大介	システムエンジニア・データベーススペシャリスト・情報セキュリティスペシャリスト・ソフトウェア開発技術者
非常勤研究員	中辻　善行	システムエンジニア・上級医療情報技師
非常勤研究員	小川　麻理	日医認定ITインストラクター・情報処理士
非常勤研究員	横田　健吾	システムエンジニア
非常勤研究員	滝川　裕介	システムエンジニア
非常勤研究員	小森　由宗	システムエンジニア
非常勤研究員	小森谷祥明	システムエンジニア
非常勤研究員	田中　啓之	システムエンジニア

□ 診療科の特徴

1. 京都医療センター医療情報部は、独立行政法人化以前の2003年7月に国立病院としては初めて設置が認可された医療情報部です。
2. 医師と情報システムエンジニアの資格を持つ人材が部長を担当しており、ベンダーに依存することなく、医療現場のニーズにマッチした情報システムの要件定義や開発・導入・構築を迅速かつ適価で行っています。
3. 京都府・京都市が設置した情報基盤協議会である「ITコンソーシアム京都」医療情報化部会と連携し、「ポケットカルテ」などの二次医療圏を包括する地域医療連携基盤の企画・設計・開発・構築・運用・整備なども行っています。

4．情報システムや診療記録管理だけでなく、診療諸記録作成の専門職として「スペシャル医療クラーク」を独自に育成し各診療科に配置することで、医師・看護師などの専門職が専門業務に集中出来る環境を構築すると共に、診療諸記録の質の向上ならびに診療の質の向上に努めています。

□ 診療（業務）内容

医療情報部は３部署で構成されています。各部署の名称と主な業務内容は以下の通りです。

1．病院情報システム管理室
病院情報システム（電子カルテシステム）の開発・構築・運用・整備および将来計画に関すること

2．診療情報管理室
診療諸記録及び診療情報の管理・調査・研究およびがん登録に関すること

3．診療支援チーム
スペシャル医療クラークを独自に育成し、各診療科などに配置することで、医師など専門職の事務作業を軽減すると共に、診療諸記録の精度向上や処理を迅速化すること

また、研究業務は臨床研究センター情報化推進研究室と一体化し、医療情報の研究、教育及び利用、病院の運営及び診療の管理に係る情報化などの研究開発を行っています。

□ 地域医療連携・広報活動

第56回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか，　京都医療センター, 2015年4月16日
院内がん登録実務WG, 京都医療センター, 2015年4月25日
院内がん登録部会, 京都医療センター, 2015年4月25日
院内がん登録部会研修会, 京都医療センター, 2015年4月25日
第57回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか，　京都医療センター, 2015年5月21日
ＪＣＴＡ北関東支部と埼玉ケーブルテレビ連盟の合同総会講演 北岡有喜，ＪＣＴＡ北関東支部と埼玉ケーブルテレビ連盟, 2015年6月5日
第58回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか，　京都医療センター, 2015年6月18日
地方創生×ＩＣＴシンポジウム 北岡有喜, 政策分析ネットワーク, 2015年6月20日
院内がん登録実務WG, 京都第二赤十字病院, 2015年6月27日
院内がん登録部会, 京都第二赤十字病院, 2015年6月27日
院内がん登録部会研修会, 京都第二赤十字病院, 2015年6月27日
第17回日本テレワーク学会研究発表大会 クラウド型個人向け健康•医療•福祉•介護履歴管理サービス「ポケットカルテ」北岡有喜, 日本テレワーク学会, 2015年7月4日
第59回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか，　京都医療センター, 2015年7月16日
平成27年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル講師 北岡有喜，公益社団法人福岡県看護協会，2015年7月31日
大阪府立成人病センター　地域医療連携勉強会　北岡有喜，メディカルサイエンスベーストリソース研究所, 2015年8月3日
第60回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか，　京都医療センター, 2015年8月20日
院内がん登録実務WG, 京都医療センター, 2015年8月29日～8月30日
院内がん登録部会, 京都医療センター, 2015年8月29日～8月30日

院内がん登録部会研修会, 京都医療センター, 2015年8月29日～8月30日
第4回院内がん登録セミナー, 京都医療センター, 2015年8月29日～8月30日
富山県南砺市 地域情報化に関する勉強会 北岡有喜, 南砺市, 2015年8月31日
第61回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか,　京都医療センター, 2015年9月17日
第69回国立病院総合医学会 シンポジウム《医療情報》 座長 北岡有喜, 独立行政法人国立病院機構, 2015年10月2日
第62回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか, 京都医療センター, 2015年10月8日
ダイナミクス全国大会 2015 in 京都　講演「ポケットカルテ」 ―これまでの取組と今後の展開について― 北岡有喜, 京都リサーチパーク, 2015年10月11日
電子お薬手帳の相互閲覧システムの説明会 北岡有喜, 日本薬剤師会, 2015年10月22日
CBI学会　市民講座「地域医療のイノベーションとICT」講演　個人向け健康医療福祉履歴管理(PHR)サービス「ポケットカルテ」 -臨床研究基盤としてのこれまでの取組と今後の展開について- 北岡有喜, CBI学会（情報計算化学生物学会）, 2015年10月29日
院内がん登録実務WG, 京都大学医学部, 2015年10月29日
院内がん登録部会, 京都大学医学部, 2015年10月29日
院内がん登録部会研修会, 京都大学医学部, 2015年10月29日
第63回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか,　京都医療センター, 2015年11月19日
院内がん登録実務WG, 京都府立医科, 2015年12月14日
院内がん登録部会, 京都府立医科, 2015年12月14日
院内がん登録部会研修会, 京都府立医科, 2015年12月14日
第64回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか, 京都医療センター, 2015年12月17日
Regional Health Development2015　～地域包括ケアの先のデザインを模索する～ 北岡有喜, NPO法人医桜, 2015年12月26日
平成27年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル講師 北岡有喜, 公益社団法人福岡県看護協会, 2016年1月8日
第65回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか, 京都医療センター, 2016年1月21日
第17回京都研究会2015-2016 マイナンバーとポケットカルテ　～いよいよ始まるデータの利活用～ 北岡有喜, 特定非営利活動法人日本サスティナブル・コミュニティ・センター, 2016年1月22日
第66回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか, 京都医療センター, 2016年2月18日
ケーブルテクノフェア２０１６ 北岡有喜, ケーブルテレビ連盟近畿支部　技術部会, 2016年2月19日
総務省IoT政策委員会第３回プロジェクトＷＧ　プレゼン 北岡有喜, 総務省, 2016年2月19日
5年生社会科「情報化した社会とわたしたちの生活」 北岡有喜, 京都市立藤ノ森小学校, 2016年3月2日
第67回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券（すこやか安心カード）運営協議会」北岡有喜ほか, 京都医療センター, 2016年3月17日
「被災者支援システム」全国サポートセンター主催セミナー　講演　北岡有喜, 「被災者支援システム」全国サポートセンター, 2016年3月28日

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
北岡有喜，クラウド型個人向け健康・医療・福祉・介護履歴管理サービス「ポケットカルテ」 第17回日本テレワーク学会研究発表大会, 2015年7月4日;奈良県三郷町
北岡有喜, 市民講座「地域医療のイノベーションとICT」講演 個人向け健康医療福祉履歴管理(PHR)サービス「ポケットカルテ」-臨床研究基盤としてのこれまでの取組と今後の展開について- CBI学会（情報計算化学生物学会）, 2015年10月29日；東京
松島大介，北岡有喜 診療情報オンライン統計分析システムＣＬＩＳＴＡ!の高度利活用方法 異なるシステム間をまたがった、新規ターゲット作成による診療データの高度二次利用について 公益財団法人田附興風会医学研究所 第90回学術講演会・第14回研究発表会.2015年8月1日;大阪

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著 者 ・ タ イ ト ル
国立医療学会誌「医療」 Vol. 70 No. 1 (11-14)	北岡 有喜, 金田 吾郎 病院オーダリングシステム導入・運用における光と影
医薬ジャーナル社「最新透析医療 先端技術との融合」 (153-158)	西岡 敬祐, 塚本 達雄, 北岡 有喜 個人向け健康医療福祉履歴管理(personal health record : PHR)システムを用いた災害時対策を含む透析患者情報管理
京都医療センター地域医療連携機関紙「うづら便り」No.88(7-8)	北岡 有喜, 地域情報化大賞 大賞／総務大臣賞を受賞!
月刊ＪーＬＩＳ 2015年6月号 Vol. 2 No. 3	北岡 有喜, 総務省 地方創生に資する「地域情報化大賞」 大賞／総務大臣賞受賞 「ポケットカルテ」及び地域共通診察券「すこやか安心カード」
独立行政法人国立病院機構機関誌「ＮＨＯだより」No.135(8-9)	北岡 有喜, 地域情報化大賞 大賞／総務大臣賞を受賞!
九州テレコム振興センター会員向けＷＥＢマガジンＫｅｙーＥｙｅ	北岡 有喜, 「ポケットカルテ」及び地域共通診察券「すこやか安心カード」～総務省 地方創生に資する「地域情報化大賞」 大賞／総務大臣賞受賞
「ケーブルコンベンション2015」のKDDI様セミナー 日経ニューメディア	「公的個人認証サービスでSmart TV Boxをさらに便利に」、KDDIが意欲
ITUジャーナル2015年12月号 Vol. 45 No. 12	北岡 有喜, 個人向け健康・医療・福祉履歴管理サービス「ポケットカルテR」
「Innovation Nippon」におけるイノベーター動画紹介	「ポケットカルテ」&「すこやか安心カード」- 医療データをつなぐ地域のヒューマンネットワーク -

□ 賞罰

総務省 地方創生に資する「地域情報化大賞」 大賞／総務大臣賞受賞 「ポケットカルテ」及び地域共通診察券「すこやか安心カード」

厚生労働省 第4回健康寿命をのばそうアワード 厚生労働省健康局長優良賞受賞 「ポケットカルテ」及び地域共通診察券「すこやか安心カード」





□ 院内情報処理業務支援

２０１５年度	医療用データウェアハウスCLISTA!業務サポート 5件		
〃	病診連携用画像DVDR作成件数（放射線科、手術術野動画等）	3453件	（月平均288件）
〃	病診連携用画像CD-R作成件数（放射線科、内視鏡センター）	1129件	（月平均 94件）
２０１４年度	病診連携用画像CD-R作成件数（放射線科、内視鏡センター）	5271件	（月平均439件）
２０１３年度	病診連携用画像CD-R作成件数（放射線科、内視鏡センター）	3771件	（月平均314件）
２０１２年度	病診連携用画像CD-R作成件数（放射線科、内視鏡センター）	3684件	（月平均307件）

感染制御部



感染制御部長
奥野　博

専門医資格等
日本泌尿器科学会専門医・指導医
京都大学臨床教授
関西医科大学臨床教授
日本生殖医学会評議員
日本アンドロロジー学会評議員
日本癌治療認定医
日本移植学会腎移植認定医
日本内視鏡外科学会技術認定医
日本泌尿器内視鏡学会・腹腔鏡技術認定医
京都大学医学博士
専門分野
泌尿器科一般
得意疾患
前立腺がん
男性学
尿路感染症



副部長
(専任)
ICTリーダー
小田垣孝雄

専門医資格等
ICD：Infection Control Doctor
日本内科学会総合内科専門医/指導医
日本化学療法学会抗菌化学療法指導医
日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医/指導医
日本医師会認定産業医
専門分野
内科一般、感染制御
得意疾患
一般内科疾患

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	畑　　啓昭	ICD：Infection control doctor 日本外科学会　外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医・指導医 日本外科感染症学会　周術期感染管理認定医・教育医・評議員・教育委員 日本内視鏡外科学会　内視鏡外科技術認定医 日本食道学会　食道科認定医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医 日本消化器外科学会　消化器がん外科治療認定医	上部消化管 外科感染症	胃がん 食道がん
医　　師	遠藤　文司	ICD：Infection control doctor 日本内科学会　認定内科医 日本消化器病学会　消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会　消化器内視鏡専門医・同近畿支部評議員・同本部学術評議員 日本肝臓学会　肝臓専門医 日本化学療法学会　抗菌化学療法認定医 日本胆道学会　日本膵臓学会 国際膵臓学会 日本医師会認定産業医 臨床研修指導医	内科、消化器内科全般	胆道・膵疾患検査・治療
薬 剤 師	水本　友宏	抗菌化学療法認定薬剤師 感染制御認定薬剤師		
薬 剤 師 （専任）	福田　良子	日本化学療法学会 救命認定薬剤師 抗菌化学療法認定薬剤師		
副看護師長 （専従）	森　　誠司	CNIC：Certified Nurse Infection Control 感染管理認定看護師		

検査科主任（専任）	福田　修			
経営企画室長	西川　祐史			
事務	諸木　真知			

□ 診療（業務）内容

平成9年4月に院内感染対策チームが（ICT）設立し、平成22年4月にはICTを核とする感染制御部が発足しました。そのモットーは院内の感染管理と職員の健康管理を通じて、患者さんが安心して診療を受けられる環境を提供することを目標としています。

さらにその使命として医師、看護師、リンクナース、薬剤師、臨床検査技師、事務など多くの職員がそれぞれに得意とする分野を分担し、責任をもってこれを行っています。実務はICTリーダーを中心に週に１回ICTミーティングを行い、さらに週に1回定期的に院内ICTラウンドを実施しています。また日常の感染対策に関する相談に関しても随時対応しています。

活動例）

①インフルエンザ、感染性胃腸炎、結核などの院内感染対策業務
②手術部位感染、中心静脈カテーテル関連血流感染などのサーベイランス業務
③針刺し・切創事故対応業務
④職員対象の各種ワクチン接種業務
⑤抗菌薬適正使用推進業務
⑥その他、院内感染対策に必要とされる業務

この活動内容は病院長直轄の「院内感染対策委員会」（月1回）と平成22年4月に発足した「抗菌薬の適正使用に関する小委員会」（月1回）にて報告・審議・決定がなされるシステムとなっています。

平成24年度には感染防止対策推進に関する診療報酬が改定され、これまで以上に感染対策チーム（ICT）の活動が求められるようになりました。平成26年度の改訂でも大きな変更点はなく継承されています。

＊感染防止対策加算２を算定する当院連携施設：弘仁会大島病院　真和会京都大橋総合病院　ＮＴＴ西日本京都病院　国立病院機構南京都病院　淀さんせん会金井病院
＊感染防止対策加算１施設を算定している連携医療機関：京都市立病院機構　京都市立病院

□ 地域医療連携・広報活動

院内感染対策講習会　「感染対策と医療安全」　2015年5月25日
院内感染対策講習会　「CREを作らない、拡げないために」　2015年12月11日

第１回感染防止対策地域連携カンファレンス　「水まわりを見直そう」2015年6月12日
第２回感染防止対策地域連携カンファレンス　「尿路カテーテルの管理」2015年9月18日
第３回感染防止対策地域連携カンファレンス　「ST合剤」2015年11月13日
第４回感染防止対策地域連携カンファレンス　「この一年間の活動の総括」2016年2月12日

感染防止対策地域連携加算相互評価：京都市立病院　2015年11月5日・11月12日

第四回遠江創傷治癒セミナー　「当科でのVAC療法経験とコツ」　畑啓昭　2015年10月31日
「見落としがちな術前・術後のポイント」セミナー（福岡）　「消化器外科の術前・術後管理」　畑啓昭　2016年1月10日
「見落としがちな術前・術後のポイント」セミナー（神戸）　「消化器外科の術前・術後管理」　畑啓昭　2016年3月6日

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
院内講習会	志馬　伸朗「抗菌薬使用5つキホン～医師も看護師も全ての医療従事者が知っておくべきこと」　2015年5月25日
院内講習会	小田垣　孝雄「ＣＲＥを作らない、拡げないために～総論」2015年12月11日
院内講習会	福田　修「ＣＲＥを作らない、拡げないために～細菌学的特徴」2015年12月11日
院内講習会	森　誠司「ＣＲＥを作らない、拡げないために～水平伝播を防ぐ方法」2015年12月11日
院内講習会	福田　良子「ＣＲＥを作らない、拡げないために～抗菌薬について」2015年12月11日
院内講習会	西川　祐史「ＣＲＥを作らない、拡げないために～病院経営に及ぼす影響」2015年12月11日
地域連携カンファレンス	森　誠司　「水まわりを見直そう　～感染管理の視点から～」2015年6月12日
地域連携カンファレンス	奥野　博　「尿路カテーテルの管理」2015年9月18日
地域連携カンファレンス	水本　知宏「ＳＴ合剤」2015年11月13日
国内学会（広島）	畑　啓昭　「CDCガイドラインドラフト版を読み解く」　日本外科感染症学会特別セミナー　2015/9/5
国内学会（東京）	畑　啓昭 坂井義治　「大腸癌術前化学的腸管処置の当科での変遷」　JDDW2015　2015/10/9
国内学会（奈良）	畑　啓昭　「CDCガイドラインドラフト版を読み解く」　日本外科感染症学会特別セミナー　2015/10/17
国内学会（札幌）	畑　啓昭　「外科におけるがん化学療法時の感染症」　第4回北海道サージカル・インフェクション・フォーラム　2015/11/6
国内学会（鹿児島）	畑　啓昭　「CDCガイドラインドラフト版を読み解く」　日本外科感染症学会特別セミナー　2015/11/21
国内学会（名古屋）	畑　啓昭　教育委員会企画プログラム「SSI予防と治療の今」　第28回日本外科感染症学会学術集会　2015/12/3
国内学会（京都）	畑　啓昭　日本外科感染症学会ジョイントシンポジウム「周術期感染対策-どうしていますか?」第31回日本環境感染学会総会　2016/2/19
国内学会（仙台）	畑　啓昭　「CDCガイドラインドラフト版を読み解く」　日本外科感染症学会特別セミナー　2016/3/12
国際学会（ワシントン）	Naoki Esaka, Bunji Endo, Osamu Fukuda, Yoshinori Mizumoto, Shinji Katsushima, Nobuaki Shime: Appropriate Empiric Antibiotic Therapy of Community-Acquired and Healthcare-Associated Biliary Tract Infection　Digestive Disease Week (DDW) 2015　2015/5/1
国内学会（東京）	遠藤文司, 志馬伸朗：市中・医療関連胆道感染症に対する経験的抗菌薬治療の選択　第63回日本化学療法学会総会　2015/6/1
国内学会（東京）	志馬伸朗,遠藤文司：救命救急センターにおけるantimicrobial stewardshipをすすめるための工夫　第63回日本化学療法学会総会 2015/6/1
国内学会（東京）	遠藤 文司1, 中野 重治1, 下釜 翼1, 熊谷 健1, 江坂 直樹1, 太田 義之1, 岩本 諭1, 笠原 勝宏1, 米田 俊貴1, 水本 吉則1, 勝島 慎二1：胆道感染症に対する初期経験的抗菌薬の適切な選択に寄与する因子の検討　Japan Digestive Disease Week (DDW) 2015（日本消化器病学会）2015/10/1
研究会（京都）	遠藤 文司：胆道感染症に対する抗菌薬治療　第3回京阪奈胆膵フォーラム　2016/1/1
国内学会（石川）	福田　修　「薬剤感受性検査の迅速診断」　2015年7月4日　第27回　臨床微生物迅速診断研究会総会
研修会（大阪）	福田　修　「微生物検査における効率性」　2015年10月24日　国臨協近畿支部　微生物検査研修会
国内学会（宮城）	福田　修　「サポニン加ブロスを用いた 検体直接同定・薬剤感受性検査の検討」第27回　日本臨床微生物学会総会　2016年2月1日
研修会（北海道）	福田　修　「迅速化という臨床貢献」　2016年3月12日　第2回BDセミナー北海道
研修会（愛知）	福田　修　「BDフェニックスを用いた迅速化への挑戦」　2016年3月19日　第3回中部北陸BDフェニックスセミナー

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	編集者等	出版社	発行年および月
畑　啓昭	研修医のための見える・わかる外科手術「どんな手術?何をするの?」基本と手順がイラスト300点でイメージできる				1-367	畑啓昭	羊土社	2015.11

畑　啓昭､志馬伸朗	【ICUにおける抗菌薬処方～こうすれば上手く使える】周術期の予防的抗菌薬	月刊レジデント	8	12	100-107			2015.12
Hata H, Yamaguchi T, Hasegawa S, Nomura A, Hida K, Nishitai R, Yamanokuchi S, Yamanaka T, Sakai Y.	Oral and Parenteral Versus Parenteral Antibiotic Prophylaxis in Elective Laparoscopic Colorectal Surgery (JMTO PREV 07-01): A Phase 3, Multicenter, Open-label, Randomized Trial.	Ann Surg.			[Epub ahead of print]			2016.1
遠藤文司,志馬伸朗	敗血症性ショックの治療1～京都医療センターでは～	敗血症性ショックの診療戦略～エキスパートの実践～	-	-	112-120		医薬ジャーナル社	2015
遠藤文司	ICU における抗菌薬処方～こうすれば上手く使える 10.de-escalation	月刊レジデント	8	12	78-84		医学出版	2015

教育研修部



教育研修部長
小山　弘

専門医資格等　日本内科学会内科指導医

□ 教育研修部の特徴

施設認定等	臨床研修指定病院

1. スーパーローテーション方式を採用し、各科を広く経験しています。
2. 臨床研修医は、ERの担当を通じ幅広く急性疾患、外傷に対応する能力を習得すると同時に、地域医療に貢献しています。
3. 古くからの教育病院として、臨床研修医を教える文化のある病院です。

※ 地域医療の研修等について、伏見医師会の先生方にはご尽力いただき感謝しております。

□ 診療（業務）内容

当院の臨床研修プログラムに所属する臨床研修医、および京都大学医学部、京都府立医科大学、滋賀医科大学などの臨床研修プログラムに所属する臨床研修医で、協力病院として当院で研修を行う臨床研修医の、研修に関する諸問題を担当しています。

また、京都府医師会臨床研修のあり方に関する検討委員会の委員として、京都府全体の臨床研修に関する活動を行っています。

□ 地域医療連携・広報活動

伏見総合診療臨床カンファレンス（伏見医師会館にて）
京都府医師会臨床研修のあり方に関する検討委員会副委員長
京都府地域医療支援センター運営会議委員
医療系大学間共用試験実施評価機構医学系OSCE実施小委員会委員
伏見医師会理事

地域医療部



地域医療部長
秋山　祐一



地域医療連携室長
瀬田　公一

□ 高齢社会における医療・介護の政策全体としてのパラダイムシフト

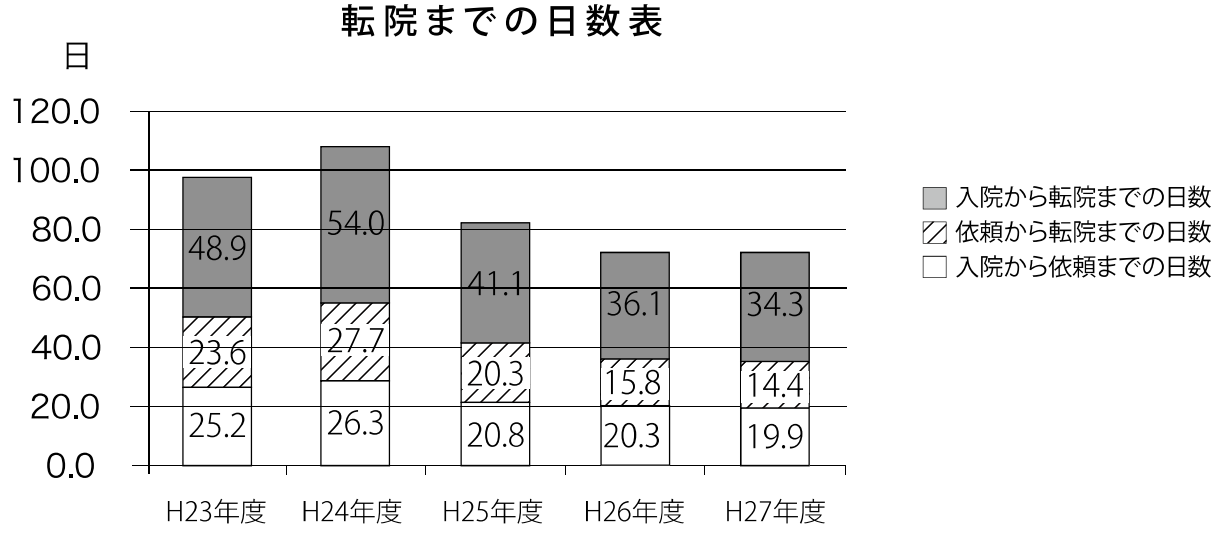
日本医師会の医療政策会議報告書「高齢社会における経済的・文化的・医学的パラダイムシフト」が平成28年3月に公表されました。高度急性期・急性期・回復期・慢性期を医療の人材、保健の人材、介護の人材のネットワークと施設のネットワークを地域にどのように形成してゆくかのパイロット研究や実例や提言、問題点が報告されています。

これは現在進行中の地域医療構想の策定にリンクし地域包括ケアの実態を確定してゆくのが今後の地域医療の課題と考えられます。京都医療センターの使命は癌治療、免疫難病の治療、あらゆる分野の高度な手術、冠動脈を中心とした緊急のカテーテル検査・治療、脳梗塞の超急性期治療、多発外傷など医療資源を集中的に投入する医療を中心にさらに整備されてゆきます。高齢者で糖尿病・心筋梗塞の慢性期治療中に見出された治療可能な進行癌など、複合的問題をかかえた高齢者を支える中心の施設と考えています。京都府医師会では「高齢者の在宅・施設での看とり」について平成27年3月にまとめられた報告書をベースに昨年から実践セミナーが活発になされています。地域連携室は切れ目ない医療のつなぎの要として、患者・家族の気持ちに沿った可能なかぎり迅速な対応が大切であると考えています。

地域医療部長　秋山　祐一

□ 地域医療連携室

京都医療センターの急性期病院としての役割を果たすための方策のひとつとして、転院支援を円滑にすることを目標に挙げて取り組んできました。その結果、グラフのように転院までの日数、特に連携室に転院調整依頼がおりてきてから転院するまでの日数が短くなりました。

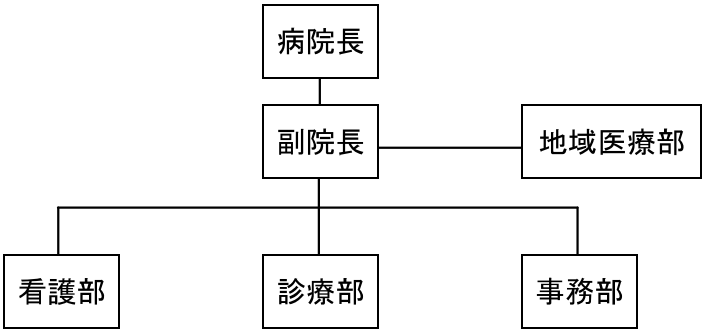


□ スタッフ

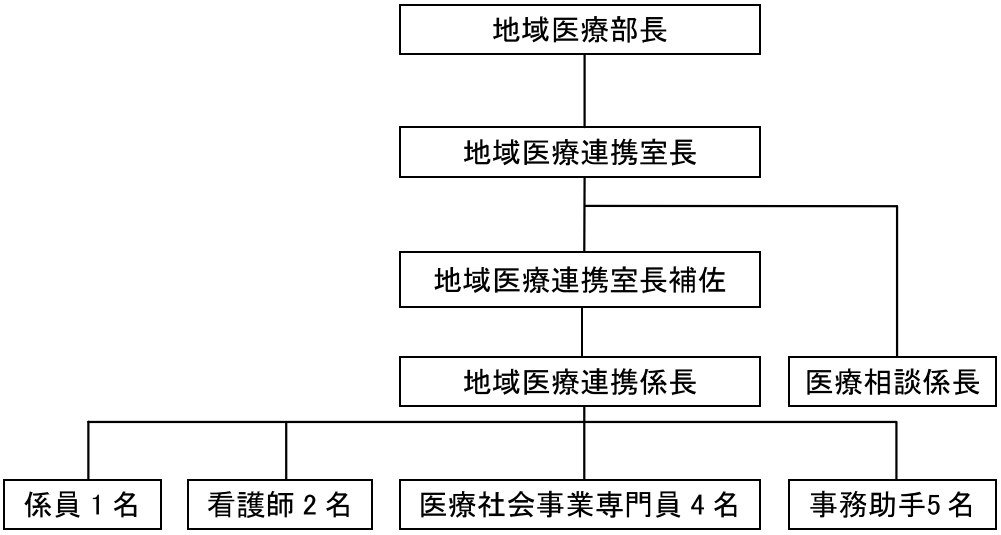
地域医療連携室長補佐・経営企画室長	西川　祐史
地域医療連携係長・病床管理師長	小林　美保
看護師	杉本　明美
看護師	井上　綾乃
医療社会事業専門員	宅間　親恵
医療社会事業専門員	長田 沙友梨
医療社会事業専門員	弘中　孝佳
医療社会事業専門員	吉岡　孝師
地域医療連携係	山下　千覚
事務	丸本　志帆
事務	沖中　直子
予約担当	諸木　真知
予約担当	前田　恭代
予約担当	長谷川　伶奈

1．沿革と体制

2002年　地域医療連携室設置
2007年　地域がん診療拠点病院の指定
2008年　地域医療支援病院の承認



構成メンバー



2．地域医療連携室の日常活動

〈前方連携〉

●診察・検査事前予約

●救急紹介受診の受付と手配

●開放型病床のデータ管理

●紹介患者の返信確認と入退院の情報提供

〈後方連携〉

●退院支援（転院・在宅）

●後方支援機関との連携の強化

●後方支援機関への紹介患者

〈相談〉

●療養上の相談や受診についての相談

●経済的問題の解決

●各種制度（介護保険・障害者医療など）の相談

〈広報〉

●外来担当表等の発送

●広報誌『うづら便り』の発送

●医療連携フォーラムの開催

●各医療機関への訪問

3．業務実績(2015年実績)

地域医療連携室経由予約件数　診療予約8,894件　検査予約1,254件
1日平均予約件数41.8件

相談件数9,970件　転院支援実績698件

転院支援実績在院日数34.3日　地域連携診療計画管理料適用患者数137件

救急受診受付746件　救急受診受入後入院件数355件

セカンドオピニオン相談件数185件　セカンドオピニオン実績件数43件

紹介率68.2%　逆紹介率88.3%　開放型病床登録医数129件

地域医療連携委員会　1回/月

地域支援病院運営委員会　四半期1回

院内発表

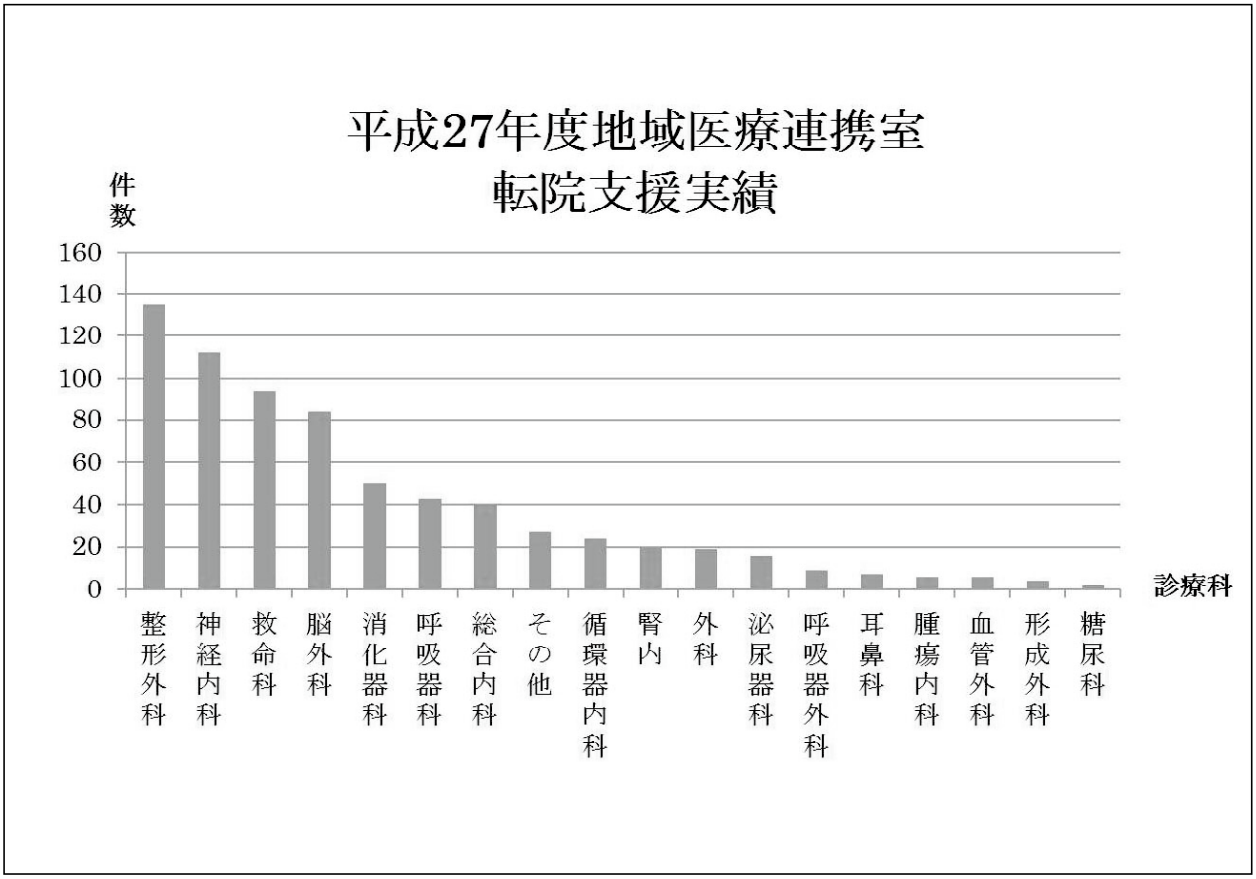
平成27年11月　18日（火）

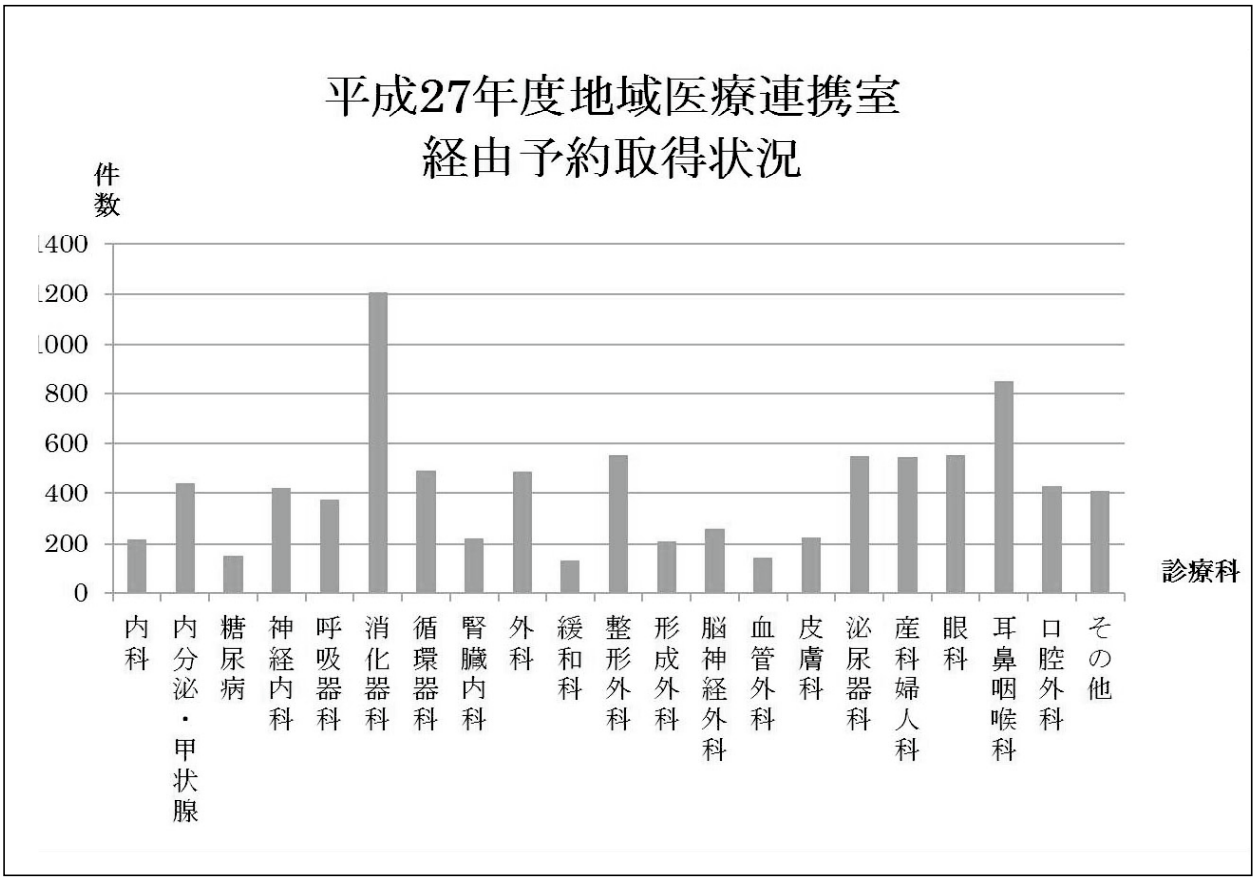
第12回訪問看護師交流会「高齢者支援の現状と課題」～ＭＳＷの立場から～

平成28年2月 20日（土）成果発表会

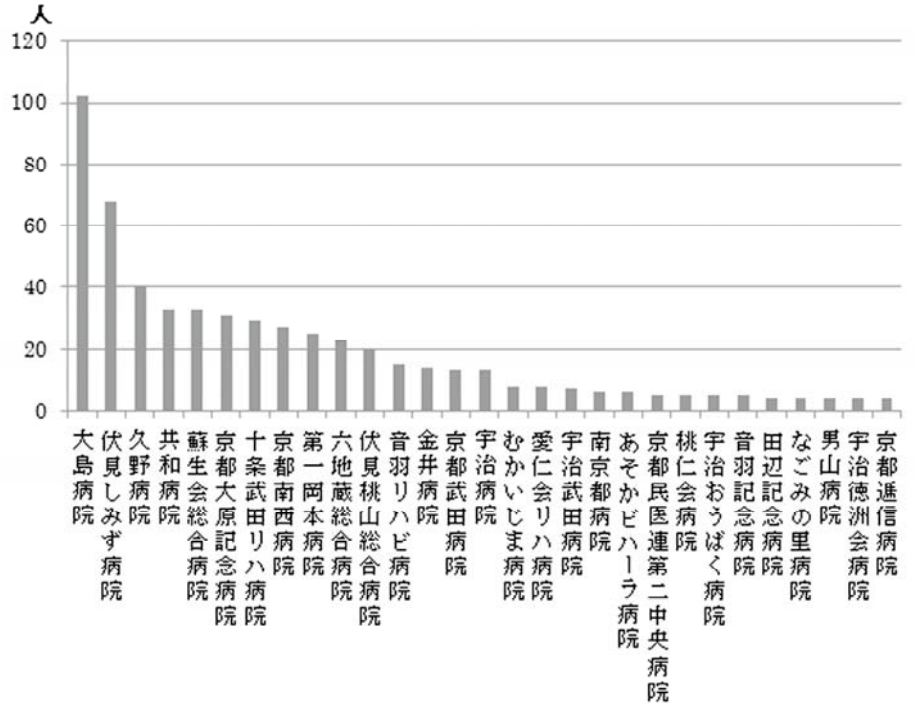
「在院日数の更なる短縮に向けて」　口述

「円滑な地域医療連携の推進に向けた取組み」　ポスター

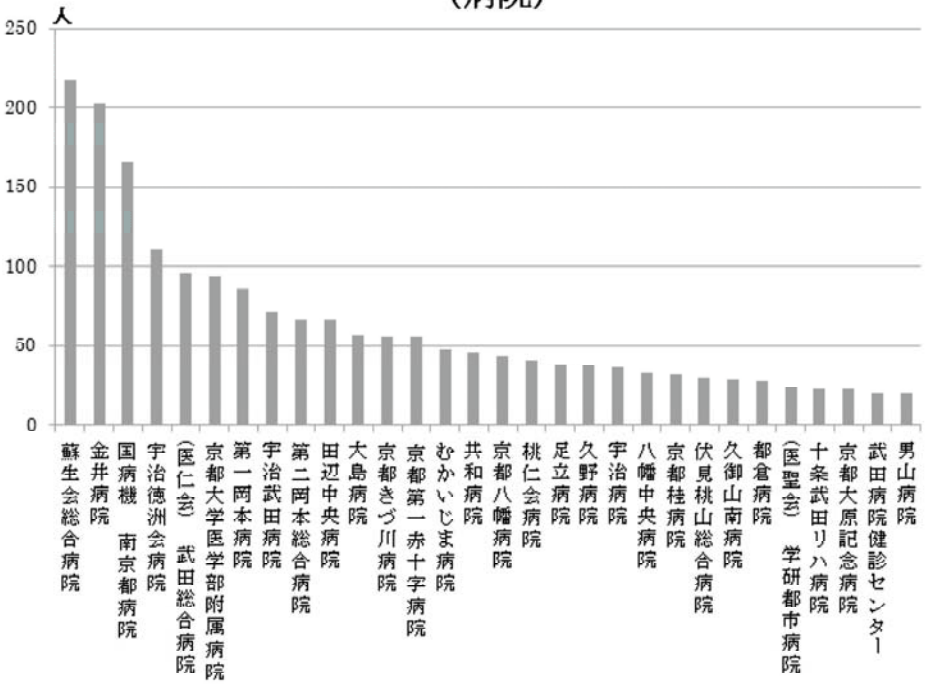

平成27年度地域医療連携室
転院支援実績
件数
160
140
120
100
80
60
40
20
0
整形外科
神経内科
救命科
脳外科
消化器科
呼吸器科
総合内科
その他
循環器内科
腎内
外科
泌尿器科
呼吸器外科
耳鼻科
腫瘍内科
血管外科
形成外科
糖尿科
診療科


平成27年度地域医療連携室
経由予約取得状況
件数
400
200
0
内科
内分泌・甲状腺
糖尿病
神経内科
呼吸器科
消化器科
循環器科
腎臓内科
外科
緩和科
整形外科
形成外科
脳神経外科
血管外科
皮膚科
泌尿器科
産科婦人科
眼科
耳鼻咽喉科
口腔外科
その他
診療科

平成27年度連携室が調整した転院先病院



平成27年度連携室が取得した紹介予約患者数（病院）



薬剤部



専門医資格等
日本薬剤師研修センター
認定実務実習指導薬剤師
日本薬剤師研修センター
研修認定薬剤師

薬剤部長
北村　良雄



専門医資格等
日本医療薬学会指導薬剤師
日本医療薬学会認定薬剤師
認定実務実習指導薬剤師
日本病院薬剤師会認定指導
薬剤師

薬剤部長
小林　勝昭

平成28年4月1日現在

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門資格等
副薬剤部長	玉田　太志	日本臨床薬理学会認定CRC、日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
副薬剤部長	河合　　実	日本医療薬学会認定薬剤師、日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
治験主任	山本　靖子	日本臨床薬理学会認定CRC、日本糖尿病療法指導士、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
調剤主任	畝　　佳子	日本医療薬学会がん専門薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師
薬務主任	山本　修平	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師・感染制御認定薬剤師
製剤主任	服部　雄司	日本臨床救急医学会救急認定薬剤師、日本ＤＭＡＴ隊員、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
調剤主任	竹松　茂樹	日本病院薬剤師会HIV感染症薬物療法認定薬剤師、NST専門療養士、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
試験・検査主任	畑　　裕基	日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
調剤主任	水津　智樹	日本アンチ・ドーピング機構スポーツファーマシスト、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
薬剤師	馬場　雅子	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
薬剤師	後藤　智美	日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本臨床薬理学会認定CRC、日本医療薬学会がん専門薬剤師
薬剤師	物部加容子	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師・妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師
薬剤師	木原　理絵	日本糖尿病療法指導士、日本腎臓病薬物療法学会認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
薬剤師	渕崎恵美子	小児薬物療法認定薬剤師
薬剤師	水本　知宏	日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師・感染制御認定薬剤師
薬剤師	福田　良子	日本臨床救急医学会救急認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
薬剤師	田邨　保之	日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日本糖尿病療法指導士

薬　剤　師	中嶋　尚子	小児薬物療法認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
薬　剤　師	神林　由樹	
薬　剤　師	藤末　　慎	
薬　剤　師	岸本　周子	
薬　剤　師	藤井　大和	
薬　剤　師	松本　信彦	
薬　剤　師	北宅　良祐	
薬　剤　師	竹之下祥愛	
薬　剤　師	吉水　浩史	日本アンチ・ドーピング機構スポーツファーマシスト
薬　剤　師	喜田　孝史	
薬　剤　師	植田　裕美	
薬　剤　師	堀尾　綾香	
薬　剤　師	小玉美希子	
薬　剤　師	宮地由香里	
薬　剤　師	上田　浩人	
薬　剤　師	杉本　有香	
薬　剤　師	熊谷　康平	
薬　剤　師	田渕　寿美	

□ 診療科の特徴

1. 各病棟に担当薬剤師を配置し、病棟薬剤業務実施加算を特殊病棟を除く全患者を対象に実施している。
2. 外来化学療法室での抗がん剤無菌調製、レジメンチェック、服薬指導を実施している。
3. 救命救急、ICU、NICU病棟に専任の薬剤師を配置し、ハイケア患者に対する薬物療法の質の向上を図っている。
4. ICT、NST、がん、緩和医療をはじめとしたチーム医療と各診療科の専属薬剤師が連携を取り、医師やその他の医療従事者と共働で入院患者の薬物療法の質の向上に努めている。
5. 早期体験実習生や年間27名の長期実務実習生を受け入れなど、質の高い教育研修を行っている。
6. 平成24年度に京都薬科大学との包括協定の締結や摂南大学との人事交流にて、教育や臨床研究の発展を図っている。
7. 治験・臨床研究実施におけるＣＲＣ業務等を実施している。

□ 診療（業務）内容

「薬学的介入によるアウトカムの検証」

〈病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務〉

医師、看護師らとの連携により、可能な限り入院患者の初回投与時及び退院時の服薬指導を実施するとともに、薬剤管理指導の増大と医療の質の向上に寄与する。

〈医薬品の安全性の確保〉

積極的に副作用情報を収集し、医薬品の安全性を確保するとともに医薬品情報の収集・提供体制の強化を図る。さらに、プレアボイド情報の収集に努め、迅速な対応を行う。また、医薬品関連インシデントの解析から、病棟専任薬剤師が医療事故防止策に積極的にアプローチする。

〈注射薬の無菌調製業務〉

全診療科の抗悪性腫瘍剤の無菌調製を実施し、医療従事者の安全性を確保するとともに医療事故の防止に努める。患者の安全性確保のため抗悪性腫瘍剤のレジメン管理の適正化を薬剤師主導で実施する。

〈医薬品管理の適正化〉

薬事委員会を通じて同種同効薬の整理を行い、採用医薬品数の縮減に努める。

〈教育研修・研究〉

積極的に各種研修に参加し資格認定及び専門薬剤師等の取得に努める。

薬学実務実習生、研修生を積極的に受け入れ、質の高い教育研修を行う。また、業務の効率化及び医療の質の向上を目的とした研究業務を行い、学会などに積極的に参加する。

〈調剤過誤防止〉

ヒヤリ・ハット報告の収集・分析・対策を迅速に行い、再発防止に努めるとともに鑑査の徹底により調剤過誤を減少させる。

〈チーム医療、クリニカルパスへの参画〉

薬剤師の専門性を活かした業務を押し進め、緩和ケア、糖尿病療養、ICT、NST、救命救急などのチーム医療に貢献する。また、クリニカルパスの運用において、薬剤部として積極的に関わり薬物療法の適正化に努める。

〈地域医療連携の強化〉

地域連携パスにおいて、服用薬の管理等、薬学的管理事項に関与し、在院日数の短縮に貢献するとともに、お薬手帳で薬薬連携の充実を図る。

また平成27年度は上記目標に加え、病院運営方針に則り、下記の目標についても現在実施中である。

国内外の学会や研究活動に積極的に参加し、最新の医学・薬学の知識修得に努めている。

また、薬学生の長期実務実習を積極的に受け入れている。

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
研究会	山本修平、松井駿亮、尾崎良智、田中巧、井上修平　当院における抗結核薬減感作療法の現状～薬疹患者の減感作指標に好酸球は使えるか～　医療薬学フォーラム2015/第23回クリニカルファーマシーシンポジウム　2015.7.5　名古屋
国内学会	吉水浩史、水津智樹、辻琢己、永井聡子、河合実、玉田太志、北村良雄　白内障患者に対する退院時集団指導の取り組み　第69回国立病院総合医学会　2015.10.2　北海道
国内学会	水津智樹、水本知宏、後藤智美、辻琢己、永井聡子、河合実、玉田太志、北村良雄　薬剤管理指導業務の記録内容標準化へ向けた取り組み　第69回国立病院総合医学会　2015.10.2　北海道
国内学会	喜田孝史 , 中嶋尚子 , 岡庭暁子 , 辻琢己, 河田興　抗てんかん薬・精神神経用薬服用妊婦における周産期管理状況調査　第42回小児臨床薬理学会　2015.11.15　熊本
国内学会	水津智樹、畑裕基、竹松茂樹、辻琢己、河合実、玉田太志、北村良雄　京都医療センターにおける病院実務実習への取り組み　実習カリキュラムの改訂を利用した実習生の意識調査　第25回日本医療薬学会年会　2015.11.23　神奈川
TV・ラジオ出演	玉田太志　もっと知って欲しい治験・臨床試験のこと　FM845「カラダ元気」2015.11.24　京都
国内学会	北宅良祐、服部雄司、畑裕基、畝佳子、河合実、北村良雄　アントラサイクリン系抗悪性腫瘍剤の血管外漏出に対し、デクスラゾキサンを投与した2症例　日本臨床腫瘍薬学会学術大会2016　2016.3.12　鹿児島

臨床検査科



専門医資格等
日本整形外科学会

臨床検査科長
藤森　洋一

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等
エコー指導医	小坂田元太	日本循環器学会 日本内科学会 日本超音波医学会
臨床検査技師長	益田　喜信	認定臨床化学者
副臨床検査技師長	井本　元治	超音波検査士（循環器・消化器）
副臨床検査技師長	住田　善之	超音波検査士（循環器）
主任臨床検査技師	常松　裕子	認定緊急臨床検査士
主任臨床検査技師	木村　　明	日本細胞検査士 国際細胞検査士
主任臨床検査技師	池田　俊彦	日本細胞検査士 国際細胞検査士
主任臨床検査技師	角谷　勇実	認定輸血検査技師
主任臨床検査技師	溝上　泰司	
主任臨床検査技師	福田　　修	超音波検査士（循環器）
主任臨床検査技師	宮本　祐吾	2級微生物臨床検査士
主任臨床検査技師	林　　文子	超音波検査士（循環器）
臨床検査技師	黒川美和子	
臨床検査技師	島田　良員	
臨床検査技師	大上　哲也	日本細胞検査士 国際細胞検査士
臨床検査技師	西山　智美	超音波検査士（循環器） 認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	相原美奈子	認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	松本　俊一	超音波検査士（循環器）
臨床検査技師	永阪麻衣子	
臨床検査技師	伊藤　千慧	
臨床検査技師	栗山　陽子	認定輸血検査技師 認定血液検査技師
臨床検査技師	塩澤　洋子	認定血液検査技師、認定輸血検査技師 認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	山本　紗綾	認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	吹田　卓也	認定緊急臨床検査士 2級循環生理学臨床検査士

臨床検査技師	園田美代子	
臨床検査技師	飛彈　美希	認定遺伝カウンセラー
臨床検査技師	前川美翠穂	
臨床検査技師	土田麗央奈	認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	内山有里紗	認定緊急臨床検査士 2級血液臨床検査士
臨床検査技師	谷畑和可苗	日本細胞検査士
臨床検査技師	三觜　智子	認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	中村　美咲	認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	里部　美咲	
臨床検査技師	平野　花奈	
臨床検査技師	丸野　大輝	
非常勤技師	佐伯　ミカ	
非常勤技師	小山　可織	
非常勤技師	三浦　達朗	
事務助手	村井　佳世	
事務助手	小野　　忍	
事務助手	岡　　由美	
事務助手	岩崎　京子	
事務助手	川口　真弓	
事務助手	北村　直子	

□ 科(室)の特徴

1. 正しいデータを臨床側に返すことは、臨床検査技師の大切な任務であり、その命ともいえる精度管理に大きなエネルギーを注いでいます。
2. 当センターは日本の政策医療で、内分泌・代謝性疾患の基幹的役割を担っています。当科は臨床検査のトップ集団であることを自覚し、政策医療関連の検査の充実を図っています。
3. 緊急検査は、２４時間対応しています。
4. 感染防御という立場から積極的に取り組むため、ＩＣＴ（感染防御チーム）の活動に臨床検査技師も参加しています。
5. 輸血業務を一元化し、安全かつ適正な輸血管理業務を行っています。

□ 診療（業務）内容

当科の業務は臨床検査を行うことであり、臨床検査は検体検査と生理機能検査の２つの分野に大きく分かれます。

1. 検体検査：血液、尿、便、痰、手術により切り出された組織、穿刺液等を用いて行う検査です。肝機能検査や生活習慣病の血糖・尿糖検査、貧血検査、がん細胞検査等がこの中に含まれます。検査部門としては血液学検査、生化学検査、免疫学検査、輸血関連検査、微生物学検査、病理学検査、一般検査があります。
2. 生理機能検査：直接患者さんの身体に接して、体内からの情報や変化の状態を数字や画像に変換して目で見えるようにする検査です。分野別に心電図検査、肺機能検査、脳波検査、筋電図検査、超音波検査、聴力検査、睡眠時無呼吸検査、出血時間検査があります。

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
教育講演	角谷勇実 実技講習輸血検査 平成27年度国立病院臨床検査技師協会近畿支部基礎研修会 2015.5.9：大阪市
研究会	中村美咲、伊藤千慧、福田修、常松裕子、井本元治、住田善之、末武貢、益田喜信、志馬伸朗、藤森洋一 迅速な菌種同定報告による有用性について 第42回国立病院臨床検査技師協会近畿支部学会 2015.6.6：神戸市
研究会	福田修 薬剤感受性検査の迅速診断 第27回臨床微生物迅速診断研究会総会 2015.7.4：金沢市
教育講演	大上哲也 尿細胞診 第32回「細胞診教育セミナー」2015.7.9：京都市
国内学会	塩澤洋子、小森法子、内山有里紗、三觜智子、池田俊彦、末武貢、益田喜信、奥野芳章、藤森洋一 CD23-を示した慢性リンパ性白血病の一症例 第16回日本検査血液学会学術集会 2015.07.13：名古屋市
国内学会	常松裕子、中村美咲、伊藤千慧、福田修、住田善之、井本元治、末武貢、益田喜信、志馬伸朗、藤森洋一 サポニン加ブロスを用いた迅速菌種同定ならびに薬剤感受性検査についての検討 第69回国立病院総合医学会 2015.10.2：札幌市
国内学会	伊藤千慧、中村美咲、福田修、常松裕子、住田善之、井本元治、末武貢、益田喜信、志馬伸朗、藤森洋一 尿中細菌直接同定・薬剤感受性検査の有用性について 第69回国立病院総合医学会 2015.10.2：札幌市
国内学会	中村美咲、伊藤千慧、福田修、常松裕子、住田善之、井本元治、末武貢、益田喜信、志馬伸朗、藤森洋一 迅速な菌種同定報告による有用性について 第69回国立病院総合医学会 2015.10.2：札幌市
教育講演	住田善之 グループ討議・ワークショップ 役職職員に必要なスキルモチベーションの維持と人材育成 平成27年度主任臨床検査技師スキルアップ研修 2015.11.13：大阪市
研究会	大上哲也 スライドカンファレンス 京都臨床細胞学会第17回教育研修会 2015.12.20：京都市
国内学会	福田修、伊藤千慧、中村美咲、常松裕子 サポニン加ブロスを用いた検体直接同定・薬剤感受性検査の検討 第27回日本臨床微生物学会総会 2016.2.1：仙台市
研究会	福田修 迅速化という臨床貢献 第2回BDセミナー北海道 2016.3.12：札幌市
研究会	福田修 BDフェニックスを用いた迅速化への挑戦 第3回中部北陸BDフェニックスセミナー 2016.3.19：名古屋市

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	発行年および月
住田善之	僧帽弁逆流の定量評価　使えるとき、使えないとき	心エコー	16	4	364～372	2015.4
住田善之	心エコー図による三尖弁のみかた	心エコー	17	3	206～211	2016.3.
小森法子、土田 幸生、塩澤洋子、古田賢二、益田喜信、金崎 幹彦	スキャッタープロット情報を利用した異常検体検出法の有用性	日本検査血液学会雑誌	17	1	36～46	2016.3.

病理診断科



専門医資格等
細胞診専門医
死体解剖資格

病理診断科長
森吉　弘毅



専門医資格等
病理専門医、研修指導医
細胞診専門医
死体解剖資格

病理診断科長
寺島　剛

平成28年4月1日現在

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等
病理医師	新宅　雅幸	日本病理学会専門医研修指導医 日本臨床細胞学会専門医
主任臨床検査技師	木村　　明	日本細胞検査士 国際細胞検査士
主任臨床検査技師	池田　俊彦	日本細胞検査士 国際細胞検査士
臨床検査技師	大上　哲也	日本細胞検査士 国際細胞検査士
臨床検査技師	谷畑和可苗	日本細胞検査士
臨床検査技師	永阪麻衣子	

□ 科の特徴

1. 病理医2名でダブルチェックを行い、診断精度の向上を図っています。
2. 細胞検査士の資格を持つ検査技師と協力し、細胞診業務を行っています。
3. コンサルテーション等で京大病院病理診断科との協力体制を築いています。
4. 組織診、細胞診、術中迅速診断、病理解剖、CPCのいずれについても正確かつ迅速な診断を心がけています。
5. カンファレンス等を通じて臨床医とのコミュニケーションを図ることで、より臨床の現場に即した診断が行えるよう努めています。

□ 診療（業務）内容

1. 組織診断：生検や手術によって採取された検体に対し、良悪性の判定、炎症の有無などを調べ、診断名を確定します。また、治療効果や腫瘍のステージ、転移の有無などの判定を行い、以後の治療方針の決定に役立てています。2015年は8007件の組織診断を行いました。
2. 細胞診：子宮頸部擦過、尿、喀痰、甲状腺やリンパ節の穿刺などによって得られた細胞を観察し、良悪性の判定を行います。2015年は8448件の細胞診を行いました。
3. 他院標本診断：セカンドオピニオンや転院によって当院を受診された患者さんが持参された標本を改めて検討し、診断の確認を行っています。2015年は組織診99件、細胞診56件の他院標本診断を行いました。
4. 術中迅速診断：手術中に提出された検体を15-20分程度で診断し、手術範囲や術式の決定に役立てています。2015年は429件の術中迅速診断を行いました。

5. 病理解剖：亡くなられた患者さんのご遺体を解剖し、病態を詳しく調べて、生前に分からなかった事も解明しています。2015年は15件の病理解剖を行いました。
6. CPC：臨床各科と合同で病理解剖症例の検討を行い、様々な視点から病態を調べて、今後の診断や治療に役立てています。また、研修医と共に発表を行い、医学教育に寄与しています。
7. カンファレンス：臨床各科と定期的にカンファレンスを実施し、臨床情報と病理所見の摺り合わせを行っています。また、手術検体の切り出しの際の外科医立ち会いや、個別症例についてのディスカッションを通じて臨床医とのコミュニケーションを図ることで、より臨床の現場に即した診断が行えるよう努めています。

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	発行年および月
Masato Narita, Keita Hanada, Koki Moriyoshi, Ryo Matsusue, Hiroaki Hata, Takashi Yamaguchi, Tetsushi Otani, Iwao Ikai	Laparoscopic Resection of an Epidermoid Cyst Arising from Intrapancreatic Accessary Spleen	Journal of the Pancreas.	17	S1	138-141	2016.2
Narita M, Moriyoshi K, Hanada K, Matsusue R, Hata H, Yamaguchi T,Otani T, Ikai I.	Successful treatment for patients with chronic orchialgia following inguinal hernia repair by means of meshoma removal, orchiectomy and triple-neurectomy.	International Journal of Surgical Case Reports.	16		157-161	2015.10
徳永茉以, 渋谷真美, 岡本奈都子, 山本鉄郎, 十一英子	【ウイルス感染症】陰部潰瘍と口唇・口腔内潰瘍を認めたサイトメガロウイルス感染症の1例	皮膚科の臨床	57	4	399-403	2015.4
岡本奈都子, 野々村 優美, 林雄二郎,山本 鉄郎, 十一英子	皮下結節の生検から多臓器症状の診断に至ったIgG4関連疾患の1例	臨床皮膚科	69	6	421-426	2015.5
Shintaku M, Maeno K	Prominent apical cytoplasmic bleb formation in metanephric adenoma: report of a case.	Medical Molecular Morphoogy.	49	1	57-61	2015.10
Shintaku M, Adachi Y, Takeuchi Y, Yamamoto D, Koyama J.	Post-radiation fibrosarcoma of the cerebrum associated with a prominent, lace-like, perivascular, desmoplastic change.	Neuropathology.				2015.11 on line

臨床栄養科



臨床栄養科長
大谷　哲之

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等
栄養管理室長	西田　博樹	
副栄養管理室長	上ノ町かおり	日本糖尿病療養指導士・病態栄養専門師・NST専門療法士・NSTｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ
主任栄養士	山本　利恵	日本糖尿病療養指導士
栄養士	山地　聡子	
栄養士	騎馬　沙苗	日本糖尿病療養指導士
栄養士	繁井三智子	
栄養士	見通　真衣	
非常勤栄養士	岡田　怜奈	
非常勤事務助手	山城智佐子	
調理師長	福井　　勝	
副調理師長	河添　幸弘	
副調理師長	石井　俊雄	
主任調理師	山田　弘喜	
主任調理師	西田　正直	
調理師	坂本　尚人	
調理師	桝村　勝利	
調理師	澤辺　元弘	
調理師	荒川　和彦	
調理師	博多　健二	
調理師	松尾　隆生	
調理師	蒲生　　亘	
非常勤調理助手	藤井　恵子	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本静脈経腸栄養学会NST稼働認定施設

1．管理栄養士専従による栄養サポートチーム活動
2．専門外来栄養指導の実施

3．特別メニュー食の提供
4．個人対応食（PS食）の提供
5．緩和ケア病棟での特別行事食の実施

□ 診療（業務）内容

1．食事の提供
入院患者を対象に大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた管理のもと、安全な食事（一般食及び治療食）を提供。また、今年度については、衛生管理マニュアルの改訂を実施した。患者サービス、喜ばれる食事の環として、週3回の選択食や月1回の行事食を実施すると共に、特別室病棟を対象に特別献立による食事の提供を行っている。緩和ケア病棟、化学療法における食欲不振時には、低食欲時食や個人対応食（PS食）を提供している。産科病棟に於いて母乳分泌促進のため夜食の提供を実施。今年度はクローン病食、潰瘍性大腸炎食をリニューアルした。
2．栄養食事指導
外来及び入院患者を対象に個人指導や糖尿病教室、母親教室などの集団指導を実施。個人指導では、1型糖尿病ポンプ外来や２型糖尿病専門外来、メタボリックシンドローム外来などの専門外来指導も実施している。
3．チーム医療
栄養サポートチーム（管理栄養士専従）や、摂食嚥下対策チーム、緩和ケアチーム、糖尿病透析予防チームなどチームの一員として管理栄養士が積極的に参加している。
4．教育研修
今年度は５大学より、２２名の実習生を受入れた。
5．レシピの提供
院内レストランに低カロリー、減塩のランチメニューのレシピを提供している。
構築したレシピをもとにレシピ本の２版を出版した。

□ 地域医療連携・広報活動

第30回DM京都「糖尿病の食事って難しい？～簡単にできるワンポイント～」　2016年6月27日
第7回腎臓病教室「腎臓食の献立の立て方」2015年9月26日
ホスピス緩和ケア週間　栄養食事相談　2015年10月9日
糖尿病週間　栄養相談コーナー　2015年11月12日
レシピ本 メタボ外来のやせる弁当と作り置き発刊 2016年2月18日
第12回京都医療センター1型糖尿病セミナー「高齢者1型糖尿病患者の食事療法」2016年3月5日
世界腎臓病デイ　栄養相談コーナー　2016年3月10日
第16回ﾒﾀﾎﾞﾘｯｸｼﾝﾄﾞｰﾑ会「メタボ外来のやせる弁当と作り置き（第2弾）とっておき活用術」2016年3月19日

□ 投稿論文など

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	上ノ町かおり　神経筋疾患の栄養評価方法の確立に向けての調査研究　全国国立病院総合医学会. 2015年10月2日：北海道

医療技術部　臨床工学科



医療技術部長
伊藤　剛

□ スタッフ

平成27年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等
主任臨床工学技士	井上　裕之	３学会合同呼吸療法認定士・体外循環技術認定士
臨床工学技士	柳澤　雅美	３学会合同呼吸療法認定士・透析技術認定士
臨床工学技士	清水真樹子	３学会合同呼吸療法認定士
臨床工学技士	川西　恭輔	透析技術認定士
臨床工学技士	大谷　直哉	DMAT隊員・体外循環技術認定士・３学会合同呼吸療法認定士
臨床工学技士	中村　健志	
臨床工学技士	井原　由奈	３学会合同呼吸療法認定士
臨床工学技士	丸宮　千冬	
臨床工学技士	町屋敷　薫	
臨床工学技士	瀬津健太郎	

□ 科(室)の特徴

患者さんへ安全かつ安心して、高度な医療技術が受けていただける環境づくりに努める。

□ 業務内容

臨床工学科の業務内容
臨床工学の業務は、大きく【臨床支援業務】と【医療機器管理業務】の2つの分野があります。
『臨床支援業務』：呼吸・循環・代謝に関わる生命維持装置の操作
『医療機器管理業務』：院内での医療機器の効率的な運用を行う為、機器の選定から廃棄に至るまで医療機器の総合的管理
日々高度化する医療において、不可欠な人工呼吸器（呼吸療法）・人工透析（血液浄化療法）・人工心肺（体外循環）など、生命に直結する重要な生体機能を代行する医療機器の管理と操作のプロフェッショナルとして活動しています。また、患者さんの状態に合わせて安全に最適な条件で治療の手助けを行い、病院内の医療機器全般について、いつでも、有効かつ安全・安心して臨床使用できるように運用・保守管理するという重要な役割も担っています。医療の中心にある患者さんを見据え、臨床工学技士として、必要な専門知識と技術を『工学分野』と『医学分野』を交え日々努力しています。

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	柳澤雅美、丸宮千冬、町屋敷薫、大谷直哉、井原由奈、中村健志、川西恭輔、清水真樹子、井上裕之　研究内容：ＮＩＣＵにおける臨床工学技士の役割. 第25回日本臨床工学会. 2015年5月23～24日：福岡
国内学会	川西恭輔、丸宮千冬、町屋敷薫、井原由奈、中村健志、大谷直哉、清水真樹子、柳澤雅美、井上裕之　研究内容：使用環境下における漏れ電流測定の必要性・第22回近畿臨床工学会. 2015年11月7～8日：大阪
国内学会	中村健志、丸宮千冬、町屋敷薫、井原由奈、川西恭輔、大谷直哉、清水真樹子、柳澤雅美、井上裕之　研究内容：条件付きＭＲＩ対応ペースメーカ業務における他職種連携について・第22回近畿臨床工学会. 2015年11月7～8日：大阪

看護部



看護部長
三井　佐代子



看護部長
荒木　輝美
平成28年4月1日現在

国立病院機構の理念に沿った病院の使命を認識し、機構の看護職員として以下の役割を果たす

1．機構及び病院の理念を踏まえた良質の看護サービスの提供に努める
2．看護の質の向上を目指し、臨床看護の研究、業務の改善を行う
3．良質な看護を提供するために、看護職員をはじめ看護に関係する職員の教育研修を行う
4．看護の提供と経営効率の調和を図り、病院経営に参画する
5．チーム医療推進のための調整を図る
6．地域住民への健康教育活動に参画する

□ 看護部の理念

私たちは、常に患者さんと共に歩み、
安心して納得のいく医療を受けていただくために、
わかりやすく丁寧な看護を提供いたします。

□ 看護部の目標

【平成２７年度　看護部目標】

スローガン　「個々が誇りをもった看護力の創出」

1．全看護師の急性期看護能力の向上
2．速やかでスムーズな地域との連携と、安定した経営
3．倫理的観点にぶれない看護サービス

□ 看護部の組織

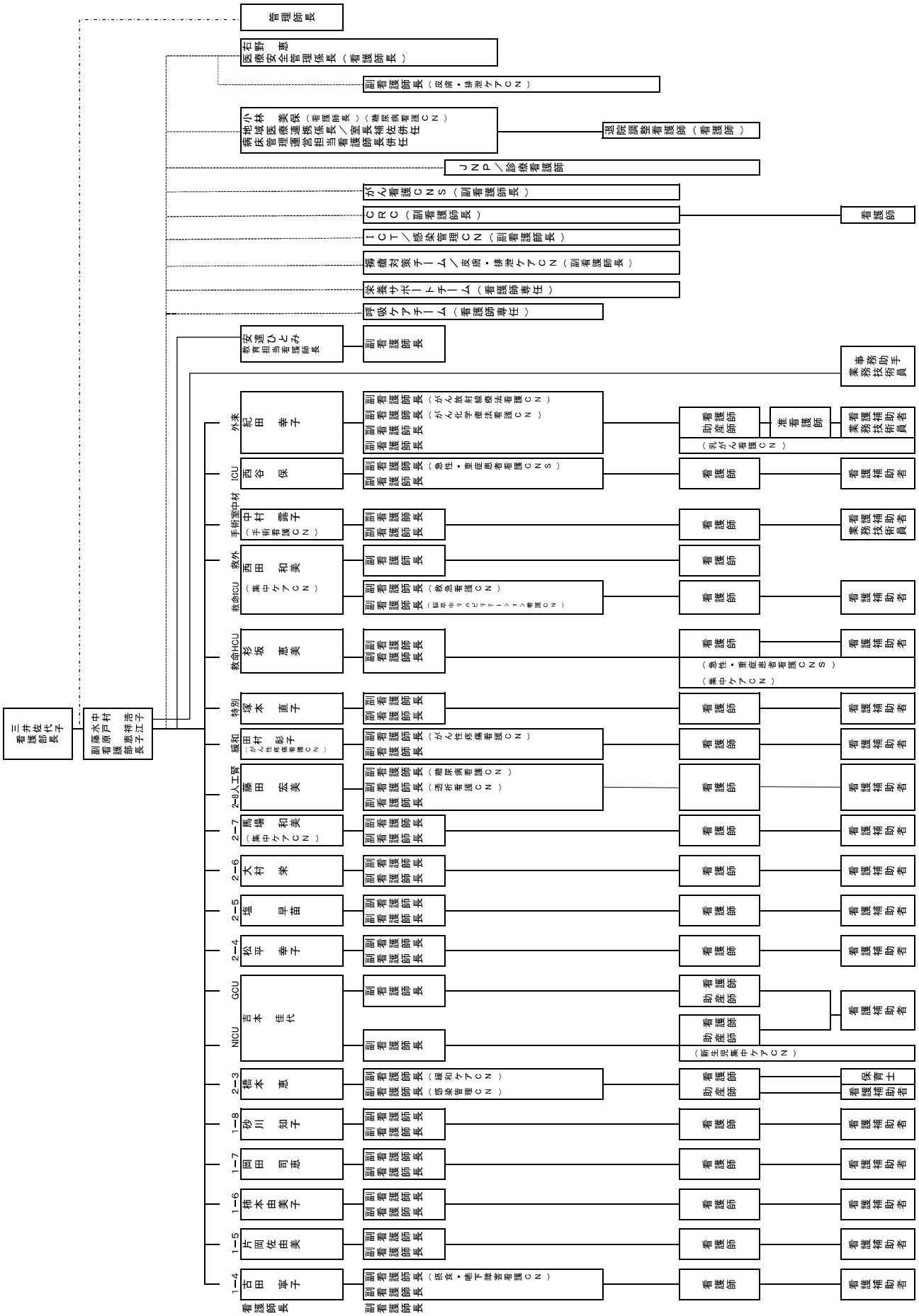
Ⅰ．看護部組織図
（別紙１：看護部組織図）

Ⅱ．看護部会議・委員会
（別紙２：看護部会議・委員会機能図）

□ 看護部の活動

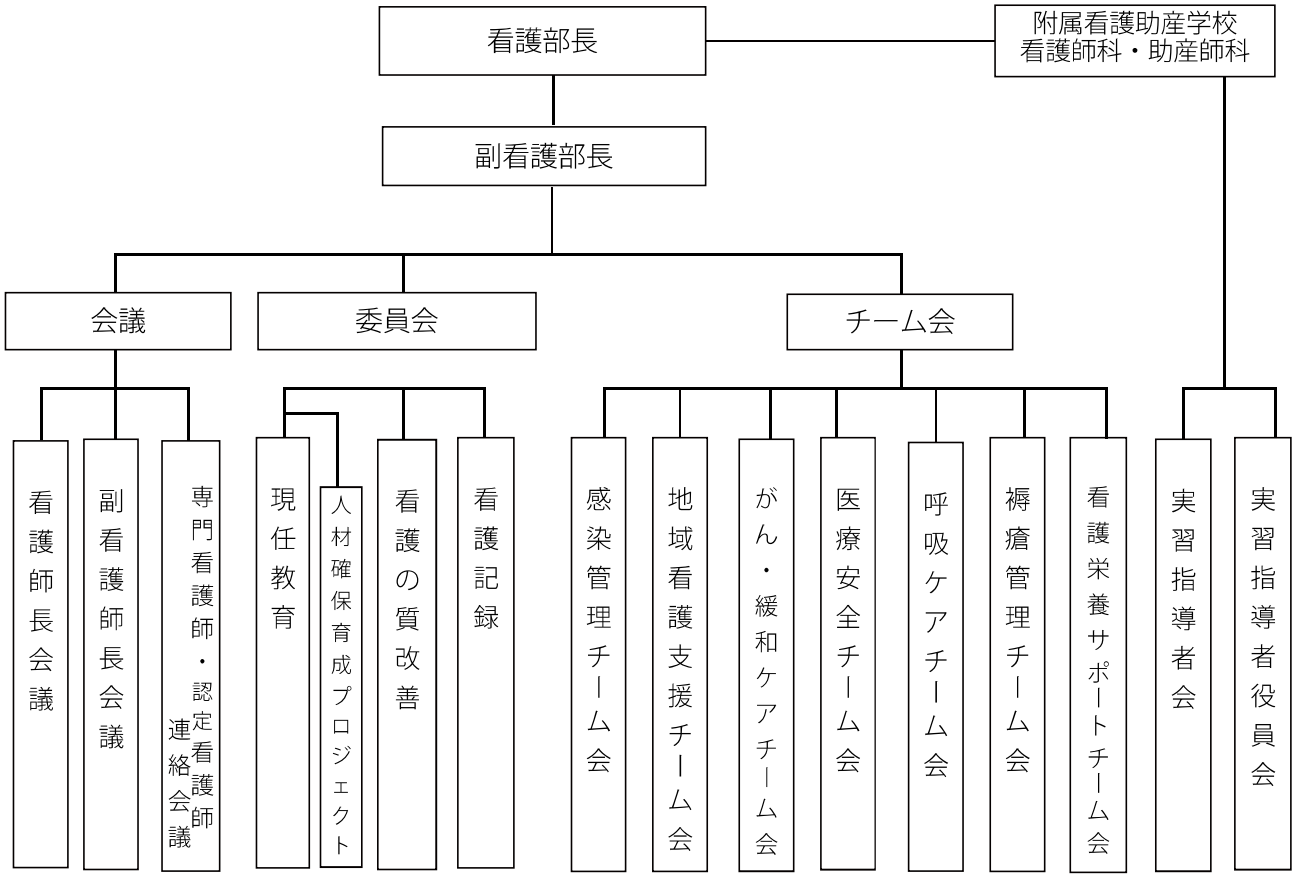
（別紙３：看護部の活動）

別紙１：看護部組織図



管理師長
右野　恵
医療安全管理係長（看護師長）
副看護師長（皮膚・排泄ケアＣＮ）
小林　美保（看護師長）（糖尿病看護ＣＮ）
地域医療連携係長／室長補佐併任
病床管理運営担当看護師長併任
退院調整看護師（看護師）
ＪＮＰ／診療看護師
がん看護ＣＮＳ（副看護師長）
ＣＲＣ（副看護師長）
看護師
ＩＣＴ／感染管理ＣＮ（副看護師長）
褥瘡対策チーム／皮膚・排泄ケアＣＮ（副看護師長）
栄養サポートチーム（看護師専任）
呼吸ケアチーム（看護師専任）
安達ひとみ
教育担当看護師長
副看護師長
事務助手
業務技術員
三井佐代子
看護部長
副看護部長
水戸　祥江
藤原　恵子
中村　浩子
外来
紀田　幸子
副看護師長（がん放射線療法看護ＣＮ）
副看護師長（がん化学療法看護ＣＮ）
副看護師長
副看護師長
助産師
（乳がん看護ＣＮ）
准看護師
看護補助者
業務技術員
ICU
西谷　保
副看護師長（急性・重症患者看護ＣＮＳ）
副看護師長
看護師
看護補助者
手術室中材
中村　露子
（手術看護ＣＮ）
副看護師長
副看護師長
看護師
看護補助者
業務技術員
救外
西田　和美
（集中ケアＣＮ）
副看護師長
看護師
救命ICU
副看護師長（救急看護ＣＮ）
副看護師長（協会中リハビリテーション看護ＣＮ）
看護師
看護補助者
救命HCU
杉坂　恵美
副看護師長
副看護師長
看護師
（急性・重症患者看護ＣＮＳ）
（集中ケアＣＮ）
看護補助者
特別
塚本　直子
副看護師長
副看護師長
看護師
看護補助者
緩和
田村　彰子
（がん性疼痛看護ＣＮ）
副看護師長（がん性疼痛看護ＣＮ）
副看護師長
看護師
看護補助者
2-8人工腎
藤田　宏美
副看護師長（糖尿病看護ＣＮ）
副看護師長（透析看護ＣＮ）
副看護師長
看護師
看護補助者
2-7
馬場　和美
（集中ケアＣＮ）
副看護師長
副看護師長
看護師
看護補助者
2-6
大村　栄
副看護師長
副看護師長
看護師
看護補助者
2-5
塩　早苗
副看護師長
副看護師長
看護師
看護補助者
2-4
松平　幸子
副看護師長
副看護師長
看護師
看護補助者
GCU
NICU
吉本　佳代
副看護師長
副看護師長
看護師
助産師
看護師
助産師
（新生児集中ケアＣＮ）
看護補助者
2-3
橋本　恵
副看護師長（緩和ケアＣＮ）
副看護師長（感染管理ＣＮ）
看護師
助産師
保育士
看護補助者
1-8
砂川　知子
副看護師長
副看護師長
看護師
看護補助者
1-7
岡田　司恵
副看護師長
副看護師長
看護師
看護補助者
1-6
柿本由美子
副看護師長
副看護師長
看護師
看護補助者
1-5
片岡佐由美
副看護師長
副看護師長
看護師
看護補助者
1-4
古田　寧子
副看護師長（摂食・嚥下障害看護ＣＮ）
副看護師長
看護師
看護補助者
看護師長
副看護師長

別紙２：看護部会議・委員会機能図



看護部が関わる主な病院諸会議

○管理診療会議
○経営企画・業績評価委員会
○サービス向上委員会
○薬事委員会
○診療報酬管理委員会
○病床管理委員会・小委員会
○外来管理委員会
○手術室運営委員会
○集中治療室運営委員会
○救命救急委員会
○緩和ケア運営委員会
○地域医療連携委員会
○褥瘡対策委員会
○栄養管理委員会・NST委員会
○透析委員会・小委員会
○臨床検査委員会
○輸血療法委員会・小委員会
○化学療法委員会
○医療安全管理委員会
○医療事故対策委員会
○リスクマネージャー会
○院内感染対策委員会
○災害対策委員会
○医療機器安全管理委員会
○医療情報委員会・小委員会
○クリティカルパス委員会
○広報委員会
○安全衛生委員会
○過半数代表者会議・選出選挙委員会

別紙３：看護部の活動

平成27年度病院目標　：　急性期医療を中心に、地域と連携したトータルな医療サービスの提供
看護部 スローガン：　個々が誇りをもった看護力の創出

目標	課題	ポイント	組織化	実績・実施内容
全看護師の急性期看護能力の向上	○質の高い看護の提供に向けた教育システムの実践・評価と、自己学習力の発展	・急性期病院で勤務する看護師に求められる能力強化		H26年度作成の集中治療領域クリニカルラダーによる教育の実施
		急性期看護に求められるアセスメント能力（呼吸・循環・代謝機能等）強化	専門看護師・認定看護師連絡会	専門看護師・認定看護師による学習会の開催
			呼吸ケア看護チーム会	呼吸ケア看護チーム会によるフィジカルアセスメント学習会の開催
	○急性期の患者への	急性期看護に求められる看護技術力の強化		RSTラウンド参加による呼吸ケアのOJTの実施
	・アセスメント能力の向上	増えつつある対象群：高齢者・認知症看護能力の強化	褥瘡管理チーム会	アセスメント能力向上を図るための褥瘡発生カンファレンスの実施
	・看護計画の充実	・医療安全、リスクアセスメント能力の向上（分析方法を理解したインシデントの予防）		ポジショニング技術向上を図るための学習会の継続
	・看護技術能力の強化		看護栄養サポートチーム会	嚥下評価実践力の向上を図るための学習会の開催
	・看護記録の充実		医療安全チーム会	転倒要因分析の結果から転倒防止に向けた取り組み（スリッパ撲滅運動、離床センサー選択フローチャートの作成）
	○リスクアセスメント能力の向上		感染管理チーム会	末梢静脈ライン刺入部のIMS静脈炎スケール使用による観察の徹底
		・標準看護計画の充実と、看護計画立案能力の向上	看護記録委員会	標準看護計画の新規作成と見直し（248項目）
		・記録の記載基準の作成		看護記録記載基準・記載要領・モデルカルテの作成
		・看護記録についての教育システムの構築		看護記録について各看護単位での教育に留まっているため、教育システムの構築が課題
			副看護師長会	看護手順の新規作成（22項目）
			看護の質改善委員会	看護手順の改訂（47項目）と監査（3項目）の実施
速やかでスムーズな地域との連携と、安定した経営	○さらなる患者数確保と在院日数の短縮	・患者数の確保：目標患者数540名/日		一日平均患者数：522.9名、平均在院日数：13.6日、病床稼働率：93.6%
		・平均在院日数の短縮：目標平均在院日数12.0日台（13.0日未満）		
	○京都府南部の基幹病院（高度総合医療センター）として、前方連携・後方連携の強化	・病床管理・病床調整の充実（専門性を強化しつつ空床ベッドの有効利用・効率的入院処理の業務調整）		地域連携室看護師長により効果的な病床管理に向けた病床調整の実施
		・長期入院患者の減少（症例に合わせた早期の退院調整・どこに入院しても退院を見据えた調整）	地域看護支援チーム会	早期にスムーズな退院調整を行うための退院支援カンファレンスの充実
	○DPCのⅢ群からⅡ群を目指す	・前方連携の強化（顔の見える関係・地域のニーズへの対応）		訪問看護交流会の開催
		・後方連携の強化（顔の見える関係・正確な情報の提供と継続看護の充実）		正確な情報提供をしていくための知識習得に繋がる事例検討の実施
		・救急医療の充実と推進		「断らない医療」を推進していくために、チーム医療充実による救急受け入れ体制の強化、急性期看護に求められる実践力の強化が課題
		・地域がん診療拠点病院の推進	がん・緩和ケアチーム会	意思決定支援のためのIC同席・カンファレンスの実施の定着
				医師・薬剤師による病棟単位の特性を踏まえたレジメンの学習会の開催
				「生活のしやすさの質問票」を導入し、看護介入の充実
		・京都府災害拠点病院の機能整備		大規模災害訓練の実施、災害医療に関する学習会の開催
		・現診療報酬について評価し、改善項目を実践		確実な算定に向け1項目のみ検証・改善の実施
		・管理加算など確実な算定への実践の強化		診療報酬に関する知識の向上を図り、正確・確実な算定に繋げることが課題
		・平成28年度診療報酬改定に向けた対策を構築		重症度・医療・看護必要度評価（新要件）のシュミレーションの実施
				25%維持のための方策の検討・実践が課題
		・機能に応じたベンチマークを行い評価（国立病院機構評価指標、日本看護協会DiNQLの活用）	経営・病院機能充実ワーキング	1年間DiNQLデータ入力のみとなったため、ベンチマーク評価を行い看護管理に活かすことが課題
		（入院支援センター設立に向けての準備状態を継続）		看護の質の向上、業務の効率化のためにも入院支援センター設立が必要
	○優秀な人材（看護職員）の確保	使いやすい電子カルテ更新に向けた準備と更新内容の教育	電子カルテ更新ワーキング	現状の問題を改善できる電子カルテ仕様書の作成
	○優秀な人材（看護職員）の育成	看護管理基準改訂版の評価と改善	看護体制・組織検証ワーキング	看護管理基準資料の見直しのみ実施、活用の評価と見直しが課題
	○やりがいの充実（定着促進・離職防止）	看護が充実し働きやすい看護体制の整備（各看護単位の看護体制・組織の明確化、固定チームナーシング・PNS等の評価）		看護体制の評価：PNSの病棟は「人材育成」「時間効率」、固定チームナーシングの病棟は「安全」「チーム運営」が高値であり、後者が看護業務を効果的運営できると評価
	○非公務員化における職場環境の調整	看護職員の定着促進と離職防止対策の継続と新たなる施行	人材確保育成プロジェクト	リフレッシュ講座2回（アロマテラピー、ジャズダンス）開催
		新人看護師（ACTy対象看護師等）のフォロー体制の強化（パートナー・チューター等役割の整理と明確化）	副看護師長会	中堅看護師・リンクナースの支援強化のための副看護師長による支援体制の検討と実践
			現任教育委員会	経年別集合研修を効果的に行うために、研修前の動機づけと研修前後の課題への取り組みの関わり
		キャリア支援における各研修プログラムの一元管理・誰もが活用できるシステムづくり	人材確保育成プロジェクト	研修計画公開用のCoMedix使用方法の周知
		各部署の教育プログラムの評価と再構築	現任教育委員会	現在の教育プログラムの評価と教育プログラムの変更に伴う教育体制の検討が課題
		非公務員化における労働環境の整備と労務管理	看護管理実践力強化ワーキング	子育て支援制度に関する学習会、事例検討による知識・実践力の向上
倫理的観点にぶれない看護サービス	○さらなるチーム医療の推進	病院機能評価受審の評価を受けての改善、さらなる充実を目指す	経営・病院機能充実ワーキング	病院機能評価受審評価のB評価項目の改善に向けての取り組み：アレルギー情報の共有化、病棟で使用する医療機器の始業点検チェックリストの作成・使用、救急部門の患者プライバシー確保のためのマニュアル作成
	○他職種カンファレンスの推進	看護の質の向上、選ばれる病院につながる他職種のカンファレンスの運営・調整	他職種連携推進小委員会	他職種カンファレンスの積極的な取り組みの継続
	○倫理的判断ができる組織への発展	行動制限、看護計画の開示等で同意を得ることの徹底	看護臨床倫理ワーキング	行動制限の範疇について看護部の認識統一、マニュアル改訂（案）作成
	○看護研究倫理審査の導入	職業倫理の醸成、看護実践を通じての倫理観の育成		倫理に関する学習会の開催（看護師長会、副看護師長会）、各看護単位での倫理カンファレンスの定着
	○倫理的評価を基盤に看護研究の推進と発展	看護研究倫理審査の導入を通し、看護研究の推進と発展	看護研究倫理審査小委員会	看護研究倫理審査小委員会を10月から開催（20題（延べ32題）
		看護研究の指導者の招聘と育成		
		患者・職員間の接遇と、承認し合える関係づくり（挨拶・身だしなみ・言葉使い等）	看護サービス向上ワーキング	身だしなみ基準の作成、身だしなみチェックの実施（8月、2月）

□ 会議･委員会活動

Ⅰ. 会議･委員会

1. 副看護師長会議

目　的	看護部の目標達成に向け、副看護師長の役割果たす
目　標	1）中堅看護師（6～10 年）の現状を理解し、支援方法のシステムを構築する 2）リンクナースたちがリーダーシップを発揮できるよう支援し、支援のシステムを構築する 3）看護実践基準の評価と修正ができるシステムを構築できる 看護手順作成に関する基準が完成でき、必要な看護手順を作成できる
活動内容	1）中堅看護師の支援 ①アンケートと面談を実施し現状把握 ②承認行動の促進、ナラティブの会、異動者への面談、教育・指導に悩める中堅看護師を支援する会の実施 2）看護部委員会・チーム会メンバー（「リンクナースたち」と位置づける）の支援 ①リンクナースたちの支援についてのニード・モチベーションの調査 ②支援に焦点を当て、支援内容の検討と実践レベルでの支援システム作り 3）看護実践基準、看護手順 ①看護実践基準の使用状況の把握と推進 ②新規作成が必要な看護手順を 25 項目、改訂が必要な看護手順 6 項目の作成と監査
成果と課題	1）今年度見出した中堅看護師・リンクナースの支援方法を実践し評価していく 2）今後も副看護師長会が中心となり看護実践基準・手順の作成、改訂を行っていく

2. 専門･認定看護師連絡会議

目　的	看護部の理念に基づき、専門看護師・認定看護師の活動を円滑に行うことにより看護の質向上に寄与する
目　標	1）看護実践や集合教育を通して、当院の看護の質が向上する 2）組織横断的な活動を拡充し、介入件数を増やすことができる 3）地域に向けた情報発信ができる
活動内容	1）専門・認定看護師セミナー、学習会を開催 「プレゼンテーションスキルの評価」ツールの作成 2）病棟ラウンドを平成 27 年 12 月から開始 3）①ポスターを更新し院内掲示　②専門・認定看護師活動日一覧表を配布 ③看護部ホームページの更新　④専門看護師・認定看護師と語らう会の開催 4）訪問看護師交流会で訪問看護師・ケアマネージャーに対してアンケート調査の実施
成果と課題	1）専門・認定看護師セミナーの参加者は、院内：50 名、院外：53 名、学生：25 名、参加満足度は高かった。今後は、学習会が「看護の質向上」に有効であったかを評価する方法の検討が必要である 2）病棟ラウンドを毎月実施できるようになったが、その効果については評価が必要である 3）専門・認定看護師と語らう会の参加者は 11 名だった。新たに専門看護師・認定看護師を目指す人材の発掘および支援につながる活動を継続していく 4）地域の訪問看護師へ専門看護師・認定看護師に対するニーズを確認した。今後のセミナー、学習会への参考とする

学習会実施結果

開催日	分野名	テーマ	講師	参加人数
7 月 21 日	糖尿病看護	フットケア～足の爪を切ってみよう～	小久保	16
9 月 9 日	緩和ケア	エンゼルケア	上村	20
9 月 25 日	皮膚・排泄ケア	褥瘡評価スケール ESIGN-R	河合	70
10 月 14 日	がん看護	がん患者の包括的視点でのアセスメント	櫻井	27
10 月 28 日	脳卒中ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ看護	認知機能が低下している患者への関わり	樋口	22

11月2日	がん化学療法	化学療法による骨髄抑制時の看護援助のポイント	田中	12
11月11日	感染管理	吐物処理を学ぼう	森・宮地	126
12月3日	摂食・嚥下障害看護	ナースができる摂食嚥下リハビリテーション	宇治本	18
12月17日	集中ケア	深部静脈血栓症予防	森口	22
12月21日	新生児集中ケア	新生児の蘇生	岡庭	11
1月8日	急性・重症患者看護	看護研究の倫理的配慮	森本	15
1月15日	乳がん看護	壮年期がん患者・家族への看護を考える	荒木	9
1月29日	がん性疼痛看護	がん看護　～せん妄～	落合	14
2月10日	救急看護	蘇生のいろは	清水	22
2月18日	放射線療法	放射線療法看護～皮膚炎・粘膜炎のケア～	川端	6
3月1日	透析看護	透析患者の身体を知ってケアを考えよう	川瀬	14

3. 現任教育委員会

目　的	当院の使命を自覚し、科学的根拠に基づいた質の高い看護実践能力、専門的知識・技術・態度に優れた看護師を育成する
目　標	1）経年別研修計画の企画運営ができ、研修生が到達目標を達成することができるよう支援する 2）集合教育と機会教育の連携を強化し、教育体制を充実させる
活動内容	1）看護職員能力開発プログラム到達目標に沿った集合研修の企画運営 2）機会教育における研修前課題、研修後課題の計画的な支援と指導者への周知した。研修前の動機付けを計画的に支援し充実させ、研修後は現任教育便りを発行し支援方法を提示した。集合研修では、楽しく効果的に学び、看護実践に結びつくよう工夫を行った
成果と課題	1）研修目標達成度とやる気度の平均値（研修アンケート結果より） 2）研修前課題や動機付けへの支援は充実した。委員会を通して副看護師長の教育への意識は高まりつつある。今後は、看護実践場面での効果的な関わりと教育体制の充実が課題である

新採用者研修	75名	7テーマ14回、リフレッシュ研修1日間
実務Ⅰ前期研修	62名	4テーマ8回
実務Ⅰ後期研修	51名	3テーマ6回、一日院内留学研修
実務Ⅱ研修（4年目）	56名	3テーマ6回
実務Ⅱ研修（5年目）	44名	3テーマ3回、看護管理研修（自部署にて一日間）
既卒者研修	13名	1テーマ1回
キャリア支援（6年目以上）研修	130名	6テーマ6回

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
目標達成度	90%	87%	91%	87%	88%
やる気度（10MAX）	6.4	5.7	5.9	5.4	6.3

4. 人材確保育成プロジェクト

目　標	1）質の高い看護職員の確保に向けた積極的活動を行う 2）看護職員の離職防止に向けた活動を行う 3）看護部内で実施される研修や勉強会の一元化を図り、職員が効果的に受講できるシステムを作る
活動内容	1）就職説明会のブースで使用する物品の検討と作成 インターンシップ、ふれあい看護体験、中学生チャレンジ体験の企画・運営 2）看護職員対象のリフレッシュ講座の企画と実施 3）コメディックスのスケジュール機能を利用しての看護部の勉強会の周知方法の検討と発信
成果と課題	1）就職説明会に使用するPRポスターを4パターンと、DVDの作成 ふれあい看護体験参加：9名　中学生チャレンジ体験参加：10名 2）リフレッシュ講座の開催：①1月21日：アロマテラピー講座 ②2月17日：ジャズダンス講座

5.看護の質改善委員会

目　的	1）看護基準・手順の見直しと周知 2）看護提供プロセスの検討と改善
目　標	1）手順の見直しを実施して、看護実践に活用できる 2）退院時アンケートを実施し、評価した結果を看護の質改善に活用できる
活動内容	1）看護手順の見直し・監査と周知徹底 2）退院時アンケート：3 回/年実施（1 回目:584 名、2 回目:649 名、3 回目:454 名）
成果と課題	1）看護手順 ①言語の統一・記載方法の統一、87 項目の見直しにより、改訂：47 項目 削除：18 項目 ②監査：3 項目（更衣、採血、酸素療法） 次年度は、今年度の見直し、及び新規作成した項目の監査、実践に沿った看護手順の改訂を行っていく 2）退院時アンケート 点数が悪かった項目に関して、各病棟で対策を立て重点的に取り組んだことにより、改善の効果は見られた 次年度は、年 2 回の実施とし、また、身だしなみ、接遇に対する取り組みも行っていく

6.看護記録委員会

目　的	看護部の理念に基づき、看護職員の資質の向上・発展を図るため、看護過程の監査及び記録システムの改善を図る
目　標	1）看護記録内容の質の向上をはかる 2）看護過程の思考プロセスを理解し記録できる
活動内容	1）看護記録記載要項の作成・記録監査をする 2）標準看護計画の評価・追加・修正をする 3）電子カルテ更新の運用に向けて取り組む
成果と課題	1）①看護記録記載要項作成した。今後は、使用後の評価・修正を行っていく ②看護記録監査：看護過程の展開については○の比率 90%以上である 今後は、行動制限、看護計画が患者・家族の同意得ていることの記録の向上を図る必要がある 2）標準看護計画の評価・追加・修正を行った。内容の最終確認と電子カルテとの連動が必要である 3）電子カルテ更新後の運用に向けて、現状の電子カルテの問題点を抽出した

Ⅱ.チーム会

1.感染管理チーム会

目　的	感染予防対策の充実に向けた活動をする
目　標	1）スタッフ全員が正しい知識を持ち、感染対策を実践できる 2）感染防止の視点で環境改善、整備ができる 3）末梢静脈ライン刺入部の観察を徹底し、感染徴候を早期に発見できる
活動内容	1）手指衛生 5つのタイミングについてのテストと手指衛生のモニタリングを実施 手指衛生強化キャンペーンの実施 2）環境調査チェック表の作成と使用 月 1 回の自部署の環境ラウンドと他部署のラウンドで環境の評価 3）刺入部の観察・記録の方法を決定し、静脈炎スケールを用いての記録を行う事を周知した。実施状況を確認するために、刺入部の観察と記録ができているかの調査を行なった
成果と課題	1）知識の確認テストは、繰り返し実施したことで正解率は徐々に上昇し知識の周知に繋がった　手指衛生強化キャンペーン中は、ゴージョー使用回数が上昇した 2）他部署のラウンド後は、環境調整ができており、どの病棟も出来率は上昇した 3）統一した観察、記録ができるスケールを使用することができた 今後は、手指衛生・環境調整は、継続していくことができるようにチェックするシステムが必要である

2. 地域看護支援チーム会

目　標	1）早期にスムーズな退院調整を行い、患者家族が安心して退院・転院を迎えることができるよう支援する 2）顔の見える関係をつくり、地域連携を強化できる
活動内容	1）退院支援カンファレンス充実のため、他病棟のカンファレンスに参加し、入院時から退院支援の早期介入ができるようテンプレートの活用を推進した後方支援施設よりの問い合わせ内容を分析し、正確な情報提供を行った 2）11 月 18 日：第 12 回 訪問看護師交流会の開催 ・参加者：院外：13 施設　訪問看護師 21 名、ケアマネージャー4 名、当院看護師 55 名、MSW4 名 ・パネルディスカション：パネラー：院外訪問看護師、ケアマネージャーと院内看護師、MSW
成果と課題	1）他病棟のカンファレンスの状況を知ることで効果的なカンファレンスの開催ができた。今後は、情報性の向上が課題である 2）訪問看護師交流会は、地域連携強化の機会となるため、今後も継続していく

3. がん･緩和ケアチーム会

目　的	がん看護・緩和ケアの実践力を高め、看護の質の向上をめざす
目　標	1）患者の意志決定支援ができる 2）主な化学療法のプロトコールに添った看護が実施できる 3）「生活のしやすさの質問票」にて包括的アセスメントが実施できる
活動内容	1）再発時・治療変更時の IC に同席し意思決定支援についてのカンファレンスを実施 2）各病棟の代表的なレジメンについて、その特徴をまとめ学習会を実施した 3）がんと診断され新規に入院された患者を対象に「生活のしやすさの質問票」を使用
成果と課題	1）意思決定支援への介入の必要性は理解できたと考えるが、実践においては病棟差が大きい。病棟での実践力を上げていくために、意図的な関わりと情報収集、患者･家族の思いを引き出すこと等コミュニケーションスキルの向上が必要である 2）レジメン学習会を病棟単位で行うことにより、知識を深めることができた今後は、看護実践に繋げていく必要がある 3）苦痛へのスクリーニングとして、がんと診断された患者への「生活のしやすさの質問票」を実施することができた。今後は活用方法とテンプレート化など運用についての検討が必要である。

4. 医療安全チーム会

目　標	1）転倒転落に関する分析を行い、解決策を導き出し、周知・実践・評価ができる 2）インシデント・アクシデント事例を把握し、病棟の解決策の周知・実践ができる 3）ルート類の自己抜去・自己抜管リスクアセスメントツールを作成する
活動内容	1）スリッパ着用率の減少に向け、履物の実態調査、スタッフ教育のための資料作成、患者への靴着用を促すポスターの作成と患者指導を行った 2）毎月の会議で、院内で発生したインシデント事例の周知状況の確認と対策の共有、患者誤認インシデント防止に向けた取り組みを行った 3）平成 27 年 6 月の 1 ヶ月間のデータ収集、統計処理、分析、アセスメントスコアシートの検証を行った
成果と課題	1）履物実態調査：1 回目 8 月実施　2 回目 2 月実施　靴着用 31%→53%、スリッパ・クロックス等 60%→34%スタッフへの教育と患者への啓蒙活動の成果が見え、靴を着用する患者は増加した。しかし実際の転倒患者の背景を分析すると、履物での差は見られなかった。履物以外での転倒防止活動が必要である 2）インシデント事例を自部署の対策に繋げられた。患者誤認インデントは減少している。 3）調査症例 255 件のうち、自己抜去有 11 件（4.3%）。アセスメントシート 22 項目のうち、「不穏またはせん妄あり」「見当識障害あり」「輸液ポンプ使用」の項目で優位差があった。データ数が少なく、またシート妥当性も乏しいことから、ツールの完成には至らなかった

5. 呼吸ケア看護チーム会

目　的	呼吸ケア実践能力の向上を図る
目　標	1）呼吸フィジカルアセスメント能力の向上 2）呼吸ケアマニュアル・看護手順の追加・修正 3）呼吸ケア実践後の記録評価
活動内容	1）①各病棟で呼吸の解剖生理、フィジカルアセスメントの学習会を開催、学習会用の DVD 教材を作成し配布 ②「気道クリアランス」講義・演習の学習会開催 ③RST ラウンドへの参加を行い、医療安全や感染予防についての確認事項を再認識した 2）①呼吸ケアマニュアル：酸素療法（高流量・低流量）・抜管後の酸素流量・ネーザルハイフロー追加 ②看護手順：呼吸に関する看護手順 14 項目の改訂 3）呼吸に関する記録・看護計画の記録監査を 2 回実施
成果と課題	1）全病棟で呼吸ケアに関する学習会開催を実施し、看護記録監査により病棟での課題を明確化できた。今後も呼吸ケアマニュアル・看護手順・DVD 教材を活用した教育を継続する 2）手順の活用方法を周知徹底し、安全で効率的な呼吸ケア実践を行い、評価を監査表を用いて行う

6. 看護栄養サポートチーム会

目　的	入院患者の栄養不良、あるいはその危険が高い患者に対して栄養改善をはかり、栄養不良による合併症を予防し、ＱＯＬを改善する
目　標	1）入院患者の誤嚥・窒息予防、および摂食機能療法ができる 2）栄養管理の必要な患者をＮＳＴに依頼できる 3）口腔の清潔をはかり誤嚥性肺炎を防止することができる
活動内容	1）病棟スタッフの嚥下評価が出来るようにする 2）病棟スタッフの口腔ケア技術実践向上をはかる 3）病棟スタッフの栄養管理能力向上をはかる
成果と課題	1）嚥下評価方法の知識習得者：457 名 2）食事開始までの手順伝達者：463 名 3）食事開始後の評価内容習得者：463 名 4）学習「嚥下のメカニズム~絶食時の食事開始の進め方~」「正しい安全な食事姿勢と介助の注意点」「ＳＧＡについて」「口腔ケアについて」 5）ＮＳＴ依頼対象者の基準作成 6）入院時ＳＧＡ評価を栄養不良有りで評価できる（52%→79.5%） 課題 1）必要な患者にＳＧＡ評価ができ、他職種とのカンファレンスの実施、看護計画の立案 2）口腔ケアの技術向上 3）適切に嚥下機能評価ができ、誤嚥・窒息を予防する看護の提供

7. 褥瘡管理チーム会

目　的	褥瘡を発生させないように対策を行う
目　標	1）褥瘡管理についてアセスメントを高めることでスタッフの意識向上へ繋げる 2）スタッフが正しく褥瘡管理技術（ポジショニング）を身につけ実践できる
活動内容	1）リンクナースがリーダーシップシップをはかり、褥瘡発生カンファレンスの実施 2）褥瘡管理チームによるポジショニングラウンドの実施
成果と課題	1）褥瘡発生カンファレンス用紙と褥瘡発生テンプレートを作成し、運営方法についても明文化した。リンクナースを中心に褥瘡発生カンファレンスを実施、看護計画を立案した。褥瘡発生カンファレンス開催率：約 65%､褥瘡発生カンファレンスの定着を行っていく必要がある 2）ポジショニング監査用紙を用いて根拠を明確にした勉強会を実施し、技術チェックを全スタッフに実施した 10・12 月に病棟ラウンドを実施した結果、達成できなかった項目の上位は踵の除圧であった。今後、スタッフ全員が適切なポジショニングが実施できるように活動していく必要がある

Ⅲ. ワーキング

1. 経営・病院機能充実ワーキング

目　標	1）病院機能評価受審後の課題を明らかにし継続的な取り組みができる 2）DiNQL を活用し、ベンチマークを利用した検証ができる 3）平成２８年度診療報酬改定に関する情報を共有することができる
活動内容	1）病院機能評価での残された課題の整理を行い、取り組みを検討し実施する 2）DiNQL について勉強会を行い、現状の課題の抽出と入力方法等についての構築、ベンチマーク評価を行う 3）平成 28 年度診療報酬改定に関する情報発信を行う
成果と課題	1）病院機能評価で B 評価における改善策と対応策について検討した。モニター始業前点検票を作成し使用開始した。多職種間で患者情報が共有できるデータベースの改善と、休日リハビリテーション実施評価とテンプレートの検討が必要である 2）DiNQL について勉強会を開催し、7 月からデータ入力を開始したが、ベンチマークを活用した目標管理には至らなかった。データ入力項目の集計が煩雑であり、電子カルテを活用したデータ収集システム構築が必要である 3）平成 28 年度診療報酬改訂に関する勉強会を医事課と連携し開催した。7 対 1 入院基本料に関わる看護必要度新要件でのシミュレーションを行い、病床配分の改訂に繋げることができた。看護必要度 25%以上維持できる病床管理と地域連携強化が今後の課題である

2. 看護体制・組織検証ワーキング

目　標	1）各看護単位の看護体制の評価を基に検証、良質の看護を提供できる看護体制を組織化し提示する 2）看護単位概況書の見直し及び新看護管理基準を評価し、必要時改訂する
活動内容	1）①人材育成」「安全」「患者満足」「コミュニケーション」「時間効率」「看護過程の展開」「カンファレンス」「チーム医療」というカテゴリーで各看護単位の看護師長、副看護師長に 66 項目のアンケートを実施 ②PNS 病棟の看護師長、副看護師長に PNS の定義に基づいて 27 項目のアンケートを実施 2）看護単位概況書の定義・目的の共通理解、必要項目を選択し内容の見直し 3）新看護管理基準の参考資料の追加・差し替え
成果と課題	1）アンケート結果より、定義に基づいた PNS が実施できている病棟はなく、「人材育成」「時間効率」は PNS 病棟、「安全」「チーム運営」は PNS 病棟以外の病棟が看護業務を効果的に遂行できると解釈できた。 今後は、全病棟が固定チームナーシングでの組織化を図っていく。また、アウトカム（超過勤務時間、離職率、インシデント件数等）について分析していく 2）看護管理基準について、管理師長ポケットマニュアル等と統合させ、必要な内容を網羅し改訂していく

3. 看護臨床倫理ワーキング

目　的	臨床の倫理問題について、検討できるシステムの構築と、解決手法を事例を通して定着させる
目　標	1）患者の安全と人権を尊重した看護実践；倫理的視点で行動制限を検討することができる 2）説明と同意に基づいた看護実践への記録ができる 3）倫理的問題を話合うことができ記録できる
活動内容	1）行動制限マニュアルおよびテンプレートの見直し 2）看護計画開示および IC 時、行動制限に関する記録監査 3）看護師長、副看護師長対象の倫理研修の実施、倫理検討シートの作成と活用
成果と課題	1）倫理的観点から行動制限の範疇を見直し、行動制限マニュアルの見直しを行った。今後、行動制限の定義を明確にした後、テンプレートの完成と周知をしていく 2）記録監査の結果、記録への記載が不十分であった。説明と同意に基づく看護実践への考えが浸透するような教育および適切な記録のためのマニュアルの整備が必要である 3）倫理研修では現場での倫理問題について話合い認識を高めることができた。倫理検討シートの作成と各病棟で試用することができた。今後、シートの使用についての教育と現場での活用・運用について取り決めしていく必要がある

4. 看護サービス向上ワーキング

目　的	専門職業人としての態度、姿勢、接遇の強化をはかる
目　標	看護師としての態度、姿勢、接遇を強化し看護サービスの向上を目指す
活動内容	1）身だしなみ強化月間として身だしなみチェック（2 回）病棟ラウンド(1 回)の実施
成果と課題	1）身だしなみ強化にあたり、接遇ＤＶＤの視聴後に身だしなみチェックを実施し、改善項目を抽出した。身だしなみチェックと病棟ラウンドを実施し、改善項目が 100%になるように取り組んだ。次年度も身だしなみチェックを定期的に実施し、実践レベルの評価継続が必要である

5. 看護管理実践力強化ワーキング

目　標	1）労務管理の基礎となる法的根拠が理解できる 2）非公務員化に伴う就業規則の改定を理解し、適正な労務管理ができる 3）病棟での問題を共有し、対策を考え労務管理ができる
活動内容	1）労務管理（法律学習会）:「労務管理とは何か」という視点で事例検討 2）労務管理（就業規則学習会）: 事例検討 3）子育て支援について学習会：事例検討 学習会後、改善に向けて自部署で取り組み、それを踏まえ検討会を2回実施
成果と課題	1）事例検討により、各部署の現状把握や共有する機会、問題や今後の取り組み方など、看護師長の認識の共有・統一する機会となった

□ 地域医療連携・広報活動

1. がん看護研修ステップ
   ・ステップⅠ:10月24日、11月14日　計10時間　　修了者:院内　24名、院外:25名
   ・ステップⅡ:7月1日、7月17日、10月16日　計11時間　　修了者:院内　9名

2. 専門・認定看護師セミナー
   6月20日開催、　テーマにて講義・演習を実施　　参加者:128名（院内:50名、院外:53名、学生:25名）

3. ふれあい看護体験
   7月23日:高校生10名参加

4. 生き方探究・チャレンジ体験
   11月4日～６日（3日間）　中学生5名
   11月9日～12日（4日間）　中学生3名
   1月10日～12日（3日間）　中学生2名

□ 看護部の活動

1. 投稿・執筆　（別紙４）
2. 院外発表　（別紙５）
3. 院内発表　（別紙６）

別紙4：投稿・執筆

１．平成27年度　雑誌投稿・執筆

出版社	雑誌名	テーマ	部署	著者名
メディカ出版	ハートナーシング 2016年 4月号	新人ナースの不安＆疑問を一挙解決！ みるみるわかる心臓まるごとQ＆A50	救命救急センター ICU	西田　和美
メディカ出版	オペナーシング 2016年　6月号	ウチの手術室のココがすごい！機械出しマニュアル〝イイトコ取り自慢大会	手術室	大林　理那
日総研出版	月刊ナースマネージャー 2016年　3月号	師長が感じている困難感をプラスに変える多様な働き方をするスタッフをチームで生かすための視点	看護部長室	藤原　恵子
日総研出版	手術看護エキスパート 2015年　9.10月号	手術室看護師のためのナラティブ 現場で活かせる知識　～看護を語る会を行なって～	手術室	栗岡　聡子
日総研出版	手術看護エキスパート 2015年　11.12月号	手術室看護師のためのナラティブ 現場で活かせる知識～手術室看護師の成長に活かすナラティブ～	手術室	小椋　裕美
日本メディカルセンター	臨床透析	腎不全と共に生きる患者および家族へのナラティブアプローチ	2病棟8階	瀧井　友美
メディカ出版	ハートナーシング 2016年 3月号	理想のカタチを追求しよう 教えて！あなたの施設のカンファレンス	2病棟6階	大村　栄
メディカ出版	ブレインナーシング 2016年　4月号	詳しく聞きたい！看護のくふうのキモとミソ 院内BAD治療マニュアル作成の取り組み	救命救急センター ICU	樋口　泰子
日総研出版	脳の看護実践 2015年 8.9月号	脳卒中超急性期の看護実践における行動制限～身体拘束について考える	救命救急センター ICU	樋口　泰子
日総研出版	手術看護エキスパート 2016年　1.2月号	手術室看護師のためのナラティブ 現場で活かせる知識 ～ナラティブから分かる手術室看護師の実践知～	手術室	中村　露子
日総研出版	看護きろくと看護過程 2015年　10.11月号	患者と共に歩む看護実践を目指した形式監査の実施と質監査の導入	集中治療室	西谷　保
メディカ出版	エマージェンシーケア 2016年　3月号	Expert Café なんでもお悩み相談室	救命救急センター ICU	清水　克彦
学研メディカル	月刊ナーシング 2015年　5月号	『大特集！夜勤はこう動く！ひとり立ちマニュアル』 重症患者の見方と対応：脳神経系	救命救急センター ICU	森口　真吾
南江堂 臨床出版	日本循環器学会専門医誌 「循環器専門医」 2016年　vol.24　No.1	第14回禁煙推進セミナー「喫煙と循環器疾患up　to Date」 3.禁煙支援の実際とコツ	外来	寺嶋　幸子
メディカ出版	はじめてのがん化学療法看護-カラービジュアルで見てわかる！ 2016年3月5日発行 第1版第1刷	第3章 職業性曝露対策	外来	田中　雅子

別紙５：院外発表

２．平成27年度　院外研究発表

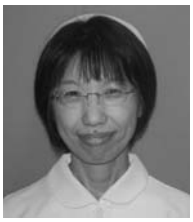
	テーマ	学会名	開催日	部署	発表者名
1	救命救急センターにおける深部静脈血栓・肺塞栓予防の適切な運用にむけた取り組み	第11回日本クリティカルケア看護学会学術集会	6月27日	救命救急センターICU	森口　真吾
2	生後24時間の授乳回数と体重減少率、補足率、母乳率との関係	第24回母乳育児シンポジウム	8月1,2日	2病棟3階	橋本　恵
3	多職種協働による薬物治療アセスメントシート活用の取り組み	第69回国立病院総合医学会	10月2.3日	NICU・GCU	岡庭　暁子
4	インスリンインシデント減少に向けた取り組み	第69回国立病院総合医学会	10月2,3日	2病棟8階	小久保　敦子
5	遺族会に参加した家族の思い	第69回国立病院総合医学会	10月2,3日	緩和ケア病棟	加藤　有紀
6	褥瘡減少に向けた当救命救急センターICUでの取り組み	第69回国立病院総合医学会	10月2,3日	救命救急センターICU	尾崎　美聡
7	救急外来における電話相談の実態調査	第69回国立病院総合医学会	10月2,3日	救急外来	西村　文夫
8	覚醒評価基準の導入に伴う安全な帰宅の取り組み	第75回日本消化器内視鏡技師学会	10月10日	外来	北野　由美
9	院内BAD治療マニュアル作成の取り組み	第42回日本脳神経看護研究学会	10月16日	救命救急センターICU	樋口　泰子
10	終末期がん患者の退院後の生活からみる質の高い退院支援の要素	第57回近畿地区国立病院看護学会	10月31日	1病棟6階	三木　彩佳
11	外来化学療法センターにおける自記式問診票導入後の評価	第57回近畿地区国立病院看護学会	10月31日	外来	青山　佳代子
12	外来化学療法センターでの実習における学生の学びーイメージマップを用いた分析、第2報ー	第13回国立病院看護研究学会	11月28日	外来	岩松　美穂
13	インスリン関連インシデント対策に取り組んで	日本医療マネージメント学会第13回京滋支部学術集会	2月13日	2病棟8階	小久保　敦子
14	インシデントレポーティングシステム導入の効果と応用	日本医療マネージメント学会第13回京滋支部学術集会	2月13日	医療安全管理室	右野　恵

別紙6：院内発表

３．平成27年度 院内研究発表

		テーマ	部署	発表者
口述発表	1	集中治療領域における教育教材開発の取り組み	救命救急センターICU	樋口　泰子
	2	救急外来における電話相談の現状と課題	救急外来	西村　文夫
	3	手術チームでの協働により安全の文化を発展させるために	手術室	小椋　裕美
	4	外科外来における術後補助化学療法に対する看護介入 ～内服抗がん剤治療を受ける患者への支援～	外来	西村　美佐代
ポスター発表	5	栄養サポートに対するスタッフの意識の向上	１病棟４階	中村　寛子
	6	硝子体手術後患者の腹臥位安静による皮膚損傷の予防	１病棟５階	原田　健太
	7	鎮静剤下内視鏡後の転倒予防に向けた取り組み	１病棟７階	千坂　直美
	8	がん患者のせん妄ケアについて、私たち看護師ができること ～がん看護研修の学びからの考察～	１病棟８階	布施　克美
	9	放射線食道炎患者の咽頭痛・嚥下困難感の軽減へのかかわり	１病棟８階	山本　美菜
	10	HIV/AIDS看護外来の基盤づくりに向けた取り組みを振り返って ～患者が話せる場所を作りたい～	１病棟８階	岩嶋　貴子
	11	助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)への取り組み	２病棟３階	毛利　洋子
	12	口唇口蓋裂手術を受ける患児に対する看護の関わり	２病棟３階	松本　悠見
	13	NICUにおける感染予防	NICU	上原　千晶
	14	急性期・一般病棟のPNSに対するスタッフの意識調査	２病棟４階	永峰　淳子
	15	内服薬の服薬技術の分析 ～スタッフ間の内服における技術や認識の違いについて～	２病棟６階	光居　詩織
	16	チーム活動報告～急変時看護の知識・技術の向上を目指した取り組み～	２病棟７階	石浦　麻貴
	17	透析室における抗凝固剤のインシデント減少への取り組み	２病棟８階	藤田　宏美
	18	患者カンファレンスの定着に向けた取り組み	２病棟８階	安藤　厚志
	19	緩和ケア病棟における家族システムの回復ができた一例 ～若年性癌患者の家族への介入と援助～	緩和ケア病棟	奥平　勇人
	20	緩和ケア病棟における家族システムの回復ができた一例 ～30代の妻と幼児に対する援助～	緩和ケア病棟	山口　牧子
	21	終末期患者の口腔内トラブルの改善を目指して ～歯科口腔外科医師との連携による口腔ケア回診を実施して～	緩和ケア病棟	長井　由衣
	22	患者カンファレンスの定着に向けて	特別室個室病棟	家本　歩美
	23	救命救急センターICUにおけるせん妄ケアの現状と課題	救命救急センターICU	森口　真吾
	24	敗血症性ショック患者に対するせん妄予防を通して～趣味を取り入れた介入～	救命救急センターICU	吉田　咲子
	25	救命救急センターICUにおける教育ラダー導入の評価 ～新採用者への技術チェックリスト活用～	救命救急センターICU	伊藤　明信
	26	褥瘡発生減少へ向けた救命ICUでの取り組み	救命救急センターICU	尾崎　美聡
	27	人工呼吸器装着患者に対する離床の効果と看護師の役割	救命救急センターICU	松下　紀子
	28	自己抜去・自己抜管リスクアセスメントシートの作成に向けて　～第2報～	救命救急センターHCU	深川　哲嗣
	29	救命センターHCUにおける褥瘡ケア能力向上に向けた取り組み	救命救急センターHCU	中野　達也
	30	生体情報モニター管理体制の強化に向けた取り組み	救命救急センターHCU	小田　由香
	31	カテ室における医療安全への取り組み	救急外来	前田　朱里
	32	救急外来教育ラダー実践報告	救急外来	中島　梢恵
	33	安全な体位確保のために～手術室看護師の視点で手術体位を評価する～	手術室	濵名　有紀
	34	自己の成長のための意識改革～舞妓の言葉から学ぶ～	手術室	福嶋　由美香
	35	手術室での新人教育の取り組み～カルガモ方式の導入～	手術室	千葉　あゆみ
	36	手術室看護の倫理的感受性の育成に向けての取り組み	手術室	大森　富美子
	37	集中治療室における新規褥瘡発生患者数の減少の取り組み	集中治療室	増田　可奈
	38	鎮静下で外来上部内視鏡検査を受ける患者の安全な帰宅への取り組み ～覚醒評価基準への導入～	外来	北野　由美
	39	外来化学療法センターでの実習における学生の学び ～イメージマップを用いた分析、第2報～	外来	岩松　美穂
	40	外来化学療法センターにおける待ち時間に対する取組み	外来	谷口　雅美

京都看護助産学校



副学校長
増山　路子



助産師科　教育主事
佐藤　美春



看護師科　教育主事
釘宮　泰子



看護師科　教育主事
野々川　陽子
平成28年3月31日まで



看護師科　教育主事
小林　由里
平成28年4月1日から

Ⅰ　看護学校の概要

1．名称

独立行政法人　国立病院機構　京都医療センター附属京都看護助産学校

2．所在地

〒612－8555　京都市伏見区深草向畑町１の１

TEL（075）641－9191（直通）　　HP　http://www.hosp.go.jp/-kyotolan/

3．沿革

昭和24年４月１日　国立京都病院附属高等看護学院として開設
１学年定員30名　総定員90名
昭和43年４月１日　１学年定員50名　総定員150名
昭和44年４月１日　助産婦科の附設　１学年定員35名　総定員35名
国立京都病院附属高等看護助産学院に名称変更
昭和50年４月１日　国立京都病院附属看護助産学校に名称変更
昭和51年４月１日　専修学校（専門課程）に認定
平成16年４月１日　国立療養所宇多野病院附属看護学校（３年課程）と国立療養所南京都病院附属看護学校（２年課程）と３校が統合、大型校となり独立行政法人国立病院機構京都医療センター附属京都看護助産学校に名称変更
看護師科　１学年定員80名　総定員240名
助産師科　１学年定員35名　総定員 35名
平成27年４月１日　助産師科　１学年定員25名　総定員25名　定員変更

卒業生数（平成27年 3月31日現在）
看護師科（１回生～53回生）… 1,968名
（１回生～12回生）…　888名（統合後）
助産師科（１回生～47回生）… 1,375名

4．課程・定員

課程	学科	入学定員	総定員	在籍者数（平成28年3月1日現在）			
				1年生	2年生	3年生	合計
看護専門課程	看護師科(3年課程)	80人	240人	91人	84人	73人	248人
看護専門課程	助産師科	25人	25人	24人			24人
計		115人	275人	115人	84人	73人	272人

II　教育理念・目的

1．教　育　理　念

本校は、国立病院機構附属の養成所であり、国立病院機構の病院が担っている役割や機能を理解し、将来の国立病院機構の医療をリードしていく看護実践力をもつ看護師を育成することを責務としている。

人間愛を基盤とし、生命の尊厳と人権の尊重ができる感性豊かな人間性を育てることに主眼をおき、感じる心・考える力・主体的に行動する学生の育成を目指している。感じる心とは、人間に関心をもつことができ、生命の大切さや多様な価値観を感性豊かに感じとり物事の変化に気づくこと、考える力とは、状況の意味を自ら考え、専門的知識を活用して分析・判断する力のこと、主体的に行動するとは、感じ考えたことを自らすすんで表現し行動に繋げることができ責任がとれること、自己の目標達成に向けて卒業後も継続的に学習することを言う。

人間は、自己実現を目指し変化しようとしている存在であるが、現代の若者は生活体験が乏しいことから事象をイメージしにくく想像力・理解力が未熟な傾向にあるため、看護専門職として必要な基礎的知識、技術、態度を習得にあたり、体験的・実践的学習をとりいれわかりやすい授業を実践する。また、臨地実習での学びを充実させるために学びやすい環境づくりに力を入れる。さらに、医療・看護の動向をふまえ、保健医療福祉の変化に対応できる人材を育成する。

2．教　育　目　的

看護師若しくは助産師として必要な知識及び技術を教授し、独立行政法人国立病院機構　及び社会に貢献し得る有能な人材を育成する。

3．教　育　目　標

1．生命の尊厳と個々の人権を尊重できる感性豊かな人間性を養う
2．看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解し、看護師としての人間関係を形成する能力を養う
3．看護師としての責務を自覚し、倫理に基づいた看護を実践する
4．科学的根拠に基づき、看護を計画的に実践する基礎的能力を養う
5．健康の保持・増進、疾病の予防および健康の回復に関わる看護を、健康状態やその変化に応じて実践する基礎的能力を養う
6．保健・医療・福祉システムにおける自らの役割および他職種の役割を理解し、他職種と連携・協働する基礎的能力を養う
7．社会の動向に関心を持ち、常に主体的に看護を探求する姿勢と自己研鑽し続ける能力を養う

コンセプト

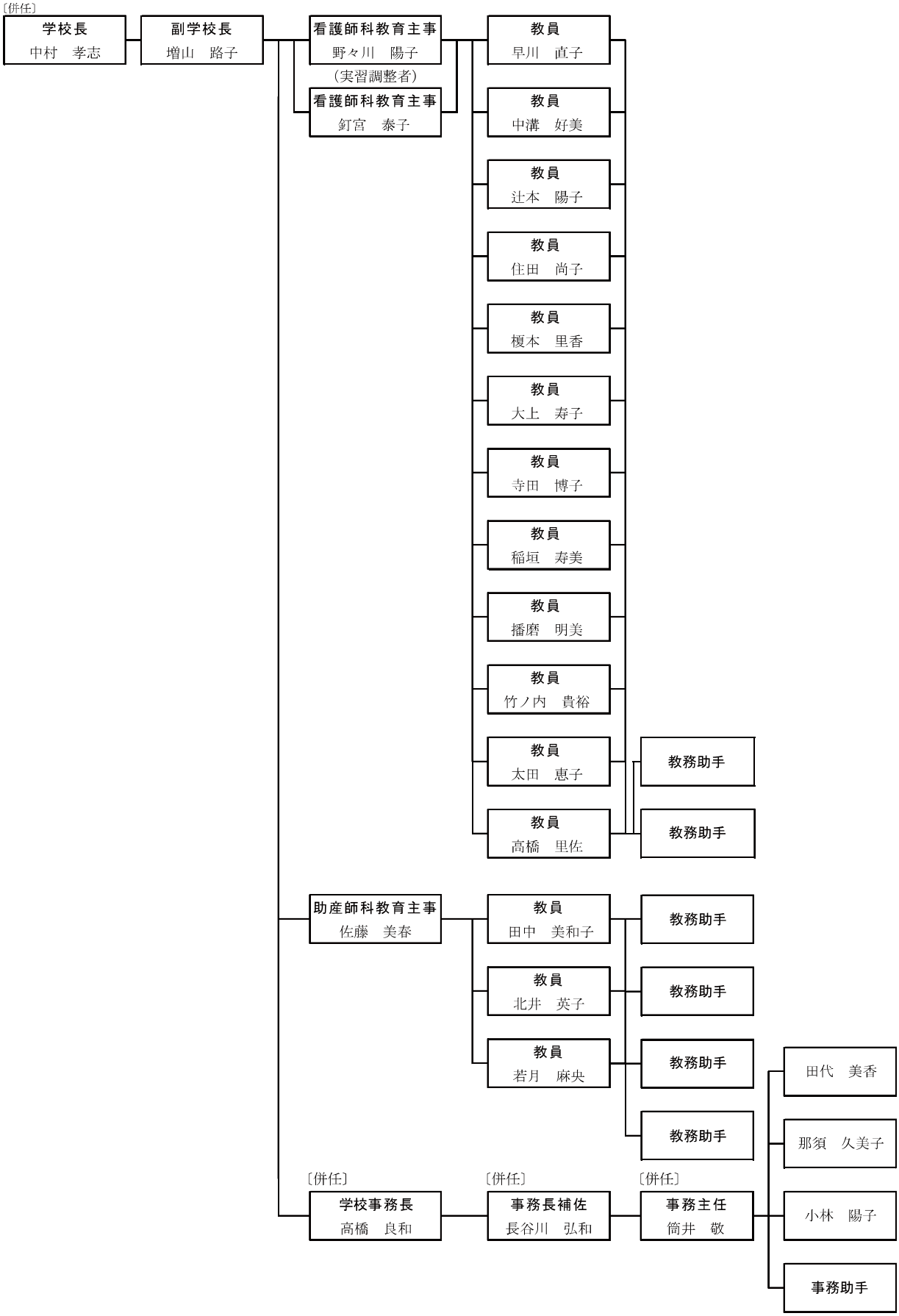
感じる心　　考える力　　そして・・・行動を

4．平成２７年度　部門（看護学校）目標

部門目標		重　点　目　標
1	指導計画や授業実践の改善・充実につながる授業評価や研修の充実を図り、教員の指導力の向上に努める	自己の研究テーマを持ち，研究に取り組む。
		研修、学会等への参加により自己啓発を図る。
		専門領域の最新の知識・技術の吸収に努める。
		研究等の発表数の増加
		授業研究活動の活発化（授業力アップ）
		研修日の確保（月1日）
2	学校評価の充実と、学校の透明性を推進する	学生による授業評価から課題を明確にし、改善に取り組む。
		自己点検・自己評価及び第三者評価の実施と公表
		卒業時カリキュラム評価の目標平均値３．０以上
3	組織が円滑に機能するよう連携を密にし、職場風土の改善に努める	職員相互の啓発と親和・相互成長
		組織が円滑に機能するように関係者間で必要な情報の提供、共有
		チームとしての業務遂行（連携・調整の強化）
		新たな業務内容に対して自ら率先して取り組む姿勢がある。
		勤務時間管理の徹底と自己管理（自己コントロール）
4	国立病院機構に貢献できる優秀な人材の確保と育成。	効率的な広報活動（ＨＰ改訂、リアルタイムな情報提供）
		地域（地元高校）・看護協会等との積極的交流や連携強化
		臨床との連携による看護技術教育の充実
		国立病院機構への就職率看護師科７０％以上、助産師科５０％以上
		国家試験合格率が当該年度の国立病院機構全国平均以上
5	学生が自ら学び自ら問題を解決していく意志と態度や、つねに探求する姿勢を養う。《感じ、考え、行動する》	少人数制の授業・演習形態やグループワークの活用
		「自分で創る学校生活」を意識させ、学生主体で企画・運営する機会を設ける
		学生フォーラム・「看護の日」活動・自治会活動・クラブ活動への支援
		ボランティア活動等の推奨
6	学生理解を土台にした相談活動の充実を図る	「学生相談室」及び「学生の声」の活用による支援（予防、早期対策）強化
		学生の気づき、問題、課題を認識し、学習効果があがるよう指導。
		看護師科、助産師科及び教員間での学生情報の共有
		きめ細やかな指導、タイムリーな指導、学生のペースに合わせた指導

Ⅲ． 本学の組織

1．組織図


〔併任〕
学校長
中村　孝志
副学校長
増山　路子
看護師科教育主事
野々川　陽子
（実習調整者）
看護師科教育主事
釘宮　泰子
助産師科教育主事
佐藤　美春
〔併任〕
学校事務長
高橋　良和
〔併任〕
事務長補佐
長谷川　弘和
〔併任〕
事務主任
筒井　敬
教員
早川　直子
教員
中溝　好美
教員
辻本　陽子
教員
住田　尚子
教員
榎本　里香
教員
大上　寿子
教員
寺田　博子
教員
稲垣　寿美
教員
播磨　明美
教員
竹ノ内　貴裕
教員
太田　恵子
教員
高橋　里佐
教員
田中　美和子
教員
北井　英子
教員
若月　麻央
教務助手
教務助手
教務助手
教務助手
教務助手
教務助手
田代　美香
那須　久美子
小林　陽子
事務助手

2．教育経験年数

	教 員 の 種 別	教 育 年 数	専 門 領 域
看護師科	副学校長 （増山　路子）	17 年	
	教育主事 （野々川　陽子）	11 年	基礎看護学
	教育主事 （釘宮　泰子）	12 年	小児看護学
	教　　員（早川　直子）	9 年	成人看護学
	教　　員（中溝　好美）	7 年	老年看護学
	教　　員（辻本　陽子）	助 5 年・看 1 年	母性看護学
	教　　員（榎本　里香）	5 年	成人看護学
	教　　員（住田　尚子）	5 年	小児看護学
	教　　員（稲垣　寿美）	4 年	成人看護学
	教　　員（大上　寿子）	4 年	基礎看護学
	教　　員（寺田　博子）	4 年	成人看護学
	教　　員（播磨　明子）	1 年	在宅看護論
	教　　員（竹ノ内　貴裕）	1 年	精神看護学
	教　　員（太田　恵子）	0 年	老年看護学
	教　　員（高橋　里佐）	0 年	母性看護学
	教務助手 （宮崎　千代子）		
助産師科	教育主事 （佐藤　美春）	助 6 年・看 11 年	助産学・母性看護学
	教　　員（田中　美和子）	助 6 年・看 1 年	助産学
	教　　員（北井　英子）	助 3 年	助産学
	教　　員（若月　麻央）	助 1 年	助産学
	教務助手 （中川　明子） （勢力　陽子） （太田　結子） （赤築　佳美） （置田　貴代）		

3．職員・講師数

教職員に関する事項	教員の種別	専　任	兼　任		職員の種別	専　任	兼　任
			(看)	(助)			
	保健師	0名	0名	1名	事務職員	4名	3名
	助産師	6名	4名	10名	その他の職員	0名	0名
	看護師	12名	39名	1名	合　計	4名	3名
	医　師 （歯科医師含む）	0名	67名	14名			
	その他の教員	0名	40名	6名			
	合　計	18名	150名	32名			

Ⅳ.　学生募集

1．入学試験実施状況

＜看護師科＞

	一次試験	二次試験	合格発表
一般入学試験	平成28年 1月21日（木）	平成28年 1月23日（土）	平成28年 1月28日（木）
社会人入学試験	平成27年11月12日（木）	平成27年11月14日（土）	平成27年11月19日（木）
推薦入学試験	平成27年11月14日（土）		平成27年11月19日（木）

＜助産師科＞

	一次試験	二次試験	合格発表
一般入学試験	平成28年 1月21日（木）	平成28年 1月23日（土）	平成28年 1月28日（木）
特別選抜入学試験	平成27年11月12日（木）		平成27年11月19日（木）

2．入学状況

＜看護師科＞

年度（回生）	試験	応募者数	受験者数	合格者数	入学者数	退学者数	卒業者数
平成24年（第11回生）	社会人	108	100	46			
	一般	134	130	59			
	合計	242	230	105	78	5	73
平成25年（第12回生）	推薦	8	8	8			
	社会人	89	83	38			
	一般	158	149	61			
	合計	255	240	107	78	5	66
平成26年（第13回生）	推薦	9	9	9			
	社会人	82	76	33			
	一般	171	164	72			
	合計	262	249	114	82	1	
平成27年（第14回生）在学中	推薦	12	12	12	12		
	社会人	62	60	30	30		
	一般	110	99	65	49		
	合計	184	171	107	91		
平成28年（第15回生）在学中	推薦	16	16	16	16		
	社会人	23	22	10	10		
	一般	69	69	56	44		
	合計	108	107	82	70		
合　計		1,051	997	515	399	11	142
平　均		210	199	103	80	4	

＜助産師科＞

年度（回生）	試験	応募者数	受験者数	合格者数	入学者数	退学者数	卒業者数
平成 26 年（第 46 回生）	特別選抜（学校）	10	10	10	10		10
	特別選抜（施設）	0	0	0	0		0
	一般	69	62	18	18	3	15
	合計	79	72	28	28	3	25
平成 27 年（第 47 回生）	特別選抜（学校）	13	13	13	13	1	12
	特別選抜（施設）	1	1	1	1		1
	一般	65	57	12	11		10
	合計	79	71	26	25	1	23
平成 28 年（第 48 回生）在学中	特別選抜（学校）	8	8	8	8		
	特別選抜（施設）	3	3	3	3		
	一般	73	63	19	13		
	合計	84	74	30	24		
平　均		86	77	30	27	2	20

3．オープンキャンパス・公開講座の実施

＜看護師科＞

	日　程	テーマ	参加者数
1	平成 27 年 6 月 6 日（土）	ホームカミングデイ：「ツボでリフレッシュ！」	34 人
2	平成 27 年 7 月 25 日（土）	学校概要の説明、校舎内見学内 看護学生体験：車椅子移送、血圧測定など	48 人
3	平成 27 年 7 月 27 日（月）		23 人
4	平成 27 年 8 月 1 日（土）		56 人
5	平成 27 年 8 月 16 日（日）		78 人
6	平成 27 年 9 月 12 日（土）		29 人
7	平成 27 年 10 月 24 日（土）	公開講座　「Let's 認知症予防！」	35 人
		合計	303 人

＜助産師科＞

	日　程	テーマ	参加者数
1	平成 27 年 9 月 19 日（土）	性教育講座	9 人
2	平成 27 年 10 月 10 日（土）	ファミリー教室	14 人
3	平成 27 年 7 月 18 日（土）	助産学生体験：モデル人形による分娩介助体験	41 人
4	平成 27 年 8 月 22 日（土）	助産学生体験：モデル人形による分娩介助体験	94 人
5	平成 27 年 9 月 5 日（土）	助産学生体験：モデル人形による分娩介助体験	39 人
		合計	197 人

Ⅴ． 学生生活

1．心身の健康保持・増進

1）カウンセリング

カウンセラーによるカウンセリングを週１回（放課後）に実施している。

2）健康診断

健康管理規定に基づき、定期的に実施している。

項　目	対　象	4月	7月	１０月	1月
1．身体測定	全学生	○	○	○	○
2．胸部Ｘ線撮影	全学生	○			
3．血圧測定	全学生	○		○	
4．検尿 （糖、蛋白、潜血、ｳﾛﾋﾞﾘﾉｰｹﾞﾝ）	全学生	○		○	
5．内科総合診断	全学生	○		○	
6．採血 （梅毒反応、HB、HCV、麻疹、風疹 水痘、ムンプス抗体検査）	新入生	○			
7．ツベルクリン反応検査	新入生（2、3年生の陰性者）	○			
＊検便は実習前に実施					

2．課外活動　：　看護師科

1）自治会活動

	＜　前　期　＞		＜　後　期　＞
5月	自治会総会	11月	自治会総会
6月		12月	大掃除　クリスマスコンサート
7月	大掃除　サマーコンサート	1月	
8月		2月	国家試験激励会、予餞会
9月		3月	
10月	戴帽式のお祝い 自治会総括 後期自治会選挙 近畿看護学会（2年生）	4月	新入生歓迎会 自治会総括 前期自治会選挙

2）クラブ活動

（1）バレーボール部

毎週　火・水・木・金　曜日　１６：３０～１８：００　体育館

あじさい杯　平成27年7月18日（土）　開催

＊京都看護助産学校主催で近畿ブロック附属看護学校5校のバレーボール部が集まる大会。

毎年開催している。

（2）茶道部

隔週　木　曜日　１６：３０～１８：３０　在宅看護実習室

七夕茶会　平成27年7月24日（金）　開催

初釜茶会　平成28年2月 4日（木）　開催

（3）園芸部

不定期開催

患者さんたちに季節の花を見てもらえるよう、草花を植えて手入れをしている。

（4）合唱サークル

不定期開催

みんなで楽しむとともに、病院コンサートや実習でのレクレーションで患者さんに喜んでもらえるよう、練習している。

3）ボランティア活動

	実施時期	学年	実施内容
1	平成 27年　5月 12日	学生全員	看護の日記念行事コンサート・カードの配布（京都医療センター）
2	平成 27年　7月 22日	1 年生	サマーコンサート（京都医療センター）
3	平成 27年 12月 21日	1 年生	クリスマスコンサート（京都医療センター）
4	平成 28年　3月　2日	3 年生	病院清掃ボランティア（京都医療センター）

Ⅵ.　卒業生の進路

1．就職・進学状況

＜看護師科＞

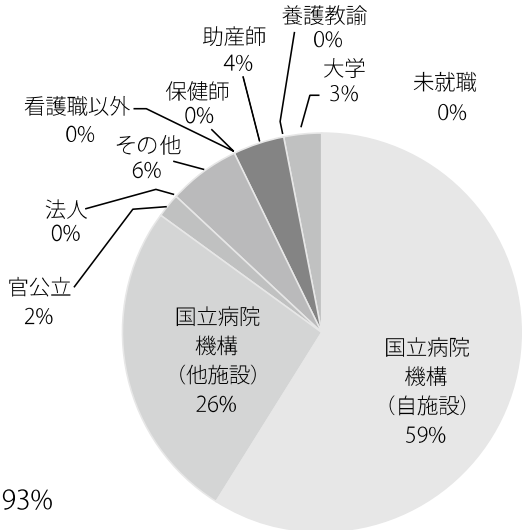
年月	回生	卒業者数（人）	就　職（人）						進学（人）				未就職
			国立病院機構		官公立	法人	その他	看護職以外	保健師	助産師	養護教諭	大学	
			自施設	他施設									
平成25年3月	第10回生	80	32	28	3	3	0	0	0	9	0	5	0
平成26年3月	第11回生	70	36	24	3	1	0	0	0	4	0	2	0
平成27年3月	第12回生	69	41	18	1	0	4	0	0	3	0	2	0

＜助産師科＞

年月	回生	卒業者数（人）	就　職（人）						進学	未就職
			国立病院機構		官公立	法人	その他	看護職以外		
			自施設	他施設						
平成25年3月	第45回生	24	6	10	6	2	0	0	0	0
平成26年3月	第46回生	25	4	10	8	3	0	0	0	0
平成27年3月	第47回生	25	4	9	7	2	0	0	0	1

平成28年3月　進路状況

＜看護師科　第12回生＞

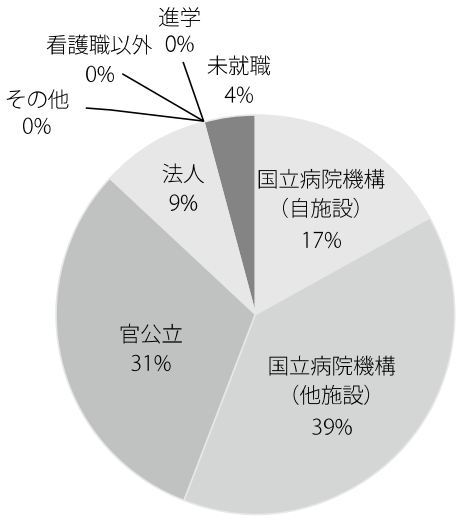


就職：93%

進学：7%

就職者の中の機構就職率：85%

＜助産師科　第47回生＞



就職：96%

就職者の中の機構就職率：56%

2．国家試験

＜看護師科＞

		全国 （%）	機構附属 （%）		
			全国	近畿	京都
１０４回（ H27.3 ）	全体（新卒）	90.0 （ 94.1 ）	98.6 （ 99.0 ）	99.7	100
１０５回（ H28.3 ）	全体（新卒）	89.4 （ 94.9 ）	98.0 （ 98.4 ）	99.4	100

＜助産師科＞

		全国 （%）	機構附属 （%）	
			全国	京都
９８回（ H27.3 ）	全体（新卒）	99.9（ 99.9 ）	100	100
９９回（ H28.3 ）	全体（新卒）	99.8（ 99.8 ）	100	100

Ⅶ.　教員の研究および研修参加

1．研究活動

＜学会発表＞

日程	学会名	テーマ	研究者（○発表）
平成27年 8月19日	日本看護学教育学会	看護教育におけるグループ学習・協同学習に関する文献研究	○釘宮泰子 （ポスター）
平成27年 11月28日	国立病院 看護研究学会	実習指導者研修修了1年経過後の実習指導への取り組みと意識の変化に関する調査	○佐藤美春、山本薫里、 池田宏子、 清家百合枝（ポスター）
平成28年 12月9日	日本看護協会 愛知県看護研究学会	看護教員の実務研修・学校間研修の取り組みと実態	○野々川陽子、村井紀子 岩井幸子

＜教員研修会　研究グループ＞

	テーマ	教 員
1G	授業研究におけるリフレクション能力の向上	榎本　里香、住田　尚子
2G	学生が主体的に取り組めるための看護技術指導方法の検討	大上　寿子、高橋　里佐、若月　麻央
3G	看護教員が教える「人体の構造と機能」の評価	他校教員
4G	看護学生の学習に対する主体性の実態	他校教員
5G	看護学生への症状アセスメント・症状緩和に向けての援助抽出における思考過程の育成	他校教員
6G	看助教員による教育支援～母性領域における取り組み～	田中　美和子、辻本　陽子、稲垣　寿美
7G	公開授業参加後の看護師の学生指導に対する意識の調査	他校教員
8G	周手術期看護演習の実施と評価	早川　直子、北井　英子
9G	老年看護学演習の検討～老年期の対象理解を深める演習指導案の評価～	中溝　好美、播磨　明美、太田　恵子
10G	基礎看護技術の演習指導案作成（採血）	竹ノ内貴裕、寺田　博子

＜授業研究＞

日 程	授業内容	教 員
平成27年10月30日（金）	授業見学：大阪医療センター附属看護学校 診療援助技術 II：与薬・ME (中村美保 実施)	榎本　里香 住田　尚子
平成27年12月11日（金）	公開授業 看護の統合と実践IV：統合技術演習	早川　直子
平成27年12月14日（月）	公開授業 成人看護援助技術 I：急性期患者の看護	榎本　里香
平成27年12月21日（月）	公開授業 老年看護援助技術　高齢者の健康障害の特徴と看護	播磨　明美
平成28年　2月25日（木）	授業見学：大阪南医療センター附属大阪南看護学校 周手術期看護演習　(田村照子 実施)	早川　直子 北井　英子

2．研修参加状況

日 程	主 催	研修内容	参加人数
平成27年7月30日	副学校長・教育主事・教員 夏期合同研修会	1. 講演：「自己の感情をコントロールした学生指導」 2. 国立病院機構の動き「非公務員化について」「勤務時間・休暇制度」など	20人
平成27年5月1日	近畿グループ	1・2年目教員研修 講義「1・2年目看護教員に期待すること」 講義「教育経験から新人教員に伝えたいこと」	5人
平成27年7月31日	近畿グループ	3年目以上教員研修 講義「学生の能力評価と授業評価の方法」	14人
平成27年9月18日	近畿グループ	1・2年目教員研修 講義「自分のねがいを大切にした授業デザイン～看護の学びを支えるために～」	5人
平成28年2月15日	国立病院機構 九州医療センター附属福岡看護助産学校　助産師科	国立病院機構　助産学校教員研修会：分娩期実習の指導方法・実習記録の検討、卒業時の到達状況など	2人
平成27年12月24日	一般財　団法人 日本助産評価機構	助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）レベルIII認証研修修了・認定証修得	北井英子 田中美和子 若月麻央 高橋里佐

Ⅷ.　社会への貢献

＜公開講座＞

日　程	テーマ	参加者数
平成27年 6月 6日（土）	ホームカミングデイ「ツボでリフレッシュ！」～自分を癒す技を身につけよう～	34 人
平成27年 7月25日（土）	看護学生体験：車椅子移送、血圧測定など	48 人
平成27年 7月27日（月）	看護学生体験：車椅子移送、血圧測定など	23 人
平成27年 8月 1日（土）	看護学生体験：車椅子移送、血圧測定など	56 人
平成27年 8月16日（日）	看護学生体験：車椅子移送、血圧測定など	78 人
平成27年 9月12日（土）	看護学生体験：車椅子移送、血圧測定など	29 人
平成27年10月24日（土）	公開講座：～いきいきとした生活を～ Let's 認知症予防！	35 人
平成27年 9月19日（土）	性教育講座を「私がここにいるキセキ　～ありのままのわたし、ありのままのあなた～」	9 人
平成27年10月10日（土）	ファミリー教室「はぐくもう　いのちの　わ」～ようこそわが家へ～	14 人
平成27年 7月18日（土）	助産学生体験：モデル人形による分娩介助体験	41 人
平成27年 8月22日（土）	助産学生体験：モデル人形による分娩介助体験	94 人
平成27年 9月 5日（土）	助産学生体験：モデル人形による分娩介助体験	39 人
	合計	477人

＜ガイダンス＞

月	日	曜	内容	場所	出席者	実績数
4	14	火	学校ガイダンス（京都精華女子）	みやこめっせ	増山　路子	2
	25	土	進学相談会（さんぽう）	きらっ都プラザ	増山　路子	4
	29	水	就職・就学フェア（京都府看護協会）	みやこめっせ	増山　路子 野々川　陽子 釘宮　泰子	24
5	8	金	進学相談会（さんぽう　府立乙訓）	きらっ都プラザ	増山　路子	10
	28	木	高校内ガイダンス(1年職業人講話)	府立城南菱創高校	増山　路子	19
6	2	火	進路相談会（3年　昭栄広報）	府立桃山高校	増山　路子	11
	14	日	医歯薬・看護・医療・福祉・医療事務系会場形式進学相談会	梅田スカイビルタワーウエスト	釘宮　泰子	9
7	15	水	進学相談会（昭栄広報　府立北嵯峨）	みやこめっせ	増山　路子	10
12	2	金	高等学校教員との情報交換会	京都テルサ	増山　路子 大上　寿子	4
	15	火	進学相談会	ﾏﾘｱｰｼﾞｭｸﾞﾗﾝﾃﾞ	増山　路子	6

＜教員の講習会、研修等の講師＞

日 程	研 修 内 容	教 員
平成 27 年　6 月～7 月	近畿グループ 平成27年度保健師助産師看護師 実習指導者講習会　講義講師	増山　路子(3回) 野々川　陽子(3回) 釘宮　泰子(1回) 佐藤　美春(1回)
	近畿グループ 平成27年度保健師助産師看護師 実習指導者講習会 演習指導案助言講師	榎本　里香
平成 27 年　6 月 24 日 7 月 15 日 7 月 22 日	京都医療センター附属 京都看護助産学校 実習指導者研修プログラム （第1回～第3回）	三井　佐代子 増山　路子 野々川　陽子 釘宮　泰子 中溝　好美 辻本　陽子 寺田　博子 播磨　明美 稲垣　寿美 高橋　里佐
平成 27年 8月 28日	敦賀医療センター 講演会演者「チーム活動を円滑に進めるためのファシリテーションスキル」	増山　路子
平成 27年 9月 19日	日本看護学会 精神看護　学術集会　座長	増山　路子
平成 27年10月 3日	国立病院総合医学会学術集会	住田　尚子
平成 28年 2月 20日	第30回日本助産学会学術集会　座長	佐藤　美春
平成27年度	京都母性衛生学会　理事	佐藤　美春
	京都母性衛生学会　会計副委員長	田中　美和子

＜中堅教員研修＞

日 程	研 修 内 容	担当講師	参加者
平成 27年 8月 31日	カリキュラム構築についての講義 「モデル教育課程クリティーク」	増山　路子 野々川　陽子	早川　直子 中溝　好美 榎本　里香
平成 28年 1月　6日	自校の教育課程評価		

＜研修受け入れ＞

日程	研修内容		受け入れ数
平成28年2月3日 ～2月12日	教員 インターンシップ	近畿グループ副学校長 教育主事協議会主催	1人
平成28年2月 16日・17日	教員 インターンシップ	近畿グループ副学校長 教育主事協議会主催	3人

＜実務研修＞

日程	研修内容		教員
平成27年10月22日	看護師科 教員	京都医療センター 小児科外来・病児保育	住田　尚子
平成27年11月18日	看護師科 教員	東近江総合医療センター 小児科	高橋　里佐
平成27年11月11日	助産師科 教員	東近江総合医療センター 産科	北井　英子

＜新人教員研修＞

日程	研修内容	教員
平成27年　9月　4日	講義「単元：診療補助技術（薬物療法）」参観・リフレクション	釘宮　泰子 寺田　博子 太田　恵子 高橋　里佐
平成27年11月26日	演習「単元：診療補助技術（薬物療法）」 参観・リフレクション	釘宮　泰子 太田　恵子 高橋　里佐

Ⅸ．　施設と設備

1．建物の概要

	区　分	建築年数	構造・階	面積（㎡）	摘　要
看護師科	校　舎	平成１６年	RC４階	延：3037㎡ 建：1002㎡	
助産師科	校　舎	昭和５４年	RC２階	延：850㎡ 建：469㎡	
	寄宿舎		RC５階	延：540㎡ 建：111㎡	
共通	図書棟	平成１６年	RC２階	延：704㎡ 建：421㎡	
	体育館	平成３年	RC２階	延：664㎡ 建：600㎡	

2．図書・ビデオ保有数

＜図書＞　（平成28年3月31日現在）

	基礎科目	専門基礎科目	専門分野	その他	雑誌	合計
看護師科	3,436	2,586	9,511	37	20種	15,570
助産師科	594	943	2,039	8	20種	3,584

＜ビデオ＞　（平成28年3月31日現在）

	基礎科目	専門基礎科目	専門分野	その他	合　計
看護師科	28	139	778	0	945
助産師科	0	74	231	0	305

Ⅹ． 会議一覧

月	平成 27 年度　開催状況
4 月	運営会議・講師会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（5回／月）
5 月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（3回／月）
6 月	運営会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（4回／月）
7 月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（4回／月）
8 月	教員会議（7回／月）
9 月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（4回／月）
10 月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（4回／月）
11 月	運営会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（4回／月） 入試委員会（社会人入試・特別選抜入試） 一次試験合否判定会議・二次試験合否判定会議
12 月	実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（4回／月）
1 月	運営会議 教員会議（4回／月） 入試委員会（一般入試） 一次試験合否判定会議・二次試験合否判定会議
2 月	運営会議・講師会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（4回／月）
3 月	運営会議・講師会議 実習指導者会議・実習指導者役員会 教員会議（5回／月）

学校評価

学校評価（第三者評価）の実施

当校では、教育活動の質の向上をはかり、地域社会及び学生から寄せられる期待に応えるために、平成19年から自己点検・自己評価を実施しています。評価表は27年度に見直しを行い、13領域、110項目について、より客観性のあるフィードバックが得られるように改訂しました。

平成27年度は大学、看護専門学校からの外部者2名の評価者を招いて第三者評価を実施し、更なる教育の充実を目指しています。

学校評価総評結果と改善への取り組み

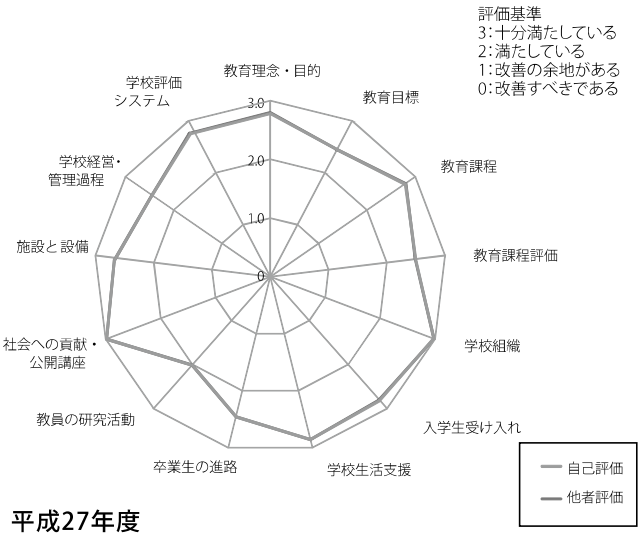
すべての評価項目について、「2：満たしている」以上の評価を得ることができました。この中で更に改善・向上への取り組みを必要とする内容は、次の4点です。評価者からは、「一人一人の教員が、学生に対して丁寧で、手厚い教育をしている」という評価を得ました。

今後、改善点を早急に見直し、更に教育の充実がはかれるように取り組んでいきます。

1. 教育理念である当校独自の「感じる心、考える力、行動する」学生の育成を目指すという内容について、学生に周知して、ディプロマポリシーに反映できるようにすること。
2. 学生便覧、シラバスを、学生にとって活用しやすいものにしていくこと。
3. 学生と関わる時間を持つために、人員配置や時間運用の効率化を図っていくこと。
4. 教員が自己研鑽し、積極的に研究に取り組める環境を整え、業績成果を示していくこと。

＜看護師科＞

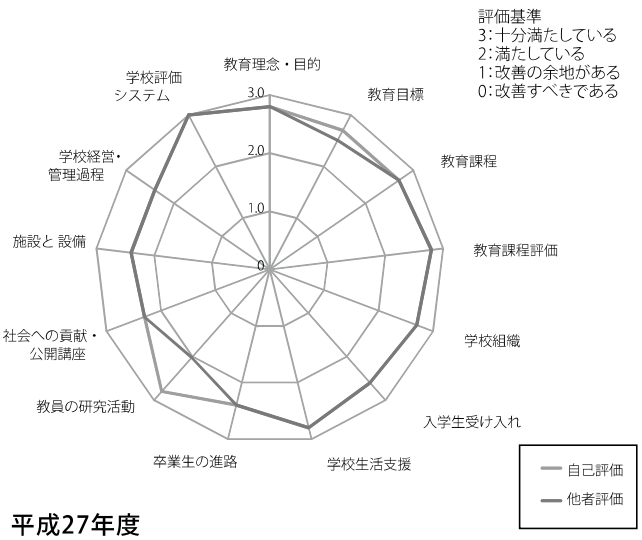
	評価項目	項目	自己評価	他者評価
Ⅰ	教育理念・目的	6項目	2.8	2.8
Ⅱ	教育目標	6項目	2.5	2.5
Ⅲ	教育課程	26項目	2.8	2.8
Ⅳ	教育課程評価	6項目	2.5	2.5
Ⅴ	学校組織	9項目	3.0	3.0
Ⅵ	入学生の受け入れ	5項目	2.6	2.6
Ⅶ	学校生活支援	15項目	2.9	2.9
Ⅷ	卒業生の進路	7項目	2.5	2.5
Ⅸ	教員の研究活動	4項目	2.0	2.0
Ⅹ	社会への貢献・公開講座	7項目	3.0	3.0
Ⅺ	施設と設備	7項目	2.1	2.1
Ⅻ	学校経営・管理過程	7項目	2.3	2.3
ⅩⅢ	学校評価システム	5項目	2.4	2.4



平成27年度
看護師養成所自己点検・自己評価結果（看護師科）

＜助産師科＞

	評価項目	項目	自己評価	他者評価
Ⅰ	教育理念･目的	6項目	2.8	2.8
Ⅱ	教育目標	6項目	2.7	2.5
Ⅲ	教育課程	26項目	2.7	2.7
Ⅳ	教育課程評価	6項目	2.7	2.7
Ⅴ	学校組織	9項目	3.0	3.0
Ⅵ	入学生の受入れ	5項目	2.6	2.6
Ⅶ	学校生活支援	15項目	2.9	2.9
Ⅷ	卒業生の進路	7項目	2.5	2.5
Ⅸ	教員の研究活動	4項目	2.5	2.0
Ⅹ	社会への貢献･公開講座	7項目	3.0	3.0
Ⅺ	施設と設備	7項目	2.6	2.6
Ⅻ	学校経営・管理過程	7項目	2.3	2.3
ⅩⅢ	学校評価システム	5項目	2.4	2.4



平成27年度
助産師養成所自己点検・自己評価結果（助産師科）

編集後記

2015年度のアニュアルレポートができました。このレポートの役割は、単に外部への情報発信にとどまらず、院内の皆様に他部門の努力の歩みを知ってもらうことにあります。前年度よりボリュームアップした今回のレポートを見ていただければ、当院の実績が着実に増えていることを実感していただけますし、さらなる発展につながると考えています。

さて2015年度ですが、中村孝志院長が5年間の院長業務を終え退任し、小西郁生新院長への引き継ぎが行われました。また、志馬伸朗救命救急部長も当院を後にし、広島大学大学院医歯薬保健学研究科応用生命科学部門救急集中治療医学科の教授として2015年9月1日に転任しました。これまでに当院の現役の医師が直接医学部教授に就任した例は、志馬伸朗救命救急部長で４人目です。1975年8月1日に杉山陽一産婦人科医長が三重大学医学部産婦人科教授に、2005年6月16日に坂井義治外科医長が京都大学医学部外科教授に、2008年4月1日に石倉宏恭救命救急部長が福岡大学医学部救命救急医学講座教授に、それぞれ転任しています。現在の京都医療センターには、実に20名を超える医師が京都大学医学部等の臨床教授の称号を持って活動していますし、また、臨床研究センターを中心に多くの重要な臨床研究が行われています。これらの事実は京都医療センターが大学病院に負けないくらいアカデミックな知見や考え方をもって臨床診療を続けてきた歴史の証と自負しています。

この数年の間に、社会情勢の変化に伴い、医療環境も大きく変わることが予想されますが、その中で、京都医療センターの担う役割は益々重要になると思われます。これからも私たちが最高レベルの医療を提供できる地域の中心的病院として前進していくこと、その道標を毎年のアニュアルレポートで御報告できることを、ここに誓い編集後記といたします。

広報委員会
瀬田公一　塚原徹也